天王平遺跡発掘調査報告書

― 第 9・10 次調査 ―

2026（令和８）年 3 月

桑名市教育委員会



発掘区遠景（北西から）



確認された竪穴建物

巻頭図版２



出土遺物（須恵器）



出土遺物（土師器）

序

桑名市北部に位置する多度地区は、北に多度山を仰ぎ、東は木曽三川を挟み、濃尾平野を臨むことができます。自然に囲まれた当地は、古来より交通の要所で、記紀に地名の記述が見られるなど、歴史上重要な地域でもありました。多度山周辺の丘陵部には、古墳や集落、古代寺院など多くの遺跡が広がっていることが知られています。

本書は、桑名市立多度学園の建設工事に先立ち実施した天王平遺跡の発掘調査成果をまとめたものです。調査では、竪穴建物や土器など古代の遺構・遺物が確認され、市内有数の集落遺跡であることが分かりました。調査成果を通じて、地域の歴史の解明や文化財保護に対するご理解が深まる一助になれば幸いと存じます。

最後になりましたが、今回の調査にあたり、ご理解やご協力をいただいた関係の各機関の方々や地元の皆様には厚く御礼を申し上げます。

令和８年３月　　桑名市教育委員会

教育長　加藤　眞毅

例　　言

１．本書は、三重県桑名市多度町小山地内に所在する天王平遺跡（第９・10 次）の発掘調査報告書である。

２．発掘調査は、桑名市立多度学園の建設に伴う事前の緊急調査として実施した。費用は桑名市が負担した。

３．現地での発掘調査期間は以下のとおりである。

９次調査：令和４年８月８日～令和５年３月７日

10 次調査：令和５年４月５日～４月 19 日、令和５年９月５日～令和６年２月 20 日

４．発掘調査の体制は以下のとおりである。

調査主体	桑名市教育委員会
調査受託機関	株式会社　イビソク
調査担当	桑名市市長公室ブランド推進課（当時）濵辺一機、竹内英昭

５．出土遺物の整理作業は、令和５～６年度に行い、図版作成などの報告書作成作業は、令和７年度に実施した。
出土遺物の実測とトレース、遺物の写真撮影は、株式会社イビソクに委託した。

６．本報告書の執筆と図版編集は、竹内英昭の協力を得て、濵辺一機がおこなった。挿図は水谷吏江が作成した。
遺物接合等の整理作業は、水谷吏江と長谷川美香がおこなった。

７．発掘調査にあたっては、下記の機関からご協力をいただいた。

小山自治会、近隣の地権者の皆様、桑名市教育委員会新たな学校づくり課

８．調査に際し、関係者の皆様のご理解、ご協力をもとに実施することができた。深く御礼申し上げる。

９．本調査に関する記録及び出土遺物等の諸資料は桑名市教育委員会で保管している。

10. 本書で使用した遺構略号は、以下の通りである。

ＳＨ－竪穴建物、ＳＢ－掘立柱建物、ＳＫ－土坑、ＳＤ－溝、ＳＰ－小穴、ＳＺ―その他遺構

11. 本書で示した方位は、全て座標北である。標高値については、T．P.（東京湾平均海面）を基準とした。

12. 本書で使用した土層や遺物等の色調は、小山正忠・竹原秀雄 2007『新版標準土色帖』（日本色研事業株式会社）による。

13. 発掘調査及び報告書作成に際し、下記の方々にご指導とご教示を賜った。記して感謝申し上げる。

尾野善裕（京都国立博物館）、斎藤理（高知市役所民権・文化財課）、水橋公恵（三重県教育委員会事務局社会教育・文化財保護課）

目　　次

第１章　調査の経過
１．調査に至る経緯 …… 1
２．調査経過の概要 …… 1
３．文化財保護法における諸手続き …… 1
４．調査方法‥ …… 2

第２章　位置と環境
１．地理的環境 …… 5
２．歴史的環境 …… 5

第３章　調査区の基本層位 …… 9

第４章　検出した遺構
１．９次調査の遺構 …… 11
（１）古墳時代の遺構 …… 12
（２）古代の遺構 …… 19
２．10 次調査の遺構…… 83

第５章　出土した遺物
１．９次調査の出土遺物…… 89
（１）古墳時代…… 89
（２）古代以降の遺物 …… 91
２．10 次調査の出土遺物…… 110

第６章　総　括
１．竪穴建物について …… 121
２．遺構の変遷…… 123
３．古代の土器…… 126
４．調査のまとめ…… 127

図　目　次

図１　調査区位置図 …… 3
図２　試掘坑、調査区位置図 …… 4
図３　周辺遺跡位置図 …… 7
図４　土層断面図（９次調査区） …… 9
図５　主要遺構配置図（９次調査区） …… 10
図６　ＳＨ15 遺構図…… 11
図７　ＳＨ18 遺構図…… 12
図８　ＳＨ18 P1、P2、土坑１遺物出土状況図 …… 13
図９　ＳＨ22 遺構図…… 14
図 10　ＳＨ22 カマド遺構図 …… 15
図 11　ＳＨ34 遺構図 …… 16
図 12　ＳＨ34 カマド遺構図 …… 17
図 13　ＳＫ12、ＳＫ30 遺構図 …… 18
図 14　ＳＨ１遺構図…… 19
図 15　ＳＨ２遺構図…… 20
図 16　ＳＨ３遺構図…… 21
図 17　ＳＨ４遺構図…… 22
図 18　ＳＨ５遺構図…… 23
図 19　ＳＨ５　土坑１遺物出土状況図…… 24
図 20　ＳＨ６遺構図…… 25
図 21　ＳＨ６ P3、4 土層断面図、P5、P6、土坑１遺構図 …… 26
図 22　ＳＨ７遺構図…… 27
図 23　ＳＨ８遺構図…… 28
図 24　ＳＨ９遺構図…… 29
図 25　ＳＨ10 遺構図 …… 31
図 26　ＳＨ11 遺構図 …… 32
図 27　ＳＨ12a 遺構図 …… 33
図 28　ＳＨ12a カマド遺構図、遺物出土状況図 …… 34
図 29　ＳＨ12b 遺構図 …… 35
図 30　ＳＨ13 遺構図 …… 36
図 31　ＳＨ14 遺構図 …… 37
図 32　ＳＨ14 カマド遺構図 …… 38
図 33　ＳＨ16 遺構図 …… 39
図 34　ＳＨ17 遺構図 …… 40
図 35　ＳＨ17 カマド遺構図 …… 41
図 36　ＳＨ19 遺構図 …… 42
図 37　ＳＨ20 遺構図 …… 43
図 38　ＳＨ21 遺構図 …… 44
図 39　ＳＨ23 遺構図 …… 45
図 40　ＳＨ24 遺構図 …… 46
図 41　ＳＨ24 土坑１～５遺構図 …… 47
図 42　ＳＨ25 遺構図 …… 48
図 43　ＳＨ26、27 遺構図 …… 49
図 44　ＳＨ26 カマド遺構図 …… 50
図 45　ＳＨ28 遺構図 …… 51
図 46　ＳＨ28 カマド、土坑１遺構図 …… 52
図 47　ＳＨ28　土坑２・３、土坑４遺構図… 53
図 48　ＳＨ29、ＳＨ30 遺構図 …… 54
図 49　ＳＨ31、32 遺構図 …… 55
図 50　ＳＨ31 土坑１遺構図 …… 56
図 51　ＳＨ33 遺構図、カマド遺物出土状況図 …… 57
図 52　ＳＨ33 カマド遺構図 …… 58
図 53　ＳＢ１遺構図（１） …… 59
図 54　ＳＢ１遺構図（２） …… 60
図 55　ＳＢ２遺構図…… 61
図 56　ＳＢ３遺構図（１） …… 62
図 57　ＳＢ３遺構図（２） …… 63
図 58　ＳＢ４遺構図…… 64
図 59　ＳＢ５遺構図…… 65
図 60　ＳＢ６遺構図（１） …… 66

図 61　ＳＢ６遺構図（２）…… 67
図 62　ＳＢ７遺構図…… 68
図 63　ＳＫ５遺構図…… 69
図 64　ＳＫ６遺構図…… 70
図 65　ＳＫ８遺物出土状況図、ＳＫ10
遺構図…… 71
図 66　ＳＫ13、ＳＫ15、ＳＫ18 遺物出土
状況図…… 72
図 67　ＳＫ16 遺構図、ＳＫ16 遺物出土
状況図…… 73
図 68　ＳＫ23 遺構図…… 74
図 69　ＳＫ24 遺構図…… 75
図 70　ＳＫ25、ＳＫ28、ＳＫ29 遺構図 …… 76
図 71　ＳＫ31 遺構図…… 77
図 72　ＳＫ33、ＳＫ35 遺構図…… 78
図 73　ＳＫ37 遺物出土状況図、ＳＺ１
遺構図…… 79
図 74　ＳＰ１遺物出土状況図、ＳＤ３
遺構図…… 80
図 75　ＳＤ１、ＳＤ２遺構図…… 81
図 76　Ａ、Ｂ地区遺構全体図（10 次調査）　82
図 77　ＳＨ１、２遺構図（10 次調査） …… 87
図 78　ＳＨ１土坑 1 遺物出土状況
遺構図（10 次調査）…… 86
図 79　ＳＢ１遺構図（10 次調査） …… 87
図 80　ＳＫ１、ＳＰ１、ＳＰ２、ＳＤ１・２
遺構図（10 次調査）…… 88
図 81　古墳時代の出土遺物…… 90
図 82　古代の出土遺物ＳＨ（１）…… 92
図 83　古代の出土遺物ＳＨ（２）…… 94
図 84　古代の出土遺物ＳＨ（３）…… 95
図 85　古代の出土遺物ＳＨ（４）…… 96
図 86　古代の出土遺物ＳＨ（５）…… 98
図 87　古代の出土遺物ＳＨ（６）…… 99
図 88　古代の出土遺物ＳＨ（７）…… 100
図 89　古代の出土遺物ＳＨ（８）…… 101
図 90　古代の出土遺物ＳＫ（１）…… 103
図 91　古代の出土遺物ＳＫ（２）…… 105
図 92　古代の出土遺物ＳＫ、ＳＺ…… 106
図 93　古代の出土遺物ＳＢ、ＳＰ…… 107
図 94　古代の出土遺物ＳＤ、遺構外
の出土造物 …… 109
図 95　10 次調査の出土遺物 …… 111
図 96　奈良時代の主要遺構配置図…… 122
図 97　遺構変遷図（１）…… 124
図 98　遺構変遷図（２）…… 125
図 99　天王平遺跡出土の濃尾系甕…… 126
図 100　市内出土の暗文土師器…… 127
図 101　遺構全体分割図１（９次調査）… 129
図 102　遺構全体分割図２（９次調査）… 130
図 103　遺構全体分割図３（９次調査）… 131
図 104　遺構全体分割図４（９次調査）… 132
図 105　遺構全体分割図５（９次調査）… 133
図 106　遺構全体分割図６（９次調査）… 134
図 107　遺構全体分割図７（９次調査）… 135
図 108　遺構全体分割図８（９次調査）… 136
図 109　遺構全体分割図９（９次調査）… 137
図 110　遺構全体分割図 10（９次調査）‥ 138
図 111　遺構全体分割図 11（９次調査）‥ 139
図 112　遺構全体分割図 12（９次調査）‥ 140
図 113　遺構全体分割図 13（９次調査）‥ 141
図 114　遺構全体分割図 14（９次調査）‥ 142

表　目　次

表１　周辺遺跡一覧表 …… 8
表２　土器観察表（１） …… 112
表３　土器観察表（２） …… 113
表４　土器観察表（３） …… 114
表５　土器観察表（４） …… 115
表６　土器観察表（５） …… 116
表７　土器観察表（６） …… 117
表８　土器観察表（７） …… 118
表９　土製品、製塩土器観察表 …… 119
表 10　石器、石製品観察表…… 119
表 11　鉄製品観察表…… 119
表 12　竪穴建物一覧表…… 120

写真図版目次

巻頭図版１
巻頭図版２
写真図版１ ……143
写真図版２ ……144
写真図版３ ……145
写真図版４ ……146
写真図版５ ……147
写真図版６ ……148
写真図版７ ……149
写真図版８ ……150
写真図版９ ……151
写真図版 10 ……152
写真図版 11 ……153
写真図版 12 …… 154
写真図版 13 …… 155
写真図版 14 …… 156
写真図版 15 …… 157
写真図版 16 …… 158
写真図版 17 …… 159
写真図版 18 …… 160
写真図版 19 …… 161
写真図版 20 …… 162
写真図版 21 …… 163
写真図版 22 …… 164

第１章　調査の経過

１．調査に至る経緯

桑名市では、少子化が進む中、各地区の学校再編が地域の課題となっている。多度地区では、平成 15 年度に多度町学校統合問題検討会が設置され、保育園や幼稚園、小・中学校との連携や学校再編について検討が開始された。平成 16 年 12 月に３市町が合併し、その後も多度地区における学校再編の検討が行われてきた。平成28年5月には桑名市教育委員会の諮問機関として「桑名市学校教育あり方検討委員会」が設置された。平成 29 年４月の答申では、全市的に小中一貫教育に取り組むことや、小中一貫校のモデル校として多度中学校区での施設建設が望ましいとの方針が出された。令和３年２月には、多度地区の小中学校５校を統合し、小中一貫校を建設する「多度地区小中一貫校整備事業　－基本構想・基本計画－」が策定され、現多度中小学校と西側の敷地、約６ha を建設予定地とする計画が出された。同年７月には「多度地区小中一貫校整備事業開校準備委員会」が設置された。

新学校の建設予定地周辺には、周知の遺跡である天王平遺跡が広がっており、工事に際して地下の遺構に影響が及ぶ可能性があった。そこで、市教育委員会では関係部署と協議を行い、詳細な範囲確認調査が必要と判断し、市ブランド推進課が主体となり、令和３年６～７月に試掘調査を実施した。その結果、事業予定地の東側を中心に古墳時代後期から古代の遺構・遺物が残存していることを確認した。調査結果をもとに、市教育委員会は関係機関と遺跡の取り扱いについて、再度協議を行った。事業予定地の東側は学校施設の建設により、地下遺構の現状保存が困難で、遺跡への影響が避けられないため、およそ 8,000 ㎡について記録保存のための発掘調査を実施することになった。

２．調査経過の概要

【令和４年度】

学校敷地部分の発掘調査を実施した。令和４年８月８日から調査区西側より重機での表土除去を開始し、８月 18 日から作業員を投入して遺構検出や遺構掘削を進めた。天候に比較的恵まれ、調査は順調に進んだ。令和５年１月 20 日に完掘状況の空撮を行い、１月末には現地調査がほぼ終了した。最終的な調査面積は、7,955 ㎡である。この間、多度地区の小学校４校の６年生を対象とした、遺跡の見学会を 11 月 14・19 日に実施したほか、１月 28 日には、市民を対象とした現地説明会を開催し、約 80 名の参加を得た。現地説明会の終了後、調査区の埋戻しを行い、３月７日に現地の引き渡しをした。

【令和５年度】

学校に近接する市道天王平１号線の拡幅が計画され、発掘調査を実施した。令和５年４月５日に表土除去を開始し、4 月 19 日に現地調査は終了した。調査面積は、103 ㎡である。

その後、市道の南側について拡幅工事が計画されたため、該当部分の発掘調査を実施した。令和５年 9 月５日に調査区北側から重機による表土除去を開始し、９月 12 日から人力による遺構検出、遺構掘削を始めた。途中、栽培している果樹の収穫などにより中断期間があったが、令和６年２月２日に現地調査がほぼ終了した。２月 20 日に現地の引き渡しを行った。最終的な調査面積は、870 ㎡である。

３．文化財保護法における諸手続き

発掘調査における文化財保護法や三重県文化財保護条例に基づく法規上の手続きは以下のとおりである。

① 文化財保護法第 94 条に基づく三重県文化財保護条例第 48 条第 1 項

（土木工事等のための発掘に関する通知）

・令和４年５月 13 日付け、 ブ第 125 号（桑名市教育委員会新たな学校づくり課から市教育長あて）
・令和４年 12 月８日付け、 ブ第 755 号（桑名市教育委員会新たな学校づくり課から市教育長あて）
・令和５年６月 26 日付け、 ブ第 402 号（桑名市教育委員会新たな学校づくり課から市教育長あて）
・令和５年 10 月 27 日付け、 ブ第 789 号（桑名市教育委員会新たな学校づくり課から市教育長あて）

② 文化財保護法第 99 条第 1 項

（発掘調査の着手報告）

・令和４年８月３日付け、 ブ第 342 号（桑名市教育委員会教育長から三重県教育委員会教育長あて）
・令和５年４月３日付け、ブ第 3 号（桑名市教育委員会教育長から三重県教育委員会教育長あて）
・令和５年９月 14 日付け、ブ第 618 号（桑名市教育委員会教育長から三重県教育委員会教育長あて）
・令和５年１月 25 日付け、ブ第 1083 号（桑名市教育委員会教育長から三重県教育委員会教育長あて）

③ 文化財保護法第 100 条第 2 項

（文化財の発見・認定通知）

・令和５年５月 17 日付け、ブ 164 号（桑名市教育委員会教育長から桑名警察署長あて）
・令和６年３月１日付け、 ブ 1194 号（桑名市教育委員会教育長から桑名警察署長あて）
・令和６年４月 22 日付け、観第 63 号（桑名市教育委員会教育長から桑名警察署長あて）

４．調査方法

発掘調査区の設定は、国土交通省の定める平面直角座標系の第Ⅵ系に基づいて、地区設定を行った。遺構の記録や遺物取り上げの基準として、調査区内に４ｍ四方のグリッドを設定した。各グリッドは座標に合わせて設定し、学校敷地周辺は東西方向が１～ 55 までの数字、南北方向はＣ～Ｘまでのアルファベットを付与した。市道部分については、東西方向が 56 ～ 84 までの数字、南北はＶ～Ｚまでのアルファベットを付与した。いずれもグリッド北西隅の杭を起点としている。

調査記録については、図化作業は、検出遺構の重複関係等を記録するため、トータルステーション（TS）による測量で略図作成を行った。遺構番号は、検出順に通番を付与し、現地調査終了後に遺構種別ごとに整理し、番号の付け替えを行った。完掘遺構は、TS による測量を随時実施し、遺跡図面は原則 1/50 の縮尺で作成した。個別の遺物出土状況や土層断面図は、写真等の３次元測量のほか、手測りによる実測も併用し作成した。基本的に 1/10 ～ 20 の縮尺で図化している。

遺構の記録写真は、フルサイズのデジタル一眼レフカメラで撮影した。調査区全体の状況の写真や遺跡全体の遠景写真や景観写真については、ドローンを使用し撮影を実施した。

出土遺物の整理作業については、現地での発掘調査と並行して、遺物洗浄や注記作業を中心とする一次整理作業を行った。発掘調査終了後、令和５・６年度に桑名市埋蔵文化財整理所で遺物接合や実測遺物の抽出などの基礎整理作業を実施し、その後、遺物実測や写真撮影等の２次整理作業を行った。並行して遺物トレースや挿図作成など報告書作成や編集作業を実施した。

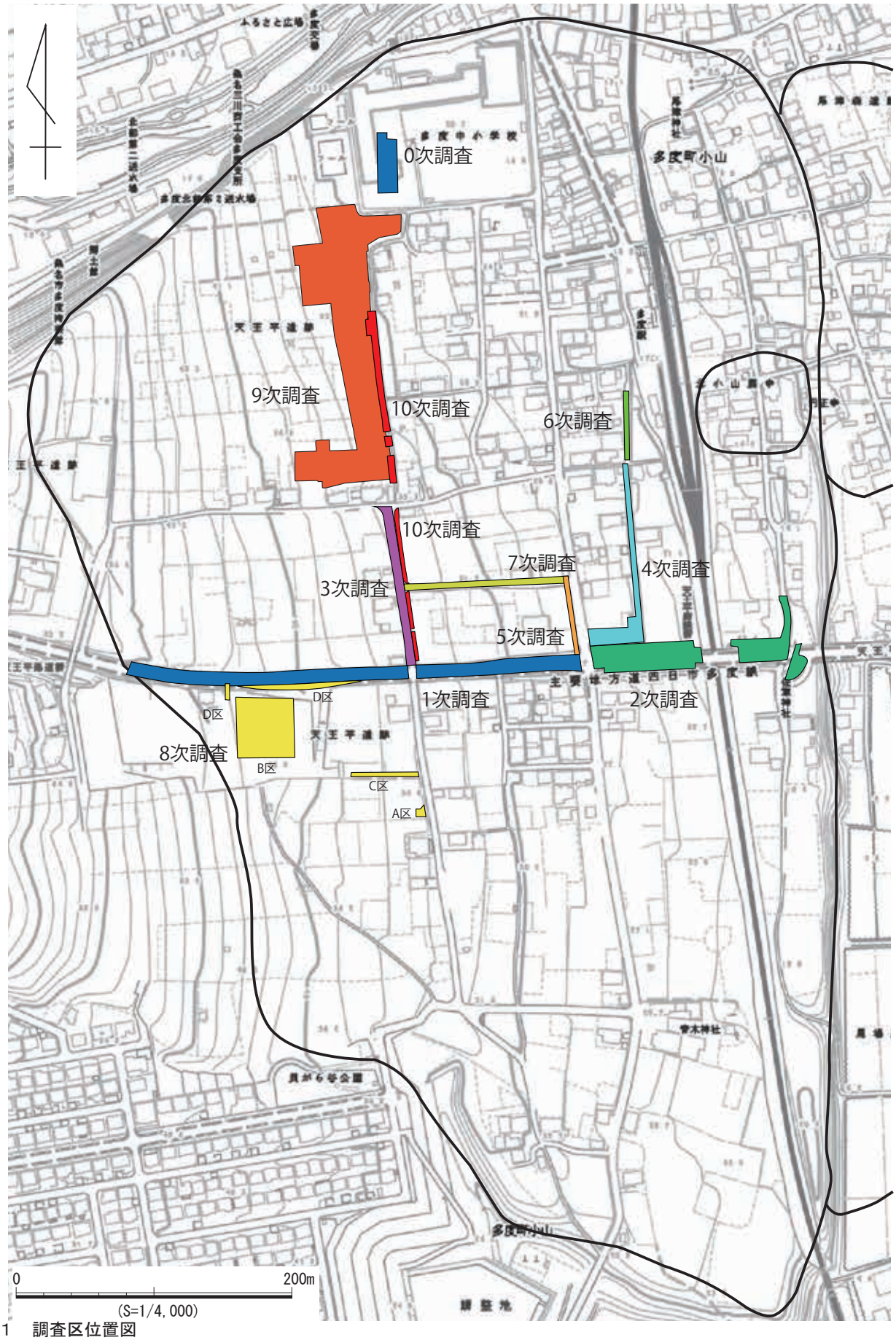

0次調査
9次調査
10次調査
6次調査
10次調査
7次調査
3次調査
4次調査
5次調査
1次調査
2次調査
D区
D区
8次調査
B区
C区
A区
0
200m
(S=1/4,000)

図１　調査区位置図



図２ 試掘坑、調査区配置図

第２章　位置と環境

１．地理的環境

三重県の北部に位置する桑名市は、北は岐阜県、東は木曽三川を隔て愛知県と接する。南北で地形の様相が異なる。市域の北側は、養老山地から派生する丘陵地が広がり、山地の南端に標高 403 ｍの多度山がそびえる。一方、市域東側から南側は、揖斐川沿いに沖積低地が広がる。河口部の木曽川・長良川流域では中州が形成され、集落に輪中がつくられるなど水郷地帯となっている。

天王平遺跡は、揖斐川支流の多度川と肱江川に挟まれた、通称・小山丘陵の東側に位置している。遺跡は中位段丘の東側一帯に広がり、西から東へ向かって緩やかに傾斜する。付近の標高は 18 ～ 40 ｍほどである。遺跡の北側は、多度川によって開析された急峻な段丘崖が形成され、東端から南端にかけて比高差 10 ｍほどの段丘崖となる。崖下近くは揖斐川に形成された沖積低地となり、水田が広がっている。

２．歴史的環境

本遺跡が所在する小山丘陵周辺には、数多くの遺跡が確認され、当地周辺は古くから人々の生活の中心地であったと考えられる。主要遺跡を中心に各時代を概述していきたい。

１　旧石器～縄文時代

旧石器時代の遺跡では、小山丘陵の西側に位置する寺山遺跡で、旧石器時代に遡るナイフ形石器や縦長剥片が採集されている。北勢地域では、数少ない旧石器時代の遺跡として注目される。縄文時代に入ると、多度川左岸の中位段丘周辺を中心に確認事例が増えてくる。寺山遺跡で、尖頭器や石鏃、石錐など草創期から前期にかけての石器が確認されている。土器の確認事例は少ないが、多度Ｂ遺跡で深鉢片が見つかっているほか、天王平遺跡では３次調査で、北白川下層式に属する前期、０次調査で船元式に属する中期初頭の土器が出土する。遺構は確認されていない。

２　弥生時代

弥生時代は、事例が少なく詳しい実態は掴めていない。多度山東麓の一ノ谷Ａ遺跡で、後期と考えられる特異な突帯をもつ壺形土器が採集したとされるが、現物は残っていない。この他、肱江川の沖積低地に立地する、東谷通遺跡で細頸壺や隣接する林崎遺跡では櫛描横線文の壺が見つかっているため、この地域を中心に中期以降の遺跡が広がっている可能性がある。

３　古墳時代

古墳時代に入ると、多度山東麓を中心に古墳が多く築造される。横山古墳群は、前方後円墳を含む４基で構成される古墳群と考えられ、底部に段をもつ淡輪系の円筒埴輪や馬形埴輪が出土しているが、人物埴輪とみられる破片が出土したとの記録も残る。南側にある宇賀神社古墳群でも、埴輪が見つかっており、中期以降の古墳が多度山周辺に確認できる。後期以降については、一ノ谷古墳群は石室をもつ円墳で構成される群集墳と考えられ、勾玉やガラス玉、須恵器類が報告されている。肱江川左岸では、大久保古墳群が後期以降に築造される。5、９号墳では、胴張り形の石室が確認されている。出土位置が不明だが、高杯や提瓶や平瓶など６世紀後半の須恵器が見つかっている。集落遺跡の調査事例は少ないが、天王平遺跡の７次調査で、古墳時代中後期の竪穴建物２棟が検出されている。

４　古　代

壬申の乱の際、当地は歴史の舞台となり、天武天皇が訪れた伝承が地元に数多く残されている。桑名は養老山地を経て美濃に向かう重要な交通拠点であった。また、尾張との国境に位置し、古代東海道のルート上に駅家が置かれたといわれる。桑名郡には、「榎撫駅」があったとされ、揖斐川に面した低地部の尾津周辺が有力な比定地のひとつとされる(1)。柚井遺跡は、日本で最初の木簡が出土したことで知られ、吉祥句を記した多数の墨書土器や斎串、火錐具など祭祀に関わる木製品が出土している。集落遺跡は、天王平遺跡において、奈良時代から平安時代の竪穴建物群や方位を揃えた掘立柱建物群が確認され、拠点的な集落があったと考えられる。中ノ谷遺跡でも奈良時代の竪穴建物が検出されている。古代寺院は、小山丘陵南側に南小山廃寺が造営される。鴟尾が見つかったほか、昭和 60 年度の発掘調査では、単弁、素弁蓮華文軒丸瓦、三重弧文軒平瓦を含む瓦が多数出土している。丘陵北側の天王平遺跡に包摂される位置には北小山廃寺がある。南小山廃寺と同系の軒丸瓦が出土しているが、寺院に関連する遺構はなく、瓦窯があった可能性が指摘されている(2)。

５　中　世

平安時代に入ると、河川の土砂堆積による陸地化が進み、沖積低地の開発が活発化した。中世前期には、香取荘や野代荘、富津御厨が成立したと考えられる。荘園に関わる集落遺跡の不明だが、上之郷揖斐川河床遺跡では、山茶碗や土師器の柱状高台皿等の遺物が見つかり、集落形成を考える上で関係が注意される。丘陵部では、多度山を中心に多度経塚をはじめとする経塚や中世墓群が多く確認されている。多度山南麓の宮地中世墓群では、３基の石室墓が確認され、青磁碗などの副葬品が出土している。祢宜谷中世墓群や愛宕中世墓群は中世後期のもので、古瀬戸や常滑焼の蔵骨器が出土している。愛宕中世墓群は、多数の五輪塔や石仏がみつかっている。また、多度神宮寺跡では、鎌倉から室町時代の軒平瓦や鬼瓦などが採集されている。尾張国分寺と同系統の軒平瓦が見つかっており注目される。

中世城館は、丘陵南側で小山城跡が確認され、虎口を伴う土塁に囲まれた主郭が残っている。猪飼城跡や御衣野城跡などの城館が丘陵に点在するが、小規模なものが多い。

註

（１）多度町教育委員会編 2002『多度町史』資料編１　考古・古代・中世

（２）「三重県の古瓦」刊行会 1996『三重県の古瓦』

＊　各遺跡の記述にあたっては、『多度町史』ほか、以下の各遺跡の発掘調査報告書を参考とした。

・伊藤春夫 1986『南小山廃寺発掘調査報告』多度町教育委員会

・三重県教育委員会 1982『天王平遺跡発掘調査報告書Ⅰ』

・多度町教育委員会 2003『天王平遺跡発掘調査報告―第４・５・６次―』

・三重県埋蔵文化財センター 1997『宮地中世墓群発掘調査報告』



国土地理院　電子地形図（タイル）より作成

図３　周辺遺跡位置図

表１　周辺遺跡一覧表

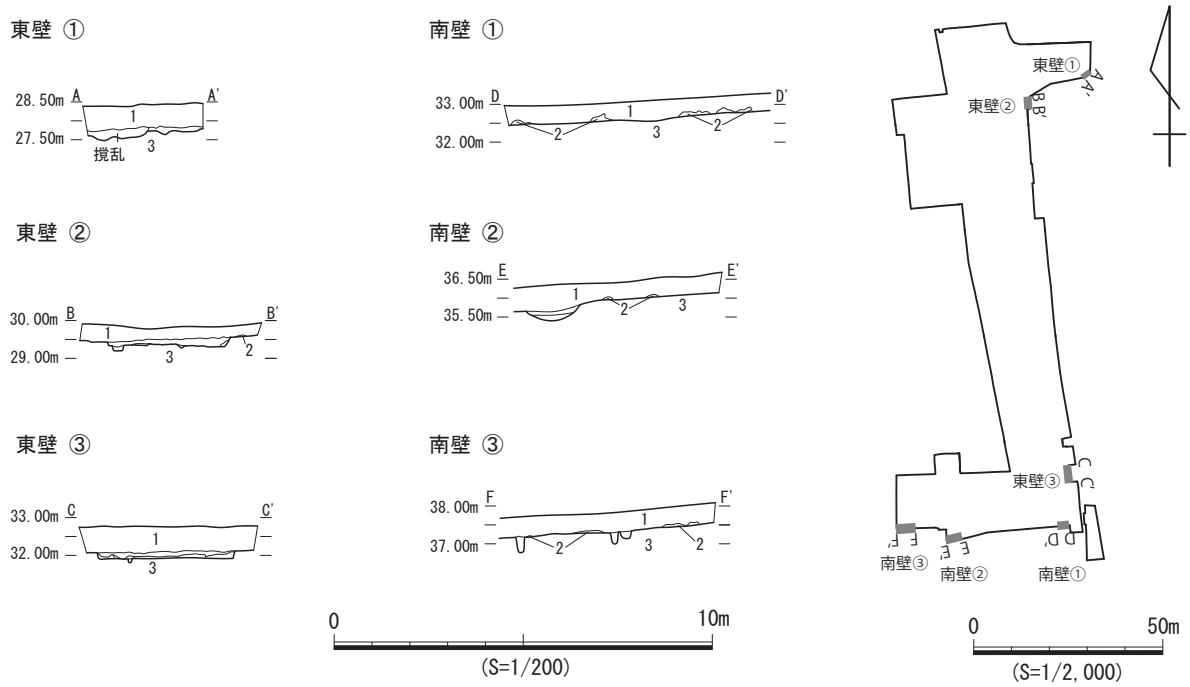
No.	遺跡名	遺跡種別	時期
1	天王平遺跡	集落	縄文・古墳～中世
2	柚井遺跡	散布地	縄文・古墳～中世
3	一ノ谷A遺跡（一ノ谷古墳群、経塚・中近世墓群含む）	散布地、古墳他	古墳～近世
4	一ノ谷B遺跡（一ノ谷古墳群含む）	散布地、古墳他	縄文・古墳
5	一ノ谷C遺跡（横山古墳群含む）	散布地、古墳他	古墳
6	関東遺跡	散布地	古墳～中世
7	宇賀神社古墳群	古墳	古墳
8	長尾遺跡	散布地	古墳～平安
9	長尾古墳群	古墳	古墳
10	宇賀A遺跡	散布地	古墳～中世
11	宇賀B遺跡	散布地	古墳～中世
12	宇賀C遺跡	散布地	古墳～中世
13	柚井城跡	城館	中世
14	愛宕中世墓群	中世墓	中世
15	西城古墳	古墳	古墳
16	多度経塚	経塚	平安
17	多度神宮寺跡	寺院	平安～中世
18	多度A遺跡	散布地	古墳～中世
19	多度B遺跡	散布地	縄文・古墳～中世
20	祢宜谷中世墓群	中世墓	中世
21	猫ヶ谷遺跡	散布地	平安
22	朝拝下遺跡	散布地	古墳～中世
23	宮地中世墓群	中世墓	中世
24	八壺口遺跡	散布地	平安～中世
25	八壺谷経塚	経塚	平安
26	八壷谷古墳・古墓	古墳、古墓	古墳・平安
27	西野遺跡	散布地	古墳～中世
28	寺山遺跡	散布地	旧石器・縄文平安～中世
29	北猪飼A遺跡	散布地	古墳・中世
30	北猪飼B遺跡	散布地	中世
31	西之河原遺跡	散布地	中世～近世
32	西田面遺跡	散布地	古墳～中世
33	猪飼城跡	城館	中世
34	砂田遺跡	散布地	古墳～中世
35	大久保遺跡・古墳群	古墳	古墳
36	宮前遺跡	散布地	古墳～中世
37	南小山廃寺	寺院	古墳～中世
38	西谷通遺跡	散布地	古墳～中世
39	西谷通古墓	散布地	古墳
40	貝殻谷遺跡	散布地	古墳～中世
41	小山城跡	城館	中世
42	東谷通遺跡	散布地	古墳～中世
43	林崎遺跡	散布地	古墳～中世
44	西天王平遺跡	散布地	平安
45	中ノ谷遺跡	散布地	古墳～中世
46	北小山廃寺	寺院	奈良、中世
47	尾津森遺跡	散布地	古墳～中世
48	馬場遺跡	散布地	古墳～中世
49	森下遺跡	散布地	縄文・古墳～中世
50	藤塚遺跡	散布地	縄文・古墳～中世
51	石坪遺跡	散布地	古墳～中世
52	下野代遺跡	散布地	平安～中世
53	石原遺跡	散布地	古墳～中世
54	星鳥遺跡	散布地	古墳～中世
55	御衣野遺跡	散布地	中世
56	大平遺跡	散布地	古墳～中世
57	駒ヶ谷遺跡	散布地	平安～中世
58	御衣野城跡	城館	中世

第３章　調査区の基本層位

天王平遺跡の遺跡規模は、東西約 550 m、南北約１㎞に及び、段丘一帯に広範に広がる。遺跡周辺については、蜜柑や柿などの果樹畑として利用されているが、近年は宅地化が進んでいる。当遺跡では、これまで０次から８次までの発掘調査が実施されている。遺跡内で最初の調査となったのが昭和 55 年度の０次調査で、多度小学校の建替えに伴い実施した。その後、県道や市道工事に伴って、１・２次調査や３～７次調査が行われ、面的な発掘調査が実施されている。この他、県道周辺を中心に店舗や個人住宅などの建設に伴い、小面積の発掘調査が実施されている。

令和４年度に実施した９次調査は、学校敷地と隣接する市道部分を対象とした。調査箇所は遺跡の北西部で、標高は約 37.5 m～ 27.5 mとなる。層位は大きく３層に分かれる。第１層は黒褐色砂質土の耕作土である。第２層は遺物包含層である。黄褐色砂質シルト土が主体となり、部分的に焼土や地山の褐色土が混ざる地点があった。調査区東側や南側を中心に部分的に確認した。後世の耕作などで、本来あった包含層の上部は削平され、下部の漸移層のみが残存すると判断される。層内から古墳時代から古代の遺物が出土した。第３層は褐色粘質土で地山層である。調査区の東端では円礫が表出する箇所が多く見られた。地山の下層については、砂礫層となっている。

令和５年度に実施した 10 次調査は、南側の市道部分を調査対象とする。平成４年度に実施した３次調査の調査区と重複する部分が多い。基本層位は学校敷地部分のＡ・Ｂ地区と大きな違いはないが、耕作による削平で包含層が殆ど残存しなかったため、地山層の褐色粘質土で遺構検出をおこなっている。



1　10YR3/2　黒褐色砂質シルト　締まりややあり　粘性なし　径1～2cm以下の円礫をわずかに含む　焼土をわずかに含む　（耕作土）
2　10YR5/6　黄褐色砂質シルト　締まりややあり　粘性ややあり　2.5YR5/8明赤褐色焼土をわずかに含む
　10YR4/6　褐色シルト地山ブロックをわずかに含む　（包含層）
3　10YR4/6　褐色粘質土　締まりややあり　粘性ややあり　（地山）

図４　土層断面図（９次調査区）

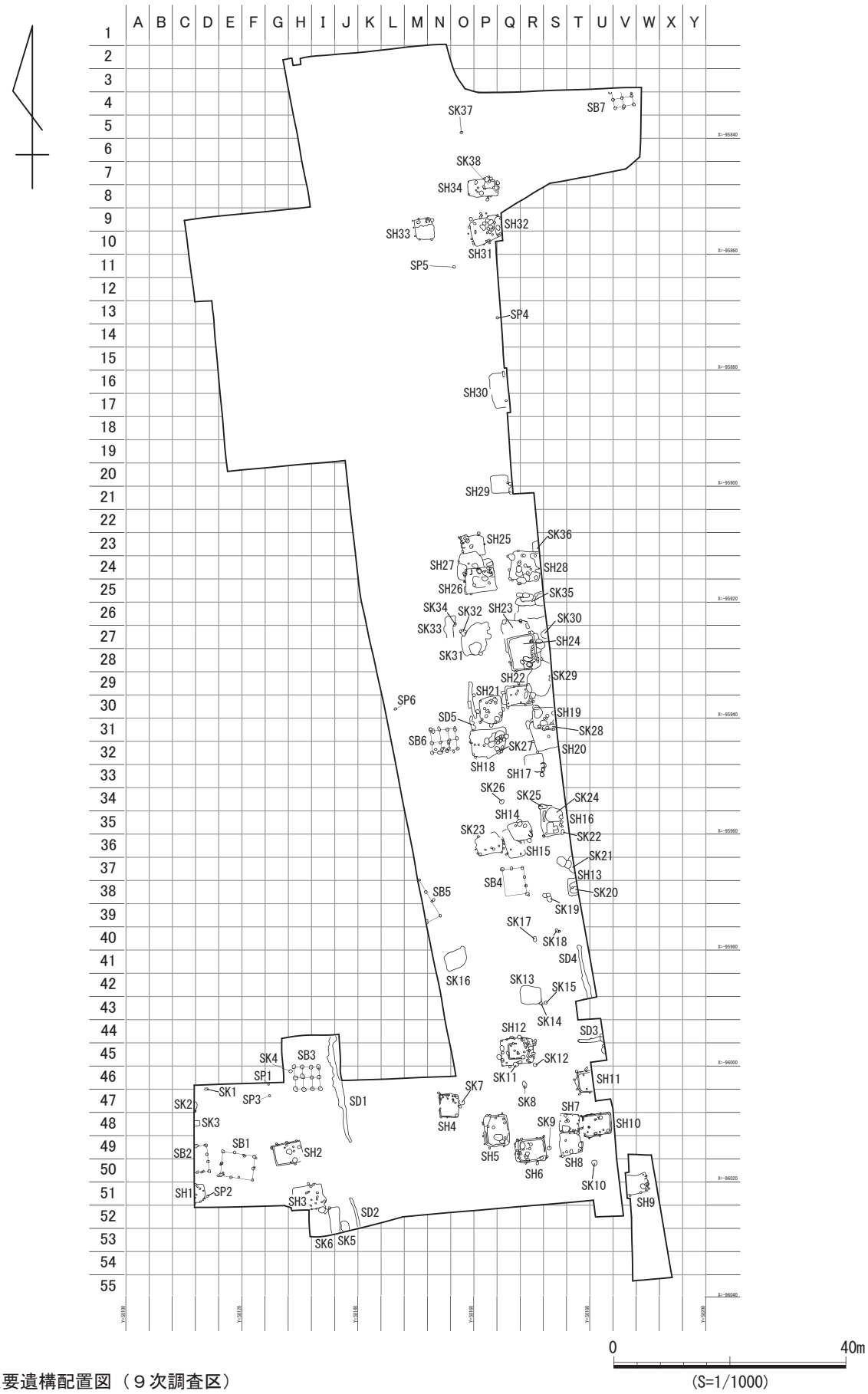


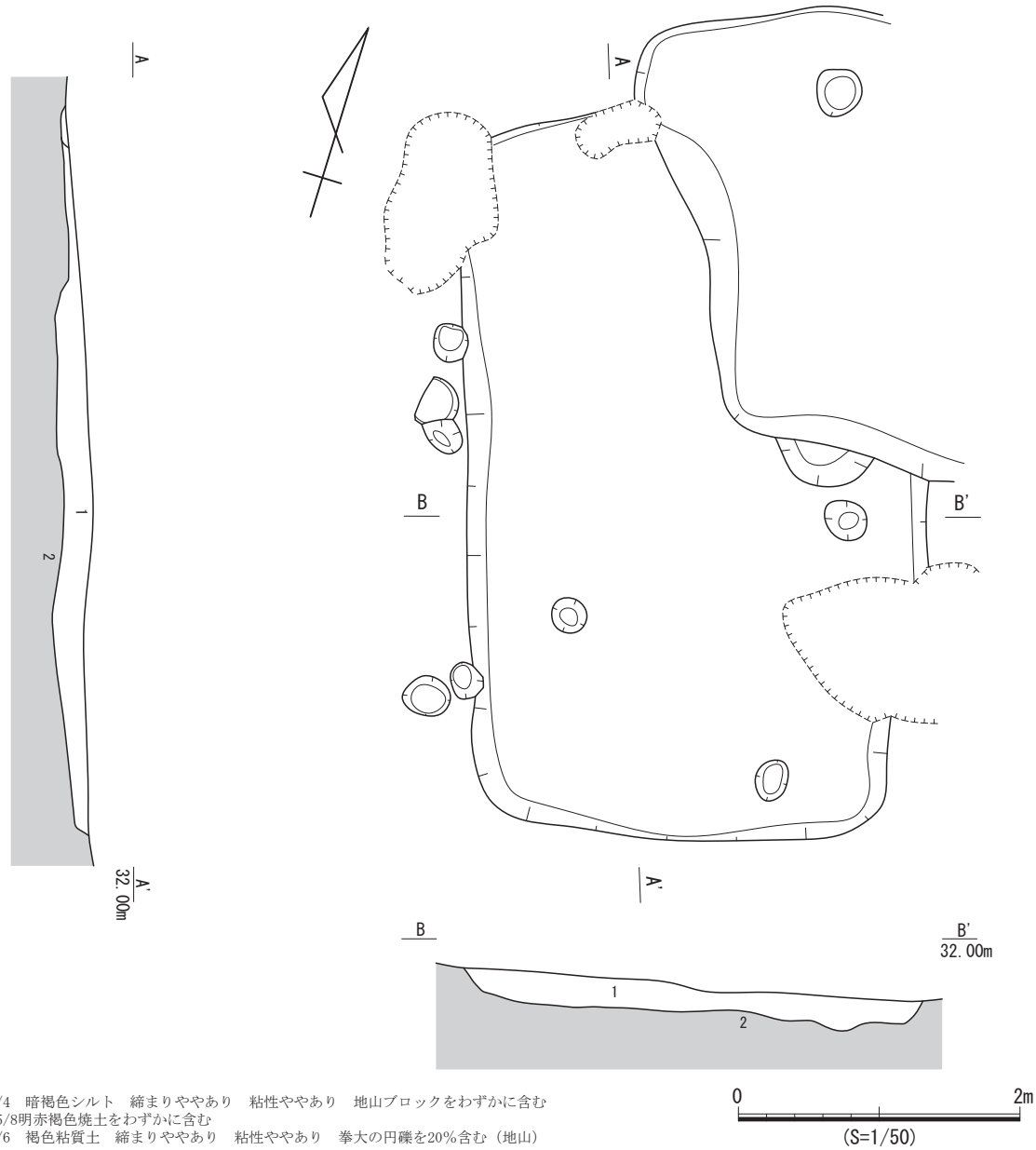
図５　主要遺構配置図（９次調査区）

第４章　検出した遺構

１．９次調査の遺構

９次調査は学校敷地部分の東側部分を調査対象としている。10 次調査は、学校敷地に近接する市道部分について実施した。学校敷地周辺の調査区については、市道部分にまたがる遺構が多くあるため、遺構の関連性を考慮して、９・10 次の両年次の成果を併せて報告する。

調査区内で検出した遺構は、古墳時代と古代の遺構があり、この２時期の遺構に限定される。大半が古代の遺構で、竪穴建物や掘立柱建物、土坑、溝などを検出した。検出遺構の大部分は東側に集中する。調査区の西側は、耕作の影響があり、遺構がほとんど残存しない。以下、各時代の遺構を詳述する。



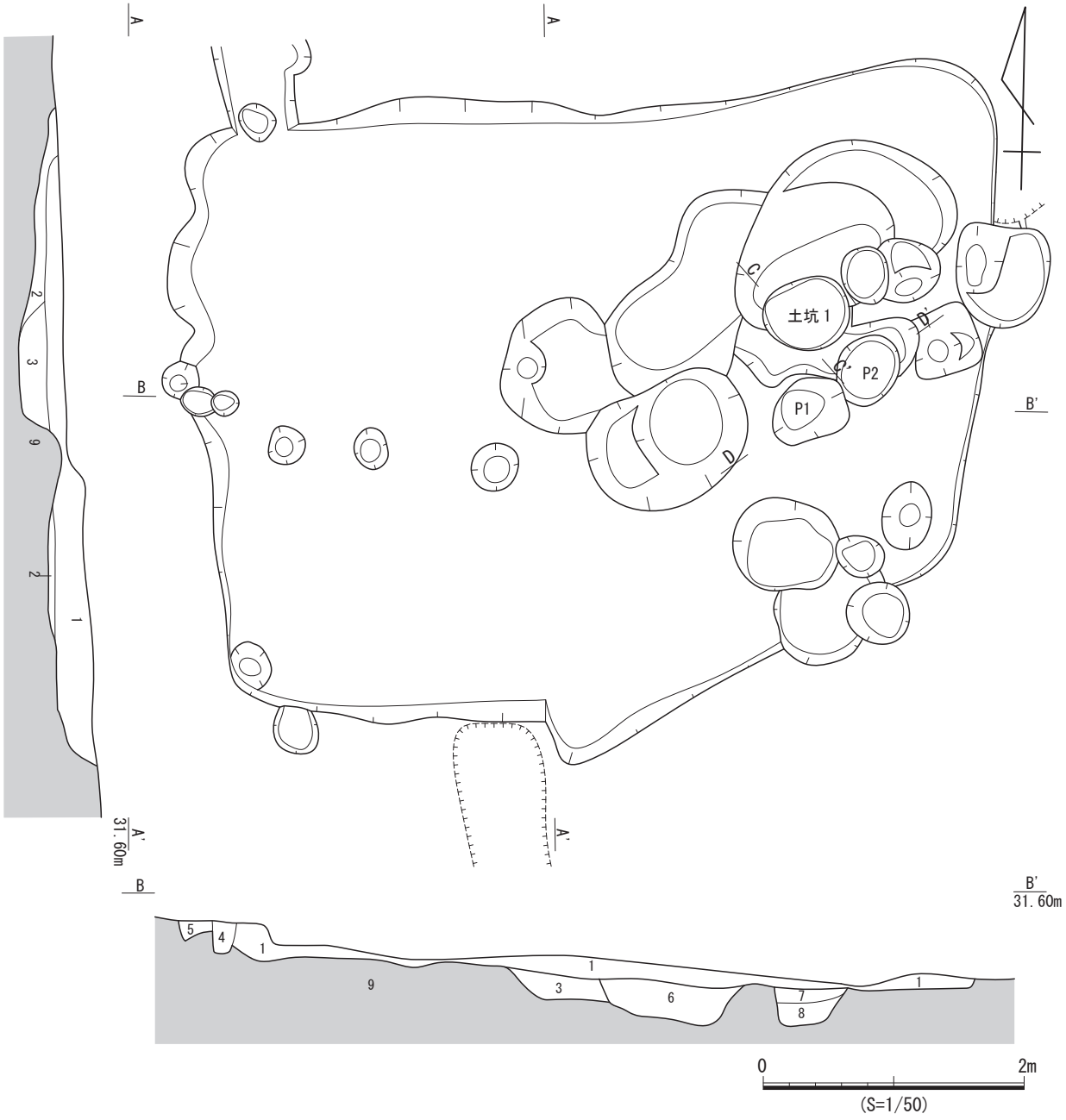
1　10YR3/4　暗褐色シルト　締まりややあり　粘性ややあり　地山ブロックをわずかに含む
　2.5YR5/8明赤褐色焼土をわずかに含む
2　10YR4/6　褐色粘質土　締まりややあり　粘性ややあり　拳大の円礫を20%含む（地山）

図６　ＳＨ 15 遺構図

（１）古墳時代の遺構

a.　竪穴建物

ＳＨ 15（図６）　調査区東側の 36 Ｑ～Ｒグリッドで検出した。北側は、古代の竪穴建物ＳＨ 14 に切られる。東西３ｍ、南北５ｍの長方形を呈し、検出面からの深さは約 20 ㎝である。遺構の底面は礫混じりの地山層である。断面の状況から、別遺構と重複する可能性があるが、検出段階で、平面上の明確な切り合いは確認できなかった。埋土から、古墳時代中後期の土師器や須恵器高杯の小片が出土した。



1　10YR3/2　黒褐色砂質シルト　締まりややあり　粘性ややあり　地山ブロックをわずかに含む　炭化粒・焼土粒を含む
2　10YR4/4　褐色砂質シルト　締まりあり　粘性ややあり　地山ブロックを30%含む
3　10YR4/2　灰黄褐色砂質シルト　締まりややあり　粘性あり　地山ブロックをわずかに含む　径1～2cm以下の円礫をわずかに含む
4　10YR3/3　暗褐色砂質シルト　締まりややあり　粘性ややあり　地山ブロックをわずかに含む　炭化粒･焼土粒を含む
5　10YR3/3　暗褐色砂質シルト　締まりややあり　粘性なし　地山ブロックをわずかに含む
6　10YR3/3　暗褐色砂質シルト　締まりややあり　粘性なし　炭化粒･焼土粒を含む
7　10YR3/2　黒褐色砂質シルト　締まりややあり　粘性ややあり　地山ブロックをわずかに含む　炭化粒･焼土粒を含む
8　7.5YR7/4　にぶい橙色やや砂質土　締まりなし　粘性なし　2.5YR5/8明赤褐色焼土を多量に含む
9　10YR4/6　褐色粘質土　締まりややあり　粘性ややあり（地山）

図７　ＳＨ 18 遺構図

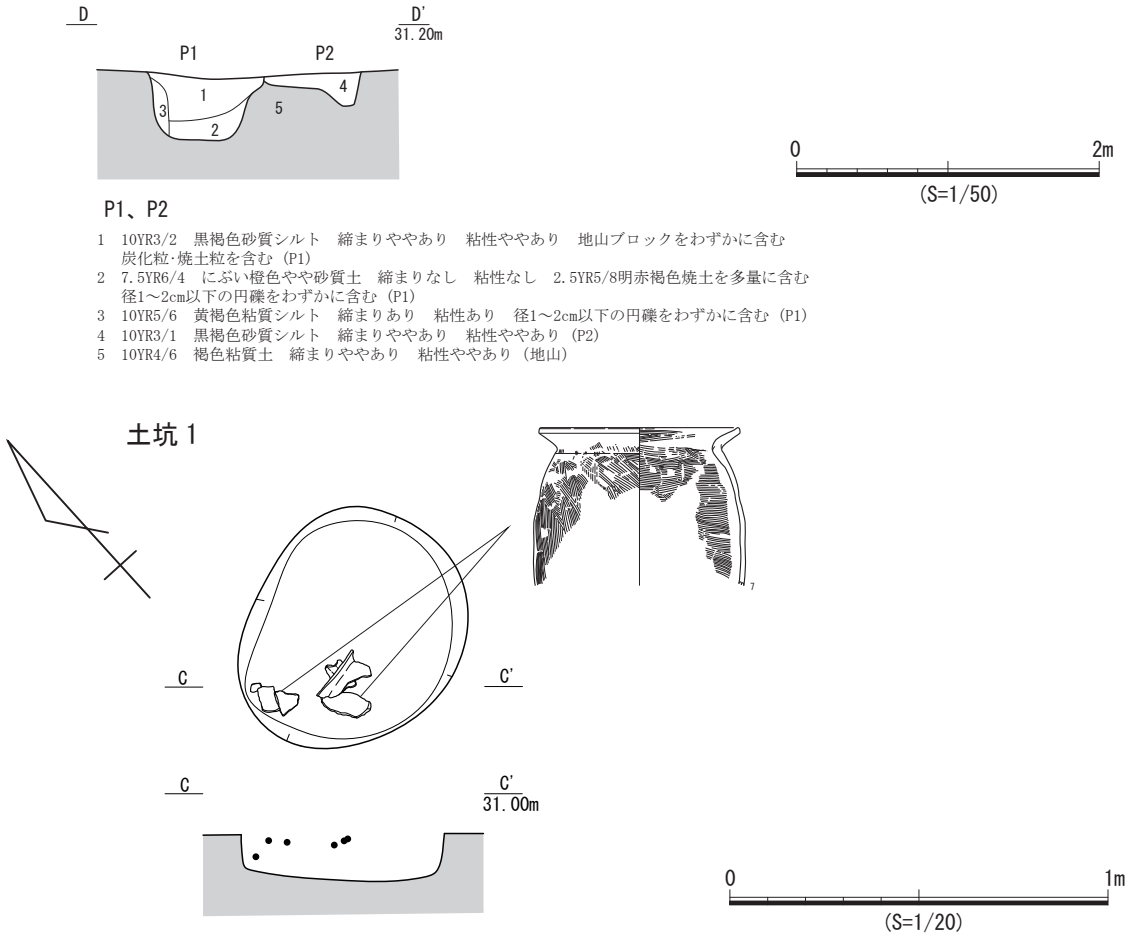
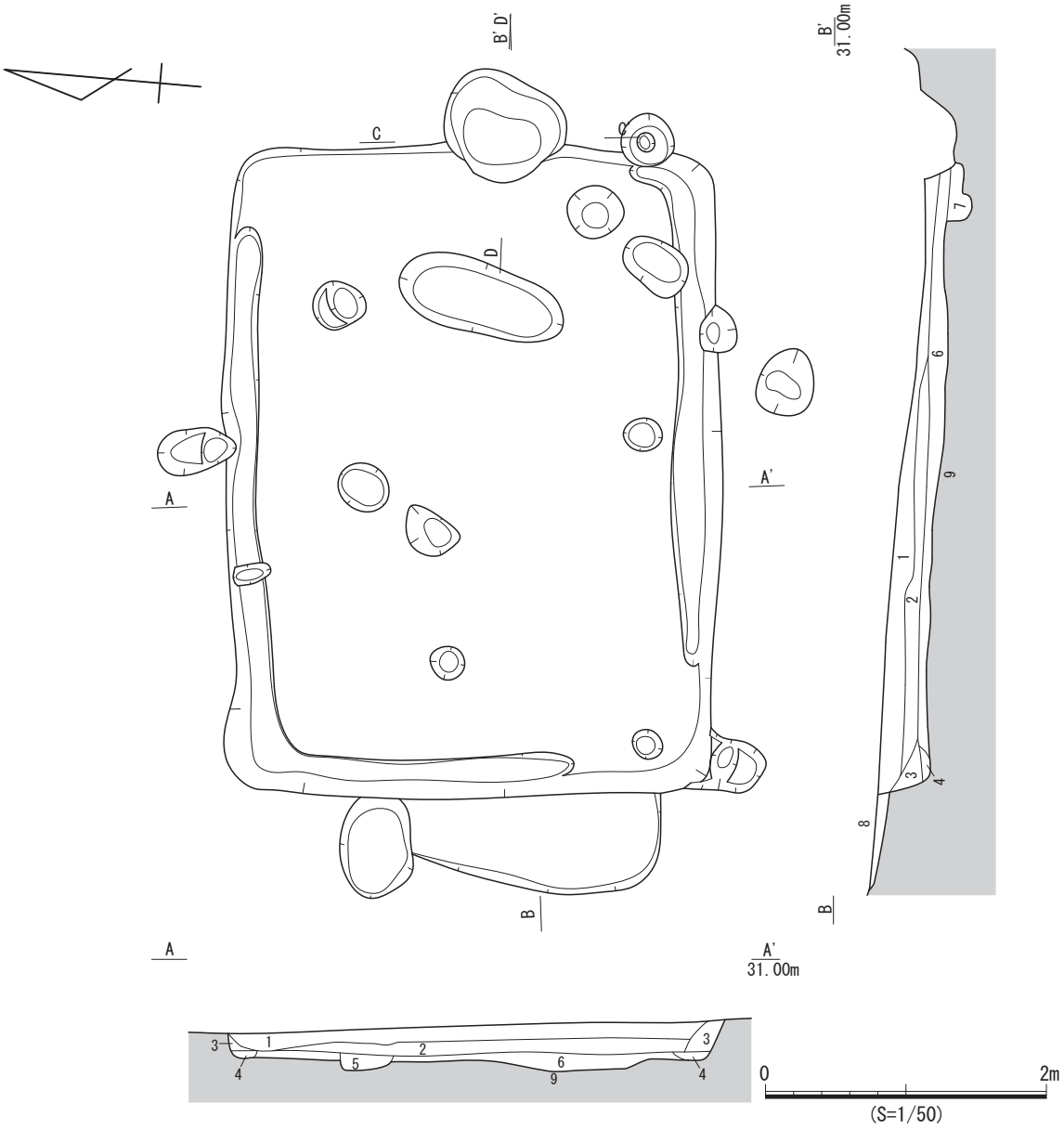


図８　ＳＨ 18 P1、P2 土層断面、土坑１遺物出土状況図

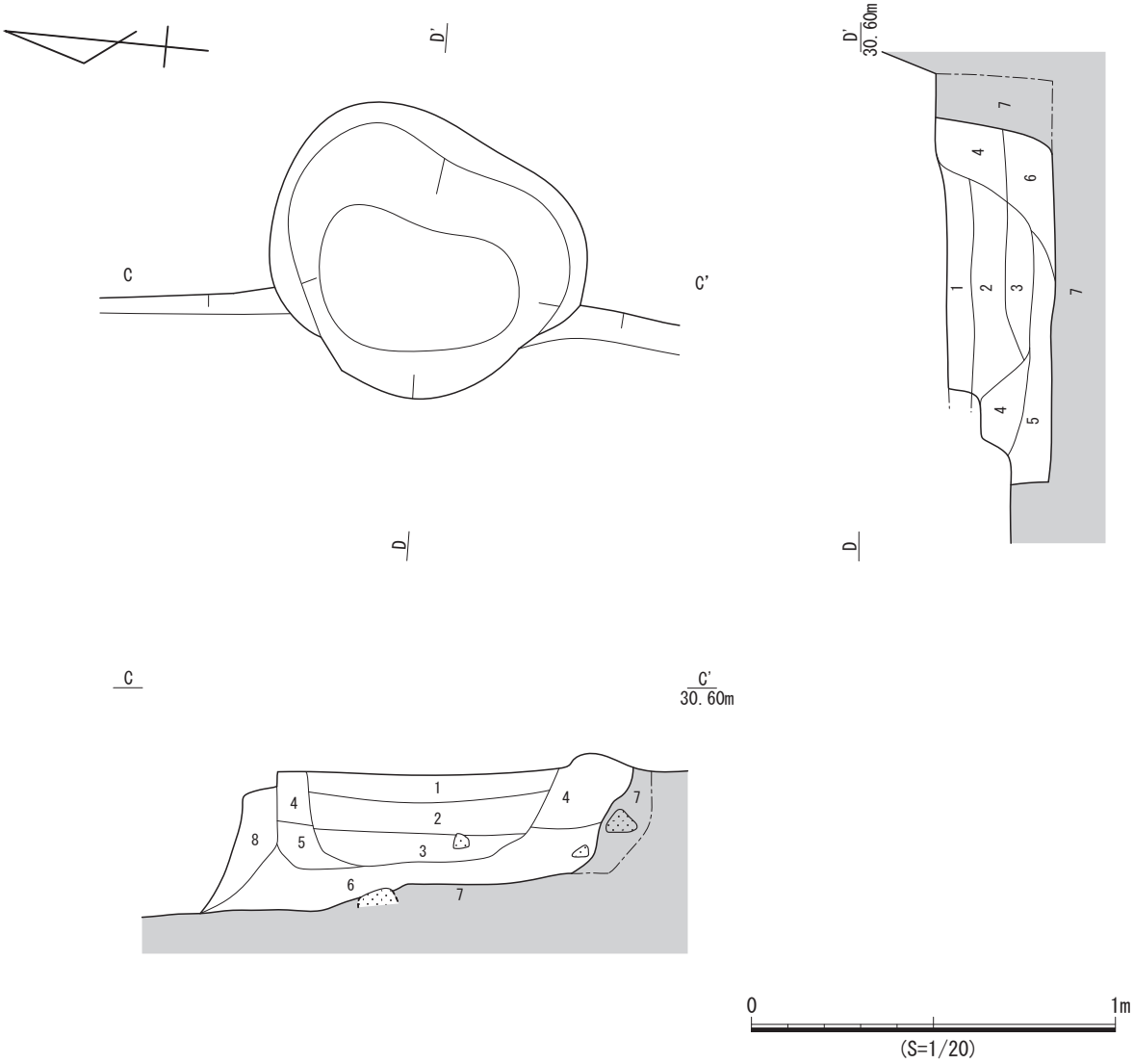
ＳＨ 18（図７・８） 調査区東側の 31 ～ 32　0 ～ Q グリッドで検出した。令和３年度に実施した確認調査で遺構の一部を検出している。規模は、東西 5.5 ～ 6 m、南北 4.4 mの台形状を呈する。検出面からの深さは約 20 ㎝であるが、床面の高さが一定しない。竪穴建物と考えるが、カマドや壁周溝など建物の付属施設は確認できなかった。床面の中央やや東寄りで、複数の不整形土坑を重複して検出し、このうち、土坑１からは土師器甕が出土した。遺構埋土からは、須恵器杯蓋や瑞、台付甕や土師器碗など古墳時代中後期の遺物が出土した。令和３年度調査では、埋土から管玉が出土した。

ＳＨ 22（図９・10） 調査区東側の 29・30　Q・R グリッドで検出した。東西 4.6 m、南北 3.5 mの長方形を呈する。検出面からの深さは約 24 ～ 34 ㎝である。遺構底面に黄褐色土を入れ、貼床を構築している。壁周溝は一部が途切れるが、東辺を除く３辺で確認した。溝幅は約 0.3 m、深さ約 5 ㎝である。東辺の中央でカマドを検出した。床面上で複数の柱穴が見つかっているが、主柱穴と判断できるものはなかった。埋土から須恵器高杯や杯蓋など古墳時代中後期の遺物が出土した。



1　10YR3/2　黒褐色砂質シルト　締まりややあり　粘性ややあり
2　10YR3/2　黒褐色砂質シルト　締まりややあり　粘性あり　地山ブロックをわずかに含む
3　10YR3/3　暗褐色砂質シルト　締まりややあり　粘性ややあり　地山ブロックを30%含む
4　10YR3/1　黒褐色砂質シルト　締まりなし　粘性ややあり　地山ブロックをわずかに含む　(壁周溝)
5　10YR3/3　暗褐色砂質シルト　締まりややあり　粘性ややあり　地山ブロックをわずかに含む　炭化物を含む
6　10YR5/6　黄褐色粘質シルト　締まり強い　粘性あり　径1～2cm以下の円礫をわずかに含む　(貼床)
7　10YR4/2　灰黄褐色砂質シルト　締まりややあり　粘性ややあり　地山ブロックをわずかに含む　2.5YR5/8明赤褐色焼土をわずかに含む
8　10YR3/4　暗褐色砂質シルト　締まりややあり　粘性ややあり　地山ブロックをわずかに含む
9　10YR4/6　褐色粘質土　締まりややあり　粘性ややあり　(地山)

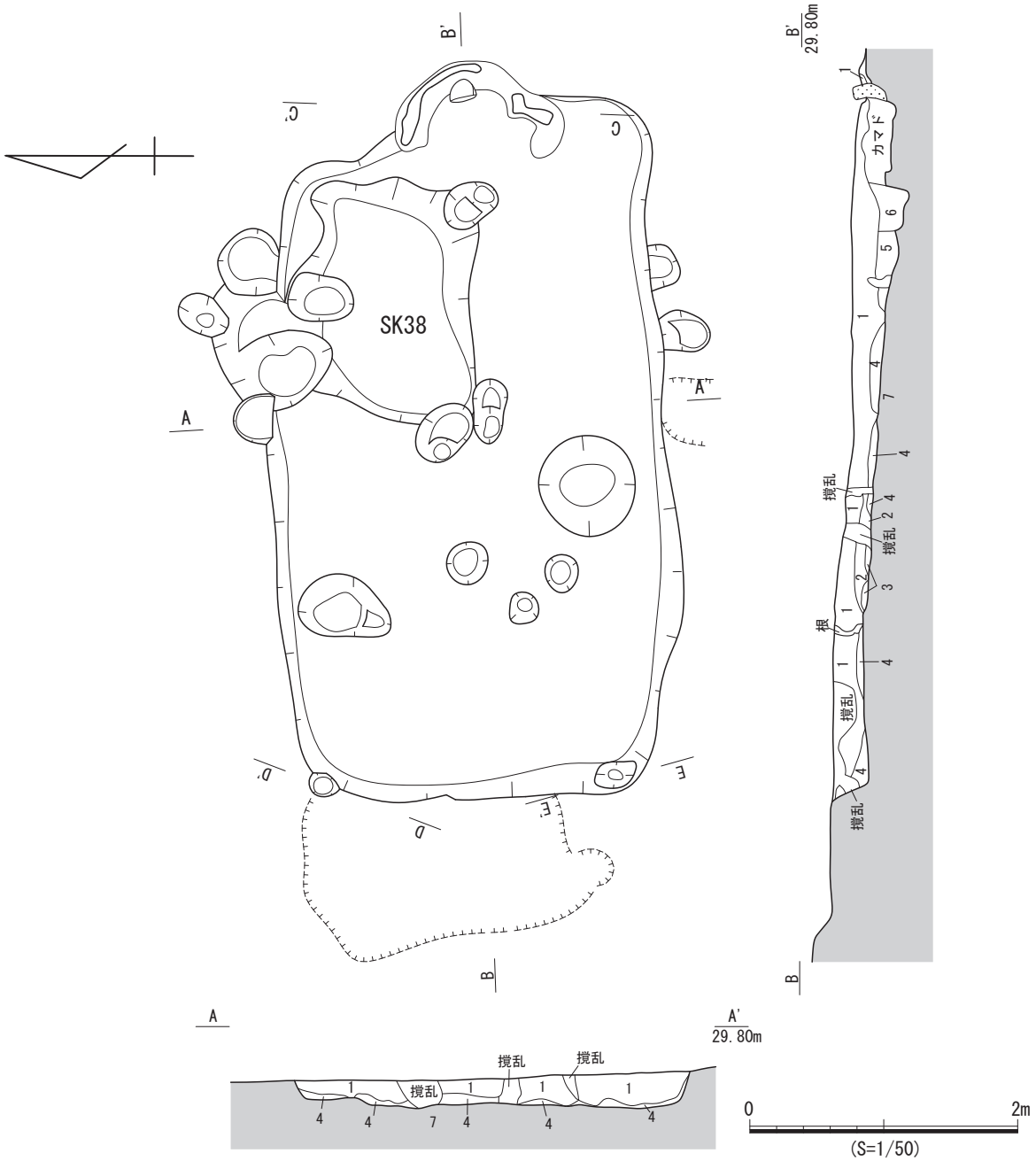
図９　ＳＨ 22 遺構図



1　7.5YR5/4　にぶい褐色砂質シルト　締まりややあり　粘性なし　2.5YR5/8明赤褐色焼土を多量に含む
2　10YR5/3　にぶい黄褐色砂質シルト　締まりなし　粘性なし　炭化粒･焼土粒を含む
3　10YR3/4　暗褐色砂質シルト　締まりややあり　粘性あり　地山ブロックをわずかに含む　炭化物を含む
4　10YR4/3　にぶい黄褐色砂質シルト　締まりあり　粘性ややあり　2.5YR5/8明赤褐色焼土をわずかに含む
5　10YR3/2　黒褐色砂質シルト　締まりあり　粘性ややあり　径1～2cm以下の円礫をわずかに含む　炭化粒･焼土粒を含む
6　10YR4/4　褐色砂質シルト　締まりややあり　粘性あり　地山ブロックをわずかに含む
7　10YR4/6　褐色粘質土　締まりややあり　粘性ややあり　拳大の円礫を20%含む　(地山)
8　10YR3/1　黒褐色砂質シルト　締まりややあり　粘性ややあり　径4～5cm角の円礫を20%含む　(SH22埋土)

図 10　ＳＨ 22 カマド遺構図

ＳＨ 34（図 11・12）　調査区北東の 7・8　0～Q グリッドで検出した。東西 5.2 ｍ、南北 2.7 ｍの長方形を呈する。検出面からの深さは 20 ～ 30 ㎝である。建物の東辺中央でカマドを確認した。両袖部が残存し、袖部は褐色のブロック土を用い構築している。カマドの奥壁では、支柱石を確認した。床面上で柱穴が複数見られるが、主柱穴と推定できるものはなかった。埋土から、須恵器杯身など古墳時代中後期の遺物が出土した。

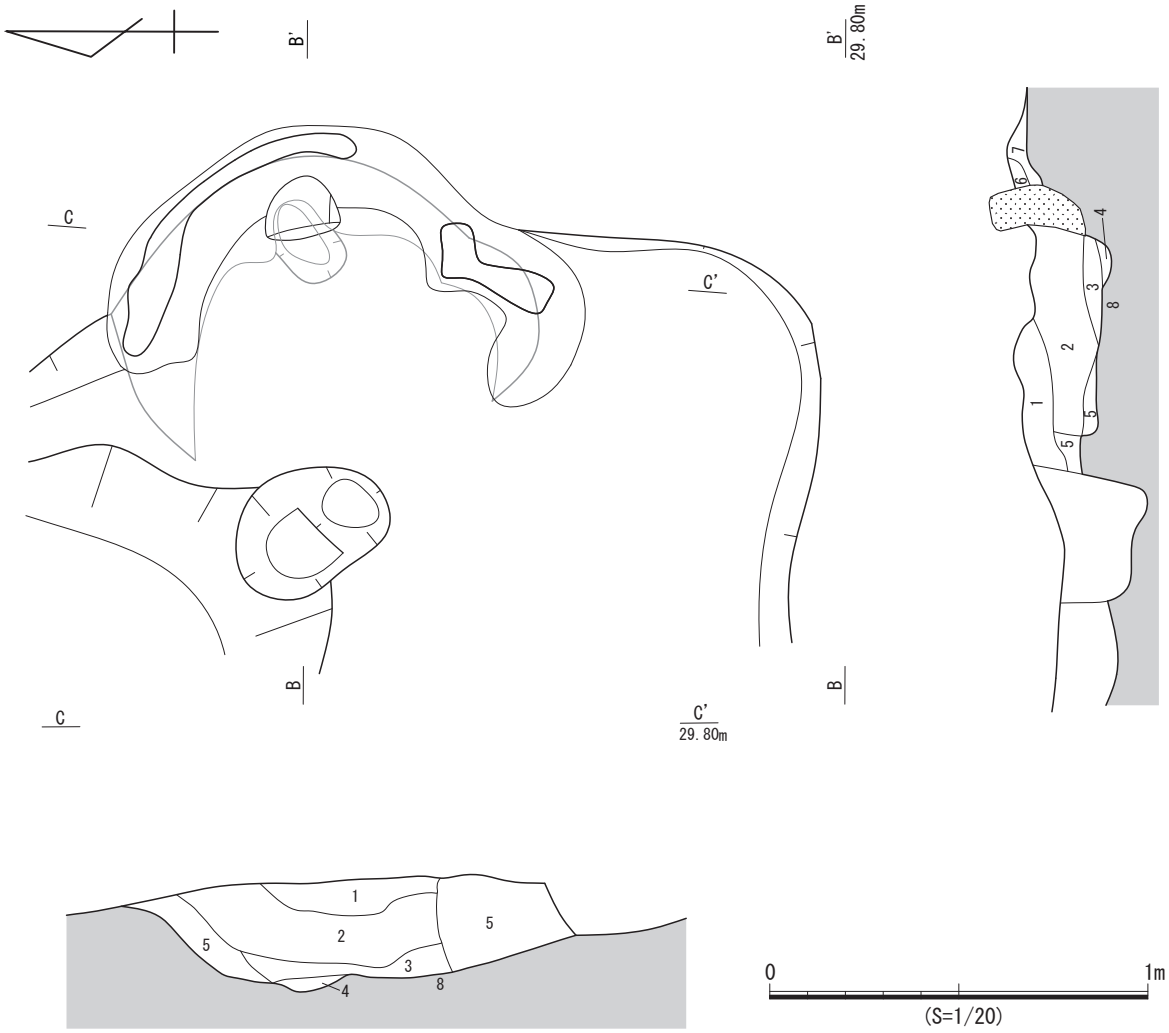


1　10YR3/2　黒褐色砂質シルト　締まりややあり　粘性ややあり　炭化粒･焼土粒を含む　地山ブロックをわずかに含む
2　2.5Y3/3　暗オリーブ褐色砂質シルト　締まりややあり　粘性ややあり　地山ブロックをわずかに含む　2.5YR5/8明赤褐色焼土をわずかに含む
3　2.5Y3/3　暗オリーブ褐色粘質シルト　締まりあり　粘性あり　地山ブロックを多量に含む　2.5YR5/8明赤褐色焼土をわずかに含む
4　10YR4/6　褐色粘質シルト　締まりあり　粘性あり　10YR3/1黒褐色シルトブロックを多量に含む
5　10YR3/1　黒褐色砂質シルト　締まりややあり　粘性ややあり　地山ブロックを多量に含む
6　10YR3/2　黒褐色砂質シルト　締まりややあり　粘性ややあり　径1～2cm以下の円礫をわずかに含む
7　10YR4/6　褐色粘質土　締まりややあり　粘性ややあり（地山）

1　10YR3/2　黒褐色砂質シルト　締まりややあり　粘性ややあり
　地山ブロックをわずかに含む
2　10YR3/2　黒褐色砂質シルト　締まりややあり　粘性ややあり
　地山ブロックをわずかに含む。
3　10YR4/6　褐色粘質土　締まりややあり　粘性ややあり（地山）

1　10YR3/1　黒褐色砂質シルト　締まりややあり　粘性ややあり
2　10YR3/2　黒褐色砂質シルト　締まりややあり　粘性ややあり
　地山ブロックを多量に含む
3　10YR4/6　褐色粘質土　締まりややあり　粘性ややあり（地山）

図 11　ＳＨ 34 遺構図



1　10YR4/4　褐色砂質シルト　締まりややあり　粘性ややあり　炭化粒･焼土粒を含む　2.5YR5/8明赤褐色焼土をわずかに含む
2　5YR3/4　暗赤褐色砂質シルト　締まりややあり　粘性ややあり　2.5YR5/8明赤褐色焼土を多量に含む
3　7.5YR2/1　黒色砂質シルト　締まりややあり　粘性ややあり　地山ブロックをわずかに含む
4　10YR3/1　黒褐色粘質シルト 締まりあり　粘性あり　地山ブロックを多量に含む
5　7.5YR3/1　黒褐色砂質シルト　締まりややあり　粘性なし　地山ブロックを多量に含む　2.5YR5/8明赤褐色焼土をわずかに含む
6　10YR3/2　黒褐色砂質シルト　締まりややあり　粘性ややあり　炭化粒･焼土粒を含む　地山ブロックをわずかに含む
7　7.5YR3/1　黒褐色砂質シルト　締まりややあり　粘性なし　地山ブロックを多量に含む　2.5YR5/8明赤褐色焼土をわずかに含む
8　10YR4/6　褐色粘質土　締まりややあり　粘性ややあり（地山）

図 12　ＳＨ 34 カマド遺構図

b. 土　坑

ＳＫ 12（図 13）　調査区南東の 45 R グリッドで検出した。長さ 0.6 m、深さ 15 ㎝の長楕円形を呈する土坑である。埋土から、ほぼ完形の古墳時代中後期の須恵器杯蓋が出土した。

ＳＫ 21（図 110）　調査区東側の 37 T グリッドで検出した。遺構の東側は調査区外である。長さ 1.2 m の規模で、長楕円形を呈する土坑である。検出面からの深さは約 20 ㎝である。埋土から、古墳時代中後期の須恵器杯身が出土した。

ＳＫ 30（図 13）　調査区東側の 27 S グリッドで検出した。遺構の東半分は調査区外である。南北 0.6 m、東西 0.4 m以上の規模で、長楕円形を呈する土坑である。検出面からの深さは 30 ㎝である。埋土に焼土や炭化物が少量含まれていた。埋土から、古墳時代中期の土師器台付甕が出土した。

ＳＫ 38（図 11）　調査区北側の 7 P グリッドで検出した。重複する竪穴建物ＳＨ 34 を切っている。南北 1.0 m、東西 0.8 mの規模で長楕円形を呈する。検出面からの深さは約 15 ㎝である。埋土から、古墳時代中期の土師器台付甕が出土した。

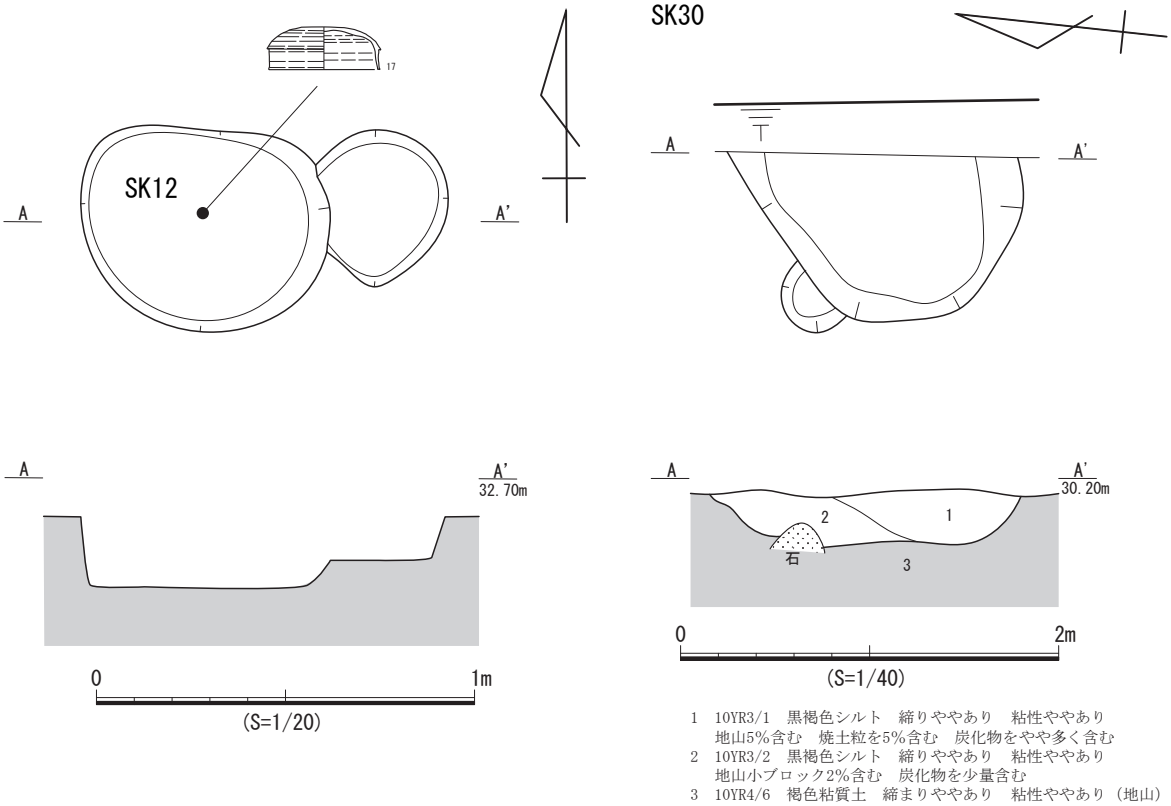


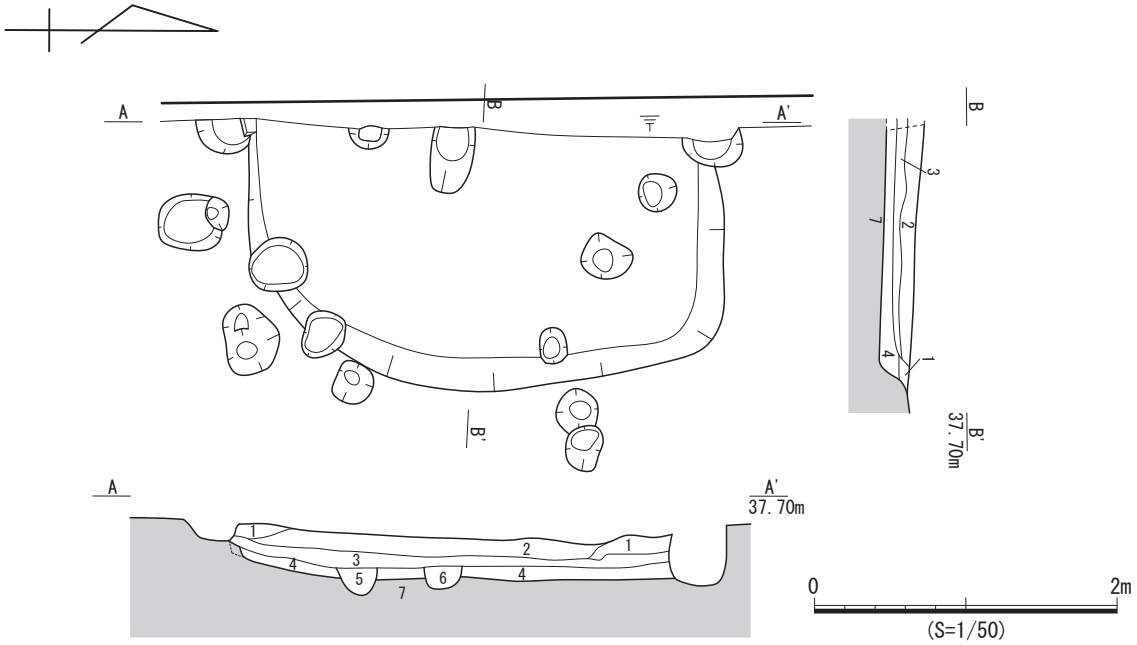
図 13　ＳＫ 12、ＳＫ 30 遺構図

（２）古代の遺構

a.　竪穴建物

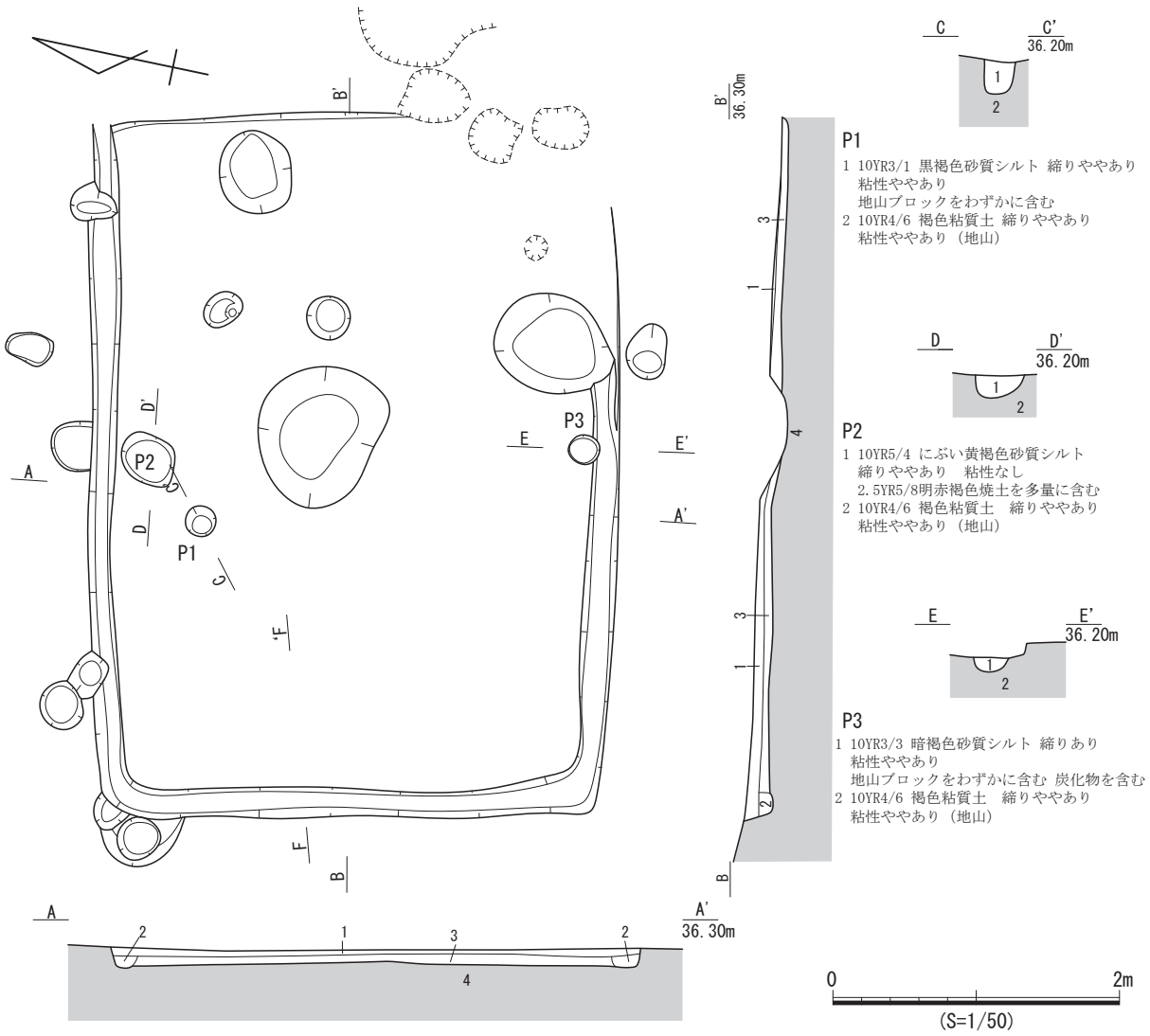
ＳＨ１（図14）　調査区南西の51 C･Dグリッドで検出した。西側は調査区外である。南北3.1ｍ、東西1.7ｍ以上で、隅丸長方形を呈すると考えられる。検出面からの深さは25㎝である。遺構底面に明黄褐色土を入れ、貼床を構築している。床面上で小穴を複数検出したが、主柱穴と判断できるものは確認できなかった。埋土から、奈良時代後半の須恵器深鉢が出土した。

ＳＨ２（図15）　調査区南西の49・50 G・Hグリッドで検出した。南北4.6ｍ、東西3.7ｍの長方形を呈する。検出面からの深さは10㎝と浅い。後世の削平で、建物の東側は床面が表出した状態であった。遺構底面は砂礫混じりの地山面で、黄褐色土を入れて貼床を構築している。壁周溝は東辺を除き３辺で確認した。幅約0.2ｍ、深さ10㎝の規模である。床面上では小穴を多数確認したが、主柱穴と判断できるものはなかった。床面のほぼ直上で、奈良時代後半の須恵器壺蓋が出土した。



1　10YR5/3　にぶい黄褐色粘質シルト　締まりややあり　粘性ややあり　地山ブロックをわずかに含む
2　10YR3/1　黒褐色砂質シルト　締まりなし　粘性ややあり　炭化物を含む
3　10YR2/2　黒褐色砂質シルト　締まりなし　粘性なし　地山ブロックをわずかに含む　炭化物を含む
4　10YR6/6　明黄褐色粘質シルト　締まり強い　粘性強い　径1～2cm以下の円礫を多量に含む　（貼床）
5　10YR2/3　黒褐色砂質シルト　締まりなし　粘性なし　地山ブロックを多量に含む
6　10YR3/2　黒褐色砂質シルト　締まりややあり　粘性ややあり　地山ブロックをわずかに含む
7　10YR4/6　褐色粘質土　締まりややあり　粘性ややあり（地山）

図14　ＳＨ１遺構図



1 10YR5/2 灰黄褐色砂質シルト 締まりあり 粘性なし 地山ブロックをわずかに含む 径1～2cm以下の円礫をわずかに含む
2 10YR3/3 暗褐色砂質シルト 締まりややあり 粘性ややあり 地山ブロックをわずかに含む 径1～2cm以下の円礫をわずかに含む （壁周溝）
3 10YR4/3 にぶい黄褐色砂質シルト 締まりあり 粘性ややあり 地山ブロックをわずかに含む （貼床）
4 10YR4/6 褐色粘質土 締まりややあり 粘性ややあり 拳大の円礫を20%含む （地山）

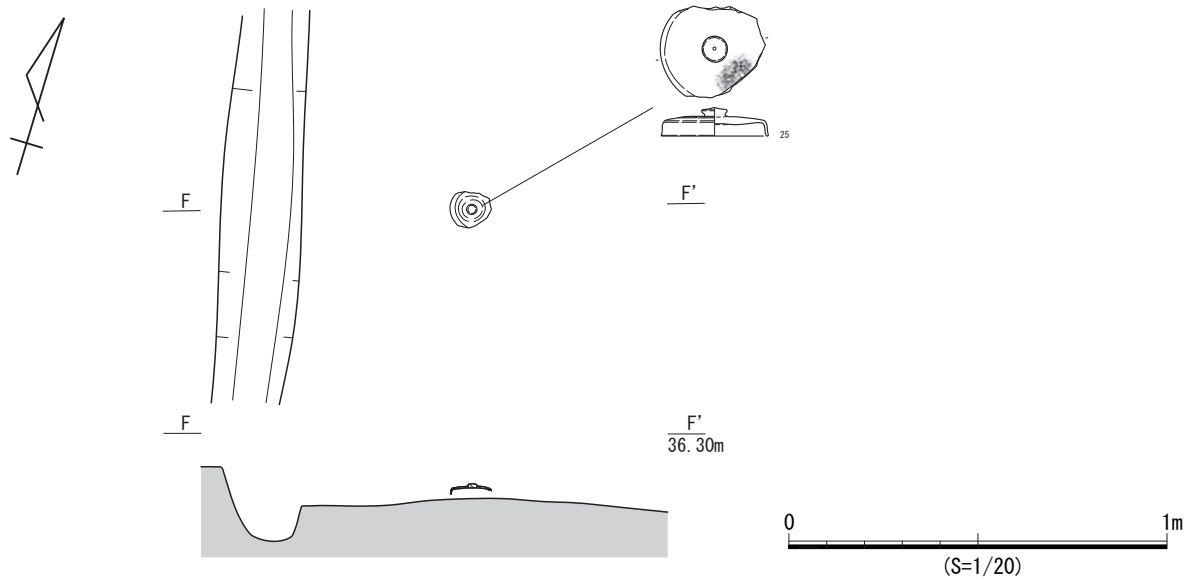
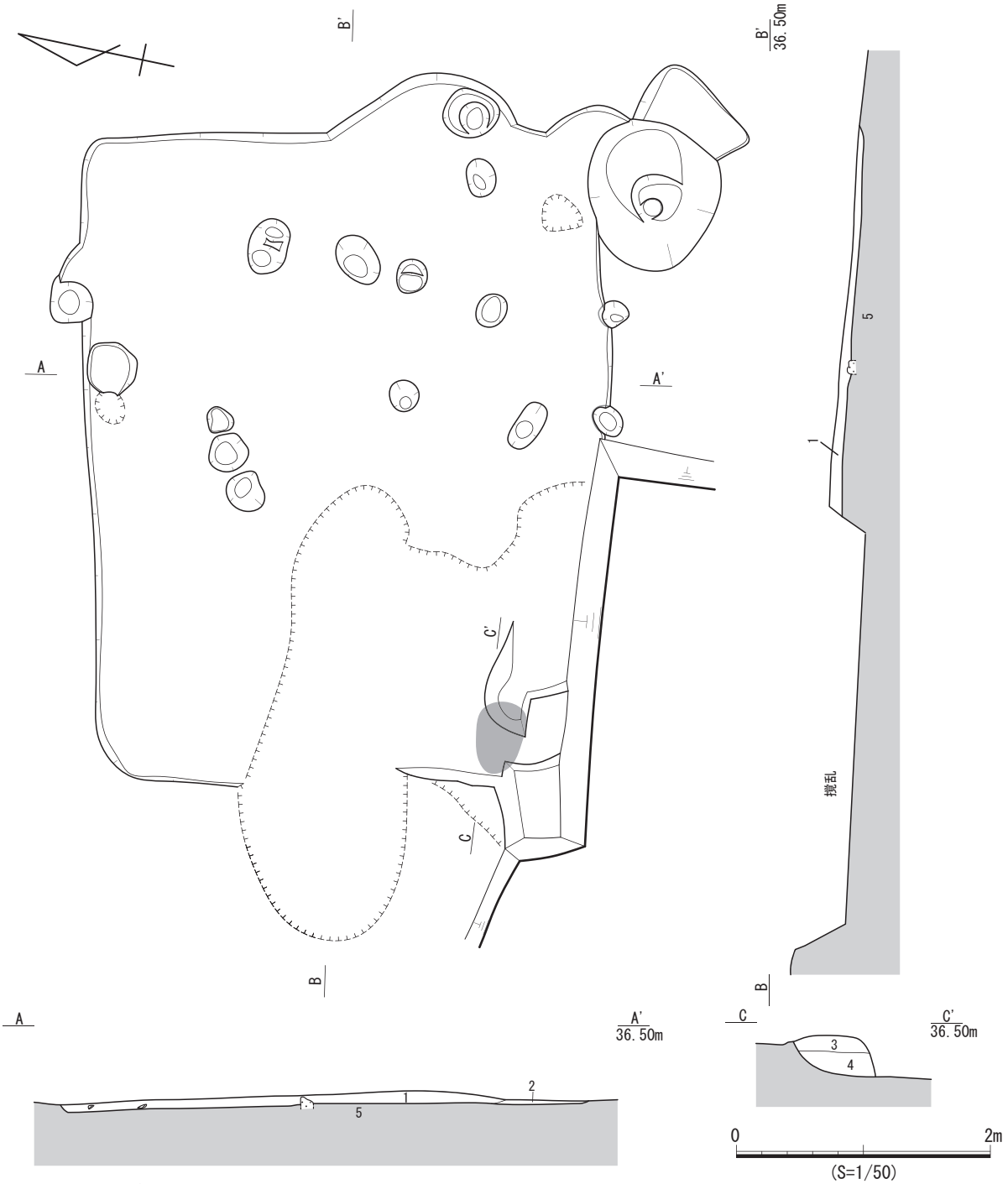


図15 ＳＨ２遺構図

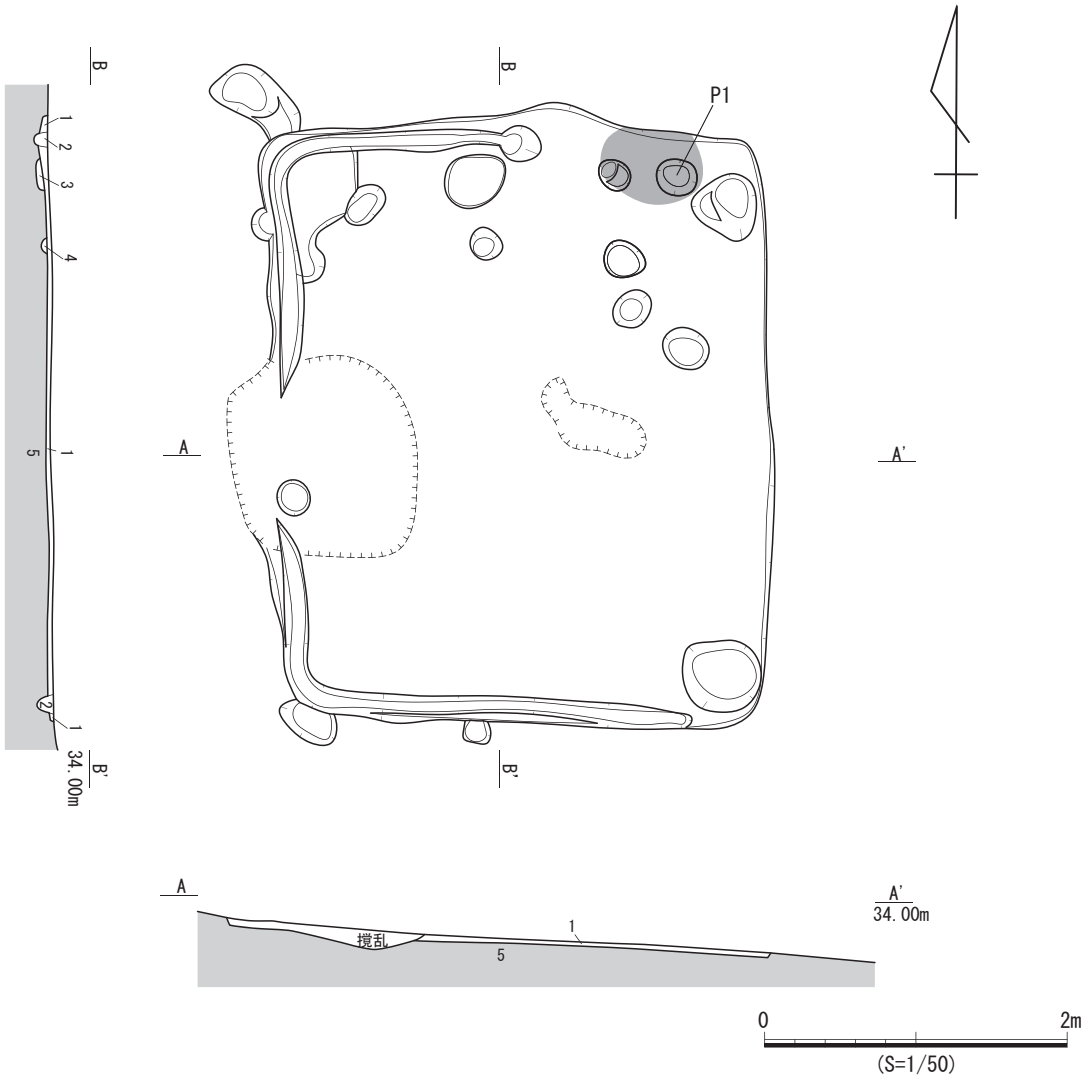
ＳＨ３（図 16） 調査区南西の 51・52 Ｈ・Ｉグリッドで検出した。東西 5.1 ｍ、南北 4.1 ｍの長方形を呈する。後世の攪乱で残りが悪く、検出面からの深さは 10 ㎝ほどである。貼床は確認できなかった。建物の北西隅で、焼土の広がりを確認した。カマドの痕跡と推定されるが、袖部等は残存しなかった。床面では直径 0.3 ｍ前後の小穴を検出したが、主柱穴は見られなかった。カマド周辺で土師器甕が出土したほか、埋土から須恵器杯蓋や碗、土師器甕など奈良時代後半の遺物が出土した。



1　10YR4/1 褐灰色砂質シルト 締りややあり 粘性ややあり
2　10YR4/1 褐灰色砂質シルト 締りややあり 粘性ややあり 地山ブロックをわずかに含む
3　5YR3/2　暗赤褐色シルト 締りなし 粘性なし 2.5YR5/8明赤褐色焼土を多量に含む　炭化物を含む（焼土範囲）
4　10YR4/3 にぶい黄褐色砂質シルト 締りなし 粘性ややあり 炭化粒･焼土粒を含む（焼土範囲）
5　10YR4/6 褐色粘質土 締りややあり 粘性ややあり 拳大の円礫を20%含む（地山）

図 16　ＳＨ３遺構図

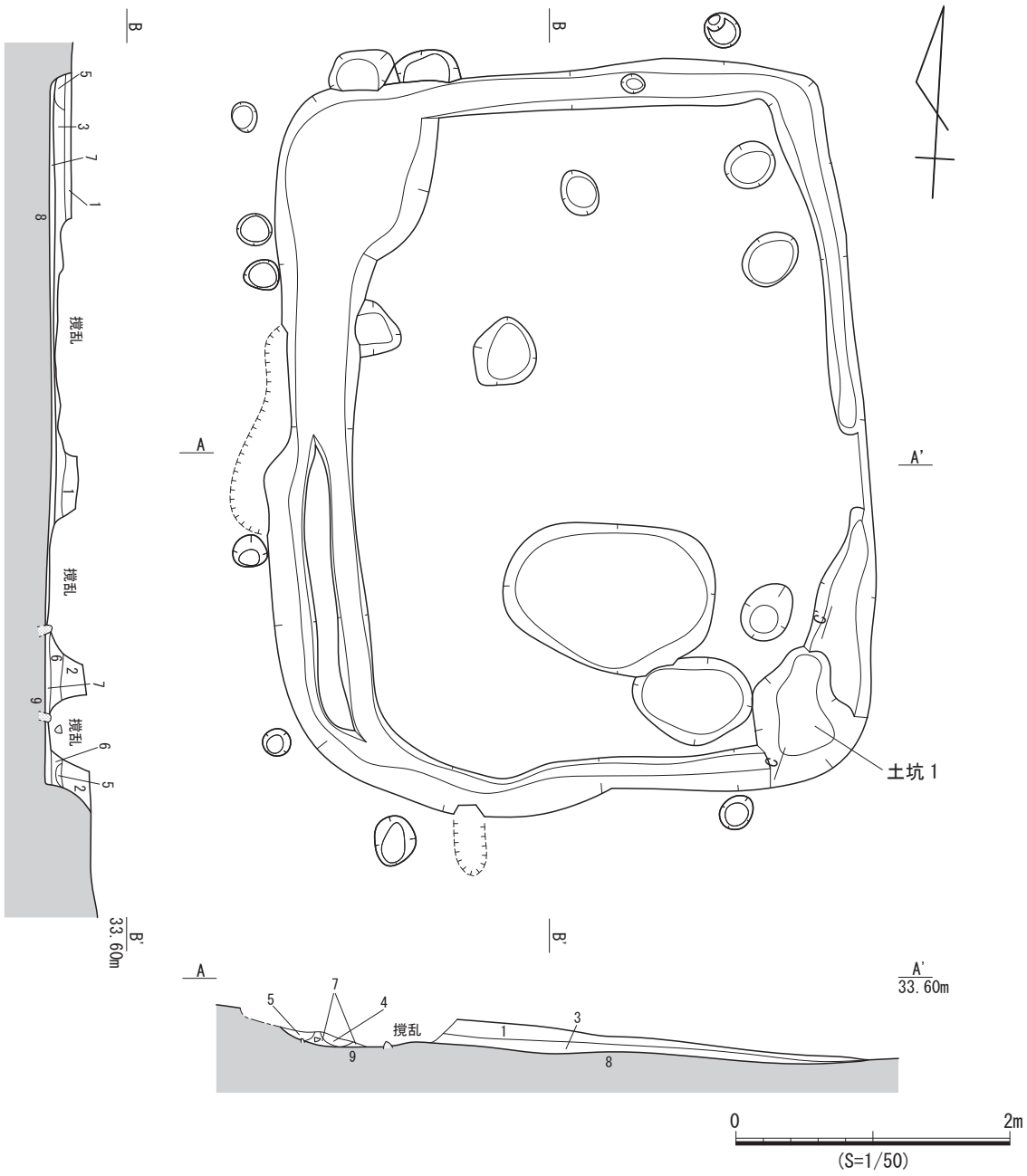
ＳＨ４（図 17） 調査区南側の 47・48 N・0 グリッドで検出した。東西 3.2 m、南北 4.1 mの長方形を呈する。後世の削平で残りが悪く、検出面からの深さは６㎝ほどである。貼床は確認できなかった。建物の北東隅で焼土の広がりを確認した。カマドの痕跡と推定されが、袖部等は残存しなかった。壁周溝は東側を除く３辺で確認した。溝幅は 0.1 m、深さ約 10 ㎝である。床面上で複数の小穴を確認したが、主柱穴と判断できるものはなかった。Ｐ１から奈良時代後半の須恵器碗が出土した。



1　10YR3/4　暗褐色砂質シルト　締まりややあり　粘性ややあり　炭化物を含む
2　10YR4/2　灰黄褐色砂質シルト　締まりややあり　粘性なし　地山ブロックをわずかに含む（壁周溝）
3　10YR3/2　黒褐色砂質シルト　締まりややあり　粘性ややあり　地山ブロックをわずかに含む　拳大の円礫を30%含む
4　10YR3/2　黒褐色砂質シルト　締まりややあり　粘性ややあり　炭化粒･焼土粒を含む
5　10YR4/6　褐色粘質土　締まりややあり　粘性ややあり　（地山）

図 17　ＳＨ４遺構図

ＳＨ５（図 18、19） 調査区南東の 48・49 P・Q グリッドで検出した。東西 4.4 m、南北 5.3 mの長方形を呈する。東半分は後世の削平を受ける。検出面からの深さは、残りが良い西側で約 20 cmである。床面のほぼ全面で貼床を確認した。貼床の厚さは 5 cmほどである。壁周溝は幅約 0.1 m、深さ 10 cmで、ほぼ全周する。床面上に複数の小穴があるが、主柱穴と判断できるものはなかった。南東隅で壁周溝と重複する土坑 1 を確認した。奈良時代後半の土師器甕や須恵器杯類などがまとまって出土した。



1　10YR3/3 暗褐色砂質シルト 締まりややあり　粘性ややあり　地山ブロックをわずかに含む　炭化物を含む
2　10YR3/3 暗褐色砂質シルト 締まりややあり　粘性ややあり　地山ブロックを30%含む　炭化粒･焼土粒を含む
3　10YR4/3 にぶい黄褐色砂質シルト 締まりややあり　粘性ややあり　地山ブロックをわずかに含む　(貼床)
4　7.5YR4/3 褐色砂質シルト　締まりあり　粘性ややあり　地山ブロックをわずかに含む　2.5YR5/8明赤褐色焼土をわずかに含む　(壁周溝)
5　10YR4/2 灰黄褐色砂質シルト　締まりあり　粘性ややあり　地山ブロックを30%含む　(壁周溝)
6　7.5YR4/4 褐色砂質シルト　締まりあり　粘性あり　2.5YR5/8明赤褐色焼土を多量に含む
7　10YR5/6 黄褐色粘質シルト　締まり強い　粘性強い　径1～2cm以下の円礫をわずかに含む　(貼床)
8　10YR4/6 褐色粘質土　締まりややあり 粘性ややあり (地山)
9　10YR4/6 褐色粘質土　締まりややあり 粘性ややあり　拳大の円礫を20%含む　(地山)

図 18　ＳＨ５遺構図

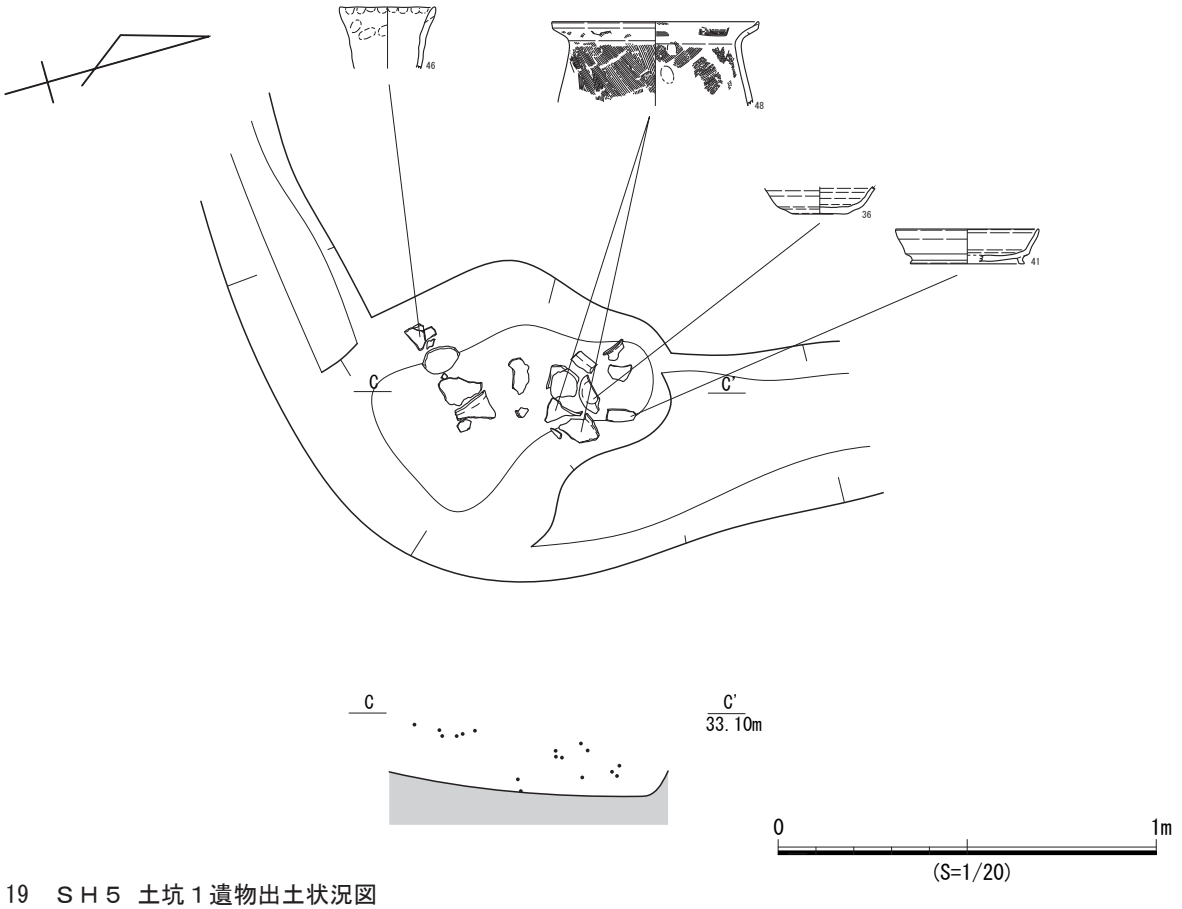
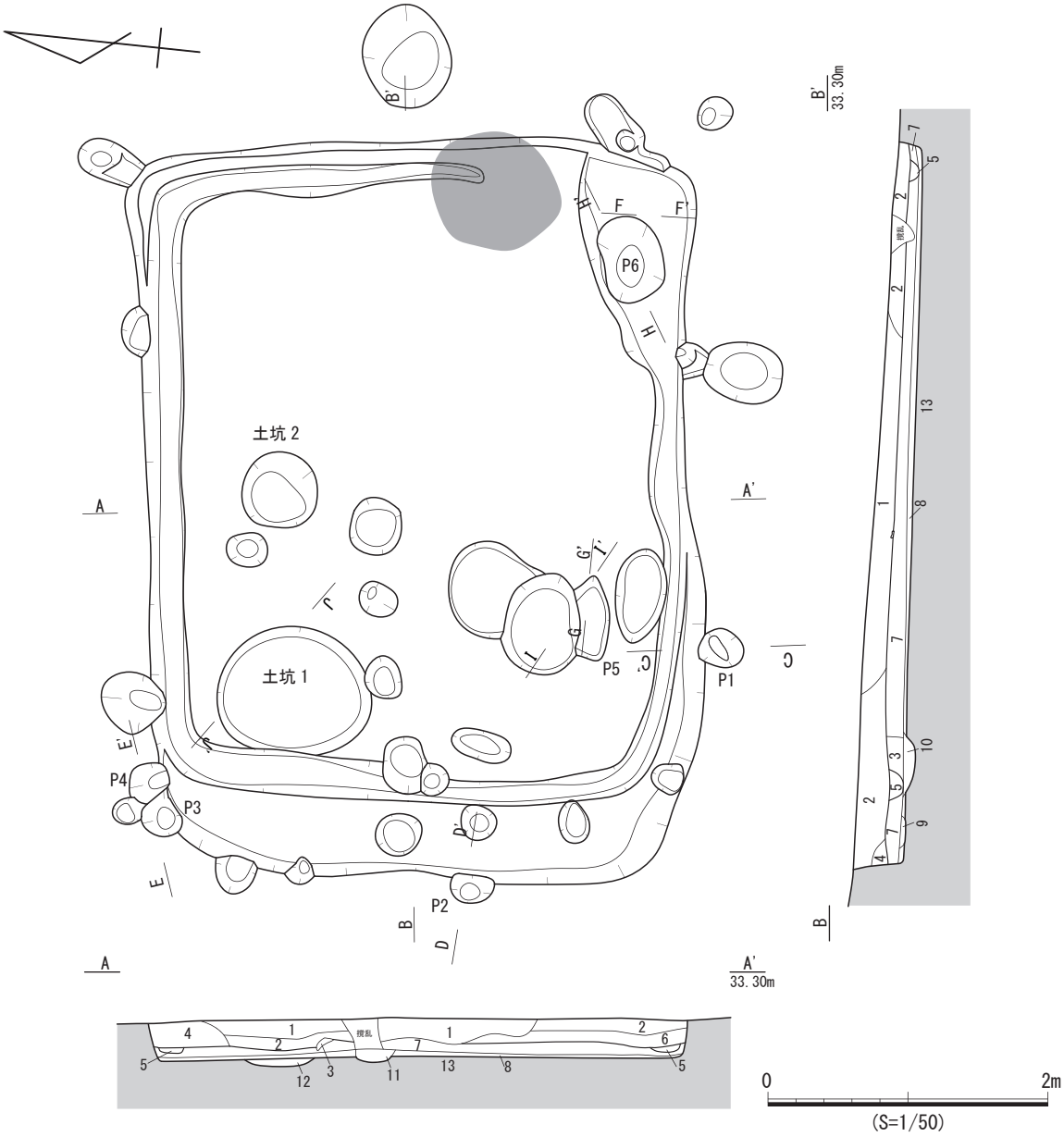


図 19　ＳＨ５ 土坑１遺物出土状況図

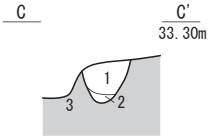
ＳＨ６（図 20、21） 調査区南東の 49・50 Q～S グリッドで検出した。東西 5.2 m、南北 3.9 mの長方形を呈する。検出面からの深さは約 25 ㎝で、壁面はほぼ垂直に立ち上がる。遺構底面に、黄褐色もしくは褐色土を入れ貼床を構築し、床面は強く締め固められていた。貼床の厚さは約 5 ㎝である。壁周溝は幅約 0.2 m、深さ 0.1 ㎝で、建物内をほぼ全周する。北辺中央で焼土の広がりを確認した。カマドの痕跡と推定されるが、袖部等は残存しなかった。東辺と南辺で壁面を切り込む柱穴（Ｐ１～Ｐ４）が確認できたが、柱の間隔が疎らであるため、建物に伴うかは不明である。

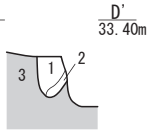
土坑１から土師器杯が出土したほか、Ｐ５からほぼ完形の須恵器無台杯が出土した。建物の北東隅では須恵器長頸瓶が出土した。また、土坑１の近くの床面上では、鉄鏃が出土した。出土遺物は奈良時代後半の遺物が中心である。

ＳＨ７（図 22） 調査区南東の 48 S･T グリッドで検出した。東西 3.4 m、南北３mの長方形を呈する。検出面からの深さは約 20 ㎝である。建物の南東寄りの壁際で焼土の広がりを確認した。袖部は残存しなかったが、カマドの痕跡と推定される。壁際で一部途切れる箇所があるが、壁面に沿って打ち込まれた小穴（Ｐ１～Ｐ８）を確認した。小穴はいずれも直径 10 ㎝前後で、１～1.2 m前後の間隔をおいて打ち込まれていた。大きさから建物の土壁を支持する芯材の可能性がある。埋土から、奈良時代後半の須恵器杯蓋などが出土した。



1　10YR3/2　黒褐色砂質シルト　締まりあり　粘性ややあり　地山ブロックを30%含む
2　10YR4/2　灰黄褐色砂質シルト　締まりややあり　粘性ややあり　地山ブロックを30%含む
3　10YR4/3　にぶい黄褐色砂質シルト　締まりややあり　粘性なし　地山ブロックをわずかに含む　2.5YR5/8明赤褐色焼土をわずかに含む
4　10YR3/4　暗褐色砂質シルト　締まりややあり　粘性ややあり　径1～2cm以下の円礫をわずかに含む
5　10YR3/3　暗褐色砂質シルト　締まりややあり　粘性あり　地山ブロックをわずかに含む（壁溝）
6　10YR4/4　褐色砂質シルト　締まりややあり　粘性あり　地山ブロックを30%含む
7　10YR4/3　にぶい黄褐色砂質シルト　締まりあり　粘性あり　径1～2cm以下の円礫をわずかに含む（貼床）
8　7.5YR6/6　橙色粘質シルト　締まり強い　粘性強い　径1～2cm以下の円礫をわずかに含む（貼床）
9　10YR4/3　にぶい黄褐色砂質シルト　締まりややあり　粘性なし　地山ブロックをわずかに含む　炭化物を含む
10　10YR3/3　暗褐色砂質シルト　締まりややあり　粘性ややあり　2.5YR5/8明赤褐色焼土をわずかに含む
11　10YR4/1　褐灰色砂質シルト　締まりややあり　粘性ややあり　地山ブロックを多量に含む　2.5YR5/8明赤褐色焼土をわずかに含む
12　7.5YR6/3　にぶい褐色砂質シルト　締まりなし　粘性なし　地山ブロックを50%含む　2.5YR5/8明赤褐色焼土を多量に含む
13　10YR4/6　褐色粘質土　締まりややあり　粘性ややあり（地山）





P1

1　10YR3/2　黒褐色砂質シルト　締まりややあり　粘性ややあり
　地山ブロックを30%含む
2　10YR4/4　褐色砂質シルト　締まりあり　粘性ややあり
　地山ブロックを多量に含む
3　10YR4/6　褐色粘質土　締まりややあり　粘性ややあり（地山）

P2

1　10YR3/2　黒褐色砂質シルト　締まりややあり　粘性ややあり
　10YR8/1　灰白色砂ブロックを含む
2　10YR4/3　にぶい黄褐色砂質シルト　締まりあり　粘性ややあり
　地山ブロックを50%含む
3　10YR4/6　褐色粘質土　締まりややあり　粘性ややあり（地山）

図 20　ＳＨ６遺構図

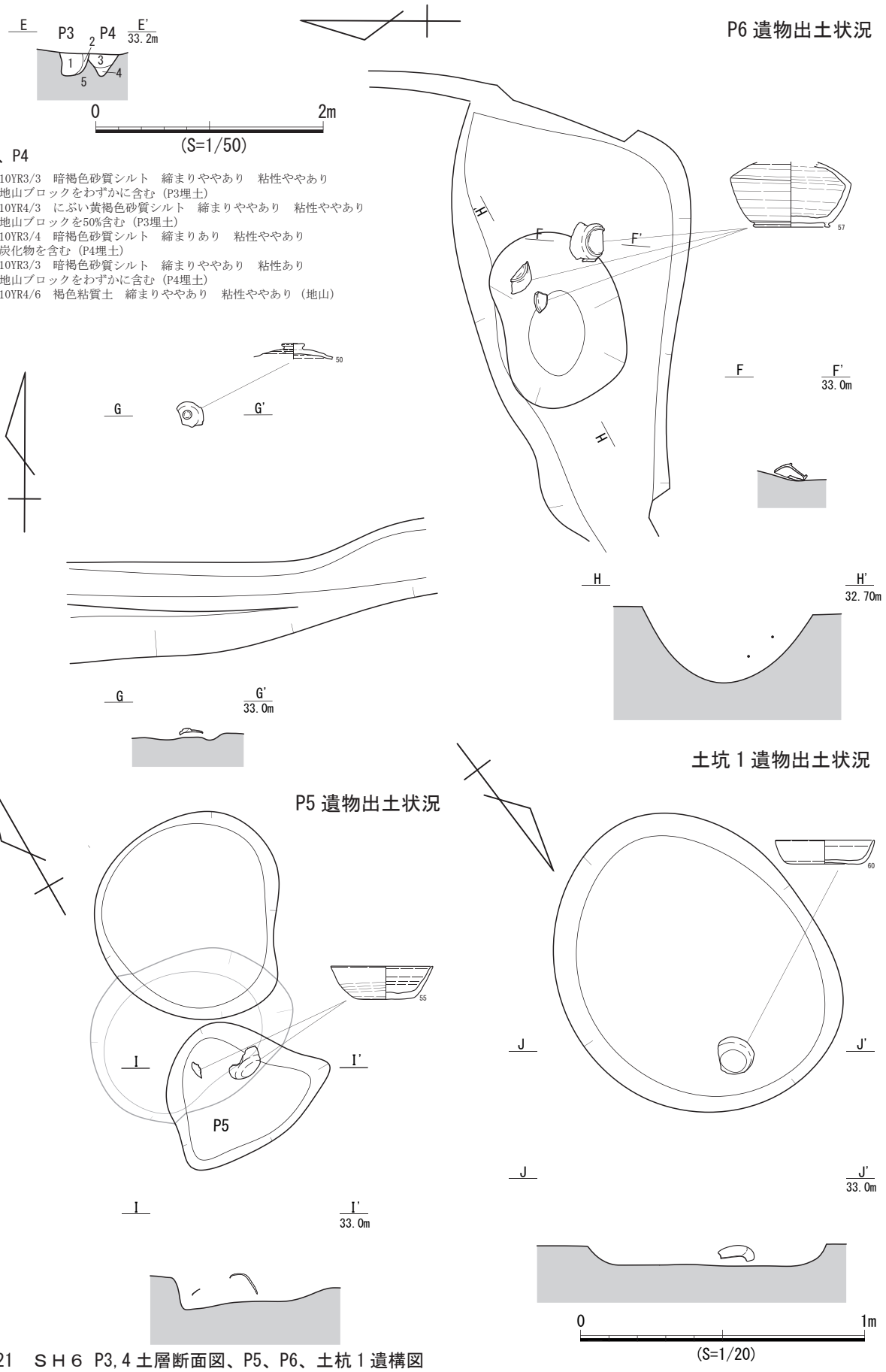


図 21　ＳＨ６ P3,4 土層断面図、P5、P6、土杭 1 遺構図

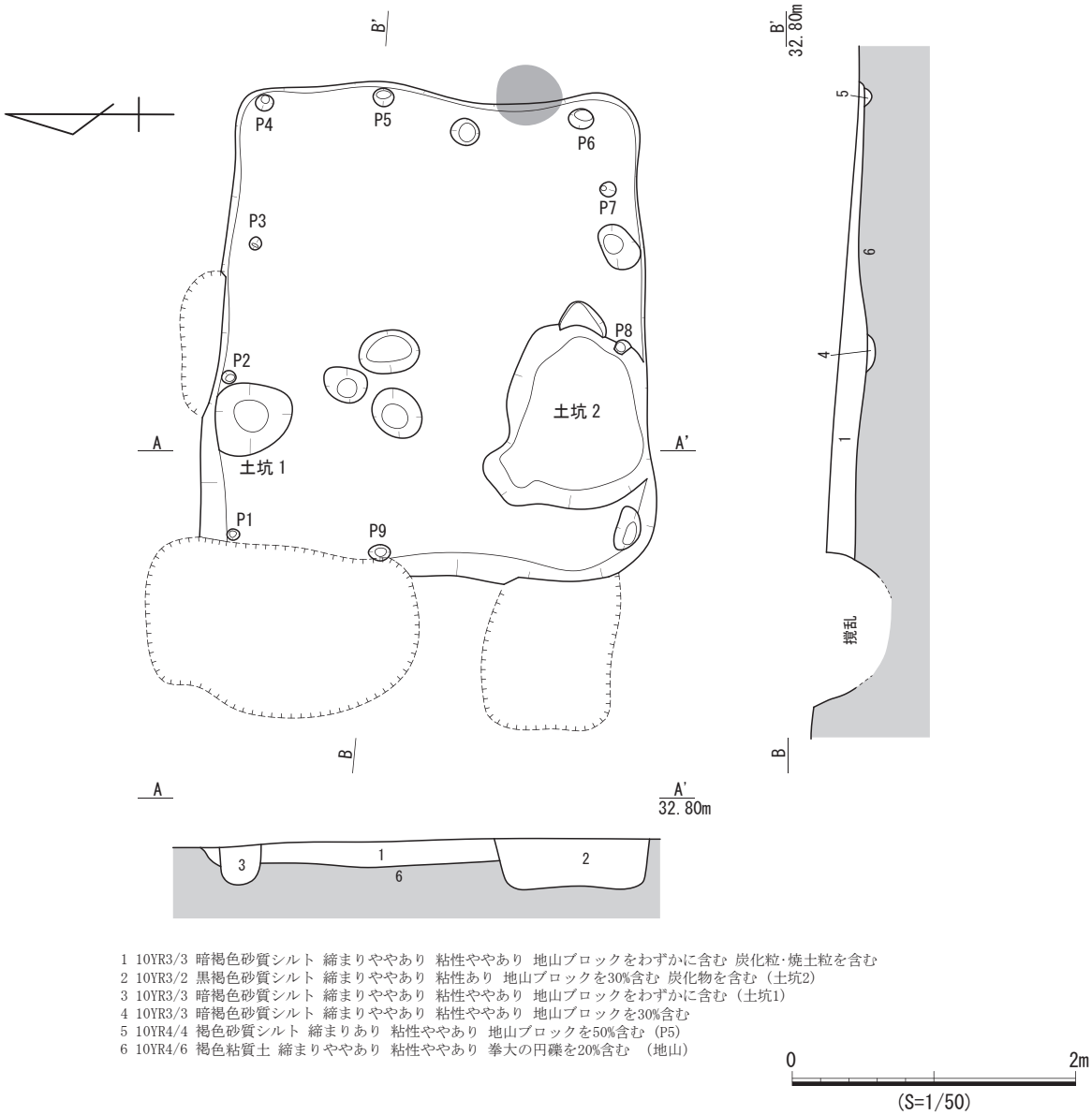
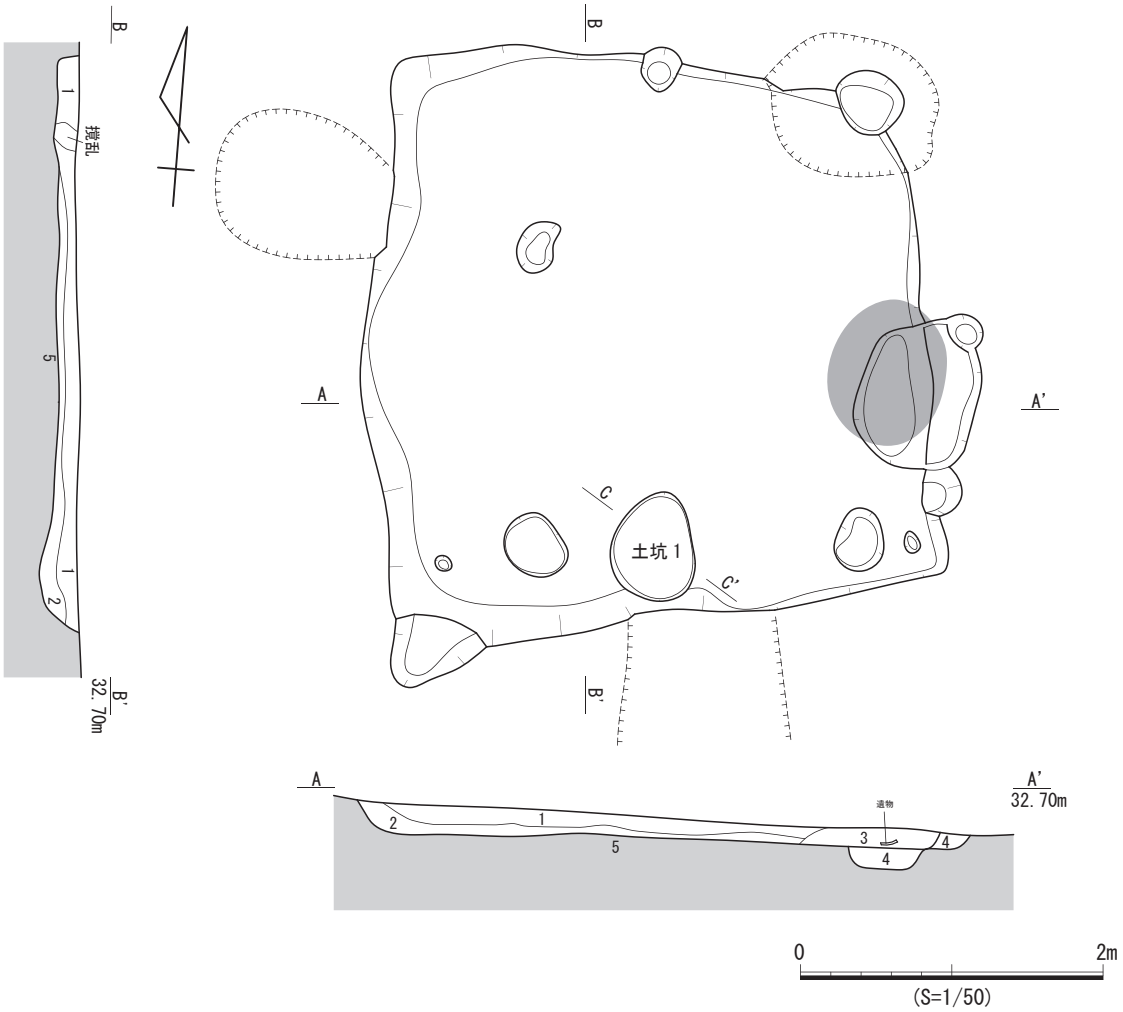


図 22　ＳＨ７遺構図

ＳＨ８（図 23） 調査区南東の 48・49 S・T グリッドで検出した。東西 3.7 m、南北 3.9 mの歪な方形を呈する。検出面からの深さは約 20 ㎝である。東辺のやや南寄りで焼土の広がりを確認した。カマドの痕跡と推定されるが、袖部等は残存しなかった。床面のほぼ全体で焼土の薄い広がりを確認した。主柱穴など建物に付属する柱穴は確認できなかった。埋土から須恵器杯蓋や土師器の小片が出土したほか、土坑１から、奈良時代の土師器甕が出土した。

ＳＨ９（図 24） 調査区南東の 50・51 V・W グリッドで検出した。東西 3.5 m以上、南北 3.2 mの歪な長方形を呈する。検出面からの深さは約 10 ㎝である。建物の北東隅でカマドを検出した。残存状況は良くないが、焼土の広がりが見られたほか、カマド袖部の一部を確認した。土坑１は、位置的に貯蔵穴の可能性があるが、出土遺物はなかった。埋土から土師器甕が出土した。



1　10YR3/3　暗褐色砂質シルト　締まりややあり　粘性ややあり　地山ブロックをわずかに含む
2　10YR4/3　にぶい黄褐色砂質シルト　締まりややあり　粘性ややあり　地山ブロックを30%含む
3　7.5YR4/3　褐色砂質シルト　締まりややあり　粘性ややあり　2.5YR5/8明赤褐色焼土をわずかに含む
4　10YR3/2　黒褐色粘質シルト　締まりあり　粘性あり　7.5YR7/6橙色砂質土ブロックを含む
5　10YR4/6　褐色粘質土　締まりややあり　粘性ややあり（地山）

土坑 1 遺物出土状況

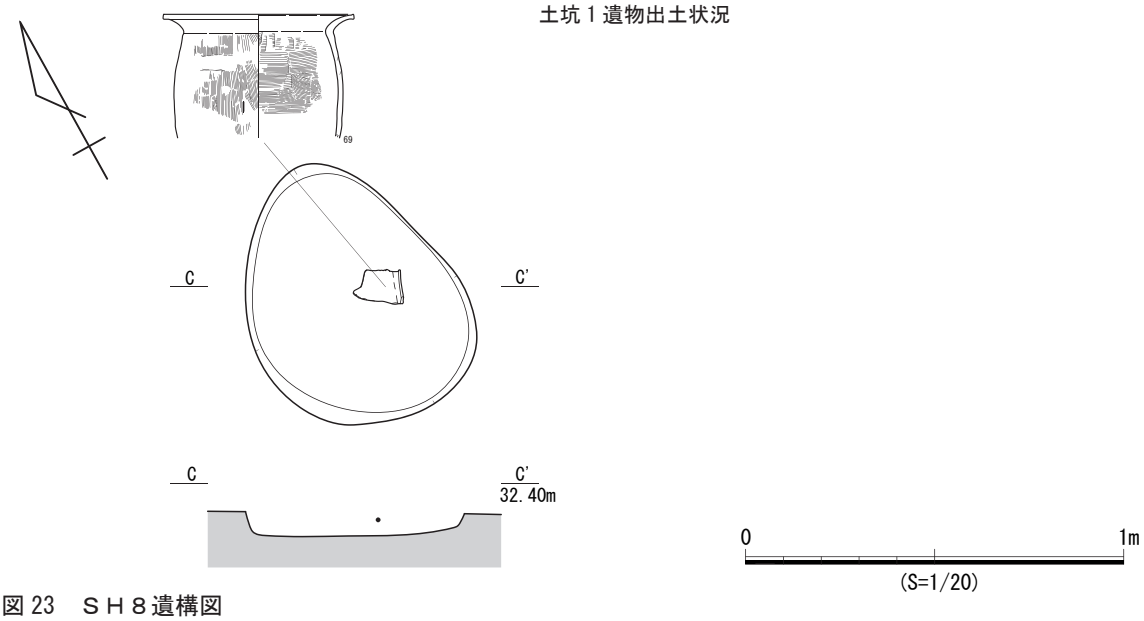
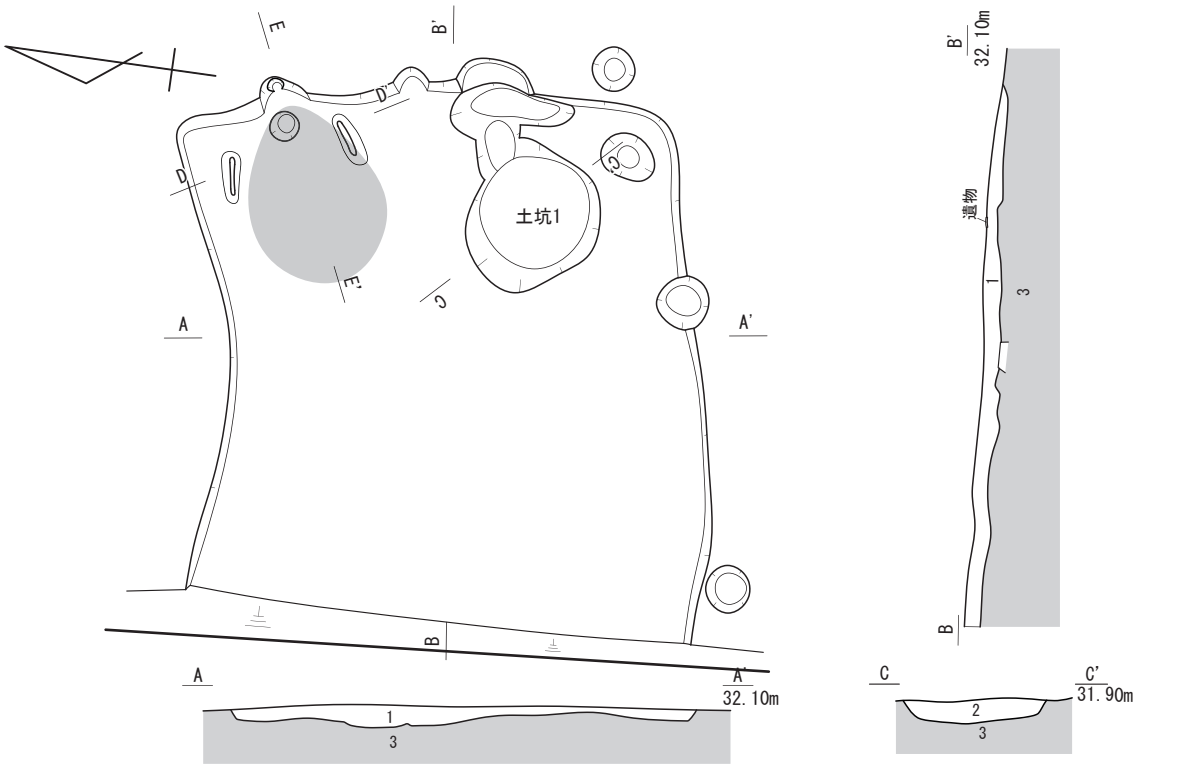


図 23　ＳＨ８遺構図

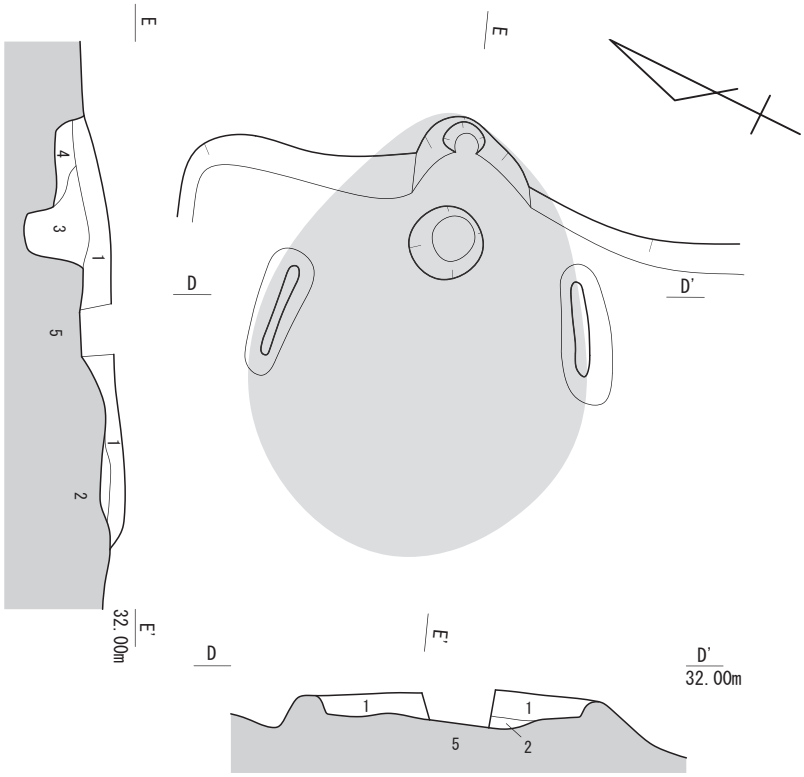


1 10YR3/3　暗褐色砂質シルト 締りあり　粘性あり　10YR4/6　地山ブロックを30%含む
2.5YR5/8 明赤褐色焼土をわずかに含む　炭化物を含む。

2 10YR4/4　褐色砂質シルト 締りなし　粘性あり

3 10YR4/6　褐色粘質土 締まりややあり　粘性ややあり　(地山)

SH9 カマド



1 10YR4/3　にぶい黄褐色砂質シルト 締りややあり　粘性なし　2.5YR5/8　明赤褐色焼土を多量に含む　炭化物を含む

2 10YR5/6　黄褐色粘質シルト 締りややあり 粘性あり 地山ブロックを多量に含む

3　7.5YR4/2 灰褐色砂質シルト 締りややあり 粘性あり 地山ブロックを30%含む
2.5YR5/8 明赤褐色焼土をわずかに含む

4 10YR2/2　黒褐色砂質シルト 締りややあり 粘性なし 2.5YR5/8 明赤褐色焼土をわずかに含む　炭化粒を含む

5 10YR4/6　褐色粘質土 締りややあり　粘性ややあり (地山)

図 24　ＳＨ９遺構図

ＳＨ10（図25） 調査区南東の48 T･Uグリッドで検出した。東西5.0ｍ、南北3.7ｍの長方形を呈する。検出面からの深さは約20㎝である。砂礫混じりの地山面に黄褐色土を入れ貼床を構築している。壁周溝は北辺と東辺で確認した。溝幅は約0.2ｍ、深さ約5㎝である。北壁の近くで検出した土坑１は、長さ0.7ｍで円形を呈し、断面はすり鉢状を呈している。埋土に焼土粒が多く混じっていた。建物の北辺では、壁面を切り込む柱穴（P2 ～ P5）を確認した。いずれも直径20 ～ 30㎝の規模である。壁柱穴の可能性がある。土坑２から、土師器甕が出土した。埋土から奈良時代後半の須恵器有台杯が出土した。

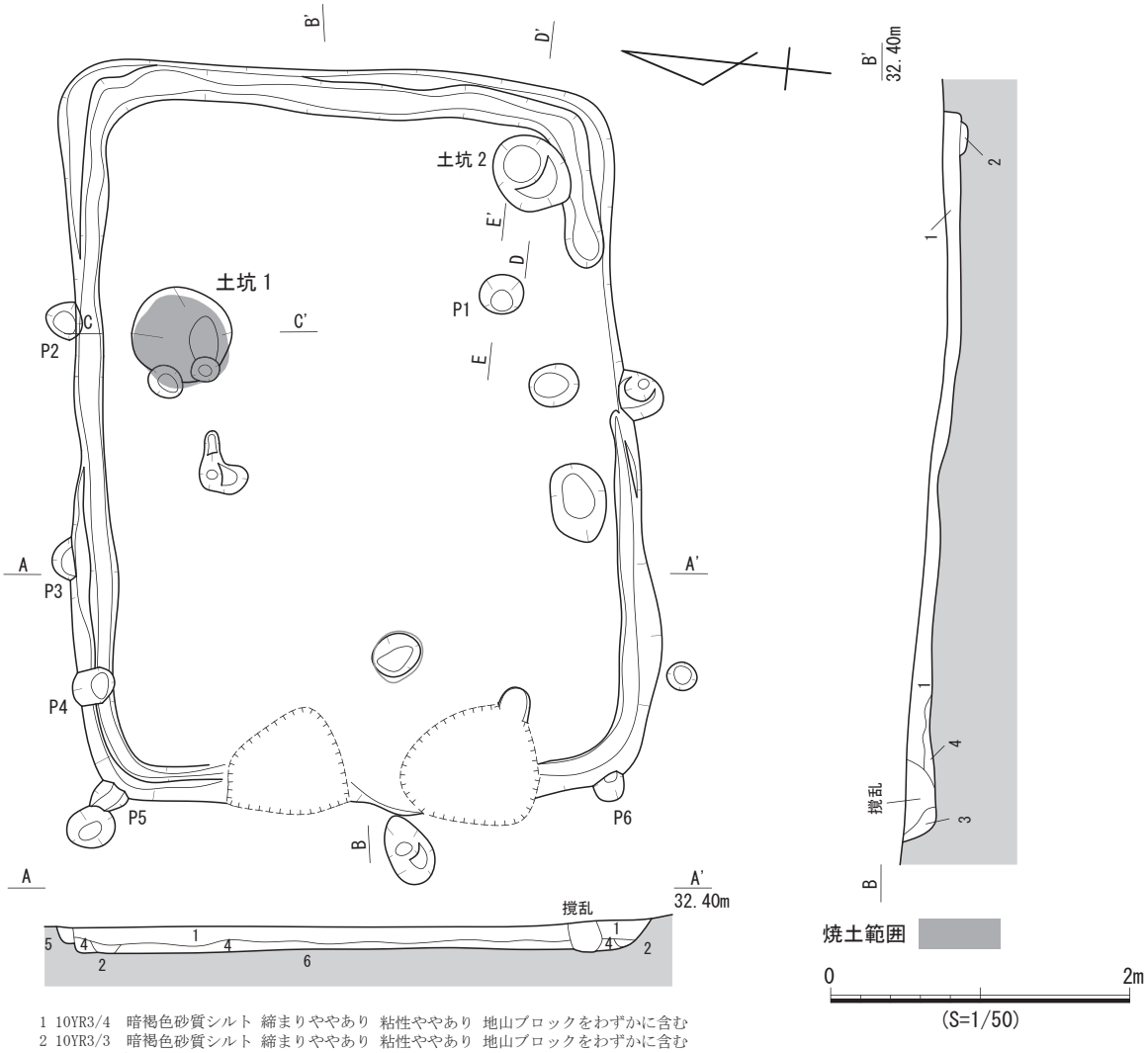
ＳＨ11（図26） 調査区南東の46・47 T・Uグリッドで検出した。東西1.5ｍ以上、南北2.5ｍの長方形を呈すると推定される。検出面からの深さは約24㎝である。西辺の中央部分はテラス状に外側へやや張り出す。壁周溝は、溝幅が約0.2ｍ、深さ約10㎝の規模である。建物の外周部分では、竪穴建物を囲む柱穴（P1 ～ P4）を確認した。柱穴の規模は直径0.2 ～ 0.3ｍである。柱穴の間隔がやや不揃いであるが、竪穴外柱穴の可能性がある。埋土から、奈良時代後半の須恵器有台杯や土師器甕が出土した。

ＳＨ12（図27 ～ 29） 調査区南東の44・45 Q・Rグリッドで検出した。２棟が重複する。上層で検出した建物をＳＨ12a、下層検出の建物をＳＨ12bとする。

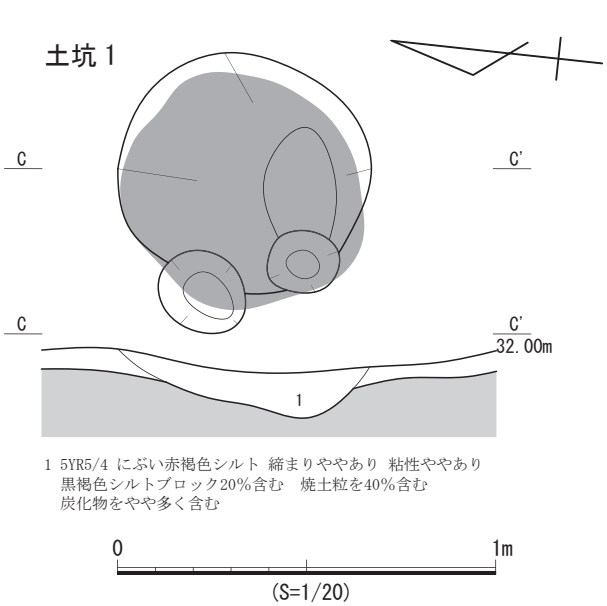
ＳＨ12aは、東西4.5ｍ、南北5.6ｍの長方形を呈する。検出面からの深さは約20㎝である。遺構底面には、にぶい橙色土を入れ貼床を構築している。北辺のやや東寄りでカマドを検出した。袖部はにぶい黄褐色土で構築している。右袖部の残存状況は悪いが、左袖部は比較的良好に残存する。建物北側では、直径約１ｍの円形土坑（土坑1）を検出し、埋土に焼土を多く含んでいた。建物の中央付近で検出した柱穴（P1 ～ P3）は、やや不揃いであるが、主柱穴の可能性がある。いずれも直径0.3ｍ前後の大きさである。建物の北辺で検出した柱穴（P4 ～ P8）や南壁や東壁付近で検出した柱穴（P9 ～ P12）、いずれも壁面を切り込んで構築されており、壁柱穴の可能性がある。柱穴はいずれも直径0.3 ～ 0.4ｍの大きさである。埋土から土師器甕や土師器杯、須恵器杯蓋など奈良時代後半の遺物が出土した。

ＳＨ12 bは、東西3.4ｍ、南北2.7ｍの長方形を呈する。残存状況が悪く、検出面からの深さは5㎝程度である。にぶい黄褐色土を底面に入れて貼床を構築している。壁周溝は西辺と南辺で残存する。溝幅が約20㎝、深さは約4㎝の規模である。主柱穴など建物に伴う柱穴は一切確認できなかった。須恵器や土師器の小片が出土したが、図示できる遺物はなかった。

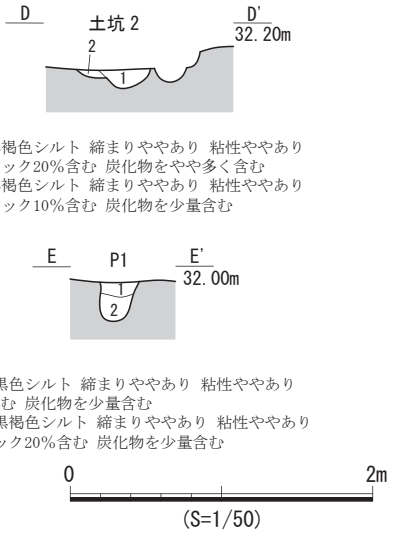
ＳＨ13（図30） 調査区東の37・38 S・Tグリッドで検出した。南北2.9ｍ、東西1.6ｍ以上の方形を呈する。東半分は調査区外で、検出面からの深さは約15㎝である。遺構底面に褐色土を入れて貼床を構築している。土層断面で壁周溝らしき土層が見られたが、平面上で検出することができなかった。床面のほぼ中央で重複する土坑を検出した。埋土から、土師器の把手片が出土した。



1 10YR3/4　暗褐色砂質シルト 締まりややあり 粘性ややあり 地山ブロックをわずかに含む
2 10YR3/3　暗褐色砂質シルト 締まりややあり 粘性ややあり 地山ブロックをわずかに含む
炭化物を含む （壁周溝）
3 10YR5/3　にぶい黄褐色砂質シルト 締まりなし 粘性ややあり 地山ブロックを50%含む
4 10YR5/6　黄褐色粘質シルト 締まり強い　粘性強い　径1～2㎝以下の円礫をわずかに含む（貼床）
5 10YR3/2　黒褐色砂質シルト 締まりややあり 粘性ややあり 地山ブロックをわずかに含む
6 10YR4/6　褐色粘質土 締まりややあり　粘性ややあり　拳大の円礫を20%含む（地山）



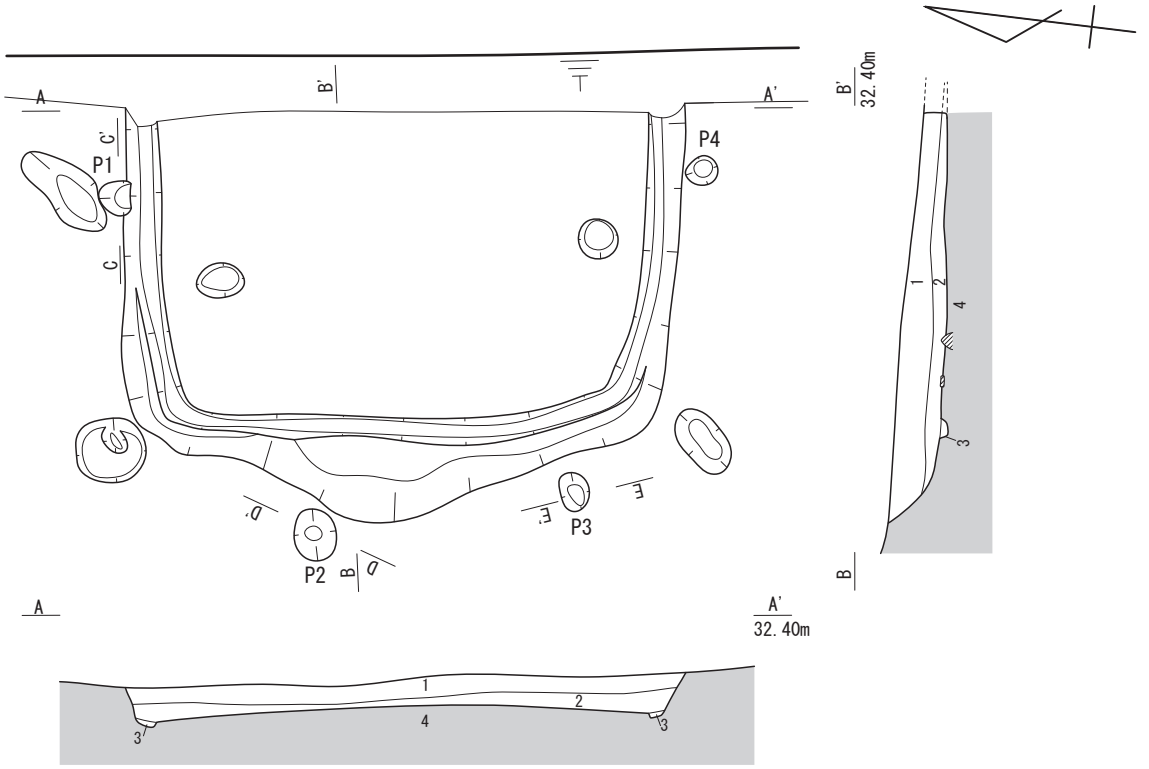
1 5YR5/4 にぶい赤褐色シルト 締まりややあり 粘性ややあり
黒褐色シルトブロック20%含む　焼土粒を40%含む
炭化物をやや多く含む



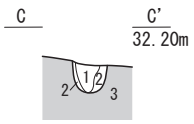
土坑 2
1 10YR3/2 黒褐色シルト 締まりややあり 粘性ややあり
地山小ブロック20%含む 炭化物をやや多く含む
2 10YR3/2 黒褐色シルト 締まりややあり 粘性ややあり
地山小ブロック10%含む 炭化物を少量含む

P1
1 10YR2/1 黒色シルト 締まりややあり 粘性ややあり
地山5%含む 炭化物を少量含む
2 10YR2/2 黒褐色シルト 締まりややあり 粘性ややあり
地山ブロック20%含む 炭化物を少量含む

図 25　ＳＨ 10 遺構図

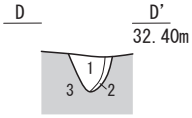


1 10YR3/2 黒褐色砂質シルト 締りややあり 粘性あり 地山ブロックをわずかに含む
2 10YR3/3 暗褐色砂質シルト 締りややあり 粘性ややあり 地山ブロックを30%含む
3 10YR3/2 黒褐色砂質シルト 締りあり 粘性あり 地山ブロックを50%含む
径1～2cm以下の円礫をわずかに含む（壁周溝）
4 10YR4/6 褐色粘質土 締りややあり 粘性ややあり 拳大の円礫を20%含む（地山）



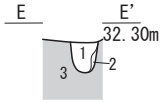
P1

1 10YR3/2 黒褐色砂質シルト 締りややあり 粘性ややあり
地山ブロックをわずかに含む
2 10YR4/3 にぶい黄褐色砂質シルト 締りあり 粘性ややあり
地山ブロックを50%含む。
3 10YR4/6 褐色粘質土 締りややあり 粘性ややあり（地山）



P2

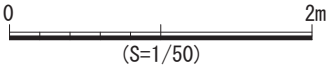
1 10YR3/3 暗褐色砂質シルト 締りややあり 粘性あり
地山ブロックをわずかに含む
2 10YR4/3 にぶい黄褐色砂質シルト 締りややあり
粘性ややあり 地山ブロックを30%含む
3 10YR4/6 褐色粘質土 締りややあり 粘性ややあり（地山）

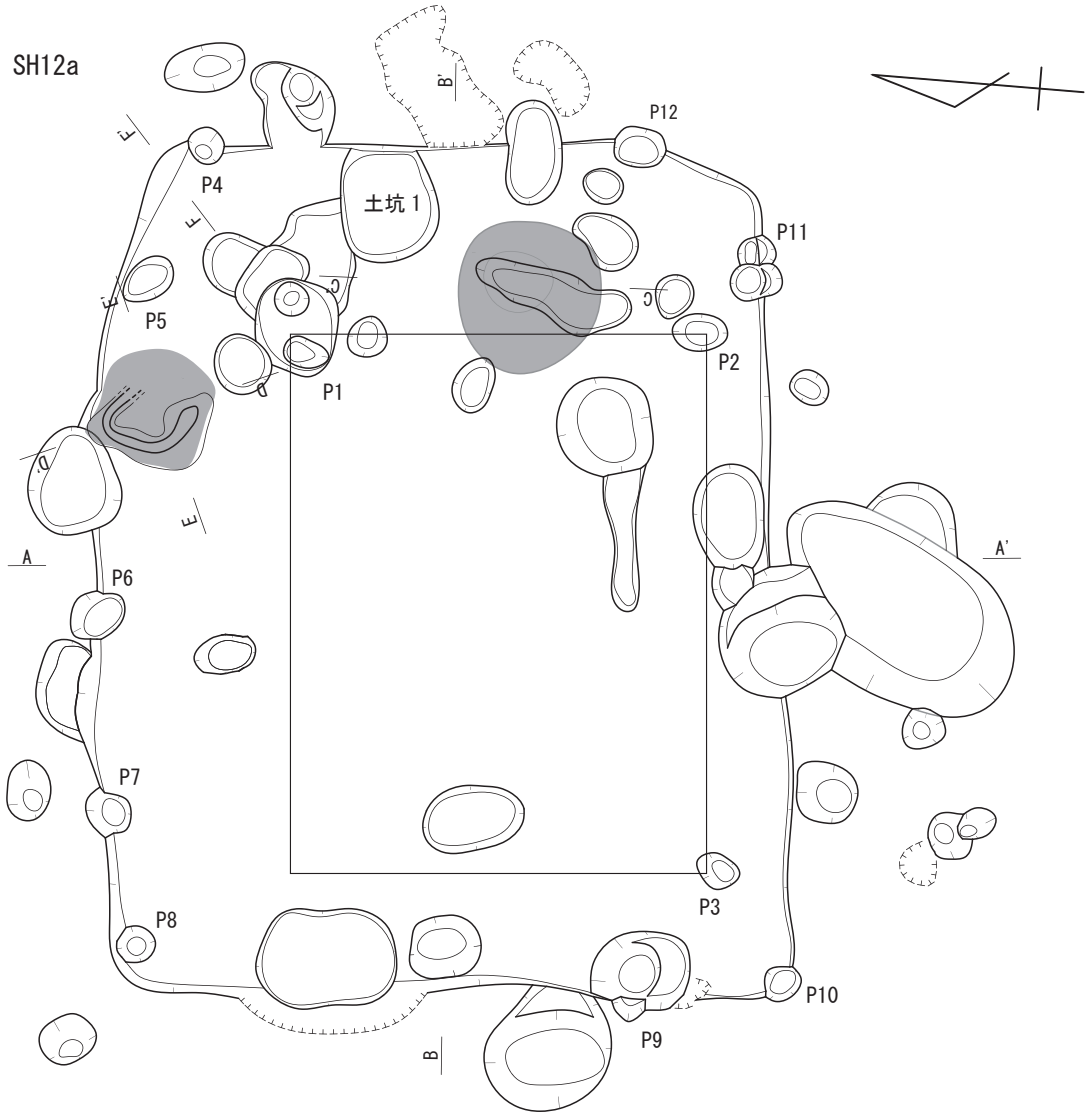


P3

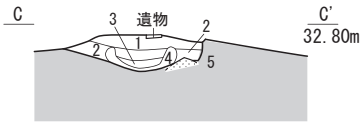
1 10YR3/1 黒褐色砂質シルト 締りややあり 粘性ややあり
地山ブロックをわずかに含む 炭化物を含む
2 10YR4/4 褐色砂質シルト 締りややあり 粘性あり
地山ブロックを50%含む
3 10YR4/6 褐色粘質土 締りややあり 粘性ややあり（地山）

図 26　ＳＨ 11 遺構図





土坑 1

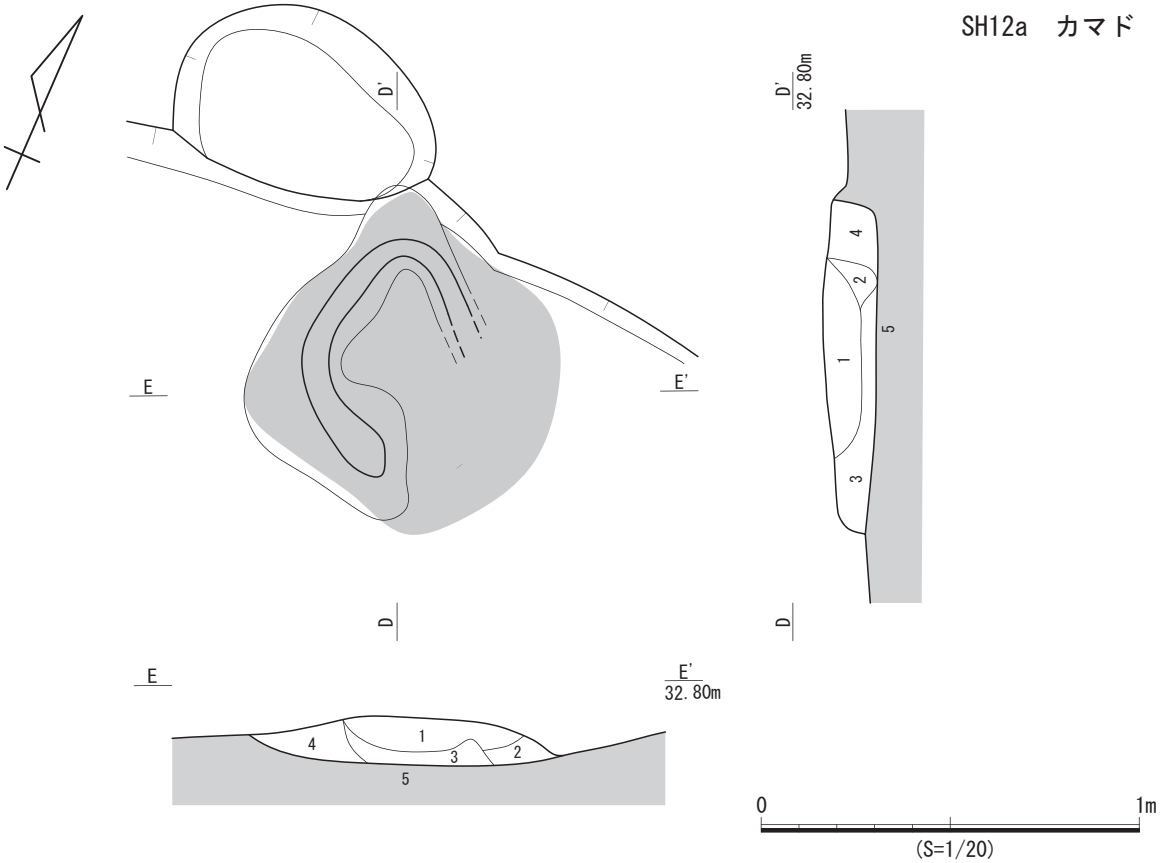


土坑 1

1　7.5YR6/6　橙色砂質シルト　締まりなし　粘性なし　2.5YR5/8明赤褐色焼土を多量に含む
2　7.5YR3/1　黒褐色砂質シルト　締まりややあり　粘性なし　炭化粒･焼土粒を含む
3　10YR5/3　にぶい黄褐色砂質シルト　締まりややあり　粘性なし　炭化粒･焼土粒を含む
4　10YR5/6　黄褐色粘質シルト　締まりあり　粘性あり
5　10YR4/6　褐色粘質土　締まりややあり　粘性ややあり（地山）

0　2m
(S=1/50)

図 27　ＳＨ 12a 遺構図



1　10YR3/2　黒褐色砂質シルト　締まりややあり　粘性ややあり　炭化粒･焼土粒を含む
2　10YR4/2　灰黄褐色砂質シルト　締まりややあり　粘性ややあり　地山ブロックをわずかに含む
3　10YR5/4　にぶい黄褐色砂質シルト　締まりややあり　粘性あり　地山ブロックを30%含む
4　10YR6/4　にぶい黄橙色砂質シルト　締まりややあり　粘性あり
　　地山ブロックをわずかに含む　径1～2cm以下の円礫をわずかに含む
5　10YR4/6　褐色粘質土　締まりややあり　粘性ややあり（地山）

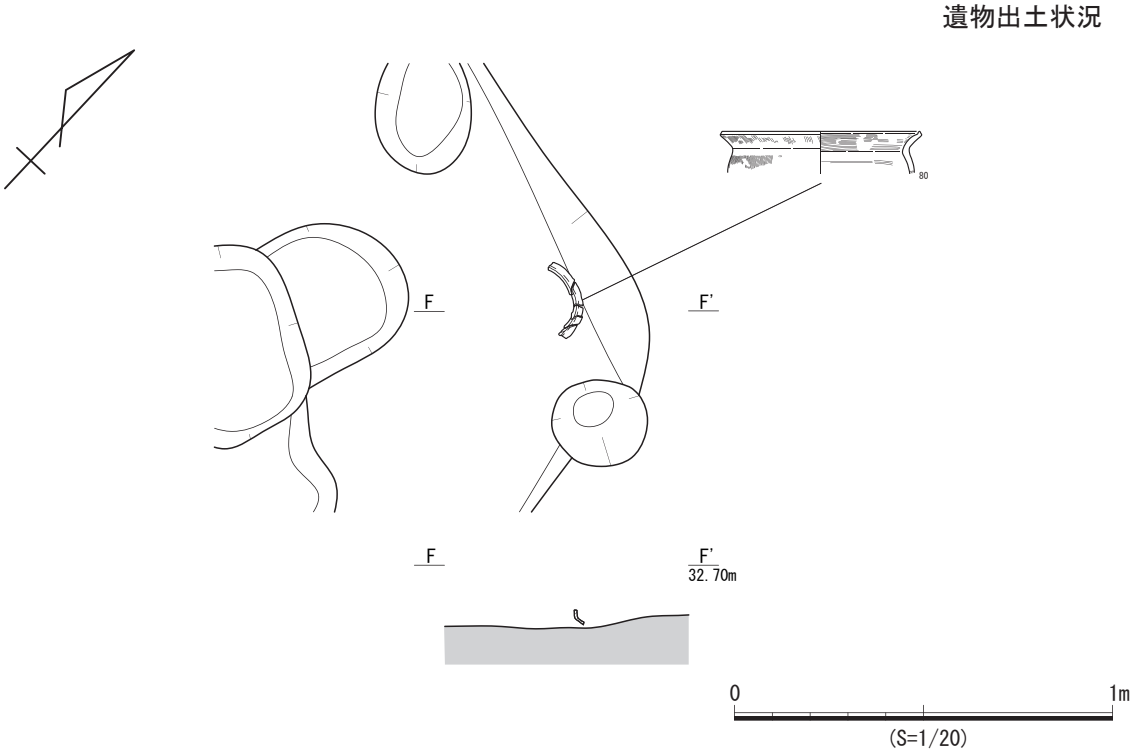
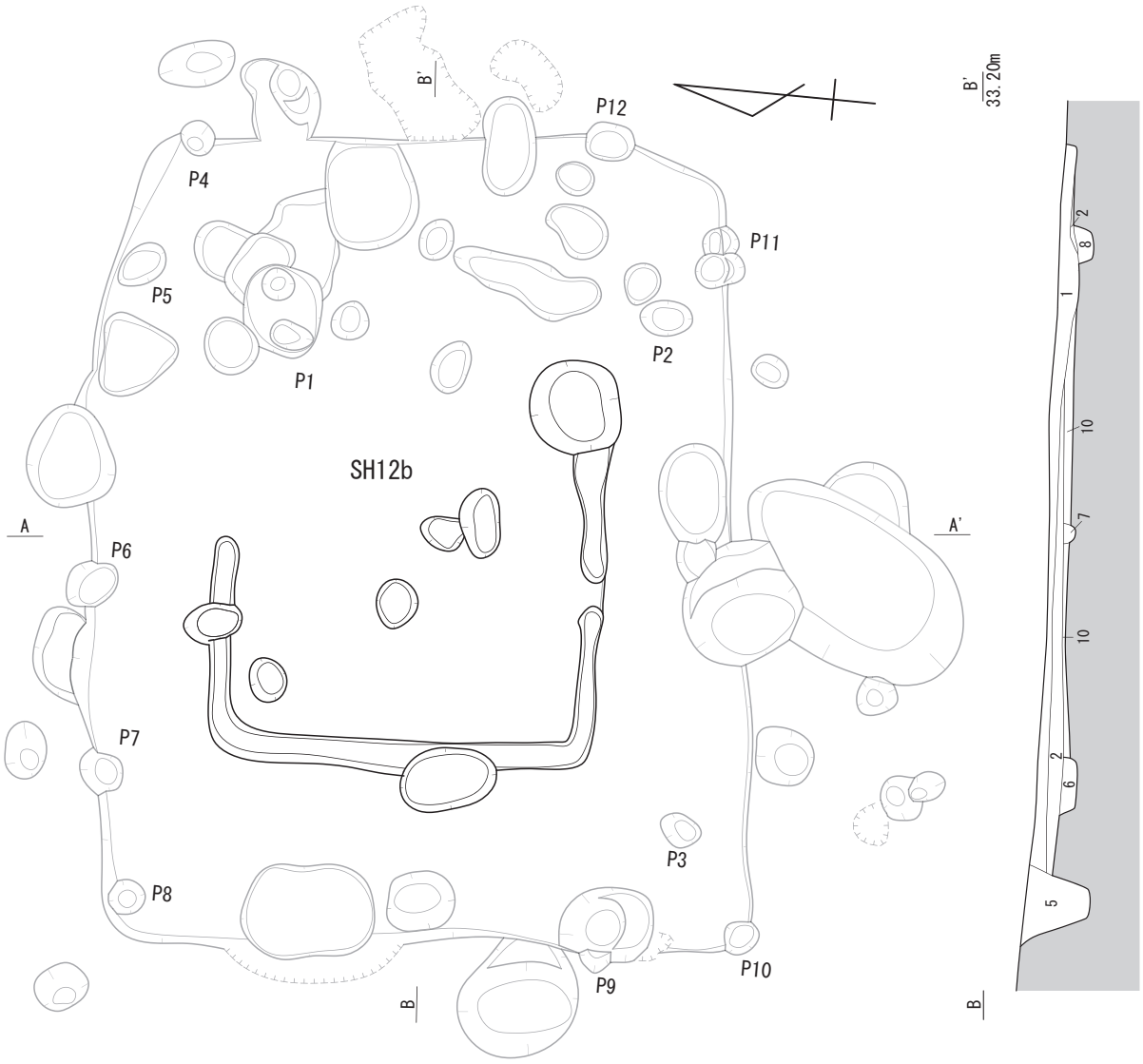


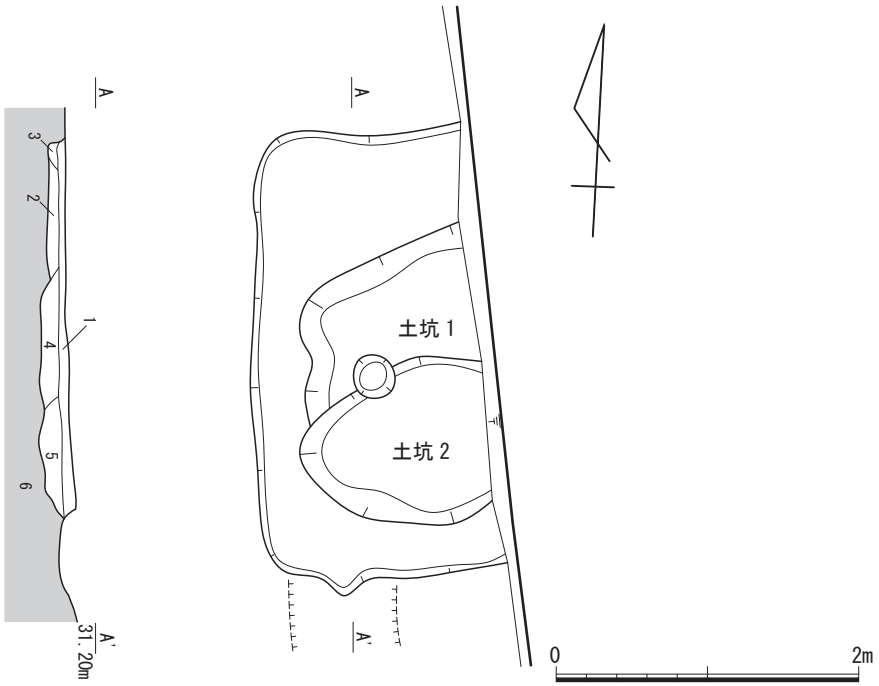
図 28　ＳＨ 12a カマド遺構図、遺物出土状況図



1　10YR3/2　黒褐色砂質シルト　締まりややあり　粘性ややあり　地山ブロックをわずかに含む　炭化物を含む　(SH12a)
2　7.5YR6/4　にぶい橙色粘質シルト　締まり強い　粘性あり　径1～2cm以下の円礫をわずかに含む　2.5YR5/8明赤褐色焼土をわずかに含む　(貼床) (SH12a)
3　10YR3/1　黒褐色砂質シルト　締まりややあり　粘性ややあり　地山ブロックを30%含む
4　7.5YR4/4　褐色砂質シルト　締まりややあり　粘性ややあり　2.5YR5/8明赤褐色焼土をわずかに含む　径1～2cm以下の円礫をわずかに含む
5　10YR3/1　黒褐色砂質シルト　締まりややあり　粘性なし　地山ブロックを30%含む
6　10YR3/1　黒褐色砂質シルト　締まりなし　粘性ややあり　地山ブロックを50%含む　炭化粒･焼土粒を含む
7　10YR3/3　暗褐色砂質シルト　締まりややあり　粘性ややあり　地山ブロックをわずかに含む　炭化粒･焼土粒を含む
8　10YR3/2　黒褐色砂質シルト　締まりややあり　粘性ややあり　地山ブロックを30%含む
9　10YR4/3　にぶい黄褐色砂質シルト　締まりなし　粘性ややあり　地山ブロックを30%含む (壁周溝)　(SH12b)
10　7.5YR7/6　橙色粘質シルト　締まり強い　粘性強い　径1～2cm以下の円礫をわずかに含む (貼床)　(SH12b)
11　10YR4/6　褐色粘質土　締まりややあり　粘性ややあり　(地山)

図 29　ＳＨ 12 ｂ遺構図

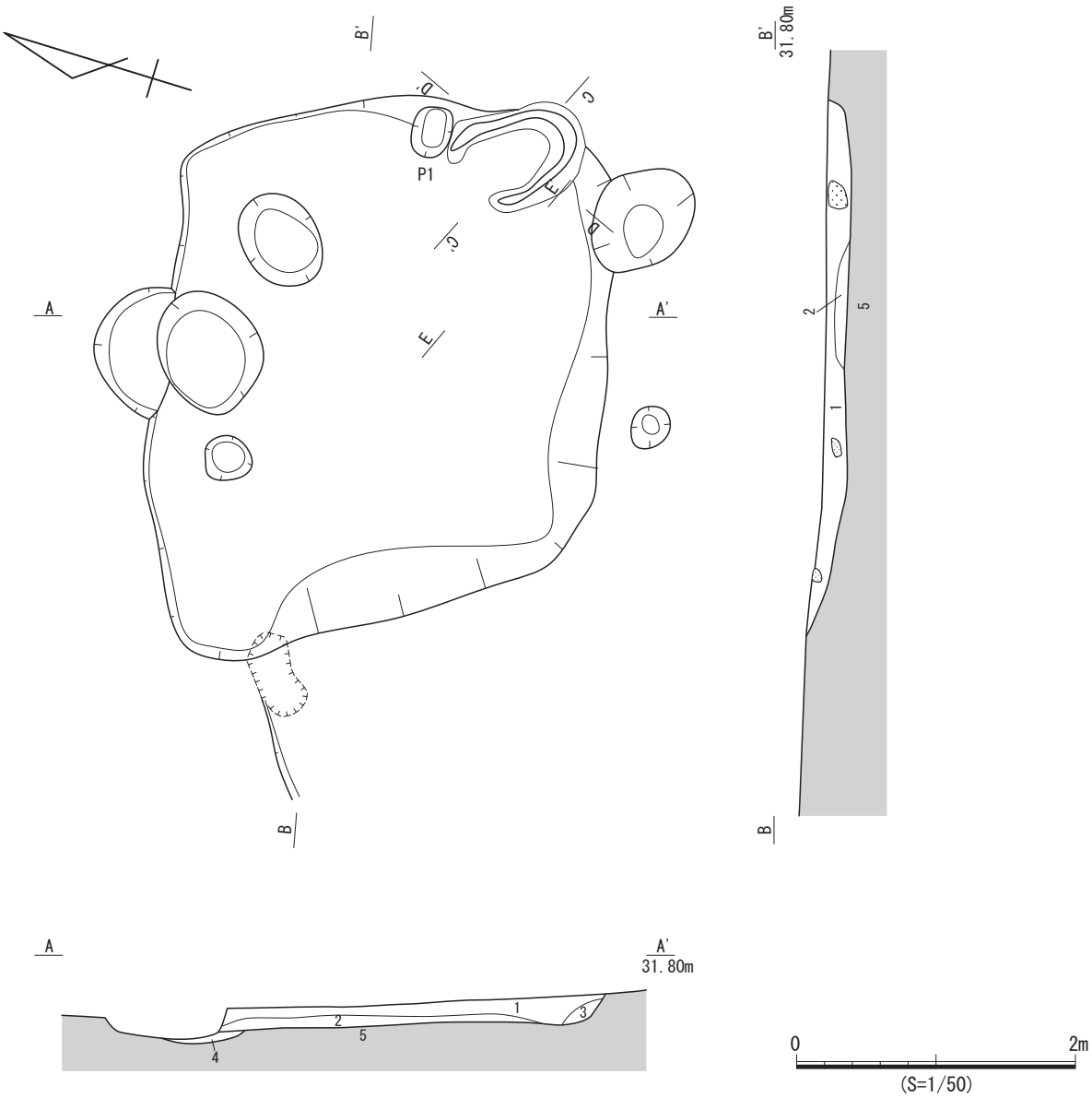
0　2m
(S=1/50)



1　10YR3/1　黒褐色シルト 締まりややあり 粘性ややあり 地山ブロック・小ブロック10%含む 炭化物をやや多く含む
2　7.5YR5/4　にぶい褐色シルト 締まりあり 粘性ややあり 黒褐色シルト20%含む 炭化物を少量含む（貼床か）
3　10YR3/1　黒褐色シルト 締まりややあり 粘性ややあり 地山10%含む 炭化物を少量含む（壁周溝か）
4　10YR3/1　黒褐色シルト 締まりややあり 粘性ややあり 地山ブロック・小ブロック20%含む 炭化物を少量含む　（土坑1）
5　10YR2/2　黒褐色シルト 締まりややあり　粘性ややあり 地山小ブロック10%含む 炭化物を少量含む　（土坑2）
6　10YR4/6　褐色粘質土　締まりややあり　粘性ややあり 拳大の円礫を20%含む （地山）

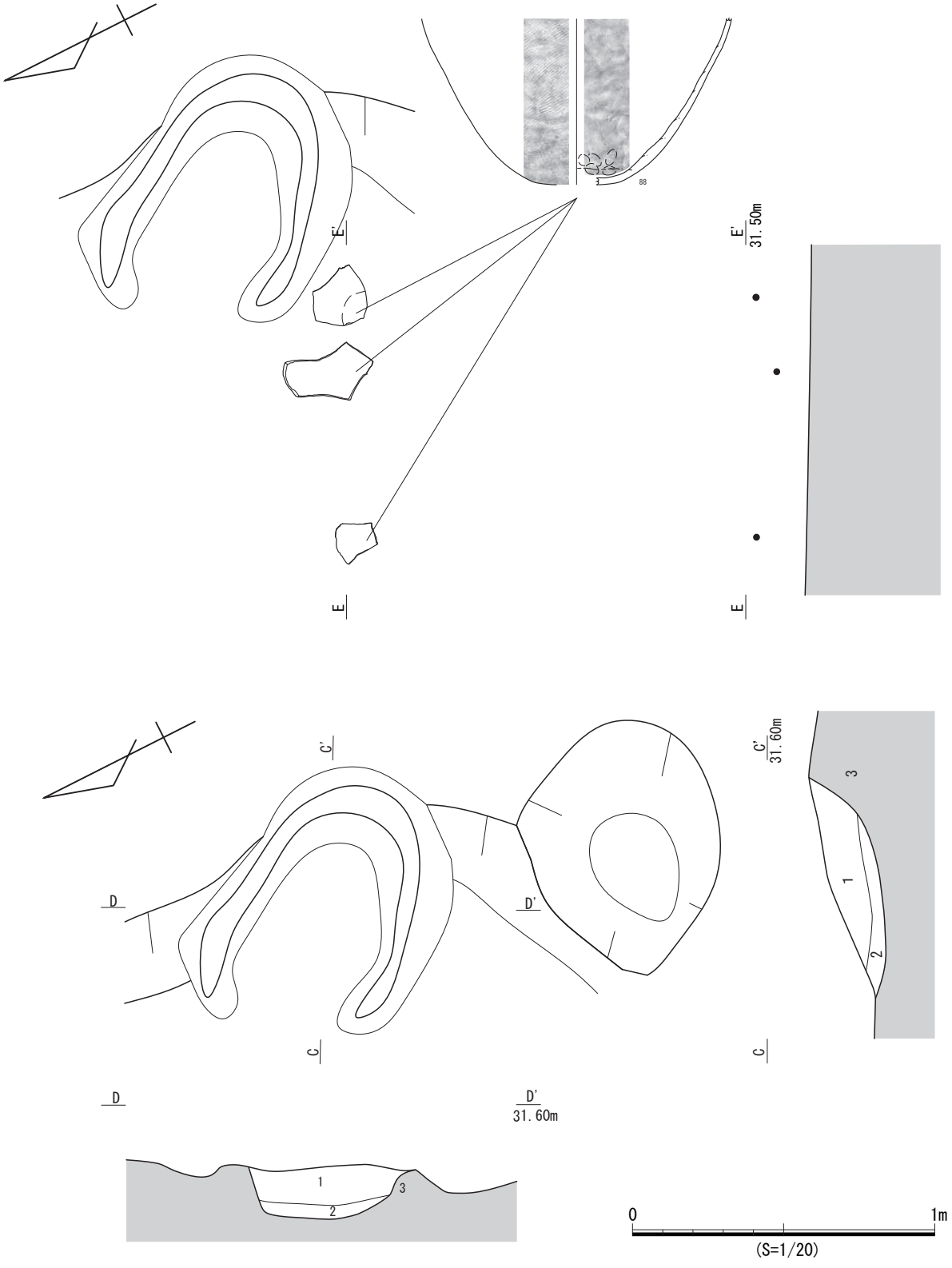
図 30　ＳＨ 13 遺構図

ＳＨ 14（図 31、32） 調査区東の 35・36 Q・R グリッドで検出した。西側は古墳時代の竪穴建物ＳＨ 15 と重複する。東西 3.0 ～ 3.7 m、南北 3.2 mの規模で、歪な台形状を呈している。検出面からの深さは約 20 ㎝で、埋土に小礫が混じっていた。遺構底面は礫混じりの地山層である。西辺から南辺にかけて壁面がスロープ状に下がる。建物の南東隅では、カマドを検出した。残存状況は良好で、地山を掘り残して両袖部を構築している。床面上で小土坑があるが、出土遺物はほとんどなかった。竪穴内の遺物は、カマドの右袖周辺で須恵器甕が出土したほか、埋土から須恵器杯蓋や土師器甕など奈良時代後半の遺物が出土した。



1　10YR3/3　暗褐色砂質シルト　締まりややあり　粘性ややあり　地山ブロックをわずかに含む　炭化物を含む
2　10YR3/2　黒褐色粘質シルト　締まりややあり　粘性あり　2.5YR5/8明赤褐色焼土をわずかに含む　径1～2cm以下の円礫をわずかに含む
3　10YR5/3　にぶい黄褐色粘質シルト　締まりややあり　粘性強い　地山ブロックを50%含む
4　10YR3/4　暗褐色砂質シルト　締まりややあり　粘性ややあり　地山ブロックを30%含む
5　10YR4/6　褐色粘質土　締まりややあり　粘性ややあり　拳大の円礫を20%含む（地山）

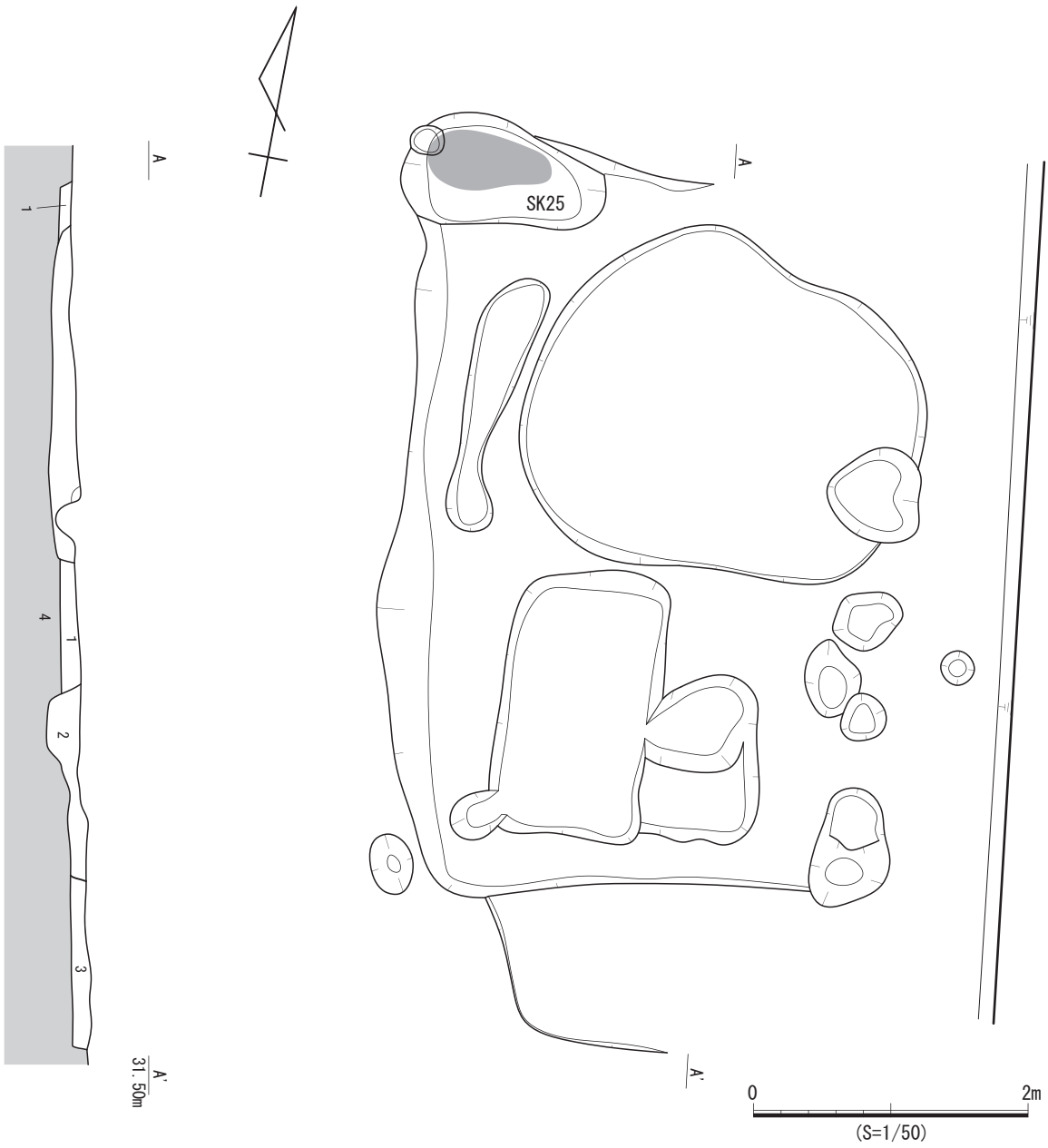
図 31　ＳＨ 14 遺構図



1　10YR3/3　暗褐色砂質シルト 締まりややあり　粘性なし
　2.5YR5/8明赤褐色焼土をわずかに含む
2　10YR3/2　黒褐色砂質シルト　締まりややあり　粘性ややあり
　地山ブロックをわずかに含む径　1～2cm以下の円礫をわずかに含む
3　10YR4/6　褐色粘質土　締まりややあり　粘性ややあり　拳大の円礫を20%含む（地山）

図 32　ＳＨ 14 カマド遺構図

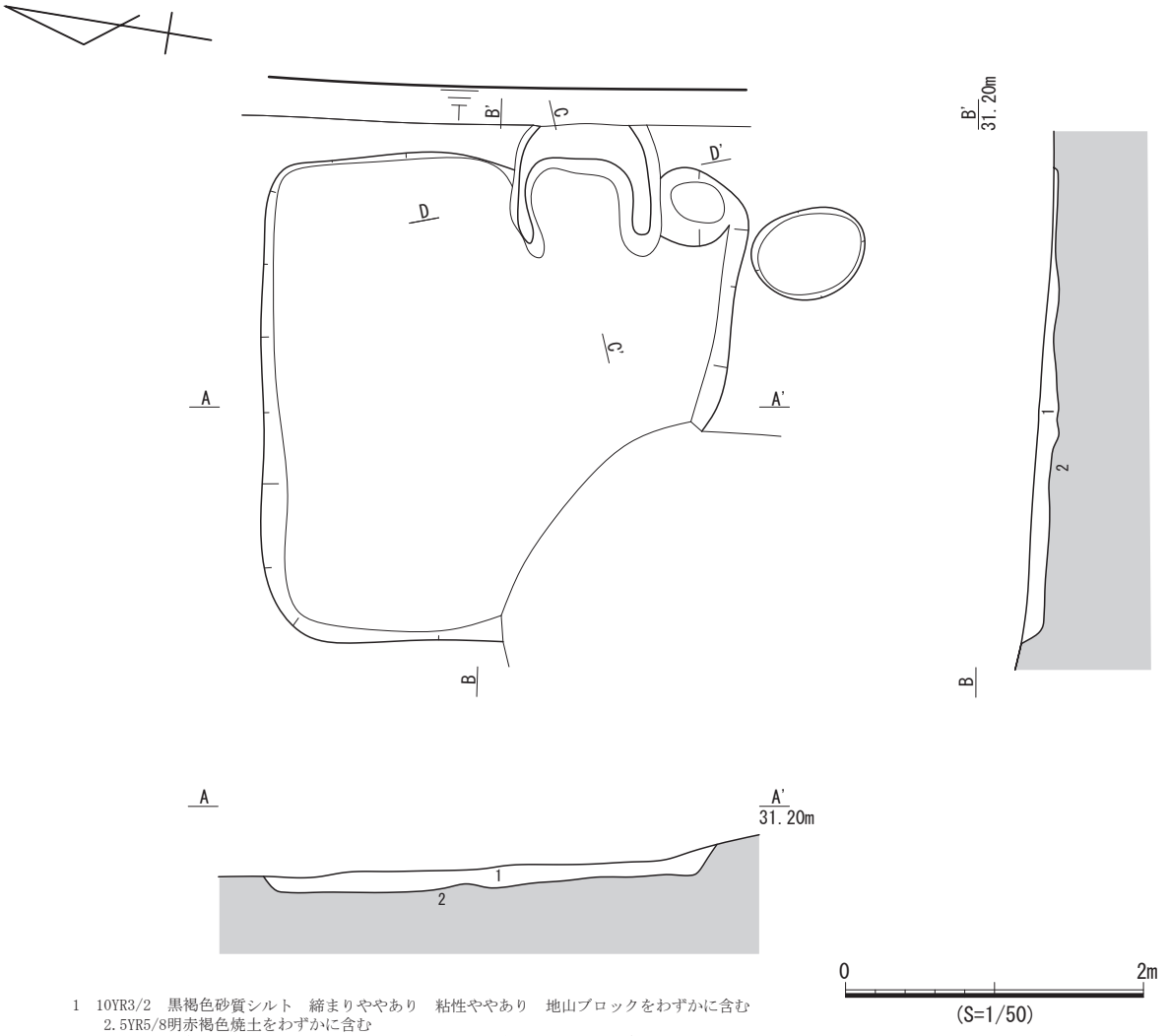
ＳＨ 16（図 33） 調査区東の 34・35 R・S グリッドで検出した。複数の遺構に切られ、残存状況は全体的に悪い。建物の規模は、南北 5.1 m、東西 4.1 m以上である。東側は調査区外に続くが、削平により殆ど残存しないと考えられる。検出面からの深さは約 15 ㎝で、埋土に焼土や炭化物が含まれていた。壁周溝やカマドなど建物に伴う施設は確認することができなかった。埋土から土師器皿や土師器甕など奈良時代後半の遺物が出土した。



1　10YR3/2　黒褐色砂質シルト　締りややあり　粘性ややあり　地山ブロックをわずかに含む　炭化粒･焼土粒を含む
2　10YR3/2　黒褐色粘質シルト　締りややあり　粘性あり　2.5YR5/8明赤褐色焼土を多量に含む　地山ブロックをわずかに含む
3　10YR3/3　暗褐色砂質シルト　締りややあり　粘性ややあり　地山ブロックを多量に含む
4　10YR4/6　褐色粘質土　締りややあり　粘性ややあり　（地山）

図 33　ＳＨ 16 遺構図

ＳＨ 17（図 34・35） 調査区東の 32・33 R・S グリッドで検出した。建物の南西部分は近現代の野井戸に壊されている。南北 3.3 m、東西 3.2 mの正方形を呈し、検出面からの深さは約 10 ㎝である。建物の南東でカマドを検出した。壁周溝や主柱穴等はなかった。カマドは比較的残存状況が良好で、両袖部を確認できた。袖部はいずれも暗褐色粘質シルト土を用いて構築する。カマドの左袖近くで、裏返しの状態で置かれた須恵器杯蓋が見つかったほか、右袖周辺では土師器鍋が出土した。いずれも奈良時代後半の遺物である。カマドに近接する位置で小土坑を検出した。貯蔵穴の可能性があるが、出土遺物はほとんどなかった。



1　10YR3/2　黒褐色砂質シルト　締まりややあり　粘性ややあり　地山ブロックをわずかに含む
　　2.5YR5/8明赤褐色焼土をわずかに含む
2　10YR4/6　褐色粘質土　締まりややあり　粘性ややあり　拳大の円礫を20%含む（地山）

図 34　ＳＨ 17 遺構図

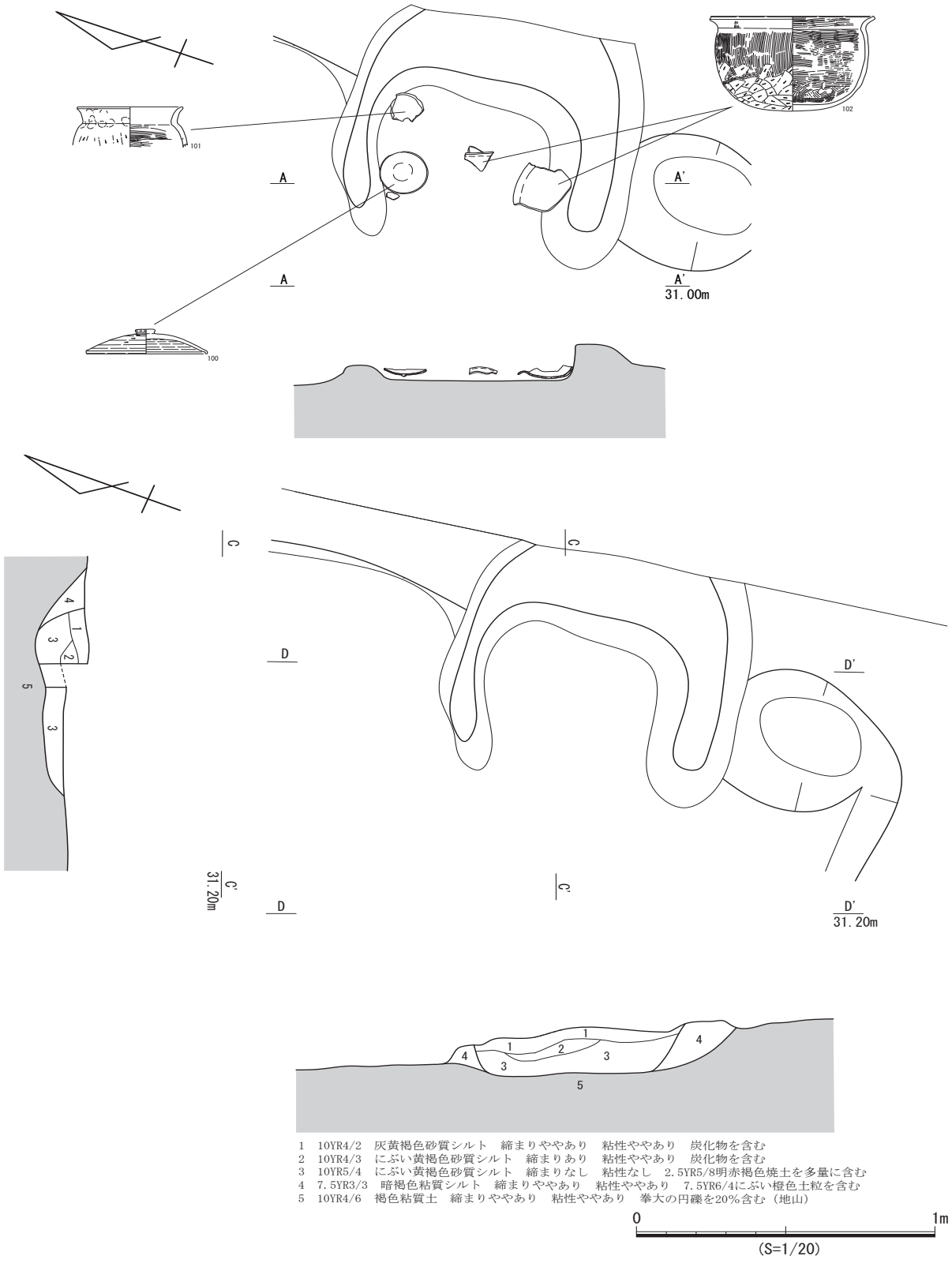
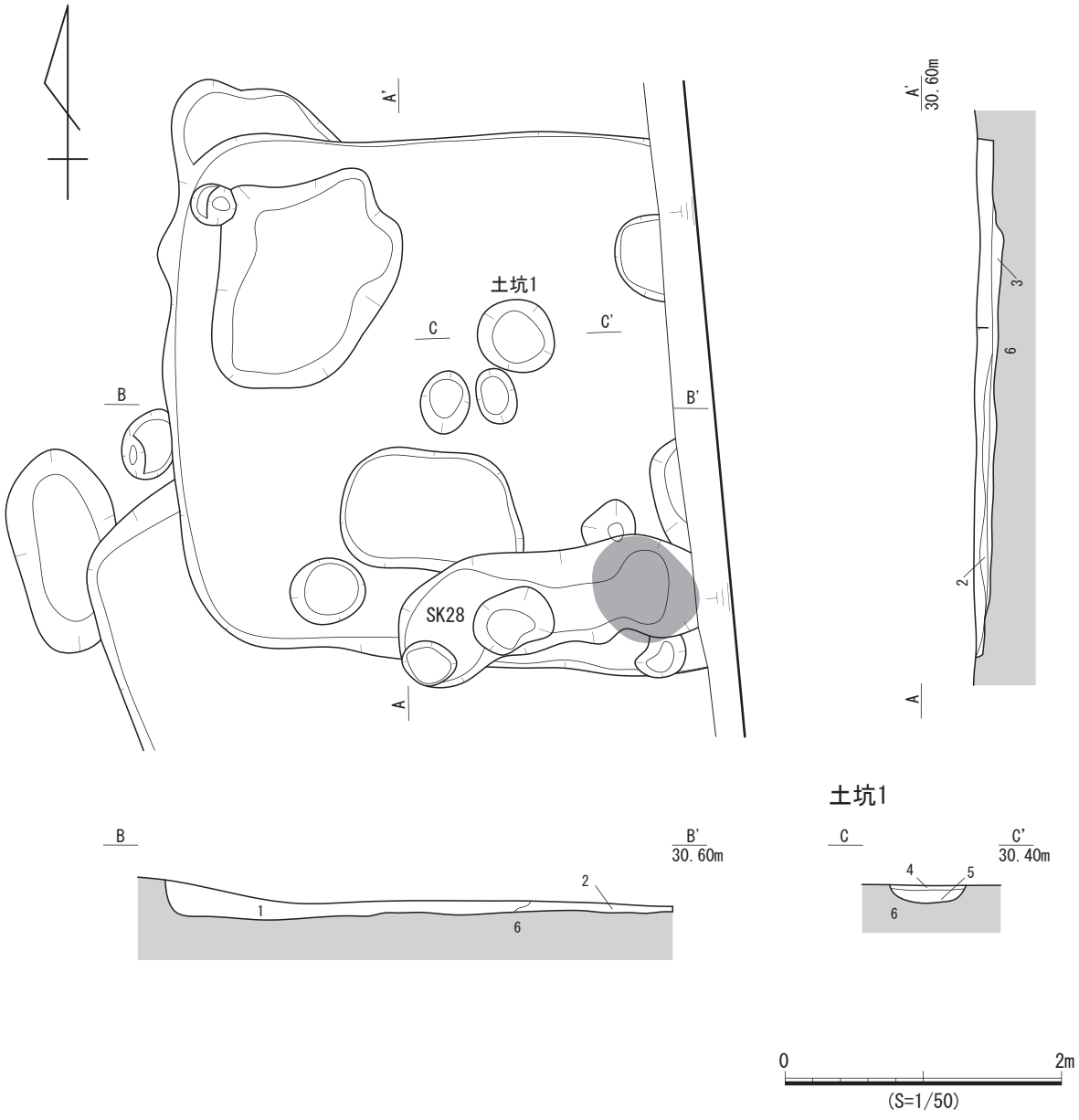


図 35　ＳＨ 17　カマド遺構図

ＳＨ 19（図 36） 調査区東の 30・31 R・S グリッドで検出した。東側は調査区外である。南北 3.9 m、東西 3.7 m以上で正方形に近いと推定される。検出面からの深さは約 12 ㎝である。建物中央のやや北寄りで土坑１を検出した。直径 0.6 mの小土坑で、埋土に焼土や炭化物が含まれていた。土師器の小片が出土した。その他、床面上で小穴があるが、主柱穴と判断できるものはなかった。小片が多いが、埋土から奈良時代の土師器皿が出土した。

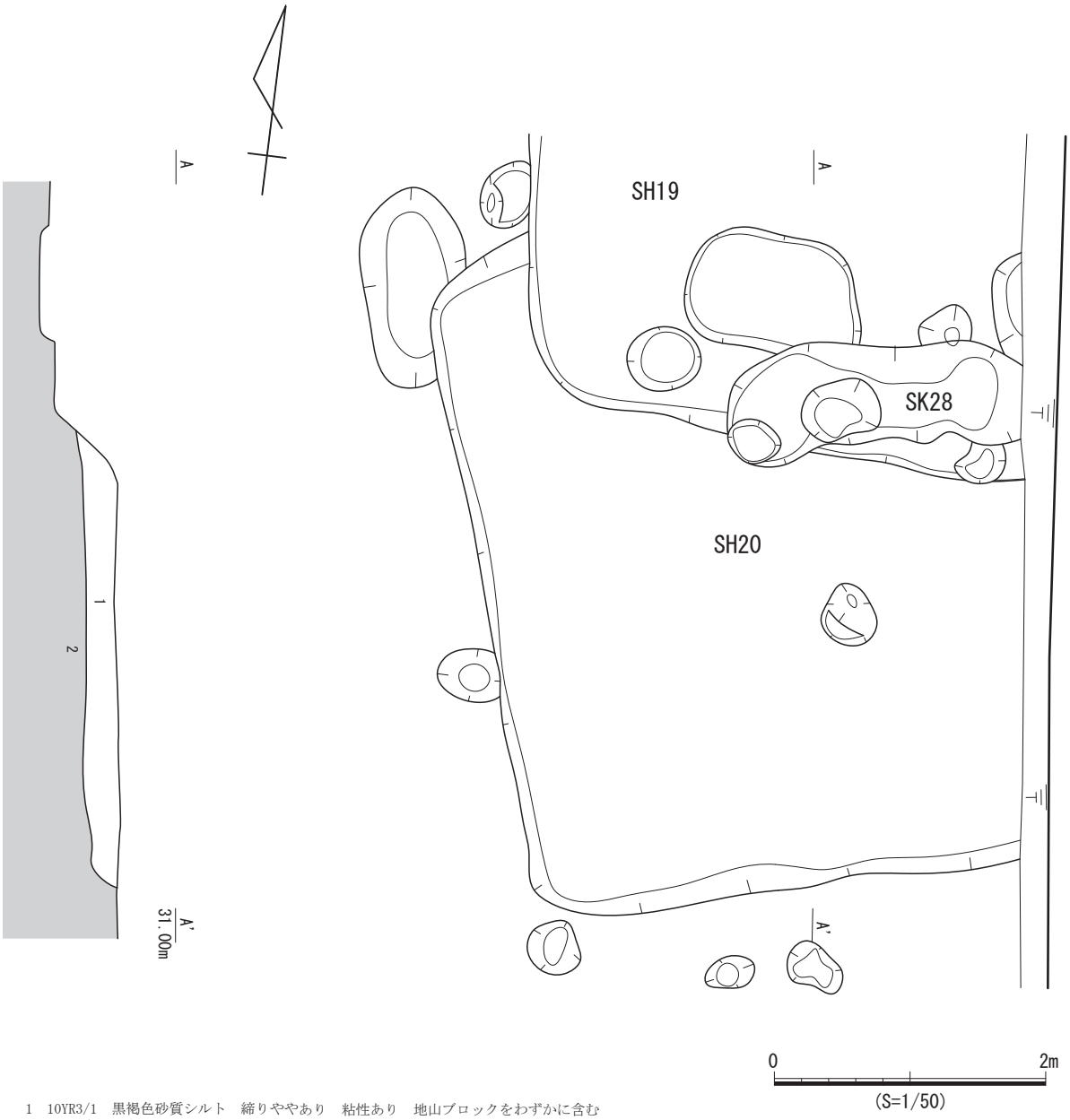


1　10YR3/2　黒褐色シルト　締りややあり　粘性ややあり　地山小ブロック5%含む　炭化物をやや多く含む
2　10YR4/3　にぶい黄褐色シルト　締りややあり　粘性ややあり　地山小ブロック、黒褐色シルト10%含む　炭化物を少量含む
3　10YR2/2　黒褐色シルト　締りあり　粘性ややあり　地山ブロック40%含む　焼土粒を2%含む　炭化物を少量含む
4　7.5YR3/1　黒褐色シルト　締りややあり　粘性ややあり　地山ブロック5%含む　炭化物を少量含む
5　7.5YR3/4　暗褐色シルト　締りややあり　粘性ややあり　地山ブロック30%含む　焼土粒を20%含む。炭化物を少量含む
6　10YR4/6　褐色粘質土　締りややあり　粘性ややあり　（地山）

図 36　ＳＨ 19 遺構図

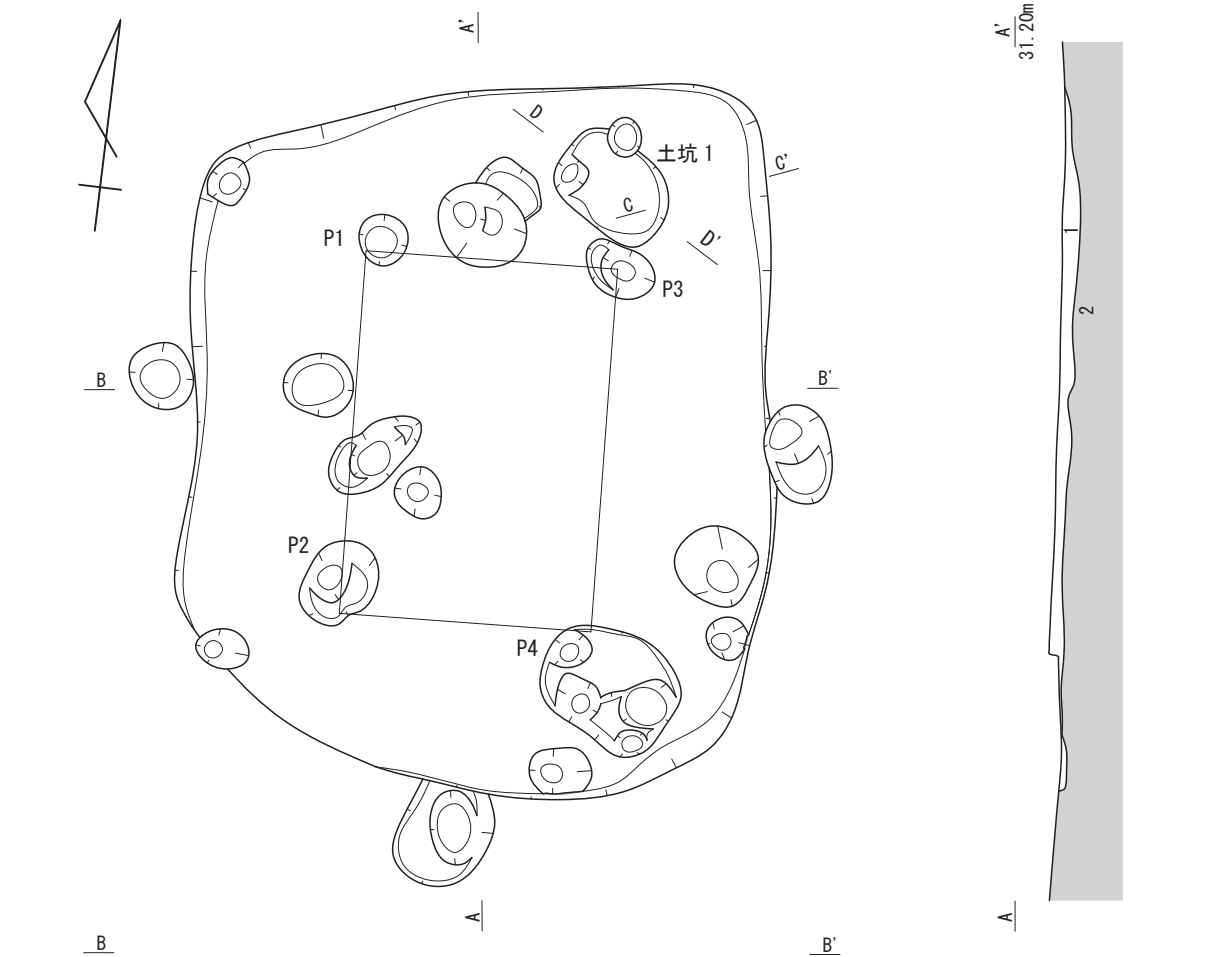
ＳＨ 20（図 37） 調査区東の 31･32 R･S グリッドで検出した。北側はＳＨ 19 に切られる。南北 5.1 ｍ、東西４ｍ以上の方形を呈し、検出面からの深さは約 24 ㎝である。カマドや壁周溝など建物に伴う施設は確認できなかった。埋土から奈良時代後半頃の須恵器杯が出土した。

ＳＨ 21（図 38） 調査区東の 30・31 P・Q グリッドで検出した。南北 3.2 ～ 4.3 ｍ、東西 3.3 ～ 4.7 ｍの不整形な台形状を呈している。後世の削平で、残存状況が悪く、検出面からの深さは約 10 ㎝である。床面上で複数の小穴を検出した。柱間の間隔はやや不揃いだが、Ｐ１～４は主柱穴に相当すると考えられる。カマドや壁周溝等の施設は確認できなかった。建物北東隅で、土師器甑が出土したほか、埋土から土師器甕など奈良時代の遺物が出土した。

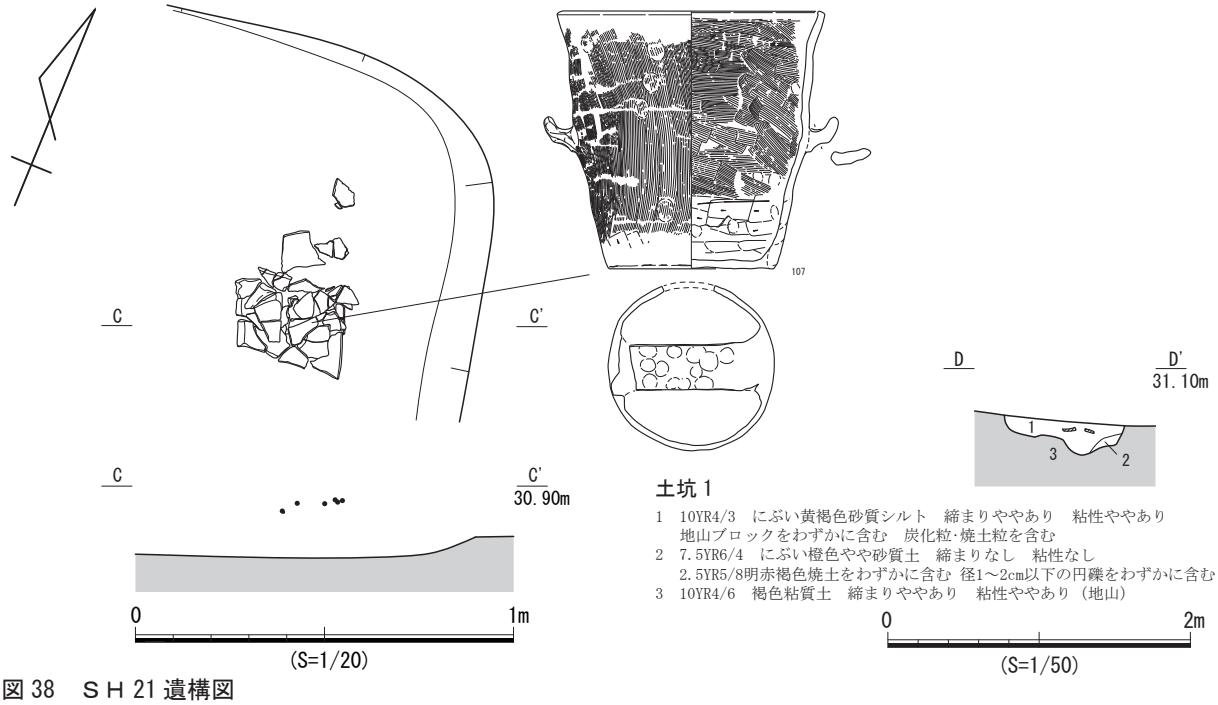


1　10YR3/1　黒褐色砂質シルト　締りややあり　粘性あり　地山ブロックをわずかに含む
2　10YR4/6　褐色粘質土　締りややあり　粘性ややあり　（地山）

図 37　ＳＨ 20 遺構図



1　10YR4/2　灰黄褐色砂質シルト　締りややあり　粘性ややあり　地山ブロックを30%含む　径1～2cm以下の円礫を多量に含む
2　10YR4/6　褐色粘質土　締りややあり　粘性ややあり（地山）



土坑 1

1　10YR4/3　にぶい黄褐色砂質シルト　締まりややあり　粘性ややあり
　地山ブロックをわずかに含む　炭化粒･焼土粒を含む
2　7.5YR6/4　にぶい橙色やや砂質土　締まりなし　粘性なし
　2.5YR5/8明赤褐色焼土をわずかに含む 径1～2cm以下の円礫をわずかに含む
3　10YR4/6　褐色粘質土　締まりややあり　粘性ややあり（地山）

図 38　ＳＨ 21 遺構図

ＳＨ 23（図 39） 調査区東の 26 ～ 28 Q・R グリッドで検出した。南側は重複するＳＨ 24 に切られている。後世の削平で残存状況が悪いが、規模は南北 5.7 ｍ、東西 4.6 ｍ以上の長方形を呈すると推定される。検出面からの深さは約 20 ㎝である。壁周溝やカマドなど建物に伴う施設は確認されなかった。埋土から須恵器杯蓋や杯、土師器甕など奈良時代前半の遺物が出土した。

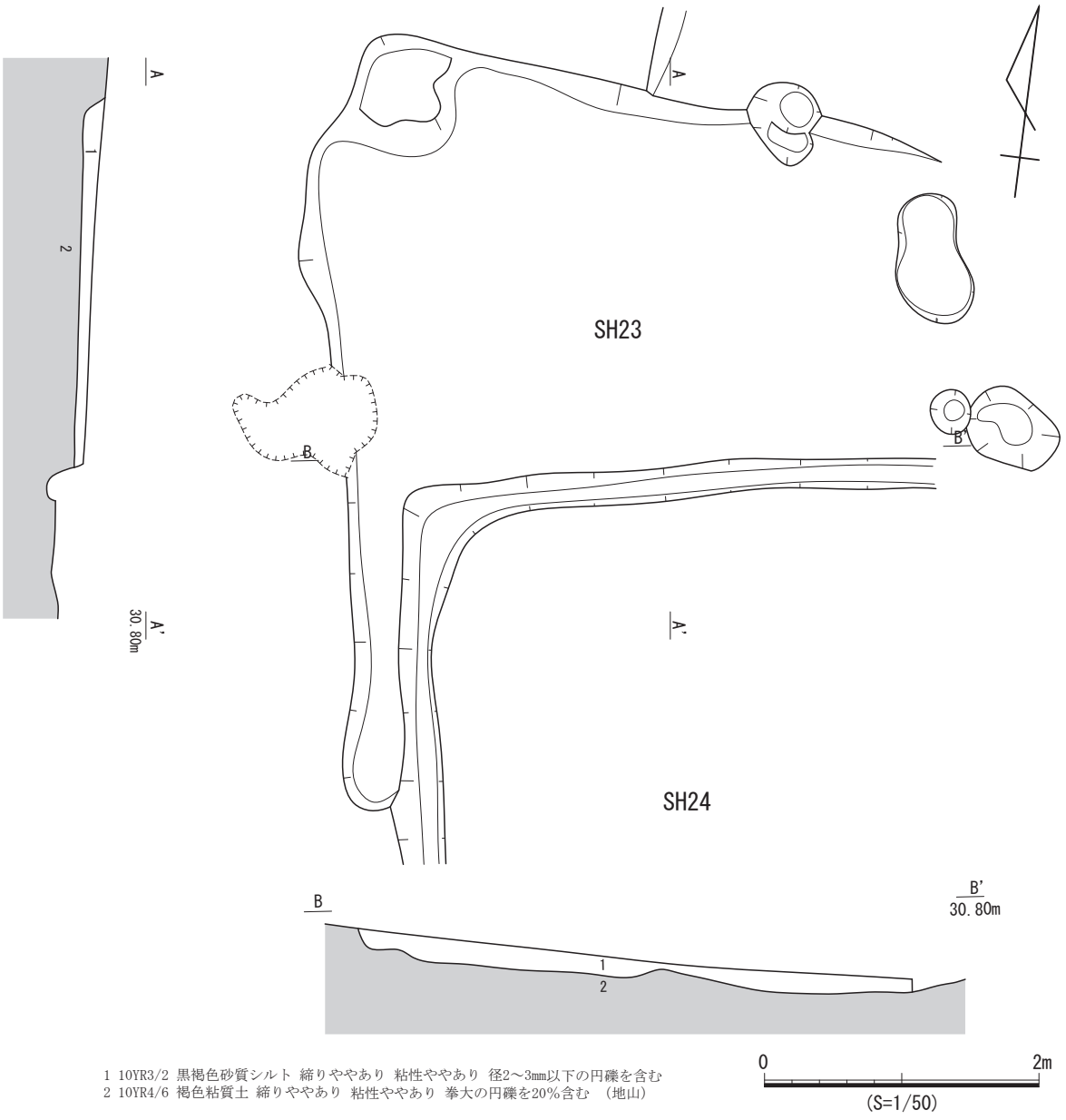
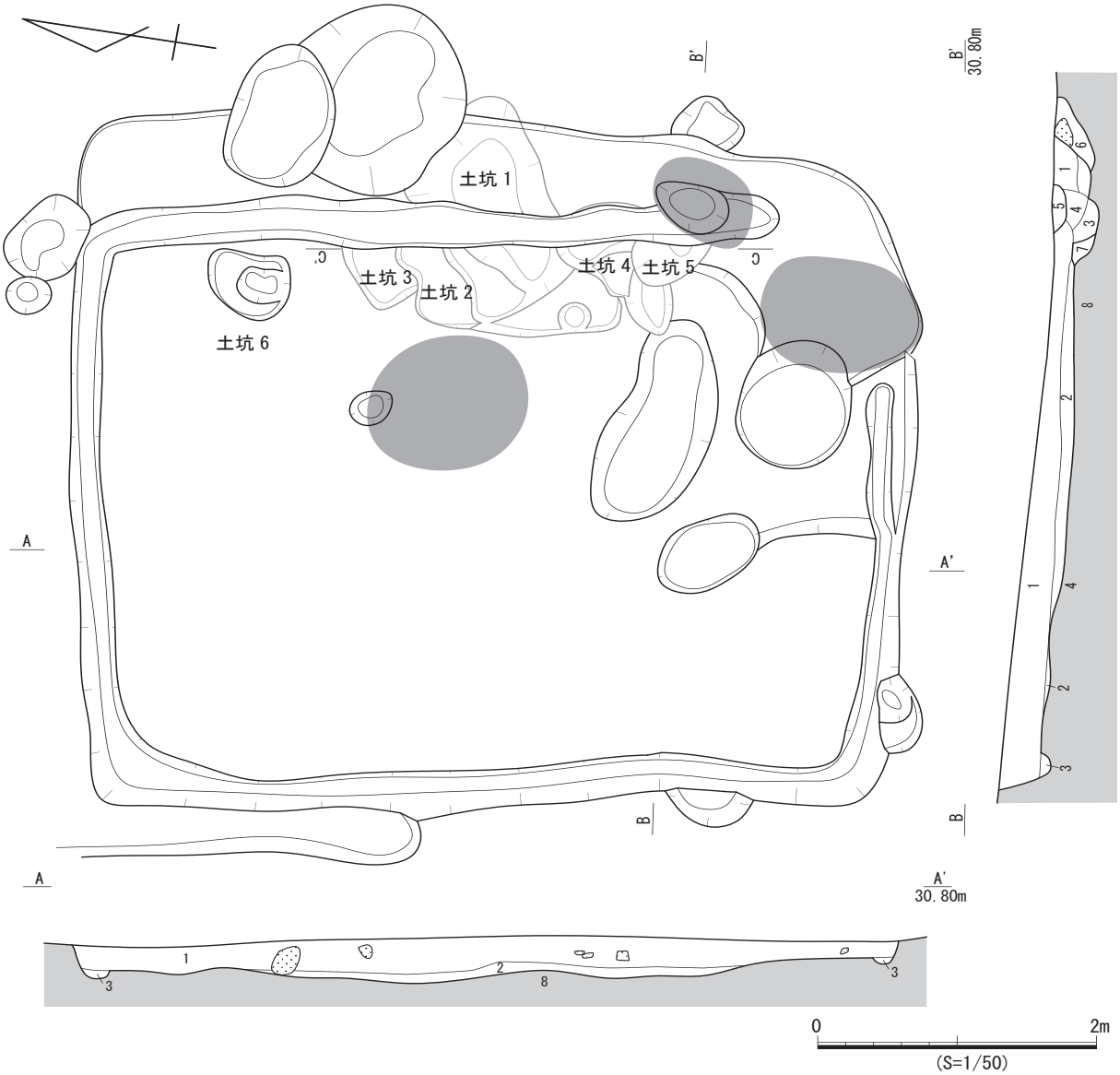


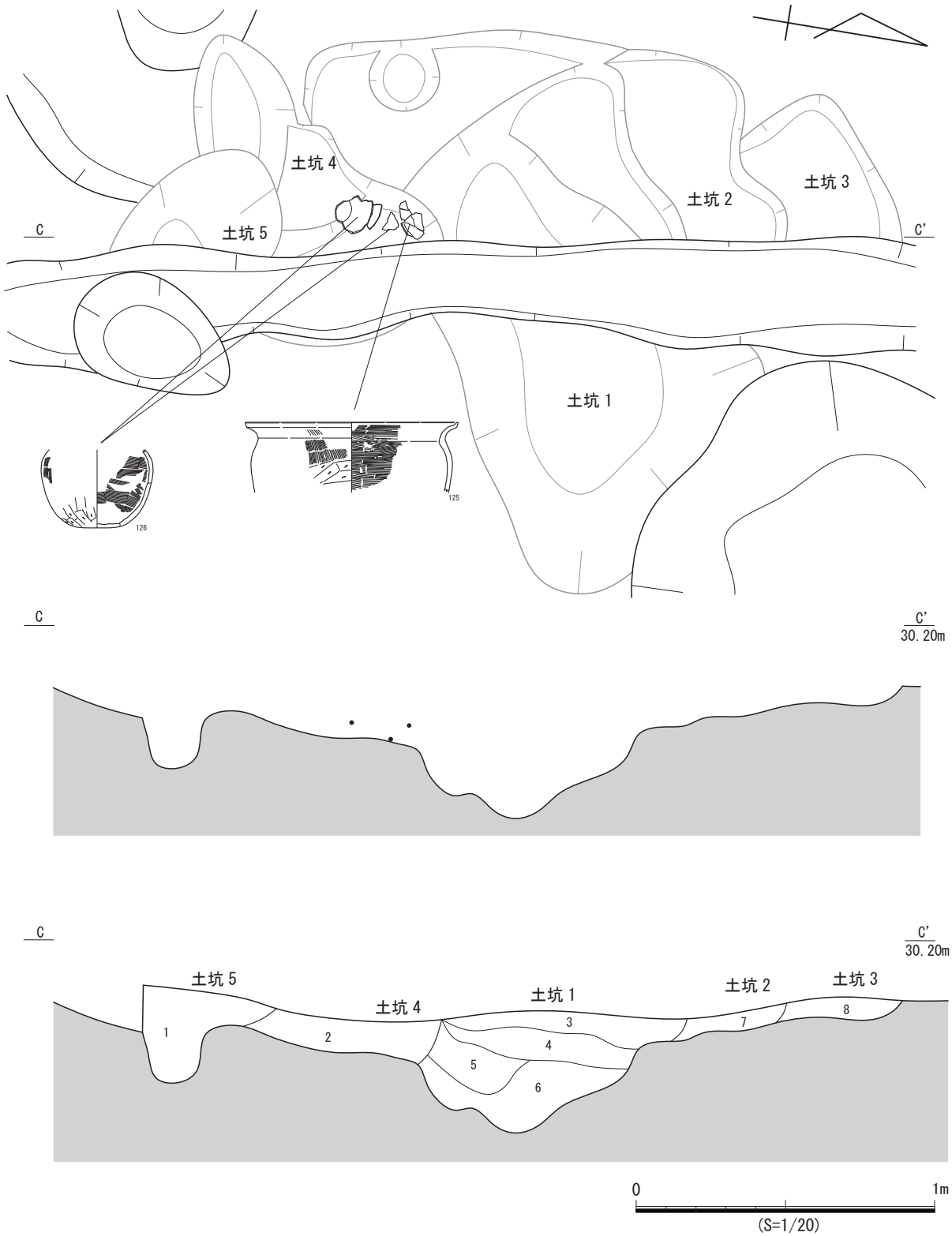
図 39　ＳＨ 23 遺構図

ＳＨ 24（図 40、41） 調査区東の 27・28 Q・R グリッドで検出した。南北 6.1 m、東西 5.4 mの長方形を呈する。検出面からの深さは 30 ～ 40 ㎝である。底面の中央から東側に浅い窪みがあり、黄褐色土を入れ貼床を構築し、床面が水平になるよう整地している。壁周溝は一部で途切れるが、ほぼ４辺で確認した。溝幅は約 34 ㎝、深さ約 10 ㎝である。建物の中央部と南東部分で焼土の広がりを検出した。東側の壁周溝付近で複数の不整形土坑（土坑１～５）を確認した。いずれも床下で検出した。土坑４の底面からは、土師器甕が出土した。埋土から、須恵器杯蓋、有台杯、無台杯、土師器皿など奈良時代後半の遺物が出土した。



1　10YR3/2　黒褐色砂質シルト　締りややあり　粘性ややあり　地山ブロックをわずかに含む　炭化物を含む
2　10YR5/4　にぶい黄褐色砂質シルト　締りややあり　粘性あり　地山ブロックを50%含む　径1～2cm以下の円礫をわずかに含む（貼床か）
3　10YR4/3　にぶい黄褐色砂質シルト　締りややあり　粘性あり　径1～2cm以下の円礫を多量に含む　（壁周溝）
4　10YR7/6　明黄褐色シルト　締りあり　粘性ややあり　黒褐色シルトブロック10%含む
5　7.5YR4/2　灰褐色シルト　締りあり　粘性ややあり　地山、黒色シルトブロック10%含む。焼土粒を40%含む　炭化物をやや多く含む
6　10YR3/1　黒褐色シルト　締りややあり　粘性ややあり　地山5%含む。炭化物を少量含む
7　10YR2/2　黒褐色シルト　締りややあり　粘性ややあり　地山小ブロック10%含む。炭化物を少量含む
8　10YR4/6　褐色粘質土　締りややあり　粘性ややあり　拳大の円礫を20%含む（地山）

図 40　ＳＨ 24 遺構図

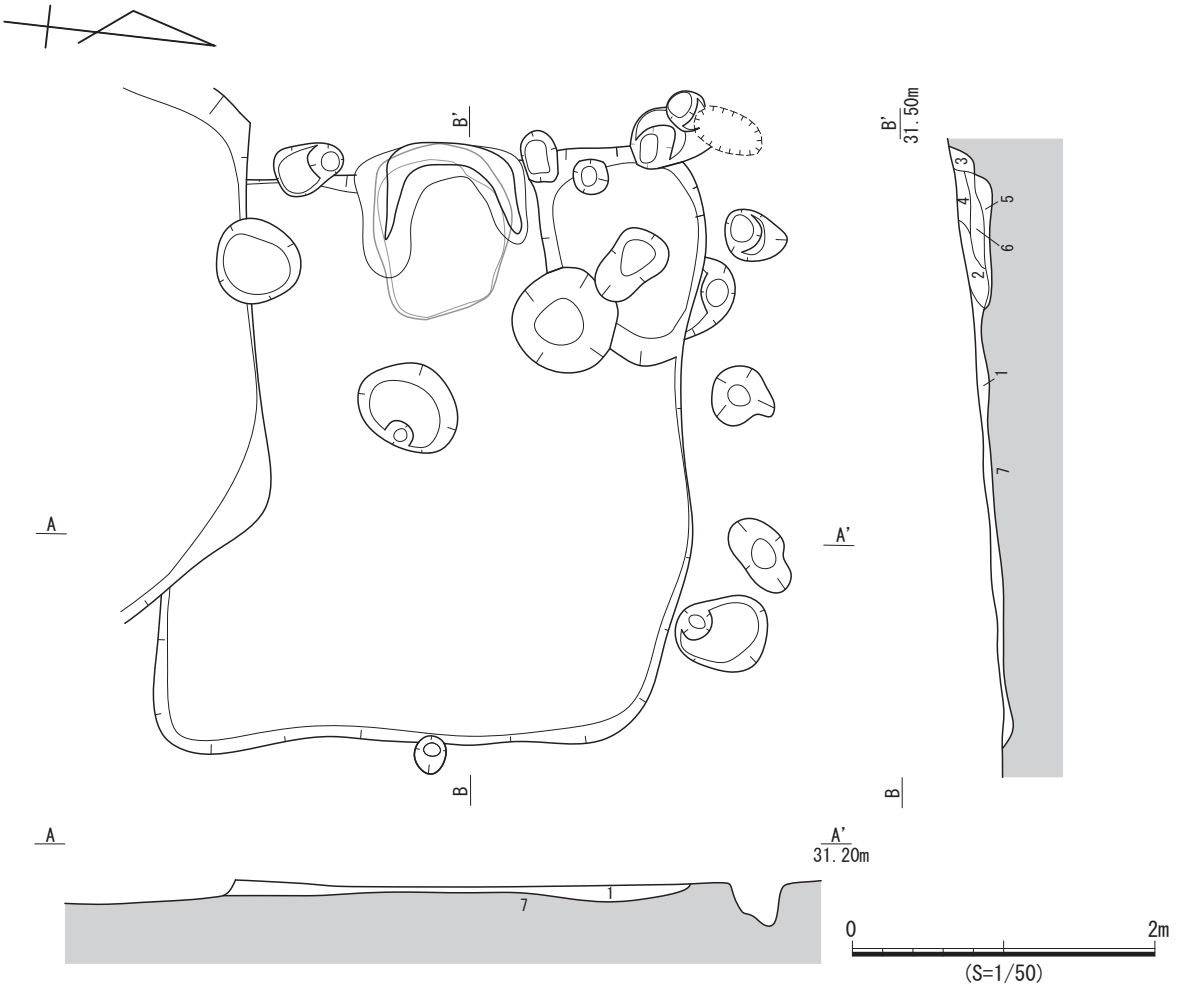


1　10YR2/2　黒褐色シルト　締まりややあり　粘性ややあり　地山小ブロック10%含む　炭化物を少量含む（土坑5）
2　10YR2/2　黒褐色シルト　締まりややあり　粘性ややあり　地山小ブロック10%含む　炭化物を少量含む（土坑4）
3　10YR3/2　黒褐色シルト　締まりややあり　粘性ややあり　地山ブロック・小ブロック20%含む　焼土粒を5%含む　炭化物をやや多く含む（土坑1）
4　10YR2/1　黒色シルト　締まりややあり　粘性ややあり　地山小ブロック、暗褐色シルト5%含む　炭化物を少量含む（土坑1）
5　10YR3/3　暗褐色シルト　締まりややあり　粘性ややあり　黒褐色シルト5%含む（土坑1）
6　10YR2/1　黒色シルト　締まりややあり　粘性ややあり　地山小ブロック5%含む　炭化物を少量含む（土坑1）
7　10YR3/2　黒褐色シルト　締まりややあり　粘性ややあり　地山ブロック30%含む　焼土粒を5%含む　炭化物を少量含む（土坑2）
8　10YR4/2　灰黄褐色シルト　締まりややあり　粘性ややあり　地山40%含む　炭化物を少量含む（土坑3）

図 41　ＳＨ 24 土坑 1 ～ 5 遺構図

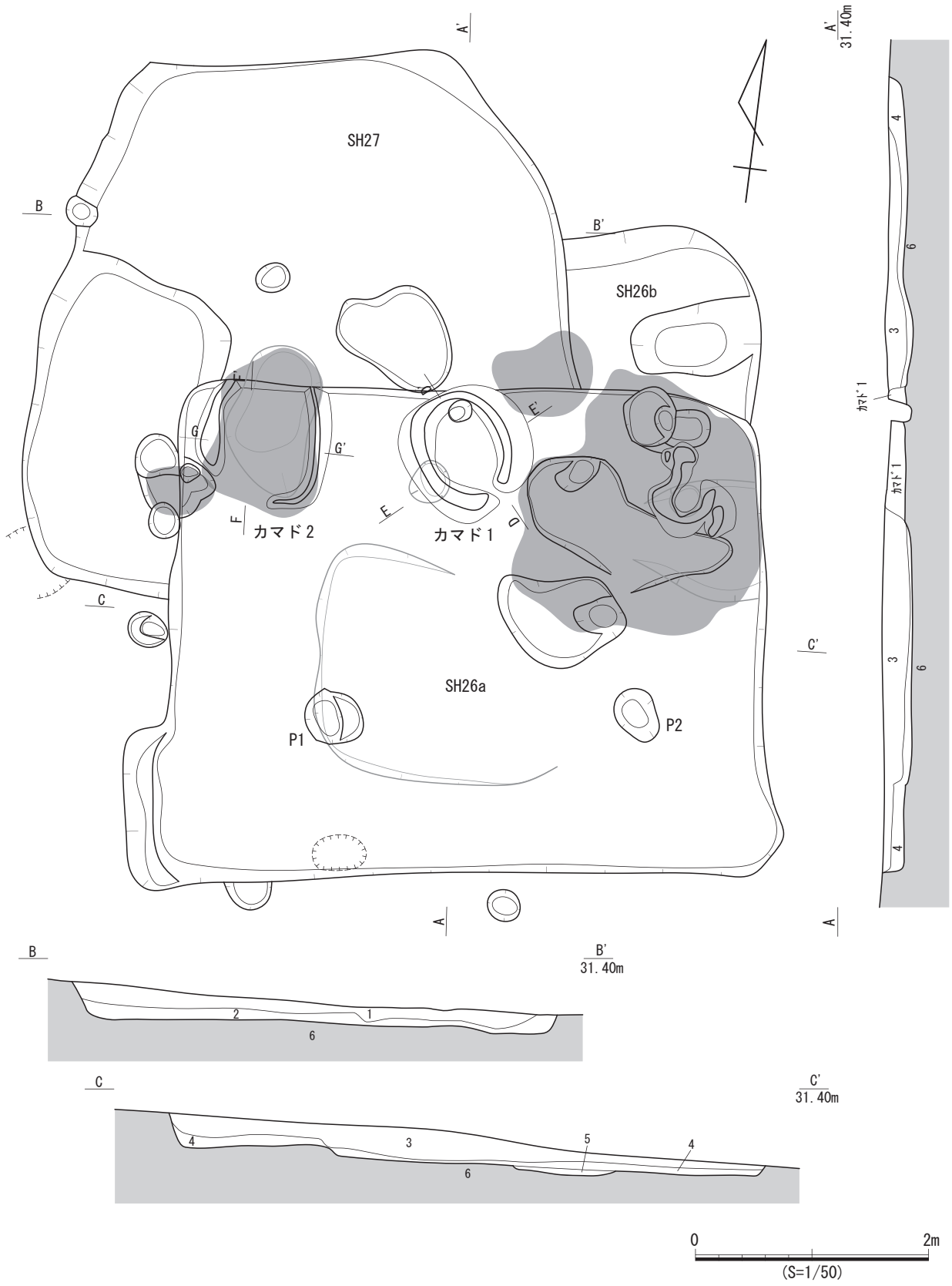
ＳＨ 25（図 42） 調査区東の 23 0･Pグリッドで検出した。南側は重複するＳＨ 27 に切られる。東西 3.3 m、南北 3.8 mの長方形を呈する。検出面からの深さは約 10 ㎝である。西辺中央でカマドを検出した。両袖部は比較的良好に残存しており、黄褐色の粘土で袖部を構築している。埋土から奈良時代の土師器甕が出土した。

ＳＨ 26（図 43、44） 調査区東の 24・25 0・Pグリッドで検出した。ＳＨ 27 と切り合っている。詳細な規模は不明だが、土層断面や出土遺物の状況からＳＨ 26a とＳＨ 26 bが重複すると考えられる。
ＳＨ 26a は、東西 5.1 m、南北 4.2 mの長方形を呈する。検出面からの深さは約 24 ㎝である。建物の中央南寄りで、等間隔に並ぶ柱穴（P1、P2）を確認した。北側の柱穴は確認できなかったが、主柱穴となる可能性がある。建物の北側部分を中心に焼土の広がりが広範囲に見られた。建物の北辺中央と北西隅の２カ所でカマドを検出した。いずれも両袖部が残存するが、袖部に使われた粘土などの構築材は確認



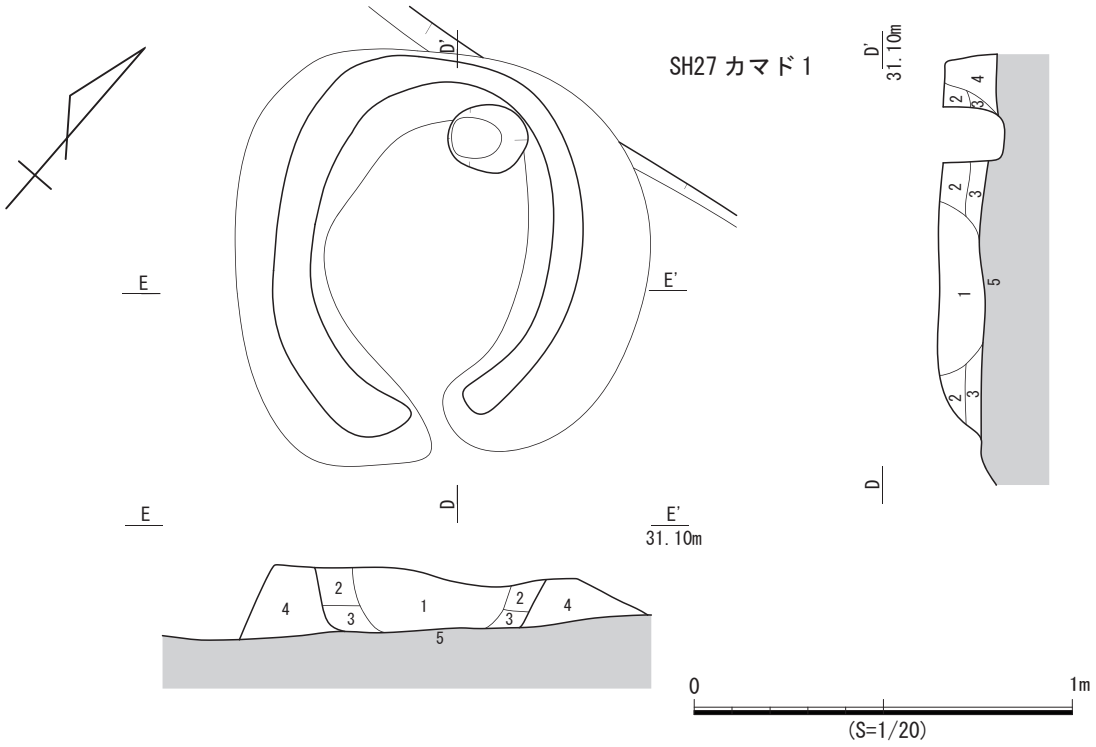
1　10YR4/3　にぶい黄褐色砂質シルト　締まりややあり　粘性ややあり　地山ブロックを50%含む　炭化物を含む
2　7.5YR7/4　にぶい橙色粘質シルト　締まりあり　粘性強い　径1～2cm以下の円礫をわずかに含む
3　10YR4/3　にぶい黄褐色砂質シルト　締まりややあり　粘性あり　2.5YR5/8明赤褐色焼土をわずかに含む（SH25カマド）
4　10YR5/4　にぶい黄褐色粘質シルト　締まりややあり　粘性あり　2.5YR5/8明赤褐色焼土をわずかに含む
地山ブロックをわずかに含む（SH25カマド）
5　10YR5/4　にぶい黄褐色粘質シルト　締まりあり　粘性あり　地山ブロックをわずかに含む
2.5YR5/8明赤褐色焼土をわずかに含む　径1～2cm以下の円礫をわずかに含む（SH25カマド）
6　10YR5/4　にぶい黄褐色砂質シルト　締まりあり　粘性あり　2.5YR5/8明赤褐色焼土をわずかに含む
径1～2cm以下の円礫をわずかに含む（SH25カマド）
7　10YR4/6　褐色粘質土　締まりややあり　粘性ややあり（地山）

図 42　ＳＨ 25 遺構図

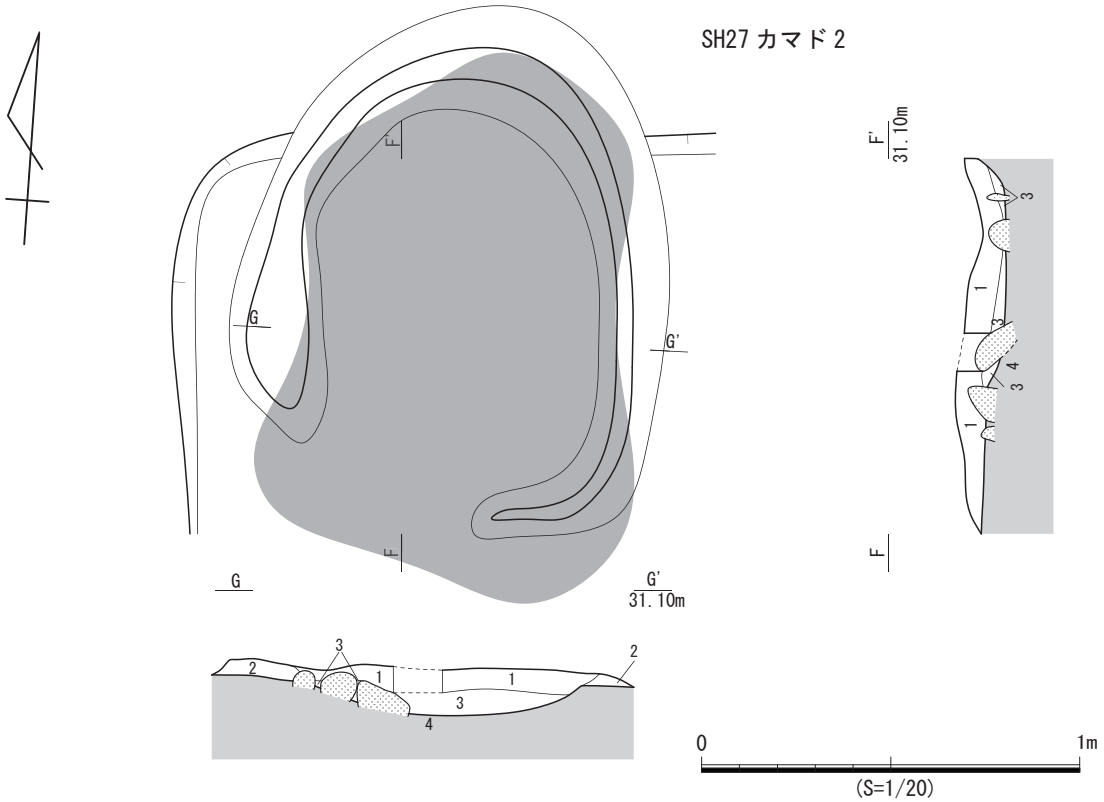


1　10YR4/4　褐色砂質シルト　締まりややあり　粘性ややあり　地山ブロックをわずかに含む
2　10YR5/4　にぶい黄褐色砂質シルト　締まりあり　粘性ややあり　地山ブロックを多量に含む
3　10YR3/2　黒褐色砂質シルト　締まりややあり　粘性ややあり　地山ブロックをわずかに含む　拳大の円礫を10%含む　焼土をわずかに含む（SH26a埋土か）
4　10YR3/4　暗褐色砂質シルト　締まりややあり　粘性ややあり　地山ブロックをわずかに含む　2.5YR5/8明赤褐色焼土をわずかに含む（SH26b埋土か）
5　10YR4/1　褐灰色砂質シルト　締まりややあり　粘性ややあり　地山ブロックを多量に含む　炭化粒・焼土粒を含む（SH26b埋土か）
6　10YR4/6　褐色粘質土　締まりややあり　粘性ややあり　（地山）

図 43　ＳＨ 26、27 遺構図

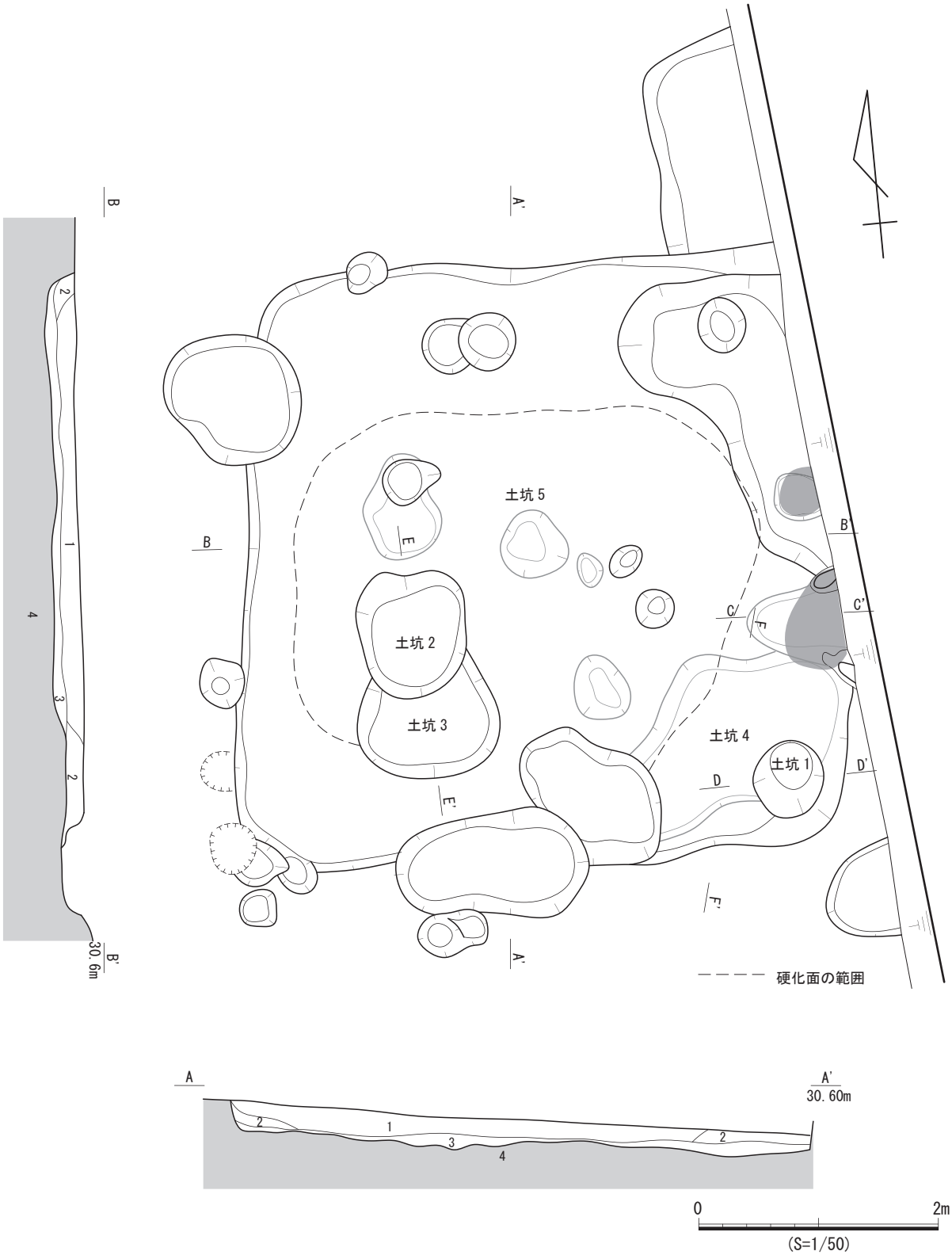


1　7.5YR5/4　にぶい褐色砂質シルト　締まりややあり　粘性ややあり　2.5YR5/8明赤褐色焼土を多量に含む
2　7.5YR6/4　にぶい橙色砂質シルト　締まりややあり　粘性ややあり　2.5YR5/8明赤褐色焼土をわずかに含む
3　7.5YR5/2　灰褐色砂質シルト　締まりややあり　粘性あり　炭化粒・焼土粒を含む
4　7.5YR3/1　黒褐色粘質シルト　締まりあり　粘性ややあり　2.5YR5/8明赤褐色焼土を多量に含む
5　10YR4/6　褐色粘質土　締まりややあり　粘性ややあり（地山）



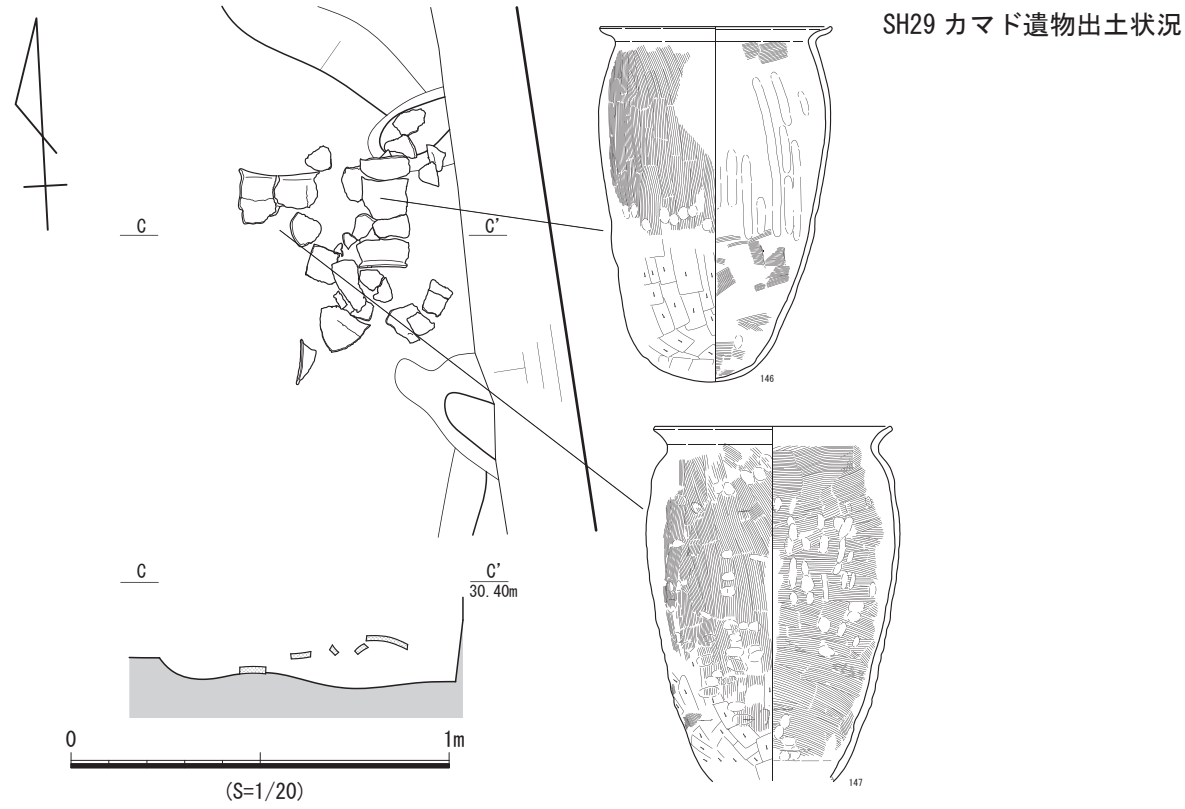
1　7.5YR5/6　明褐色砂質シルト　締まりややあり　粘性なし　2.5YR5/8明赤褐色焼土を多量に含む　径1～2cm以下の円礫をわずかに含む
2　2.5YR5/8　明赤褐色砂質シルト　締まりややあり　粘性ややあり　7.5YR5/6明褐色ブロックを含む
3　10YR5/6　黄褐色砂質シルト　締まりややあり　粘性ややあり　焼土粒含む
　10YR3/1　黒褐色シルトブロックをわずかに含む
4　10YR4/6　褐色粘質土　締まりややあり　粘性ややあり　拳大の円礫を20%含む（地山）

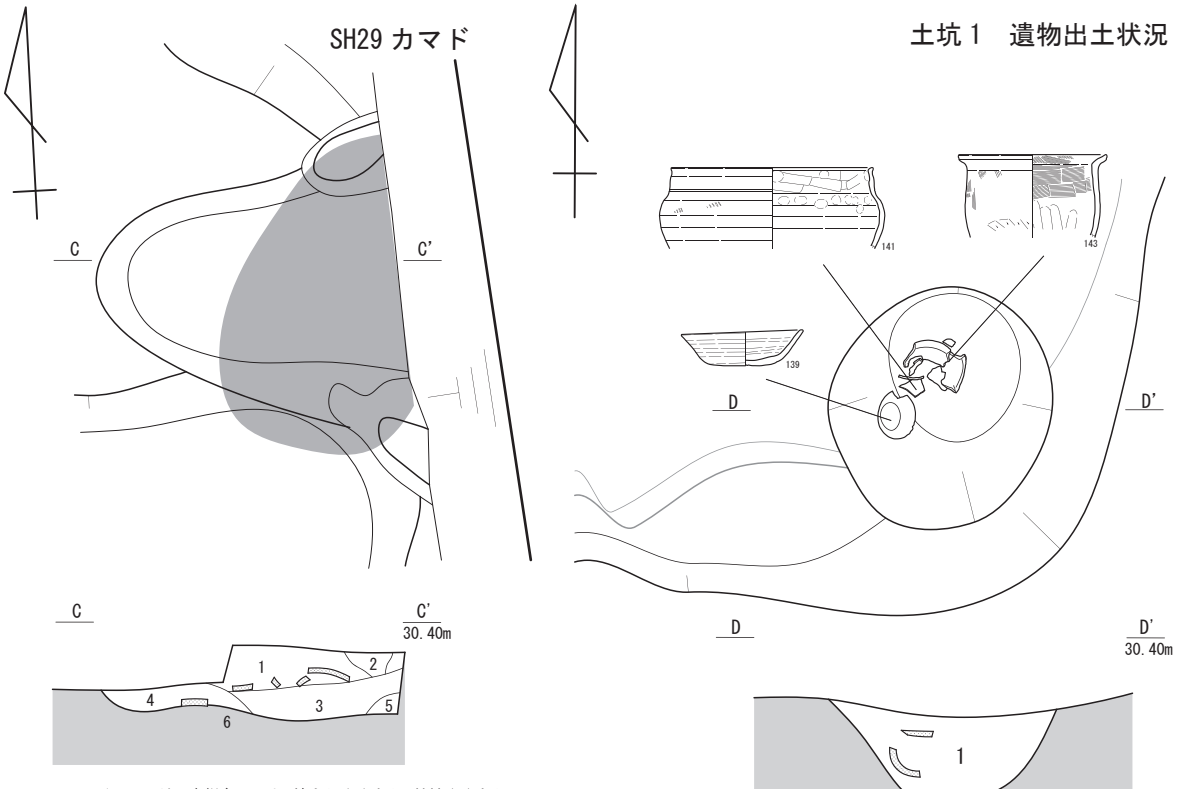
図 44　ＳＨ 26 カマド遺構図



1 10YR3/1 黒褐色シルト 締まりややあり 粘性ややあり 地山ブロック2%含む。炭化物をやや多く含む
2 10YR3/2 黒褐色シルト 締まりややあり 粘性ややあり 地山ブロック20%含む。炭化物をやや多く含む
3 10YR8/6 黄橙色シルト 締まり強い 粘性あり 黒褐色・褐色シルト30%含む。炭化物をやや多く含む（貼床）
4 10YR4/6 褐色粘質土 締まりややあり 粘性ややあり（地山）

図 45　ＳＨ 28 遺構図

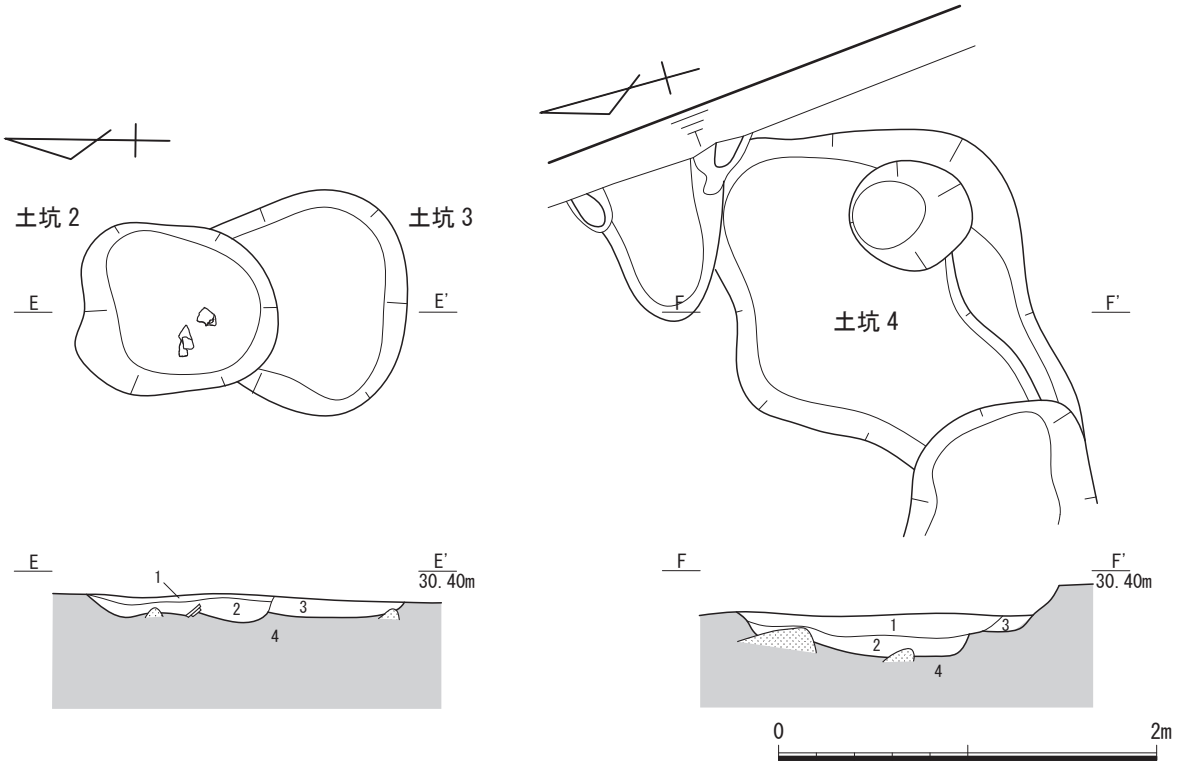




1 5YR5/4　にぶい赤褐色シルト 締まりややあり 粘性ややあり
地山・黒褐色シルト20%含む　焼土粒を30%含む　炭化物をやや多く含む
2 10YR4/1　褐灰色シルト　締まりややあり 粘性ややあり 地山5%含む
焼土粒を5%含む。炭化物を少量含む
3 10YR5/4　にぶい黄褐色シルト 締まりややあり 粘性ややあり
黒褐色シルト5%含む　焼土粒を10%含む　炭化物を少量含む
4 10YR3/3　暗褐色シルト　締まりややあり 粘性ややあり
地山・黒褐色シルト2%含む　焼土粒を2%含む　炭化物を少量含む
5 7.5YR5/3 にぶい褐色シルト　締まりややあり 粘性ややあり
黒褐色シルトブロック5%含む　焼土粒を5%含む　炭化物を少量含む
6 10YR4/6 褐色粘質土　締まりややあり　粘性ややあり（地山）

1 10YR3/1 黒褐色シルト 締まりややあり 粘性ややあり
地山2%含む　炭化物を少量含む
2 10YR4/6 褐色粘質土　締まりややあり　粘性ややあり（地山）

図 46　ＳＨ 28 カマド、土坑１遺構図



土坑２、土坑３

1 10YR2/1 黒色シルト 締まりややあり 粘性ややあり 褐色シルト20%含む
焼土粒を10%含む 炭化物をやや多く含む（土坑2）
2 10YR4/4 褐色シルト 締まりややあり 粘性ややあり 地山2%含む
焼土粒を5%含む 炭化物を少量含む（土坑2）
3 10YR4/4 褐色シルト 締まりややあり 粘性ややあり 地山2%
黒褐色シルト20%含む 焼土粒を10%含む。炭化物を少量含む（土坑3）
4 10YR4/6 褐色粘質土 締まりややあり 粘性ややあり（地山）

土坑４

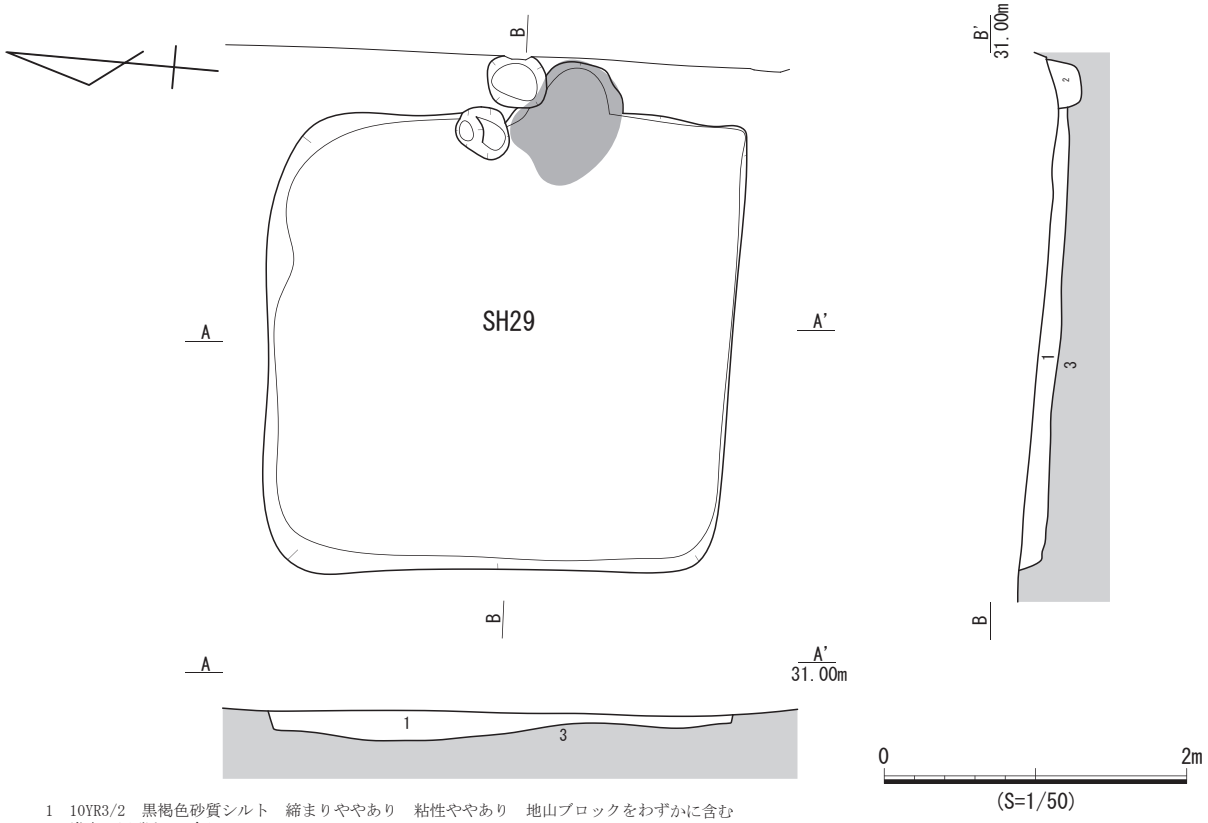
1 10YR4/2 灰黄褐色シルト 締まりややあり 粘性ややあり
地山ブロック・小ブロック40%含む。炭化物をやや多く含む
2 10YR3/1 黒褐色シルト 締まりややあり 粘性ややあり
地山ブロック・小ブロック10%含む 炭化物を少量含む
3 10YR3/2 黒褐色シルト 締まりややあり 粘性ややあり
地山ブロック20%含む 炭化物を少量含む
4 10YR4/6 褐色粘質土 締まりややあり 粘性ややあり（地山）

図 47 ＳＨ 28 土坑２・３、土坑４遺構図

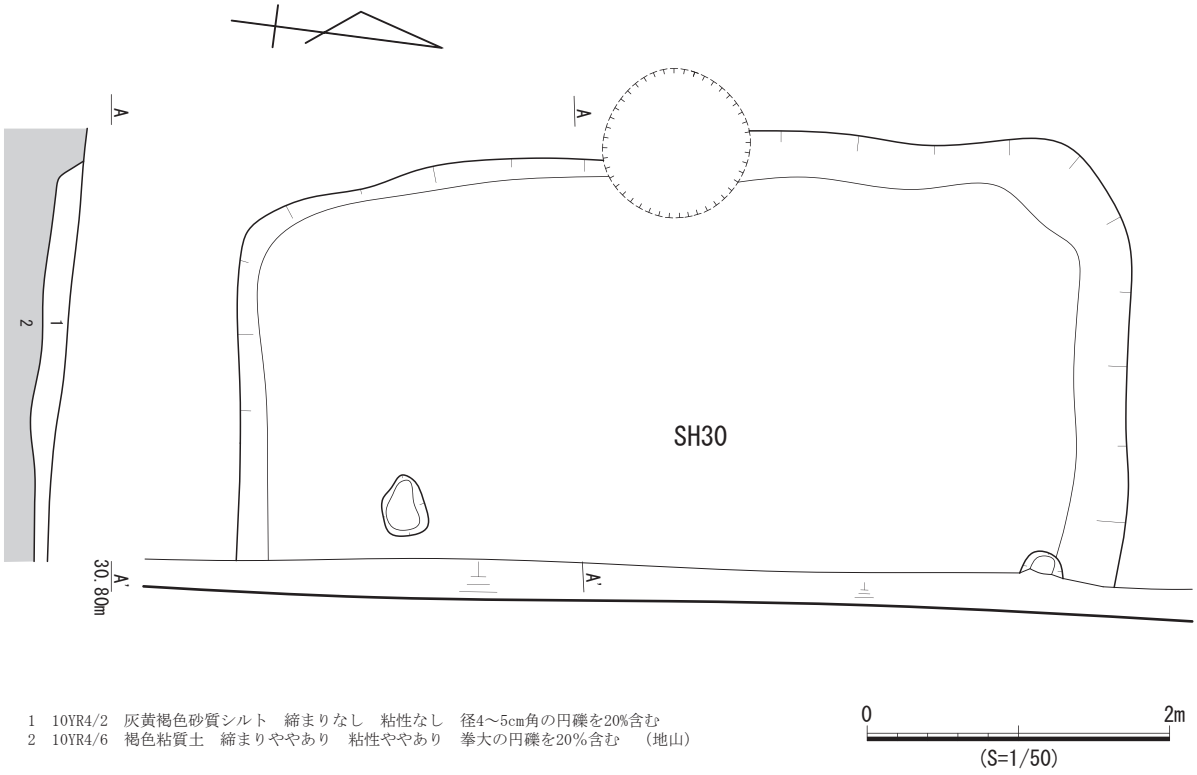
することができなかった。埋土から、須恵器の有台杯、甕など奈良時代前半の遺物が出土した。

ＳＨ 27（図 43） 調査区東の 24 0・P グリッドで検出した。重複するＳＨ 26 に大部分が切られる。南北 4.6 m、東西 4.3 mの略方形を呈する。検出面からの深さは約 20 ㎝である。カマドや壁周溝など建物に伴う施設は確認できなかった。埋土から、須恵器の長頸瓶や有台杯、土師器甕など奈良時代後半の遺物が出土した。

ＳＨ 28（図 45～47） 調査区東の 23～25 Q･R グリッドで検出した。東側は調査区外である。東西 5.1 m、南北 5.1 mの正方形を呈し、検出面からの深さは約 25 ㎝である。底面は全体的に窪みがあり、床面全体に黄褐色土を入れ、貼床を構築し水平になるよう整地している。床面中央は硬く踏み固められた硬化面となっていた。建物の東側では、貼床下土坑と考えられる不整形土坑（土坑４）を確認した。埋土は上層の灰黄褐色土と下層の黒褐色土に明確に分かれ、炭化物が多く含まれていた。建物東辺の中央ではカマドを検出した。カマドの中央部は調査区外で両袖の端部のみ確認できた。カマド前面では土師器の長胴甕が２個体出土した。南東隅で検出した円形の土坑（土坑 1）は貯蔵穴と考えられ､須恵器無台杯や鉢、土師器甕が出土した。その他に建物埋土からは、須恵器有台杯や土師器杯、土師器甕など奈良時代後半の遺物が出土した。



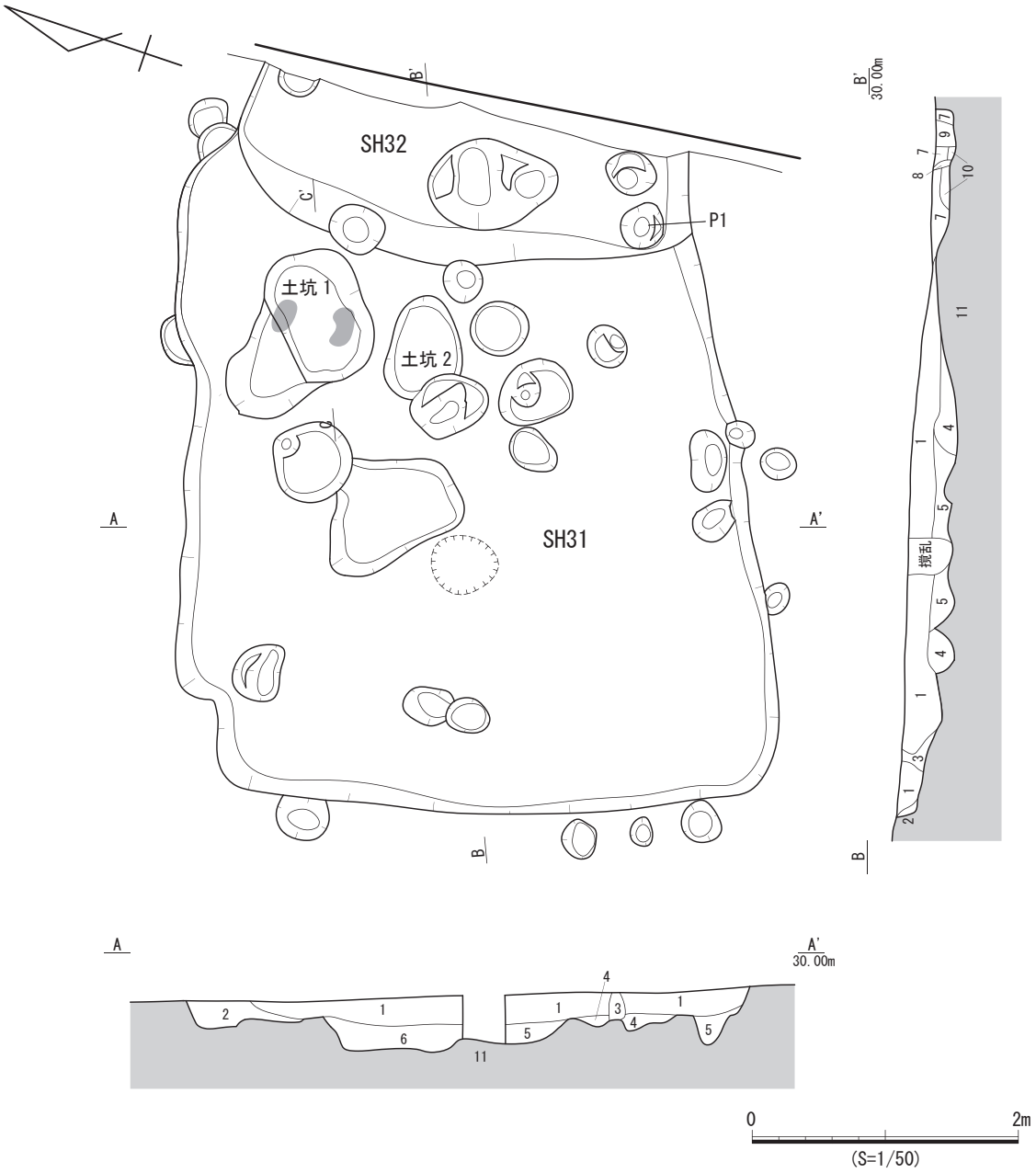
1　10YR3/2　黒褐色砂質シルト　締まりややあり　粘性ややあり　地山ブロックをわずかに含む
　　拳大の円礫を30%含む
2　10YR3/3　暗褐色砂質シルト　締まりややあり　粘性ややあり　地山ブロックを30%含む
3　10YR4/6　褐色粘質土　締まりややあり　粘性ややあり　拳大の円礫を20%含む（地山）



1　10YR4/2　灰黄褐色砂質シルト　締まりなし　粘性なし　径4～5cm角の円礫を20%含む
2　10YR4/6　褐色粘質土　締まりややあり　粘性ややあり　拳大の円礫を20%含む　（地山）

図 48　ＳＨ 29、ＳＨ 30 遺構図

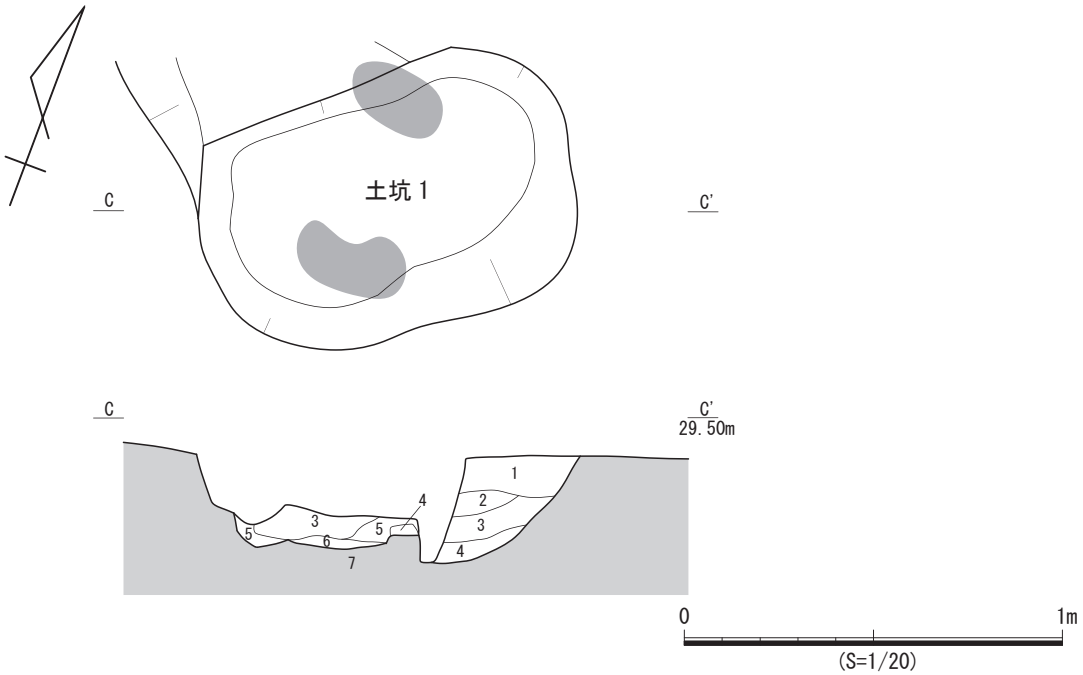
ＳＨ 29（図 48） 調査区東の 20・21 Ｐ・Ｑグリッドで検出した。東西 3.1ｍ、南北 3.1ｍで正方形を呈する。検出面からの深さは約 15 ㎝である。東辺中央でカマドの痕跡と考えられる焼土を確認したが、袖部等は残存しなかった。建物南側の床面上で刀子が出土した。埋土からは、奈良時代の土師器甕が出土した。



SH31
1　10YR4/2 灰黄褐色砂質シルト 締まりややあり 粘性ややあり 地山ブロックをわずかに含む 2.5YR5/8明赤褐色焼土をわずかに含む 炭化物を含む
2　10YR4/3 にぶい黄褐色砂質シルト 締まりややあり 粘性ややあり 地山ブロックをわずかに含む 径1～2cm以下の円礫をわずかに含む
3　10YR6/3 にぶい黄橙色粘質シルト 締まりややあり 粘性あり 地山ブロックを50%含む
4　10YR4/2 灰黄褐色砂質シルト 締まりややあり 粘性あり 地山ブロックを30%含む
5　10YR3/1 黒褐色砂質シルト 締まりややあり 粘性あり 地山ブロックをわずかに含む
6　10YR3/4 暗褐色砂質シルト　締まりややあり 粘性ややあり 地山ブロックを30%含む　炭化粒･焼土粒を含む

SH32
7　10YR4/2 灰黄褐色砂質シルト 締まりややあり 粘性ややあり 地山ブロックをわずかに含む 炭化粒･焼土粒を含む
8　10YR6/6 明黄褐色粘質シルト 締まり強い 粘性強い 径1～2cm以下の円礫をわずかに含む
9　10YR4/4 褐色砂質シルト　締まりややあり 粘性ややあり 地山ブロックをわずかに含む 2.5YR5/8明赤褐色焼土をわずかに含む
10　10YR5/4 にぶい黄褐色砂質シルト 締まりあり 粘性ややあり 地山ブロックをわずかに含む 炭化粒･焼土粒を含む
　径1～2cm以下の円礫わずかに含む
11　10YR4/6 褐色粘質土　締まり強い　粘性強い（地山）

図 49　ＳＨ 31、32 遺構図



1　10YR5/6　黄褐色粘質シルト　締まり強い　粘性あり　10YR3/1黒褐色シルトブロックを多量に含む　7.5YR7/6橙色砂質土ブロックを含む
2　7.5YR5/6　明褐色シルト　締まりややあり　粘性ややあり　10YR3/1黒褐色シルトブロックを多量に含む　7.5YR6/4にぶい橙色土粒を含む
3　10YR4/6　褐色粘質シルト　締まりあり　粘性あり　7.5R3/6暗赤色シルトブロックを多量に含む　10YR3/1黒褐色シルトブロックをわずかに含む
4　10YR6/8　明黄褐色シルト　締まりややあり　粘性ややあり
5　10YR3/3　暗褐色粘質シルト　締まりあり　粘性あり　2.5YR5/8明赤褐色焼土をわずかに含む
6　5YR4/4　にぶい赤褐色粘質シルト　締まりあり　粘性あり
7　10YR4/6　褐色粘質土　締まりあり　粘性あり（地山）

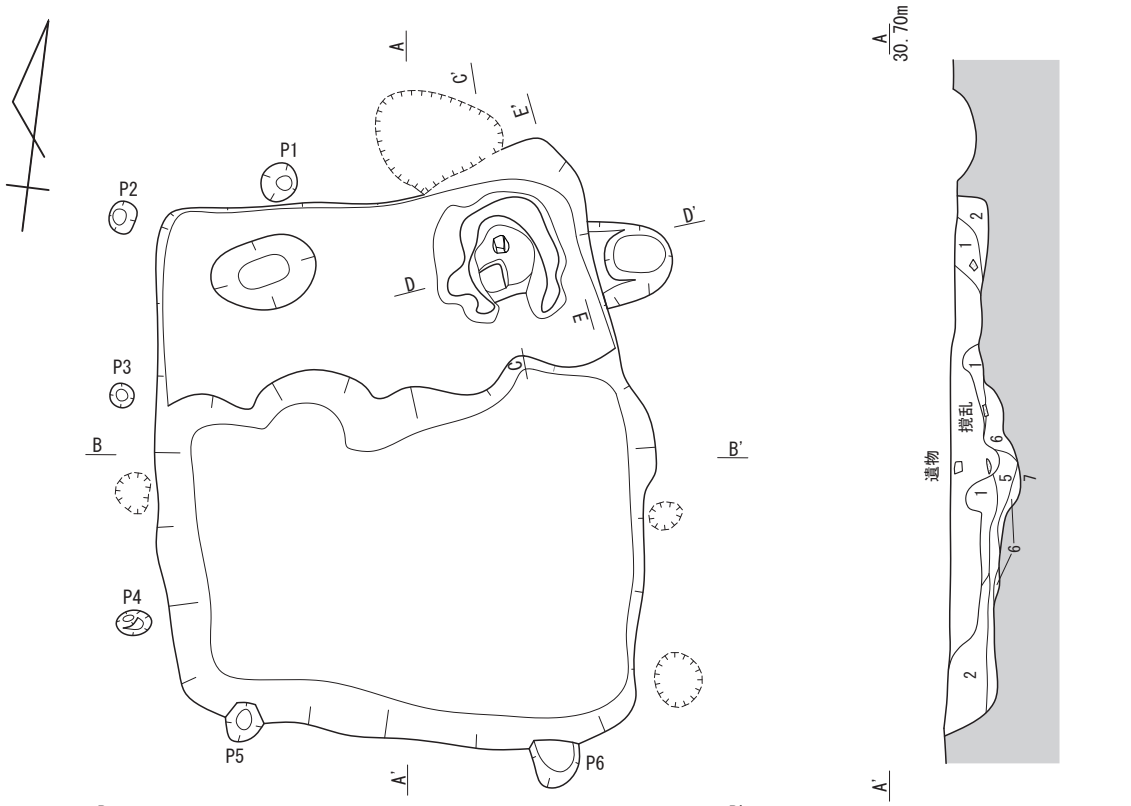
図 50　ＳＨ 31 土坑１遺構図

ＳＨ 30（図 48）　調査区東の 16・17 Ｐ・Ｑグリッドで検出した。東側は調査区外に続く。南北 5.9 ｍ、東西 2.9 ｍ以上で、長方形を呈すると考えられる。検出面からの深さは約 20 ㎝である。壁溝やカマドなど建物に伴う施設は検出されなかった。埋土から土師器甕の小片や須恵器片など古代の遺物が出土したが、小片のため図示できるものはなかった。

ＳＨ 31、32（図 49、50）　調査区北側の９・10 ０～Ｑグリッドで検出した。２棟の建物が重複する。

ＳＨ 31 は、南北 4.3 ｍ、東西 4.2 ｍ以上の方形を呈する。検出時の段階で、西側にもう一棟、別の建物が切り合う可能性を想定したが、土層断面上で明確な切り合いは認められなかった。検出面からの深さは 20 ～ 30 ㎝で、床面の中央が擂鉢状に浅く窪む。壁周溝やカマドなど建物に付属する施設は確認できなかった。建物東側で検出した土坑１は、埋土に焼土が含まれていた。建物埋土からの出土遺物は、須恵器有台杯、無台杯、土師器甕や甑など奈良時代前半の遺物が出土した。

ＳＨ 32 はＳＨ 31 を切る建物で、南北 3.5 ｍ、東西 1.2 ｍ以上の規模と推定される。検出面からの深さは 15 ㎝である。大部分が調査区外であるため、建物に付属する施設の詳細は不明である。埋土から須恵器盤や土師器甕など奈良時代後半の遺物が出土した。



1　10YR3/1　黒褐色砂質シルト　締りややあり　粘性ややあり　地山ブロックを30%含む
2　10YR4/4　褐色砂質シルト　締りややあり　粘性ややあり　地山ブロックを30%含む　炭化物を含む
3　7.5YR6/4　にぶい橙色粘質シルト　締りややあり　粘性あり　2.5YR5/8明赤褐色焼土をわずかに含む　炭化物を含む
4　7.5YR6/4　にぶい橙色粘質シルト　締りややあり　粘性あり　地山ブロックをわずかに含む
　2.5YR5/8　明赤褐色焼土をわずかに含む　炭化物を含む
5　10YR2/1　黒色シルト　締りなし　粘性なし　地山ブロックをわずかに含む
6　10YR7/6　明黄褐色粘質シルト　締りあり　粘性強い　径1～2cm以下の円礫をわずかに含む
7　10YR4/6　褐色粘質土　　締りややあり　粘性ややあり（地山）

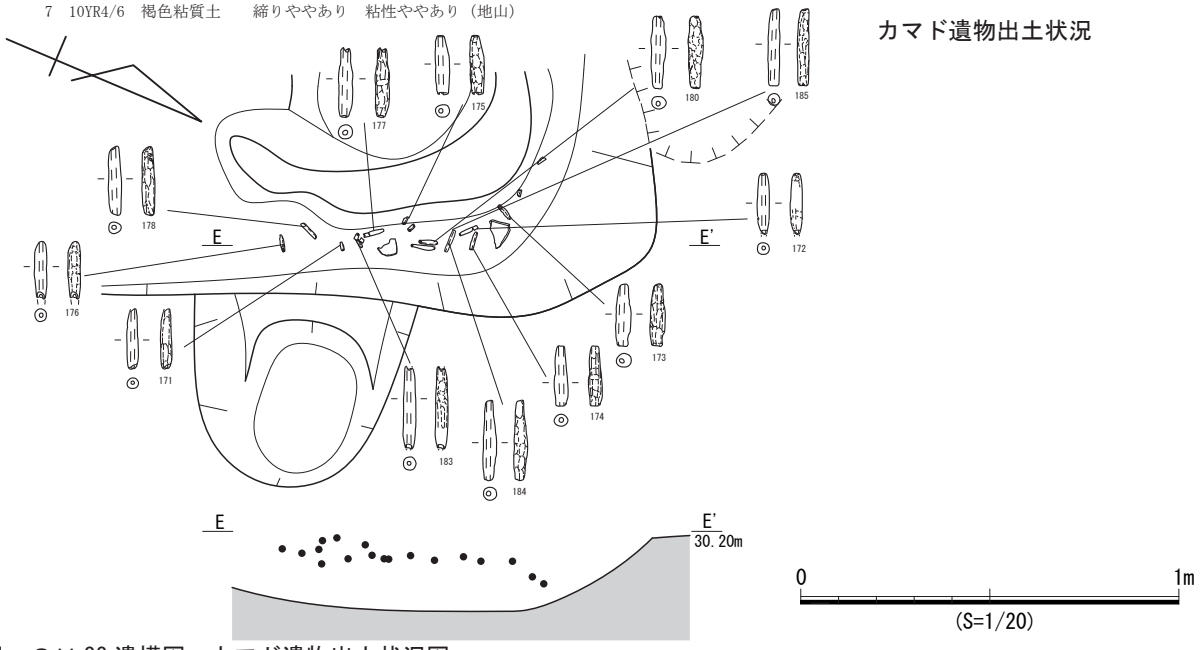
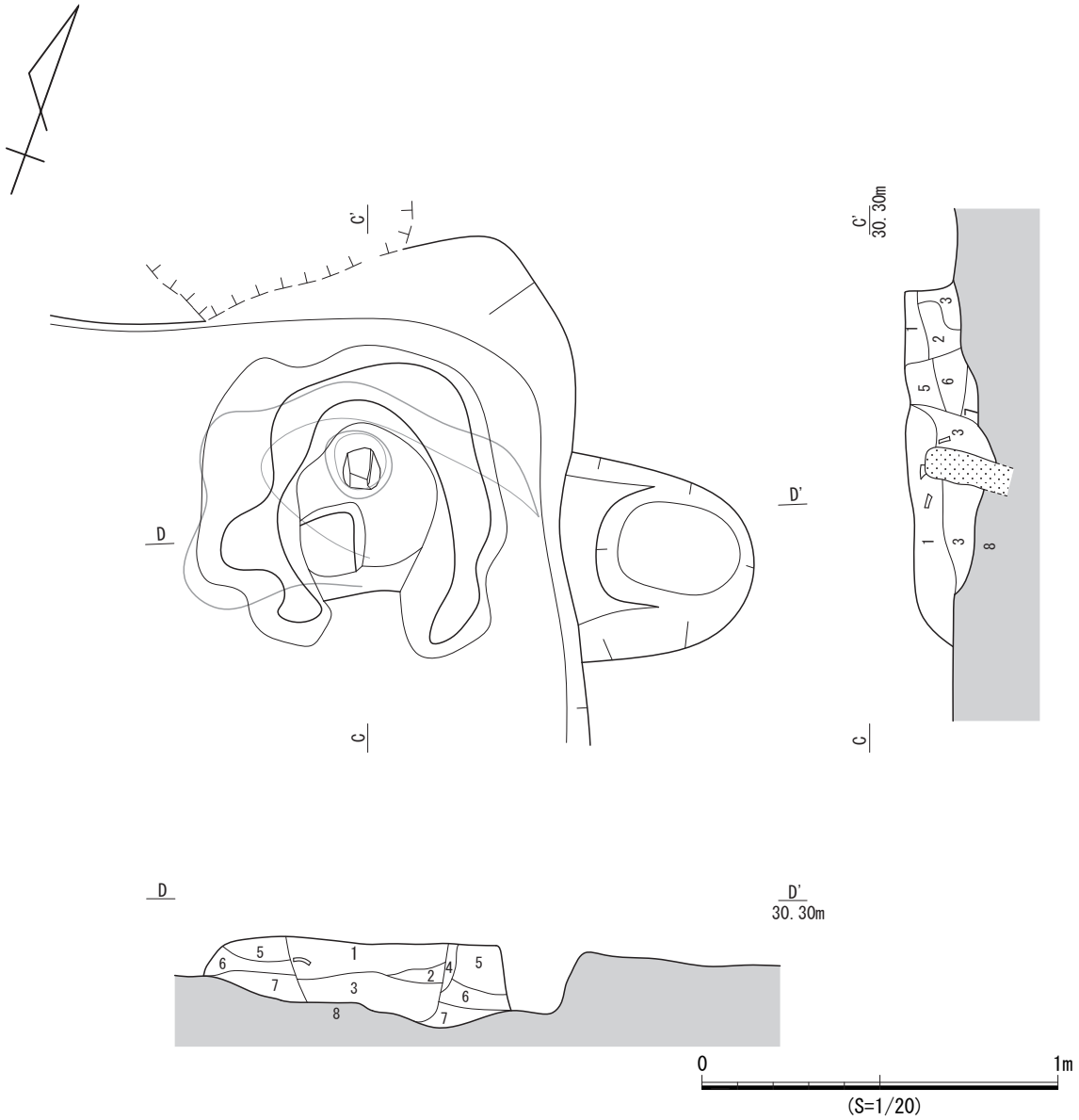


図 51　ＳＨ 33 遺構図、カマド遺物出土状況図



1　7.5YR4/3　褐色砂質シルト　締りややあり　粘性ややあり　7.5YR7/6橙色砂質土ブロックを含む　2.5YR5/8明赤褐色焼土を多量に含む
2　7.5YR3/4　暗褐色砂質シルト　締りややあり　粘性ややあり　2.5YR5/8明赤褐色焼土をわずかに含む
3　10YR3/4　暗褐色砂質シルト　締りややあり　粘性ややあり　炭化粒･焼土粒を含む
4　5YR6/6　橙色砂質シルト　締り強い　粘性なし　径3～4cm以下の円礫を含む
5　10YR4/4　褐色砂質シルト　締りあり　粘性ややあり　2.5YR5/8明赤褐色焼土を多量に含む　径1～2cm以下の円礫をわずかに含む
6　10YR4/6　褐色砂質シルト　締りあり　粘性ややあり　炭化粒･焼土粒を含む
7　10YR3/2　黒褐色砂質シルト　締りややあり　粘性あり　地山ブロックを30%含む
8　10YR4/6　褐色粘質土　締りややあり　粘性ややあり（地山）

図 52　ＳＨ 33 カマド遺構図

ＳＨ 33（図 51、52）　調査区北側の９・10 Ｍ・Ｎグリッドで検出した。南北 3.5 ｍ、東西 3.2 ｍのやや歪な長方形を呈する。検出面からの深さは 40 ㎝ほどで、建物北側は南側に比べ 20 ㎝ほどの高く、床面を棚状に掘り残している。建物外周では、竪穴を囲む小穴を確認した。間隔はやや不揃いで、小穴の大きさは直径 20 ～ 30 ㎝、深さは 20 ㎝ほどである。竪穴外柱穴の可能性がある。建物の北東隅では、カマドを検出した。両袖部は良好に残存し、褐色粘土を用いて袖部を構築している。カマド中央では、支柱石を確認した。カマド袖部の近くで、床面よりやや上面で 20 点近くの土錘が集中して出土した。埋土から、土師器杯や皿、甕など奈良時代後半の遺物が出土した。

b.　掘立柱建物

ＳＢ１（図 53、54）　調査区南西の 49・50 Ｅ・Ｆグリッドで検出した。桁行３間、梁行２間の東西棟の側柱建物である。棟方向はＮ７°Ｅである。柱通りがやや悪く、桁行の北側柱列の柱穴Ｐ７とＰ８は柱筋の軸線より若干ずれた位置にある。柱間は、桁行が 1.8 ｍの等間、梁行は 2.1 ｍの等間となっている。柱穴の大きさにばらつきがあるが、長さ 0.4 ～ 0.6 ｍの長楕円形を呈する。柱穴Ｐ５で柱痕跡を確認したが､他のものは柱抜取痕と推定されるものが多い。柱穴Ｐ４から須恵器長頸瓶､Ｐ５とＰ８からは､須恵器杯が出土した。いずれも奈良時代後半のものである。

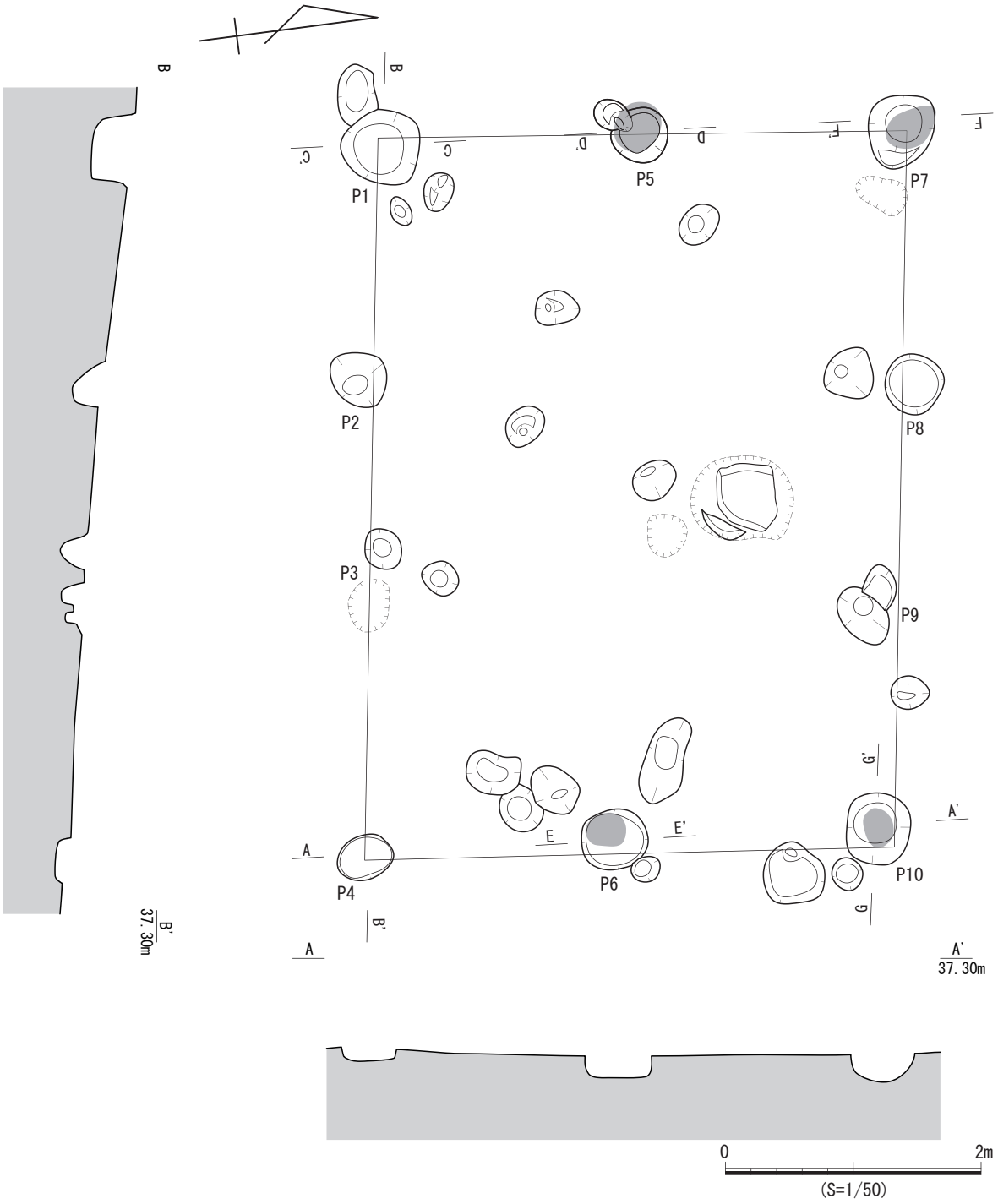
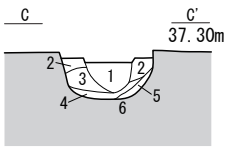
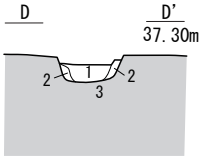


図 53　ＳＢ１遺構図（１）



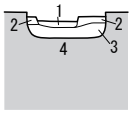
P1

1 10YR2/3 黒褐色砂質シルト 締まりややあり
粘性ややあり 炭化物を含む
2 10YR3/2 黒褐色砂質シルト 締まりややあり 粘性ややあり
地山ブロックをわずかに含む炭化物を含む
3 10YR3/3 暗褐色粘質シルト 締まりややあり 粘性あり
地山ブロックを30%含む
4 10YR4/3 にぶい黄褐色粘質シルト 締まりややあり 粘性あり
地山ブロックを30%含む
5 10YR4/4 褐色粘質シルト 締まりややあり 粘性あり
地山ブロックを多量に含む
6 10YR4/6 褐色粘質土 締まりややあり 粘性ややあり
拳大の円礫を20%含む（地山）



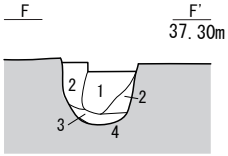
P5

1 10YR3/3 暗褐色砂質シルト 締まりややあり 粘性なし
地山ブロックをわずかに含む
2 10YR4/2 灰黄褐色粘質シルト 締まりあり 粘性ややあり
地山ブロックを30%含む
径1～2cm以下の円礫をわずかに含む



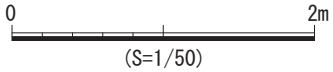
P6

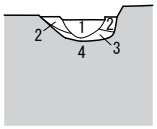
1 10YR3/2 黒褐色砂質シルト 締まりややあり
粘性ややあり 炭化物を含む
2 10YR3/2 黒褐色粘質シルト 締まりややあり
粘性ややあり 炭化粒･焼土粒を含む
3 10YR4/3 にぶい黄褐色粘質シルト 締まりあり 粘性ややあり
地山ブロックを多量に含む
4 10YR4/6 褐色粘質土 締まりややあり 粘性ややあり
拳大の円礫を20%含む（地山）



P7

1 10YR3/2 黒褐色砂質シルト 締まりなし 炭化物を含む
粘性ややあり 炭化粒･焼土粒を含む
2 10YR3/3 暗褐色砂質シルト 締まりややあり 粘性ややあり
地山ブロックを30%含む
3 10YR4/3 にぶい黄褐色粘質シルト 締まりあり粘性あり
径1～2cm以下の円礫をわずかに含む
地山ブロックを50%含む
径1～2cm以下の円礫をわずかに含む
4 10YR4/6 褐色粘質土 締まりややあり 粘性ややあり
拳大の円礫を20%含む（地山）



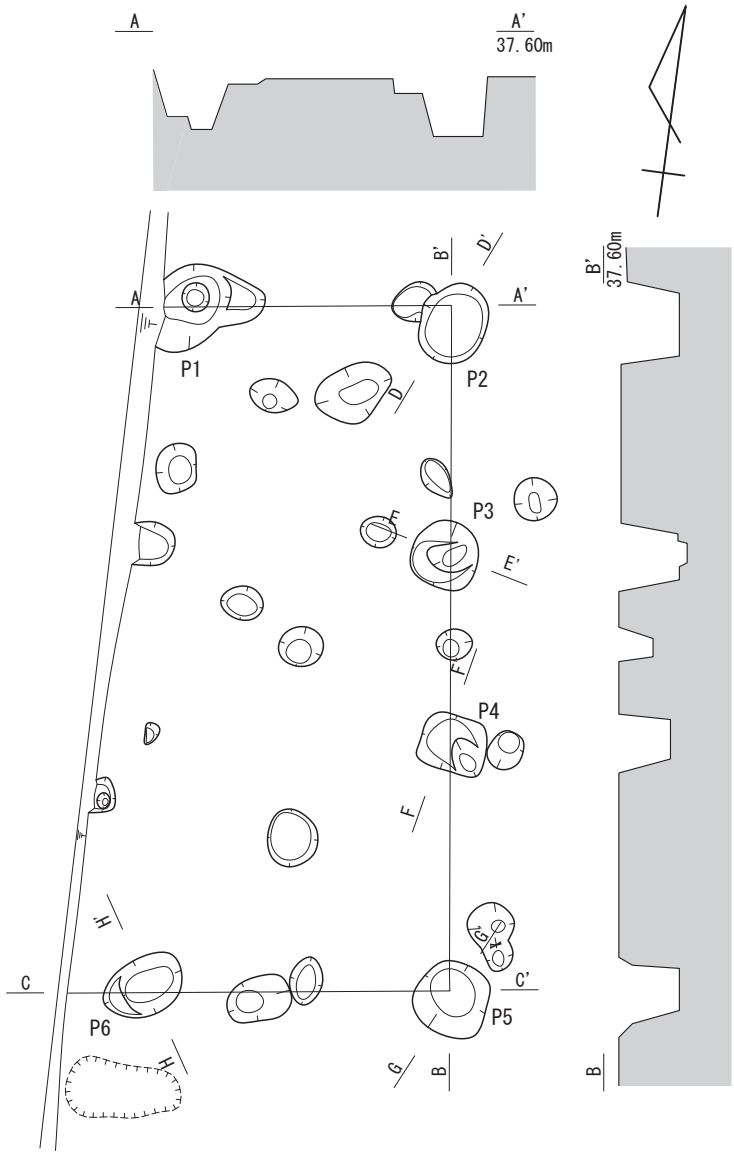


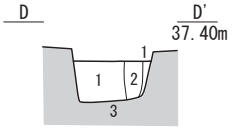
P10

1 10YR3/1 黒褐色砂質シルト 締まりややあり 粘性なし
地山ブロックをわずかに含む 炭化物含む
2 10YR3/3 暗褐色粘質シルト 締まりややあり 粘性ややあり
地山ブロックを30%含む　炭化粒･焼土粒を含む
3 10YR4/3 にぶい黄褐色粘質シルト 締まりあり 粘性あり
地山ブロックを多量に含む
4 10YR4/6 褐色粘質土 締まりややあり 粘性ややあり
拳大の円礫を20%含む（地山）

図 54　ＳＢ１遺構図（２）

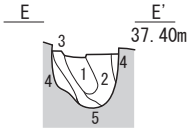
ＳＢ２（図 55） 調査区南西の 49・50 C・D グリッドで検出した。桁行３間、梁行２間以上の南北棟の側柱建物と推定される。建物の西側は調査区外である。棟方向はＮ８°Ｗである。柱間は、桁行の中央の１間分が狭く、1.65ｍ、1.2ｍ、1.65ｍとなっている。梁行は 2.5m 以上である。柱穴は一辺が 0.4～0.5ｍの略方形を呈するものが多い。柱穴Ｐ１については柱痕跡の可能性があるが、他は柱抜取痕と思われるものが多い。柱穴Ｐ６やＰ５で土師器甕の小片が出土した。詳細な時期は不明であるが、古代以降の建物と考えられる。





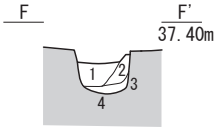
P2

1 10YR3/3 暗褐色砂質シルト 締りなし 粘性ややあり
地山ブロックを30%含む 炭化粒･焼土粒を含む
2 10YR2/2 黒褐色砂質シルト 締りなし 粘性なし
地山ブロックをわずかに含む
3 10YR4/6 褐色粘質土 締りややあり 粘性ややあり
（地山）



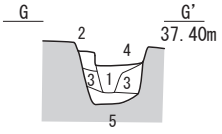
P3

1 10YR3/4 暗褐色砂質シルト 締りややあり
粘性ややあり 地山ブロックを多量に含む
2 10YR3/3 暗褐色砂質シルト 締りややあり
粘性ややあり 地山ブロックを30%含む
炭化粒･焼土粒を含む
3 10YR2/3 黒褐色砂質シルト 締りなし 粘性ややあり
地山ブロックを30%含む
4 10YR2/2 黒褐色砂質シルト 締りなし 粘性なし
地山ブロックをわずかに含む
5 10YR4/6 褐色粘質土 締りややあり 粘性ややあり
（地山）



P4

1 10YR4/4 褐色砂質シルト 締りあり 粘性ややあり
地山ブロックを50%含む
2 10YR3/4 暗褐色砂質シルト 締りややあり
粘性ややあり 地山ブロックを30%含む
炭化粒・焼土粒を含む
3 10YR2/3 黒褐色砂質シルト 締りなし 粘性ややあり
地山ブロックをわずかに含む
4 10YR4/6 褐色粘質土 締りややあり 粘性ややあり
（地山）



P5

1 10YR2/3 黒褐色砂質シルト 締りなし 粘性ややあり
地山ブロックをわずかに含む
2 10YR4/2 灰黄褐色砂質シルト 締りややあり
粘性ややあり 地山ブロックを50%含む
3 10YR4/4 褐色砂質シルト 締りあり 粘性ややあり
地山ブロックを多量に含む
4 10YR3/2 黒褐色シルト 締りあり 粘性ややあり
地山ブロックを多量に含む
5 10YR4/6 褐色粘質土 締りややあり 粘性ややあり
（地山）

P6

1 10YR2/3 黒褐色砂質シルト 締りややあり 粘性ややあり
2 10YR3/2 黒褐色砂質シルト 締りややあり 粘性なし
地山ブロックを多量に含む
3 10YR2/3 黒褐色砂質シルト 締りややあり 粘性ややあり
地山ブロックをわずかに含む
4 10YR4/6 褐色粘質土 締りややあり 粘性ややあり
拳大の円礫を20%含む（地山）

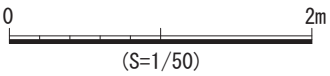
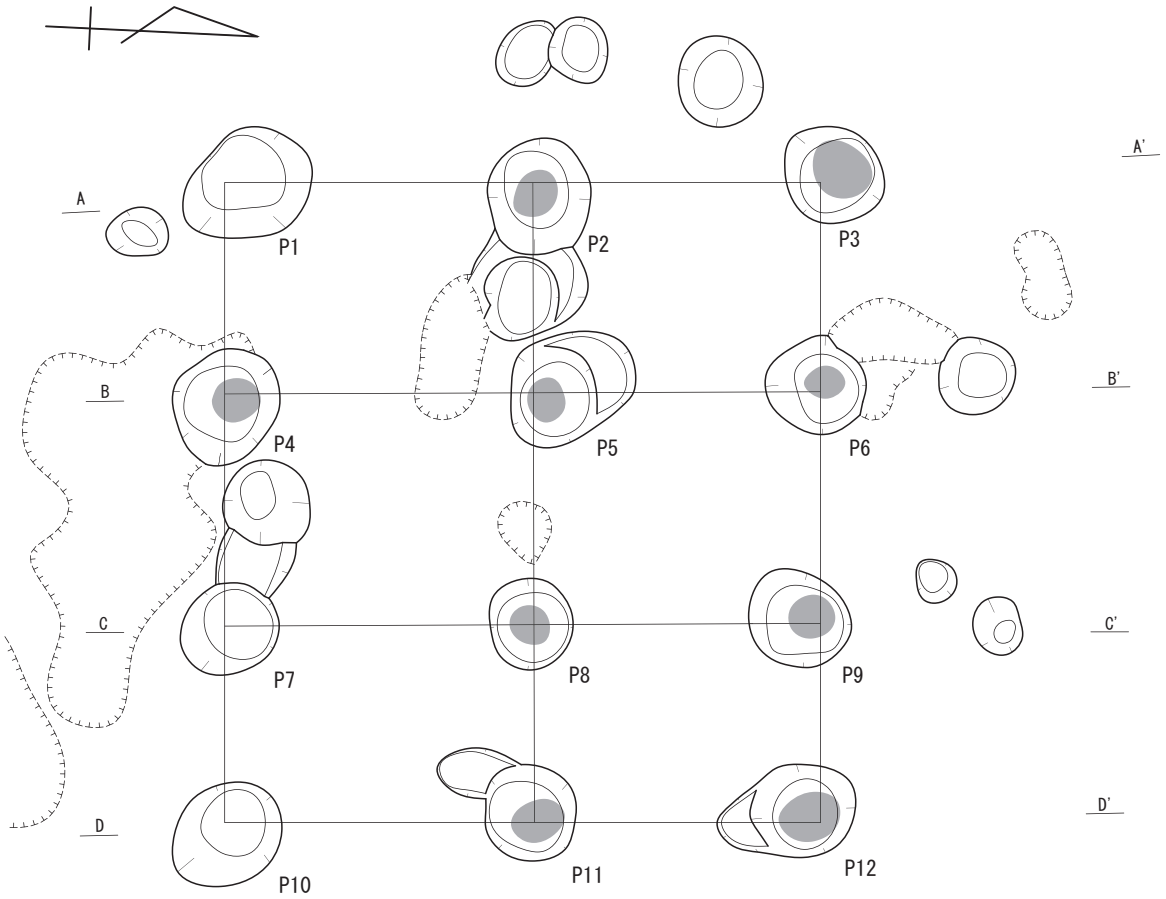
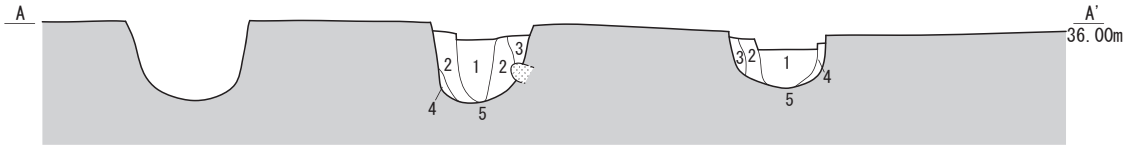


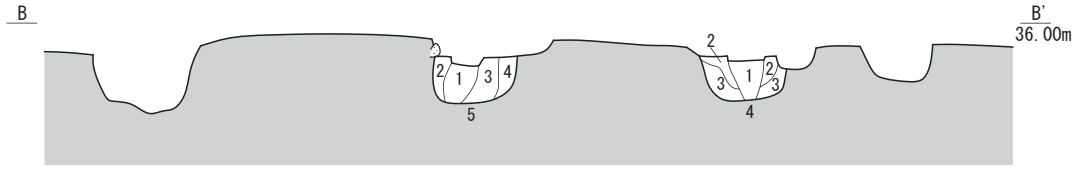
図 55 ＳＢ２遺構図





P2
1　10YR2/3　黒褐色砂質シルト　締まりややあり　粘性なし
2　10YR2/3　黒褐色砂質シルト　締まりややあり　粘性ややあり
　地山ブロックをわずかに含む
3　10YR2/2　黒褐色砂質シルト　締まりややあり　粘性ややあり
4　10YR2/1　黒色砂質シルト　締まりややあり　粘性あり
　地山ブロックを50%含む
5　10YR4/6　褐色粘質土　締まりややあり　粘性ややあり
　拳大の円礫を20%含む（地山）

P3
1　10YR2/3　黒褐色砂質シルト　締まりややあり　粘性なし
2　10YR4/2　灰黄褐色砂質シルト　締まりややあり　粘性ややあり
　地山ブロックを多量に含む
3　10YR3/2　黒褐色砂質シルト　締まりややあり　粘性あり
　径1～2cm以下の円礫をわずかに含む
4　10YR3/2　黒褐色砂質シルト　締まりややあり　粘性ややあり
　地山ブロックを30%含む
5　10YR4/6　褐色粘質土　締まりややあり　粘性ややあり
　拳大の円礫を20%含む（地山）



P5
1　10YR2/3　黒褐色砂質シルト　締まりややあり　粘性なし
　地山ブロックをわずかに含む
2　10YR4/2　灰黄褐色砂質シルト　締まりややあり　粘性ややあり
　地山ブロックを多量に含む
3　10YR2/2　黒褐色砂質シルト　締まりややあり　粘性あり
4　10YR2/2　黒褐色砂質シルト　締まりややあり　粘性なし
　地山ブロックをわずかに含む
5　10YR4/6　褐色粘質土　締まりややあり　粘性ややあり
　拳大の円礫を20%含む（地山）

P6
1　10YR3/2　黒褐色砂質シルト　締まりややあり　粘性なし
　地山ブロックをわずかに含む
2　10YR2/3　黒褐色砂質シルト　締まりややあり　粘性ややあり
　地山ブロックをわずかに含む
3　10YR2/2　黒褐色砂質シルト　締まりややあり　粘性あり
　地山ブロックを30%含む
4　10YR4/6　褐色粘質土　締まりややあり　粘性ややあり
　拳大の円礫を20%含む（地山）

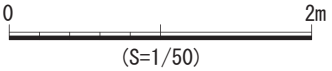


図56　ＳＢ３遺構図（１）

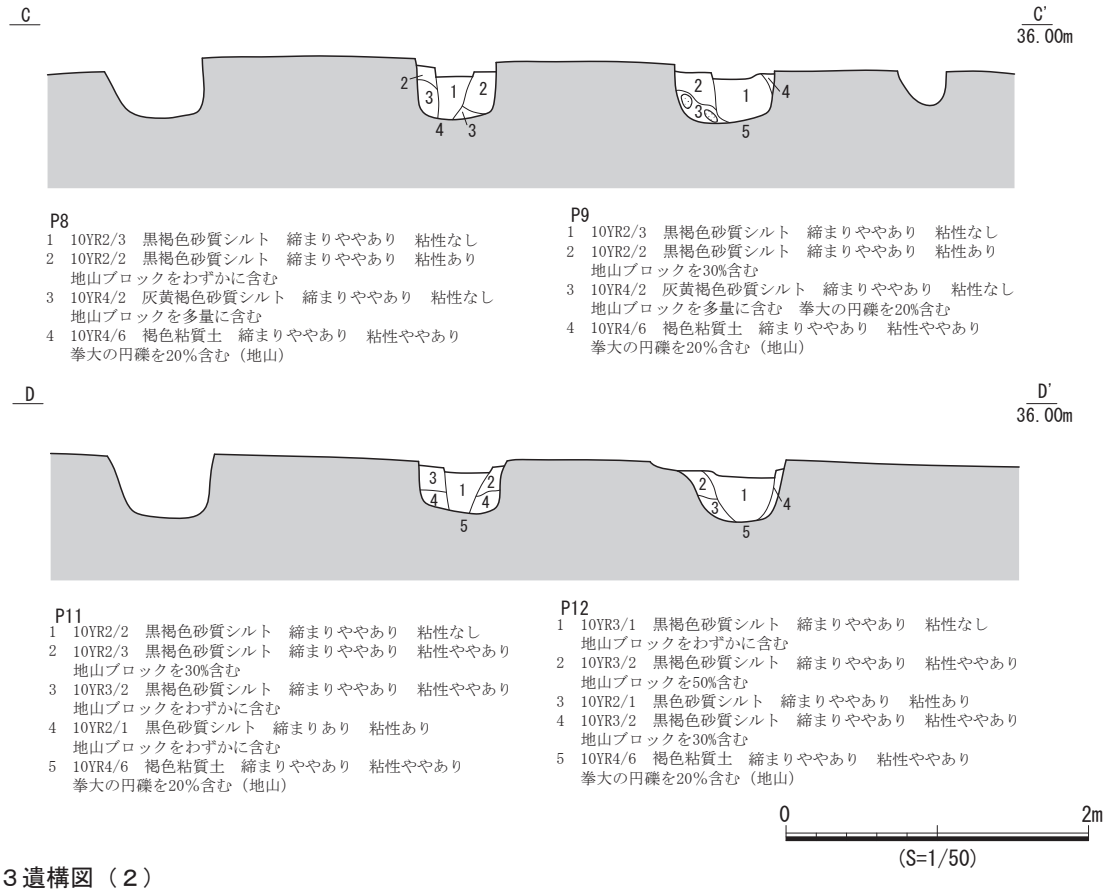


図57　ＳＢ３遺構図（２）

ＳＢ３（図56、57）　調査区南西の45～47 H・Ｉグリッドで検出した。桁行３間、梁行２間の東西棟の総柱建物である。棟方向はＥ３°Ｎである。柱間は、桁行が1.4ｍの等間、梁行が1.8ｍの等間となっている。柱穴は長さ0.8ｍの円形で、比較的大きいものである。一部、柱痕跡が不明な柱穴があるが、大半で柱痕跡を確認した。柱痕跡は径20～30㎝の規模である。柱穴から、土師器片や須恵器片、須恵器甕などが出土しており、古代の建物と考えられる。図示できる遺物はなかった。

ＳＢ４（図58）　調査区中央の37～39 Q～Rグリッドで検出した。桁行３間、梁行２間の南北棟の側柱建物である。棟方向はＮ13°Ｗである。桁行の西側柱列や梁行の南側柱列は、耕作時の攪乱で壊され、残存しなかった。柱間は、桁行の北側１間分が広く、1.8ｍ、1.4ｍ、1.4ｍとなっている。梁行は1.8ｍの等間である。柱穴は、長さ0.5～0.7ｍの長楕円形を呈する。柱痕跡は確認したＰ５で、直径10㎝ほどであった。柱穴から出土遺物がなく、詳細な時期は不明である。

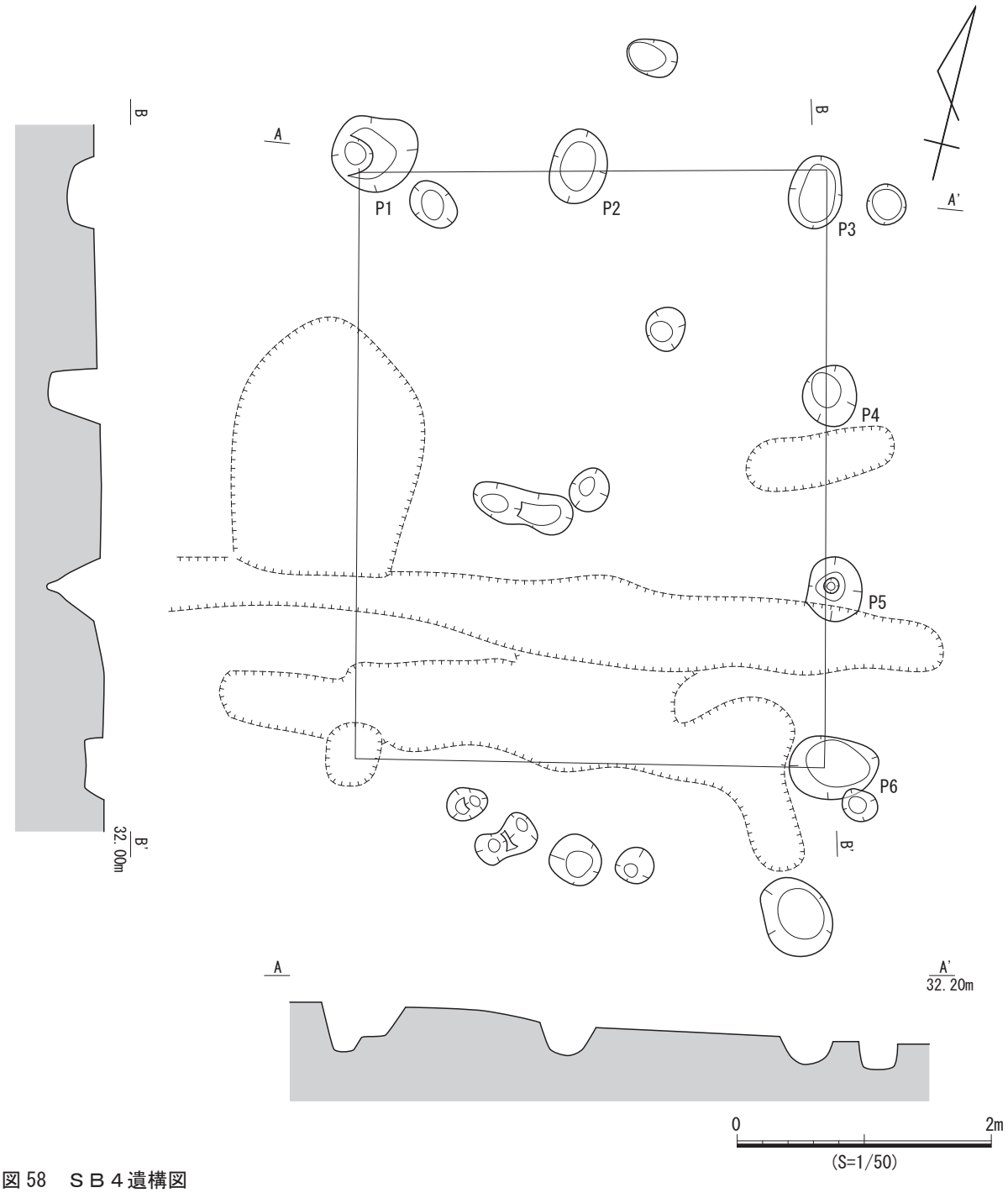


図 58　ＳＢ４遺構図

ＳＢ５（図 59）　調査区中央の 37 ～ 39 M･N グリッドで検出した。西側は調査区外である。桁行３間、梁行２間以上の南北棟の側柱建物と推定される。棟方向はＮ 29°　Ｅである。建物の柱通りがやや悪いが、柱間は、桁行が北から 2.1 ｍ、2.1 ｍ、2.8 ｍとなる。南側の１間分が広い。梁行は 1.6 ｍとなる。柱穴の大きさは不揃いで、径 0.3 ～ 0.5 ｍの不整円形となる。柱穴から出土遺物がなく、詳細な時期は不明である。

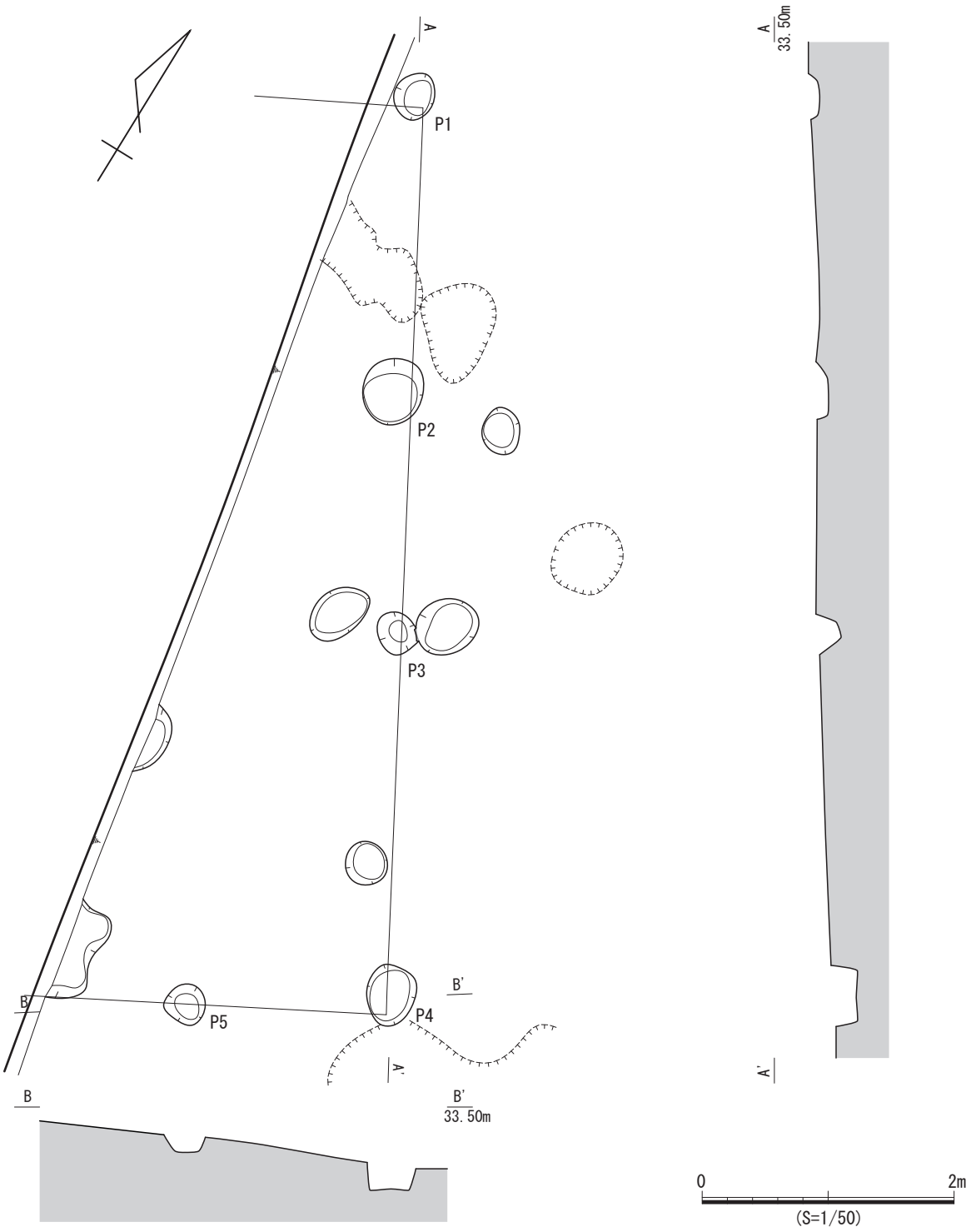
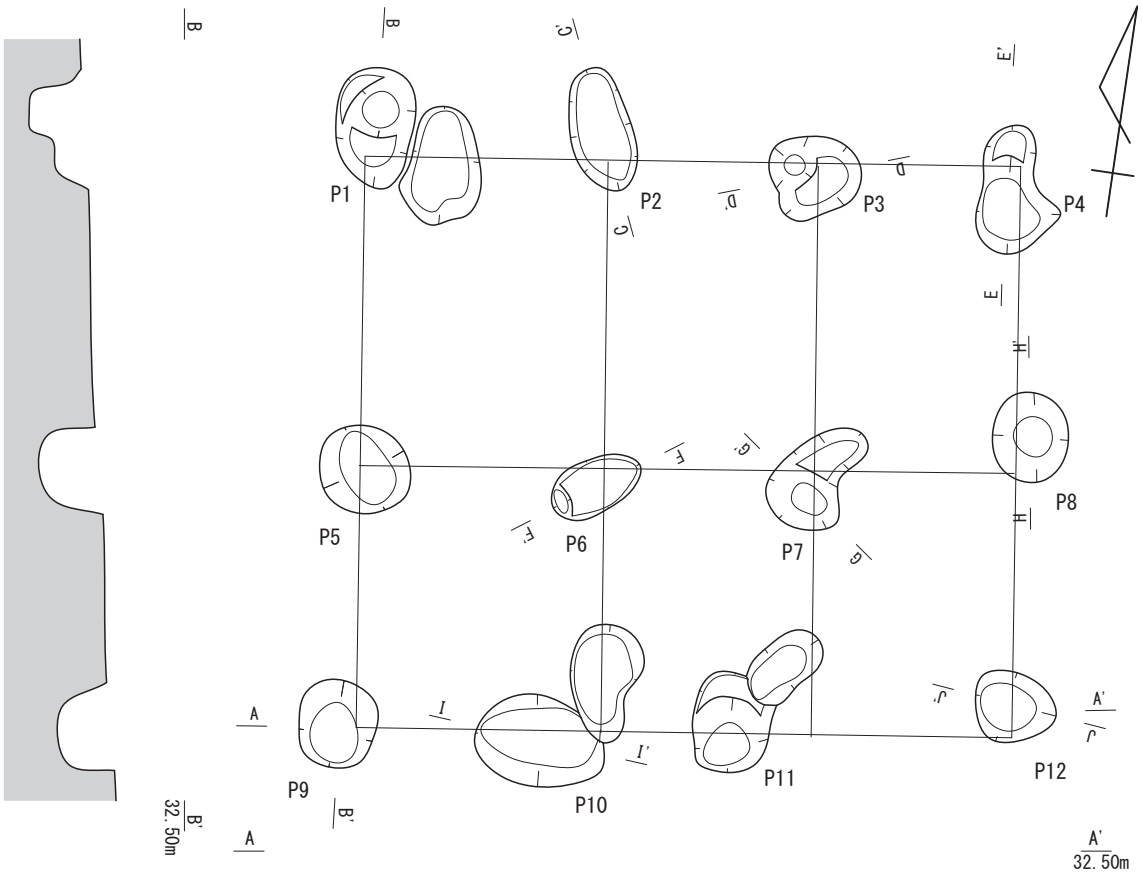
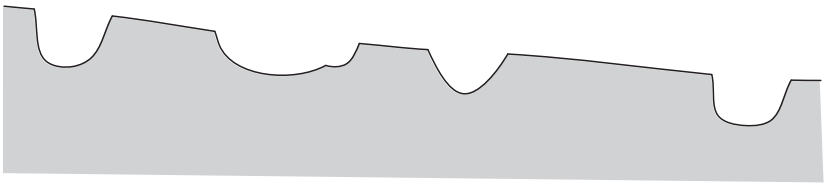
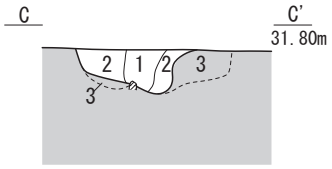


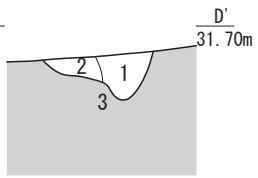
図 59　ＳＢ５遺構図



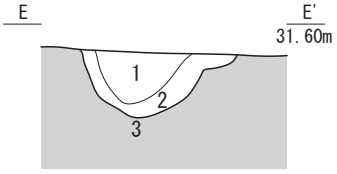




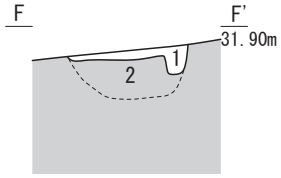
P2
1 7.5YR6/3 にぶい褐色砂質シルト
締まりややあり 粘性あり
10YR3/1 黒褐色シルトブロックを多量に含む
2 10YR3/3 暗褐色砂質シルト
締まりややあり 粘性ややあり
地山ブロックをわずかに含む
3 10YR4/6 褐色粘質土 締まりあり
粘性あり（地山）



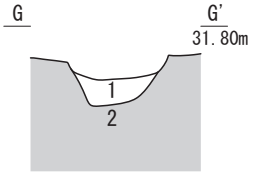
P3
1 10YR3/3 暗褐色砂質シルト
締まりややあり 粘性ややあり
地山ブロックを30%含む
2 10YR3/4 暗褐色砂質シルト 締まりややあり
粘性あり 地山ブロックを50%含む
3 10YR4/6 褐色粘質土 締まりややあり
粘性ややあり（地山）



P4
1 10YR3/1 黒褐色砂質シルト 締まりややあり
粘性ややあり 地山ブロックをわずかに含む
2 10YR4/3 にぶい黄褐色砂質シルト 締まりややあり
粘性ややあり 地山ブロックを50%含む
3 10YR4/6 褐色粘質土 締まりややあり
粘性ややあり（地山）



P6
1 10YR3/3 暗褐色砂質シルト 締まりややあり
粘性ややあり 地山ブロックを30%含む
2 10YR4/6 褐色粘質土 締まりややあり
粘性ややあり（地山）



P7
1 10YR4/2 灰黄褐色砂質シルト 締まりややあり
粘性ややあり 地山ブロックを30%含む
2 10YR4/6 褐色粘質土 締まりややあり
粘性ややあり（地山）

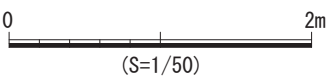


図 60 ＳＢ６遺構図（１）

ＳＢ６（図 60、61） 調査区中央の 31 ～ 32 Ｎ～０グリッドで検出した。桁行３間、梁行２間の東西棟の総柱建物としたが、全体的に柱通りが悪い。棟方向はＥ 13° Ｓである。柱間は、桁行が不揃いで、相対する柱間が一致しない。東側桁行については著しく不等間である。梁行の柱間については、1.8ｍの等間と推定される。柱穴は長さ 50 ～ 60 ㎝の長楕円形のものが多い。柱穴の断面で柱抜取痕と推定されるものが一部見られるが、明確な柱痕跡は確認できなかった。柱穴から出土遺物がないため、詳細な時期は不明である。

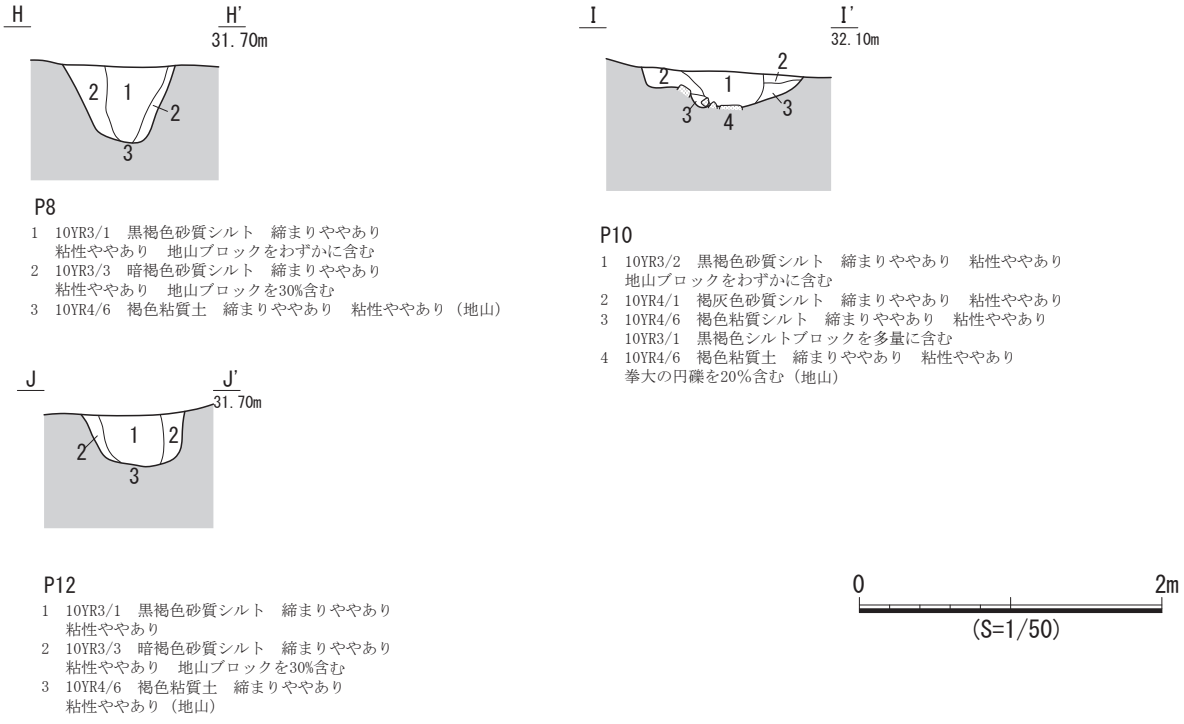


図 61 ＳＢ６遺構図（２）

ＳＢ７（図 62） 調査区北東の３～４ Ｕ～Ｖグリッドで検出した。北側は調査区外である。桁行２間、梁行２間の東西棟の総柱建物と推定される。棟方向はＥ 11° Ｓである。柱間は桁行が 1.6 ｍの等間、梁行は 1.5 ｍの等間となっている。柱穴は直径 0.5 ～ 0.6 ｍの円形を呈し、深さは 0.5 ｍ程度である。柱痕跡は確認できなかった。柱穴Ｐ１から、ほぼ完形の須恵器杯身と短頸鉢が出土した。いずれも７世紀代の遺物と考えられ、飛鳥時代の建物の可能性がある。

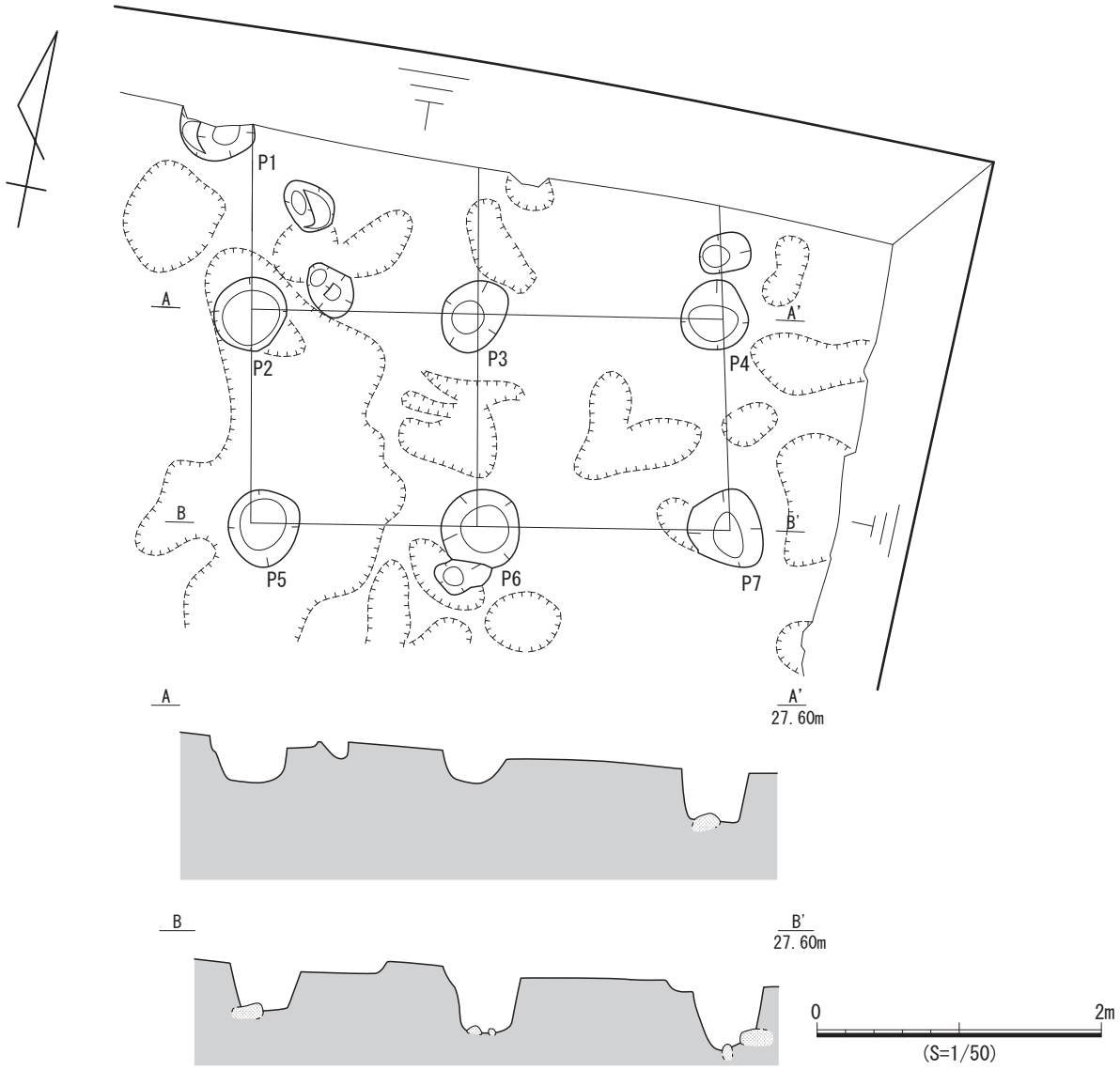


図 62　ＳＢ７遺構図

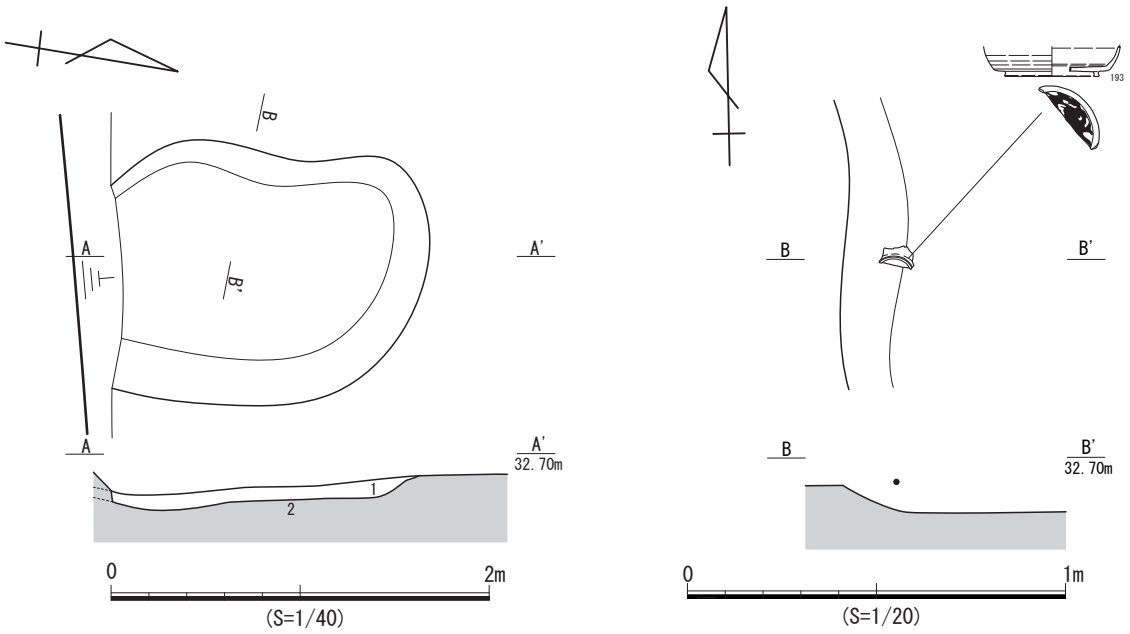
ｃ．土　坑

ＳＫ５（図 63）　調査区南西の 52・53 Ｊグリッドで検出した。南北 1.8 ｍ、東西 1.4 ｍの規模で、長楕円形を呈する。検出面からの深さは約 10 ㎝である。土坑西側の肩近くで、奈良時代の須恵器の有台杯が出土した。

ＳＫ６（図 64）　調査区南西の 52･53 Ⅰ･Ｊグリッドで検出した。遺構の南側は調査区外である。南北 4.3 ｍ以上、東西 1.7 ｍの規模で、長方形を呈する大型の土坑である。検出面からの深さは約 20 ㎝である。埋土上層に、焼土と炭化物が若干含まれていた。調査区壁面寄りで、土師器鍋が出土したほか、埋土から奈良時代の須恵器の有台杯が出土した。

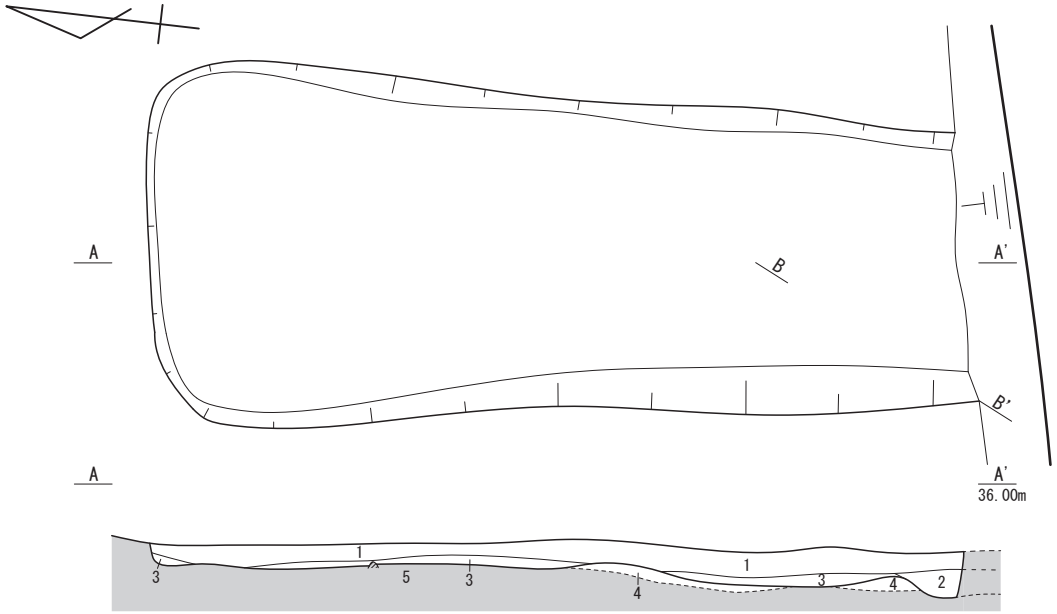
ＳＫ８（図 65）　調査区南東の 46 Ｒグリッドで検出した。南北 1.4 ｍ、東西 0.7 ｍの規模で長楕円形を呈する。検出面からの深さは 25 ㎝である。土坑のほぼ中央で、須恵器甕が口縁部を上に向けた状態で出土した。奈良時代の遺物と考えられる。

ＳＫ 10（図 65）　調査区南東の 50 Ｕグリッドで検出した。直径 0.9 ｍの円形を呈する。検出面からの深さは 20 ㎝である。埋土には、炭化物が若干含まれていた。出土遺物はなく、詳細な時期は不明である。



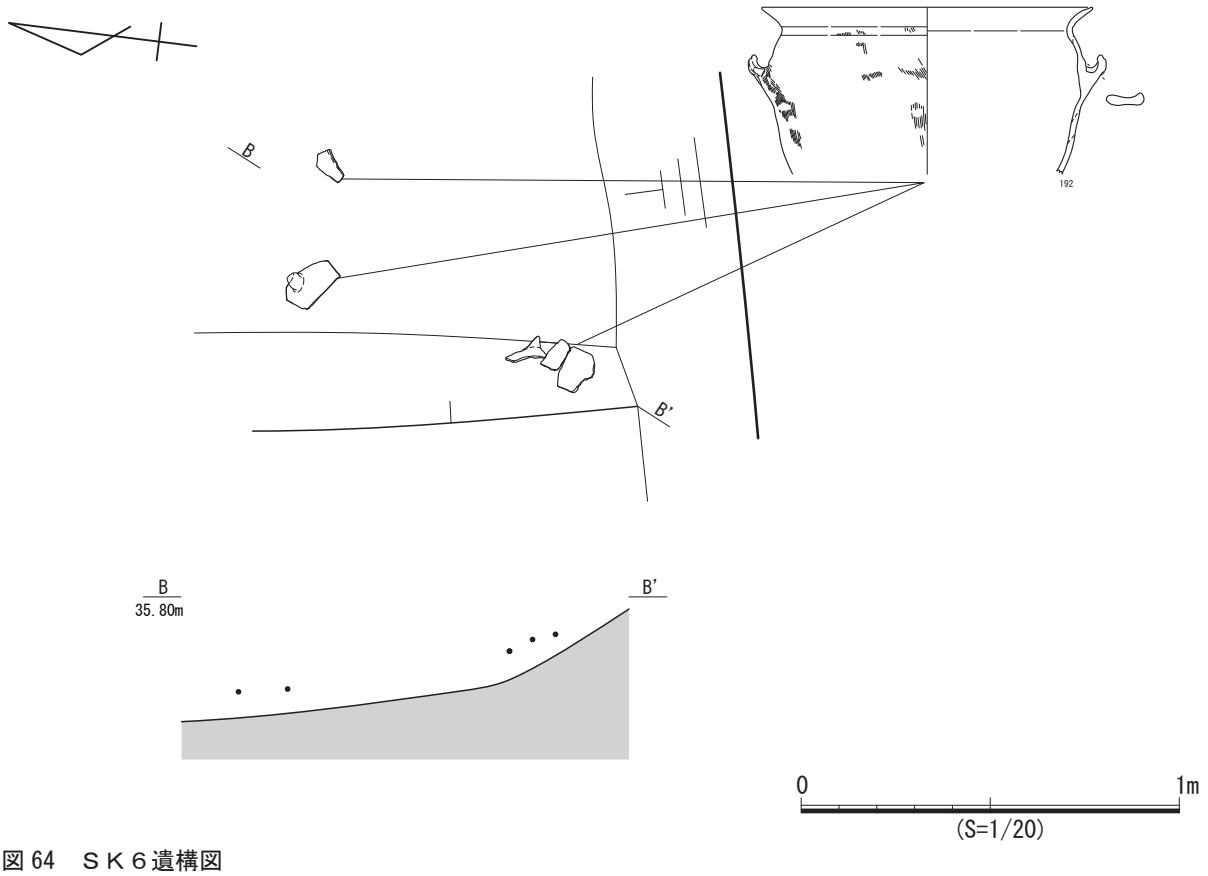
1　10YR2/2　黒褐色砂質シルト　締まりややあり　粘性ややあり
　地山ブロックを30%含む
2　10YR4/6　褐色粘質土　締まりややあり　粘性ややあり（地山）

図 63　ＳＫ５遺構図



1　10YR3/2　黒褐色砂質シルト　締まりややあり　粘性あり　地山ブロックをわずかに含む　炭化粒・焼土粒を含む
2　10YR4/4　褐色シルト　締まりややあり　粘性ややあり　地山ブロックを50%含む
3　10YR3/4　暗褐色砂質シルト　締まりややあり　粘性ややあり　地山ブロックをわずかに含む
4　10YR7/4　にぶい黄橙色粘質シルト　締まりややあり　粘性あり　径1～2cm以下の円礫をわずかに含む
5　10YR4/6　褐色粘質土　締まりややあり　粘性ややあり　拳大の円礫を20%含む（地山）

0　2m
(S=1/40)



0　1m
(S=1/20)

図 64　ＳＫ６遺構図

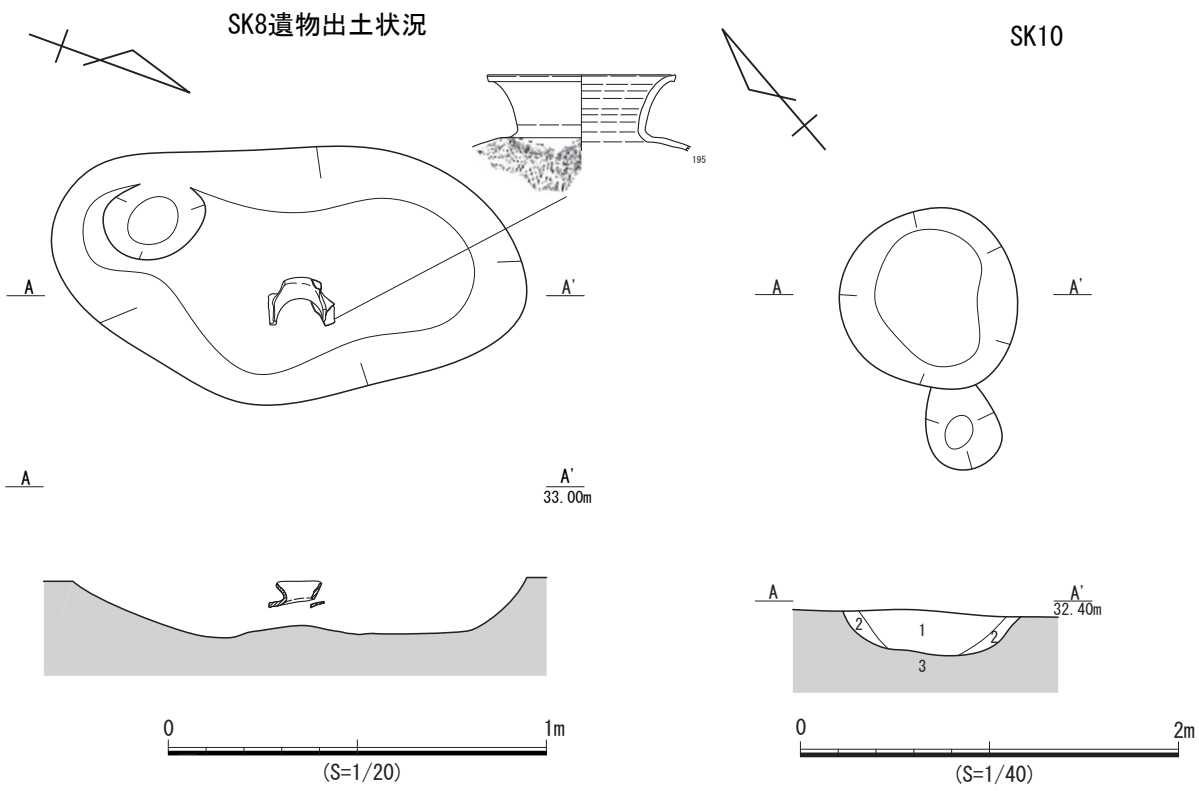


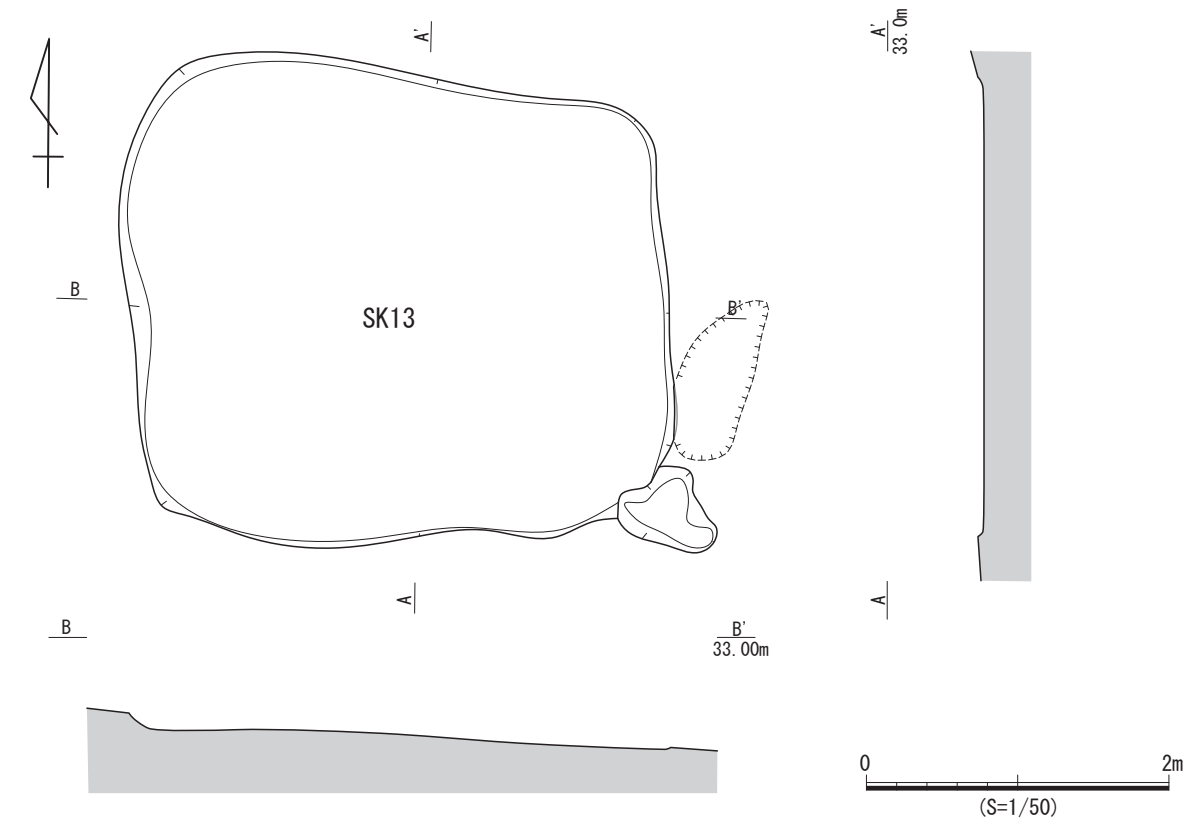
図 65　ＳＫ８遺物出土状図、ＳＫ 10 遺構図

ＳＫ 13（図 66） 調査区南東の 42・43 Ｒグリッドで検出した。東西 3.6 ｍ、南北 3.2 ｍの規模で、方形を呈する大型の土坑である。耕作の影響で遺構上面が削平を受けるため、残存状況が悪く、検出面からの深さは 5 ～ 10 ㎝程度である。埋土から出土遺物はなく、詳細な時期は不明である。

ＳＫ 15（図 66） 調査区南東の 43 Ｓグリッドで検出した。直径 0.6 ｍの円形を呈する。検出面からの深さは 10 ㎝である。埋土の上層付近から、土師器甕や土師器皿など奈良時代の遺物が出土した。

ＳＫ 16（図 67） 調査区南西の 41 Ｎ・０グリッドで検出した。東西約 3.9 ｍ、南北 3.0 ｍの歪な台形を呈する大型の土坑である。耕作の影響で上面が削平され、遺構の残存状況は悪い。検出面からの深さは 5 ㎝程度である。床面は円礫が露出した地山面となっていた。土坑西隅で、ほぼ完形の土師器杯が正位の状態で出土した。奈良時代のものである。

ＳＫ 18（図 66） 調査区南東の 40 Ｓグリッドで検出した。南北 0.6 ｍ、東西 0.5 ｍの規模で、長楕円形を呈する。検出面からの深さは 30 ㎝である。土坑東側の肩近くで、小型の土師器甕が横位の状態で出土した。奈良時代の遺物と考えられる。



SK15 遺物出土状況

SK18 遺物出土状況

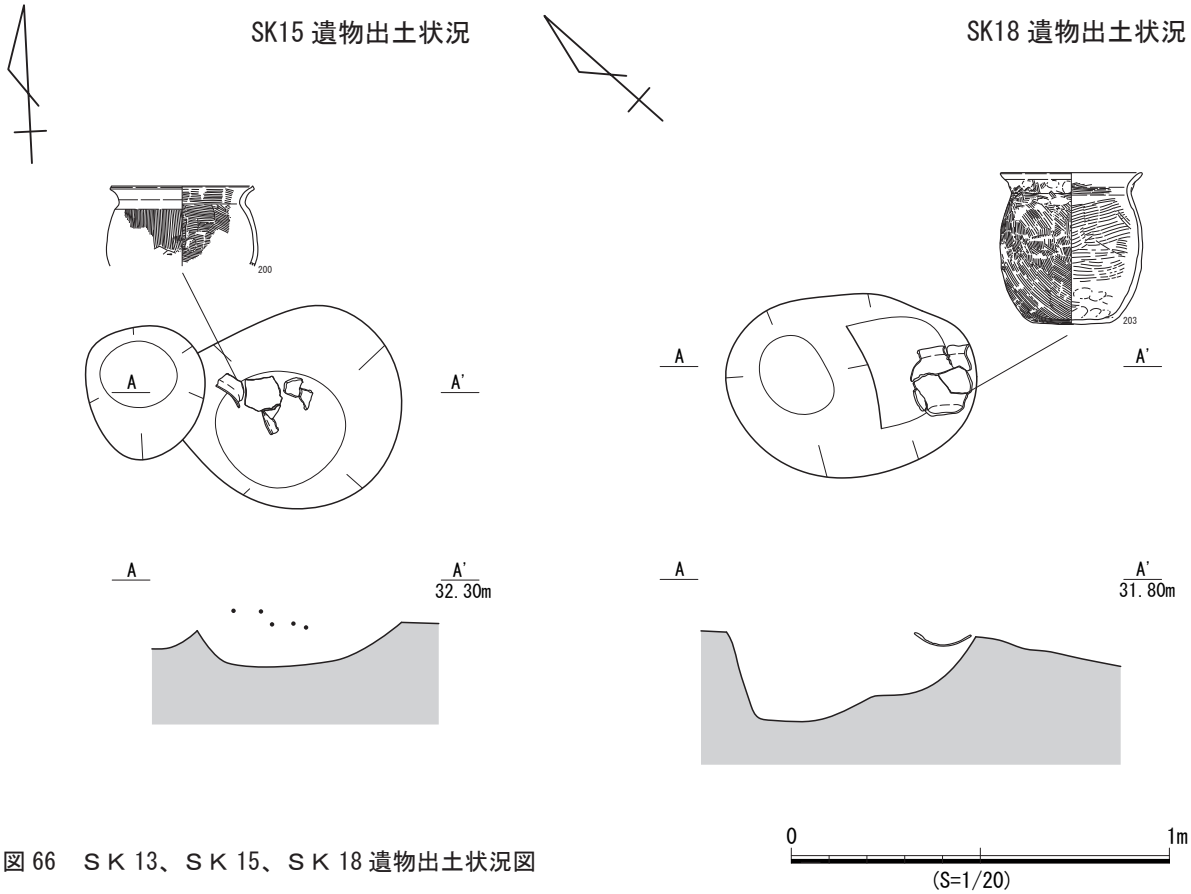


図 66　ＳＫ 13、ＳＫ 15、ＳＫ 18 遺物出土状況図

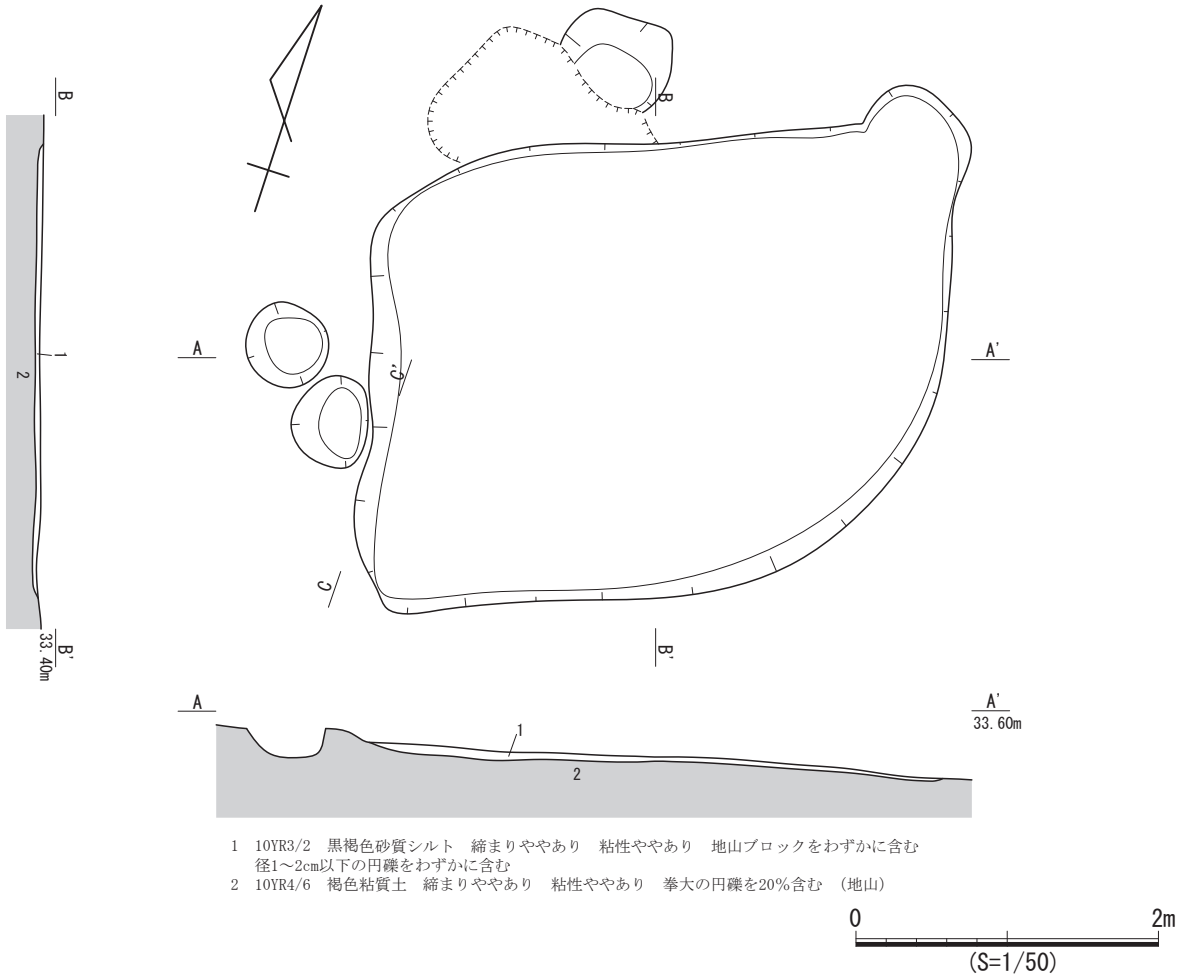
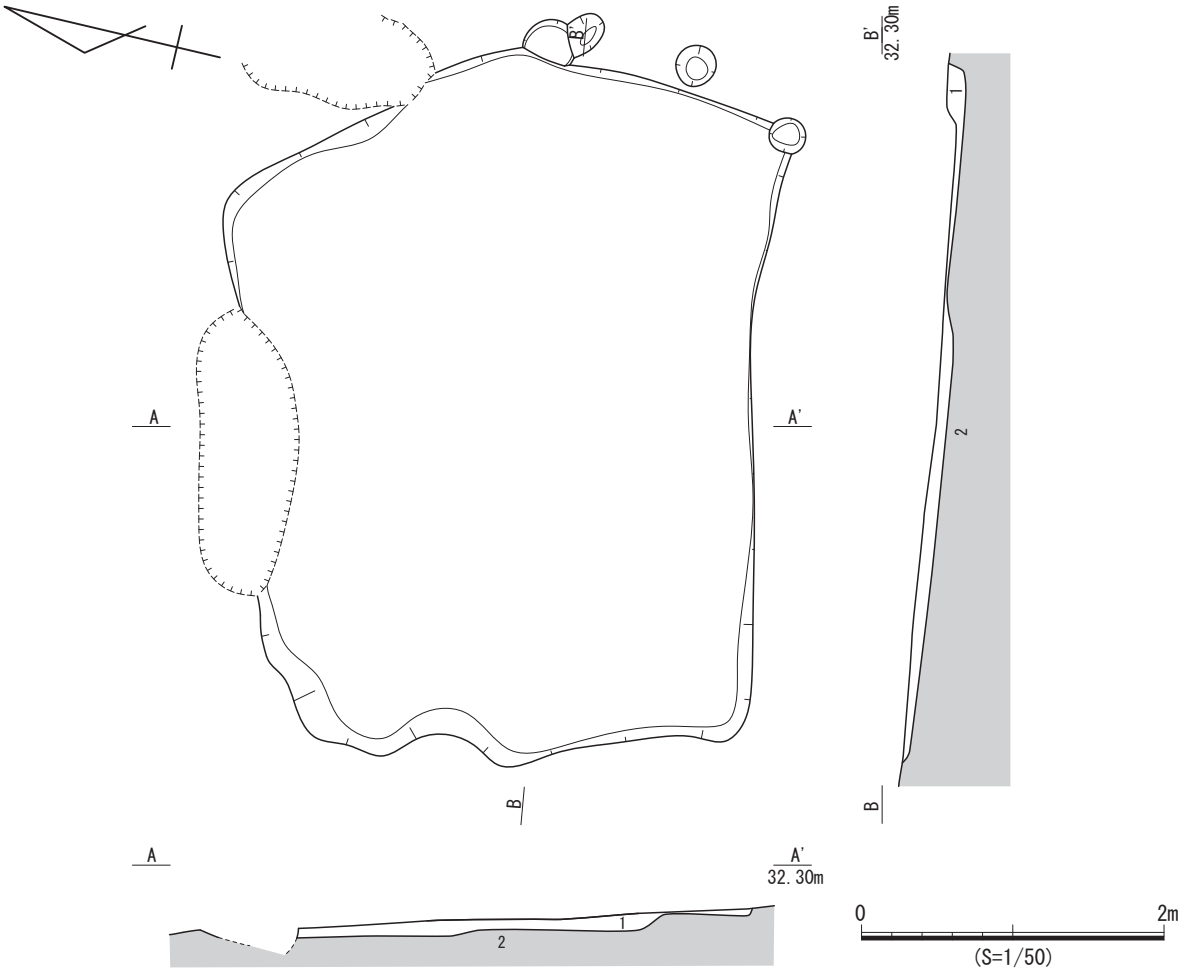


図 67　ＳＫ 16 遺構図、ＳＫ 16 遺物出土状況図

ＳＫ 22　調査区南東の 35 Ｓグリッドで検出した。竪穴建物ＳＨ 17 を切る土坑である。南北 0.9 ｍ、東西 0.6 ｍの規模で、長楕円形を呈する。耕作の影響による削平を受け残存状況は悪い。検出面からの深さは約 10 ㎝である。埋土から、須恵器杯身が２個体出土した。いずれも奈良時代の遺物である。

ＳＫ 23（図 68）　調査区南側の 36 P･Q グリッドで検出した。竪穴建物ＳＨ 16 の西側に隣接している。東西約 4.7 ｍ、南北 3.4 ｍの規模で、歪な台形を呈する大型の土坑である。耕作による削平で残りが悪く、検出面からの深さは 10 ㎝程度である。床面の東側が一段高くなっている。埋土から、奈良時代の須恵器平瓶が出土した。また、図示できなかったが土師器の小片が出土した。

ＳＫ 24（図 69）　調査区南東の 34・35 Ｓグリッドで検出した。竪穴建物ＳＨ 17 を切っている。規模は東西 3 ｍ、南北 2.4 ｍの長楕円形を呈する。検出面からの深さは 20 ～ 30 ㎝である。遺構の埋土は、地山の土が多く混じる層となっている。埋土からの出土遺物はなく、詳細な時期は不明である。



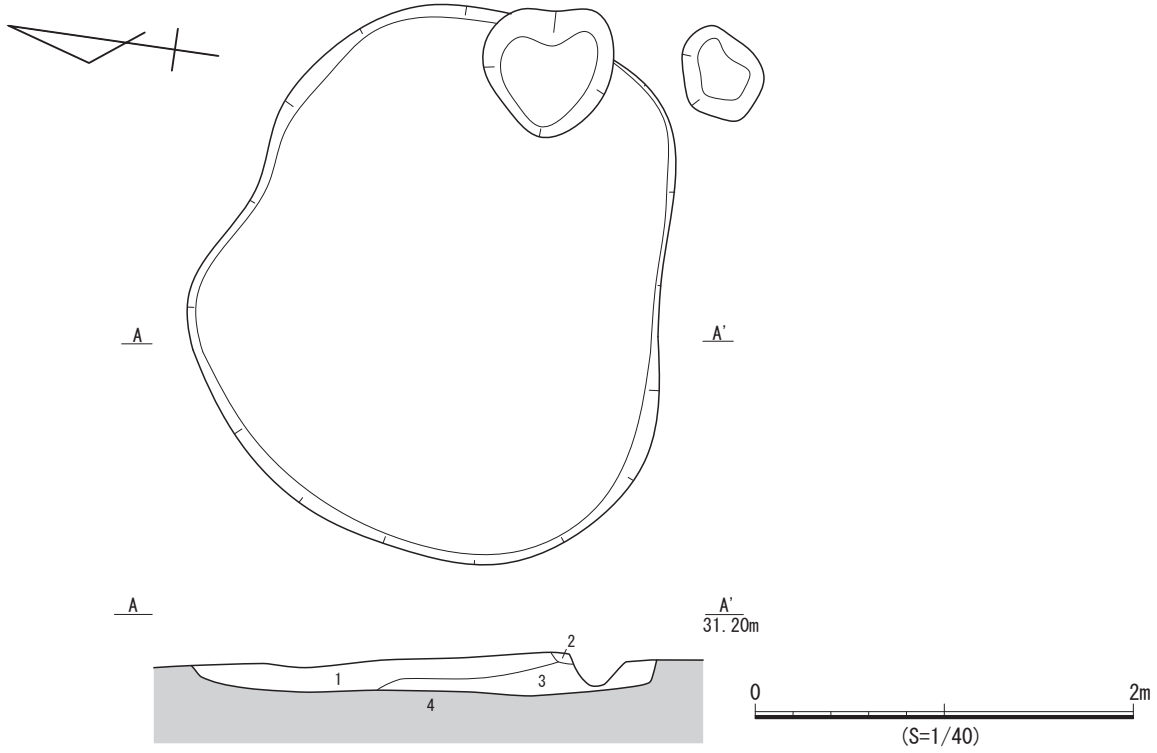
1　10YR3/3　暗褐色砂質シルト　締まりややあり　粘性ややあり　地山ブロックをわずかに含む
　径1～2㎝以下の円礫をわずかに含む
2　10YR4/6　褐色粘質土　締まりややあり　粘性ややあり（地山）

図 68　ＳＫ 23 遺構図

ＳＫ 25（図 70） 調査区南東の 34 R･S グリッドで検出した。竪穴建物ＳＨ 17 を切っている。東西 1.6 m､南北 0.8 mで長楕円形を呈する。検出面からの深さは 40 ㎝である。埋土上層に焼土の広がりがあり、下層にも焼土が多く含まれていた。検出段階では、焼成坑の可能性を想定したが、壁面や土坑底面などに強い被熱痕跡は認められなかった。埋土から、土師器や須恵器の小片が出土したが、図示できる遺物はなく、詳細な時期は不明である。

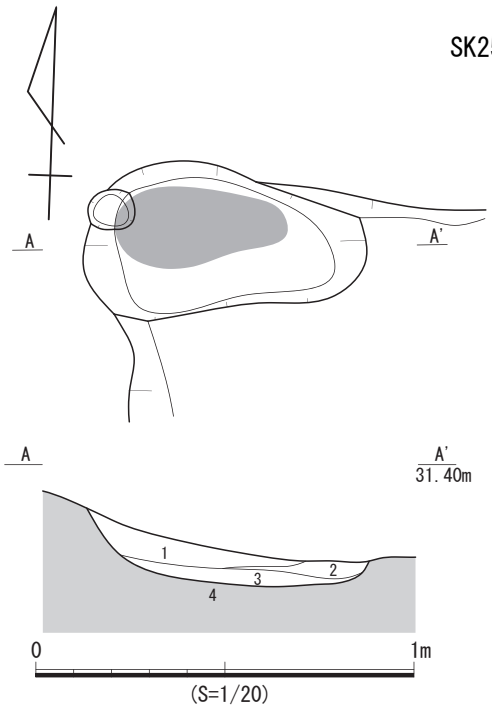
ＳＫ 28（図 70） 調査区南東の 31 R グリッドで検出した。竪穴建物ＳＨ 20 を切っている。遺構の東側は調査区外であるが、東西 2.2 m、南北 0.8 mの規模で、長楕円形を呈している。検出面からの深さは約 40 ㎝である。土坑の埋土上層に焼土の層が薄くあり、下層には炭化物が少量含まれていた。埋土から、奈良時代の土師器甕が出土した。

ＳＫ 29（図 70） 調査区中央の 28・29 R・S グリッドで検出した。竪穴建物ＳＨ 25 とＳＨ 23 に切られている。南北 5.9 m、東西 4.2 mの規模で、隅丸方形を呈する大型の土坑である。検出面からの深さは 20 ～ 30 ㎝である。土坑の床面は北側に向かって緩やかに高くなっている。埋土から、須恵器長頸壺や有台杯の蓋、土師器皿や土師器甕など、奈良時代の遺物が出土した。

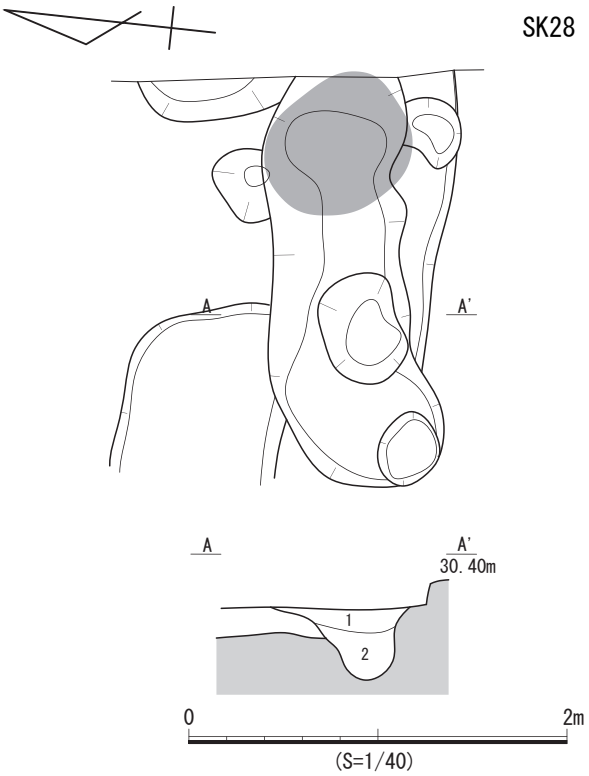


1　10YR3/4　暗褐色シルト　締まりあり　粘性ややあり　地山ブロックを多量に含む
2　5YR5/6　明褐色砂質シルト　締まりややあり　粘性なし　焼土を多量に含む
3　10YR5/6　黄褐色シルト　締まりあり　粘性あり　地山ブロックを50%含む
4　10YR4/6　褐色粘質土　締まりややあり　粘性ややあり（地山）

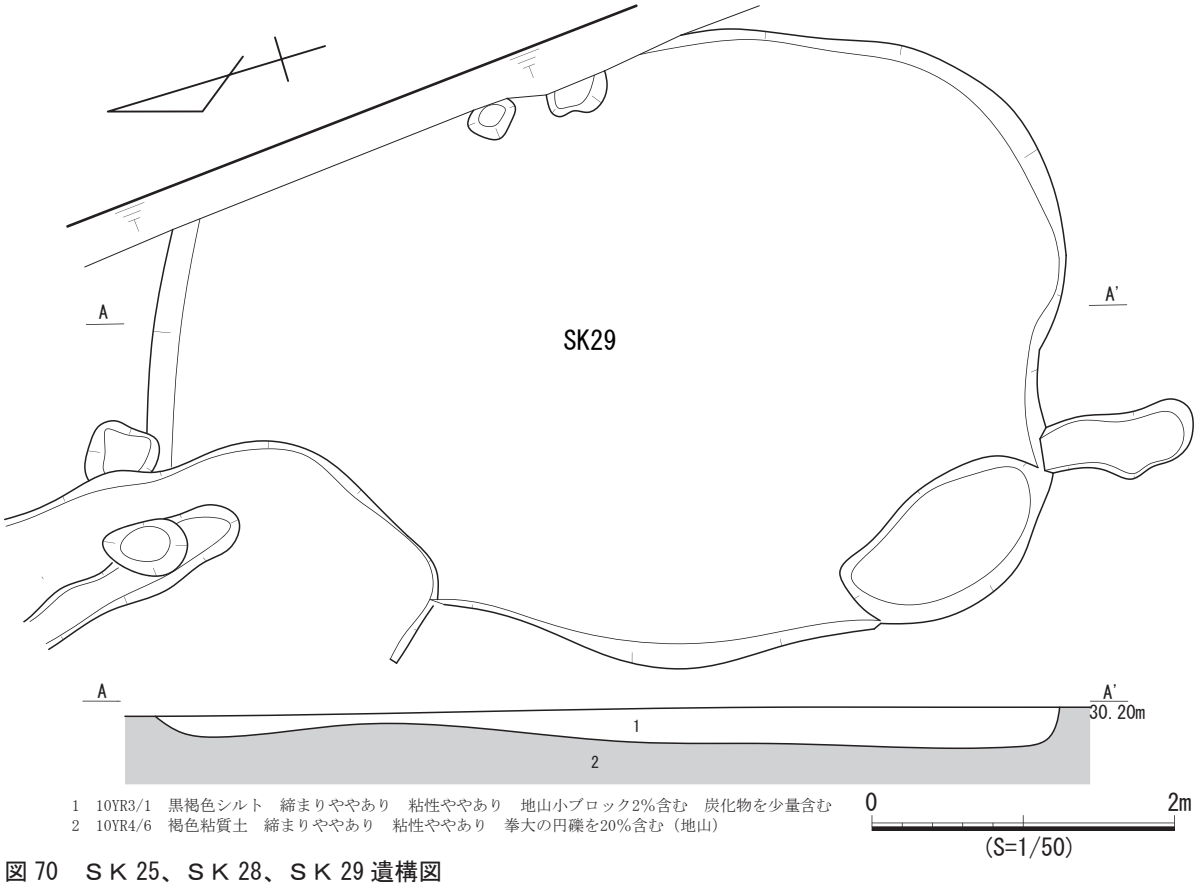
図 69　ＳＫ 24 遺構図



1　10YR6/4　にぶい黄橙色シルト　締まりなし　粘性なし
　地山ブロックをわずかに含む
　2.5YR5/8明赤褐色焼土をわずかに含む　炭化物を含む
2　10YR5/4　にぶい黄褐色シルト　締まりややあり　粘性ややあり
　径1～2cm以下の円礫をわずかに含む　炭化粒･焼土粒を含む
3　5YR5/6　明褐色砂質シルト　締まりややあり　粘性ややあり
　2.5YR5/8　明赤褐色焼土を多量に含む
4　10YR4/6　褐色粘質土　締まりややあり　粘性ややあり（地山）



1　10YR3/1　黒褐色シルト　締まりややあり　粘性ややあり　地山5%含む
　焼土粒を2%含む　炭化物を少量含む
2　10YR4/3　にぶい黄褐色シルト　締まりややあり　粘性ややあり
　黒褐色シルト30%含む　炭化物を少量含む
3　10YR4/6　褐色粘質土　締まりややあり　粘性ややあり（地山）



1　10YR3/1　黒褐色シルト　締まりややあり　粘性ややあり　地山小ブロック2%含む　炭化物を少量含む
2　10YR4/6　褐色粘質土　締まりややあり　粘性ややあり　拳大の円礫を20%含む（地山）

図 70　ＳＫ 25、ＳＫ 28、ＳＫ 29 遺構図

ＳＫ 31（図 71）　調査区中央の 27・28 Ⅰ・Ｊグリッドで検出した。南北 3.5 ～ 5.2 ｍ、東西 4.3 ～ 4.7 ｍの規模で、歪な方形を呈する大型の土坑である。検出面からの深さは 20 ～ 30 ㎝である。土坑の北側は断面がすり鉢状を呈しているのに対し、南側はほぼ垂直に立ち上がっている。単独の土坑と報告しているが、本来は土坑２基が重複していたと考えられる。埋土から、須恵器有台杯や土師器甕など奈良時代の遺物が出土した。

ＳＫ 32　調査区南東の 27 0 グリッドで検出した。東側はＳＫ 31 に切られているが、南北 1.1 ｍ以上、東西 0.9 ｍの方形を呈する。検出面からの深さは約 15 ㎝である。埋土から、奈良時代の須恵器の杯蓋や土師器甕が出土した。

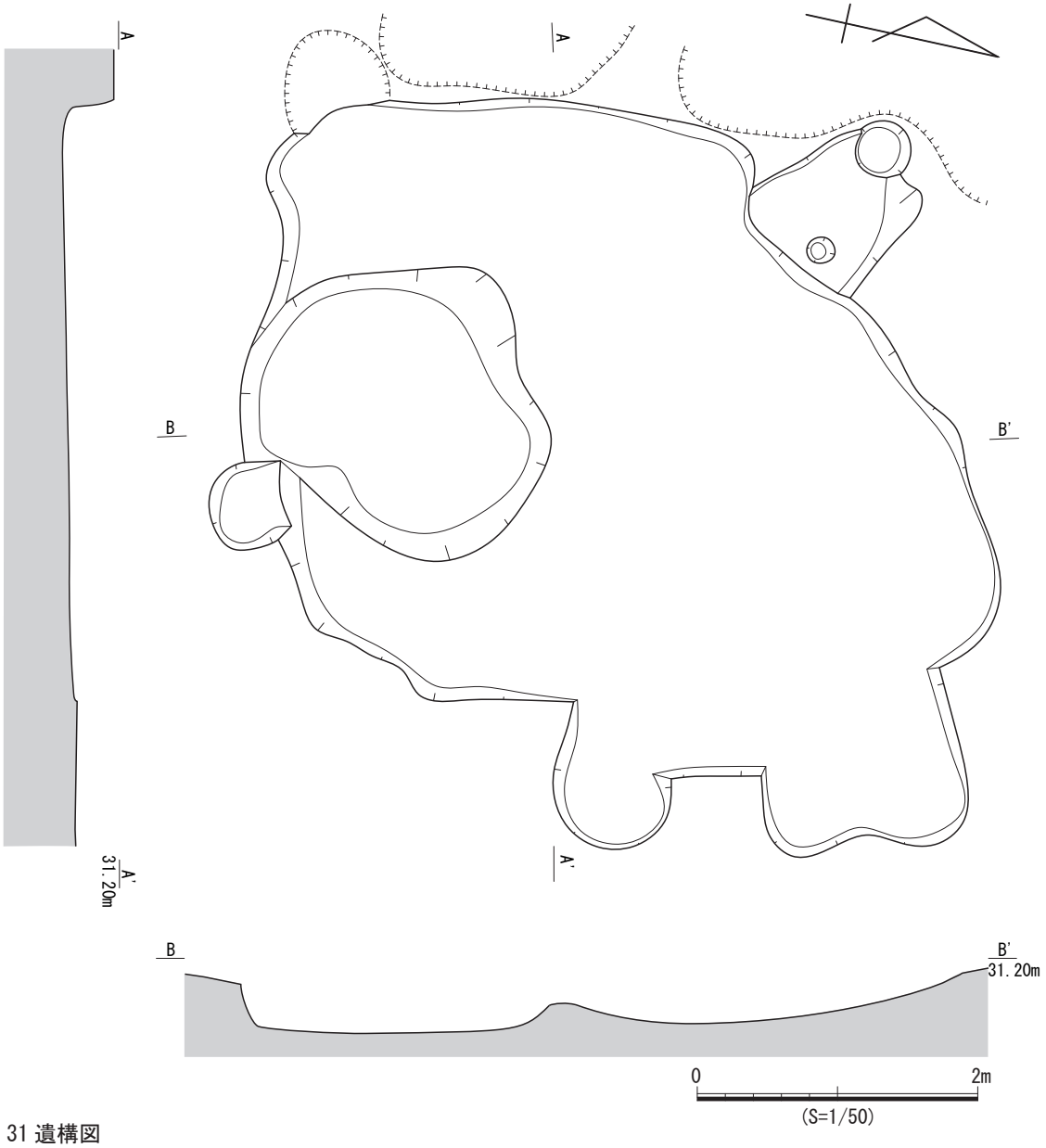


図 71　ＳＫ 31 遺構図

ＳＫ33(図72)　調査区中央の26･27 N･0グリッドで検出した。南側は耕作溝に切られるが、南北3.8ｍ、東西1.5ｍの隅丸長方形を呈する大型の土坑である。検出面からの深さは20㎝である。埋土から、奈良時代の須恵器長頸瓶の小片や、図示しえなかったが、土師器片が出土した。

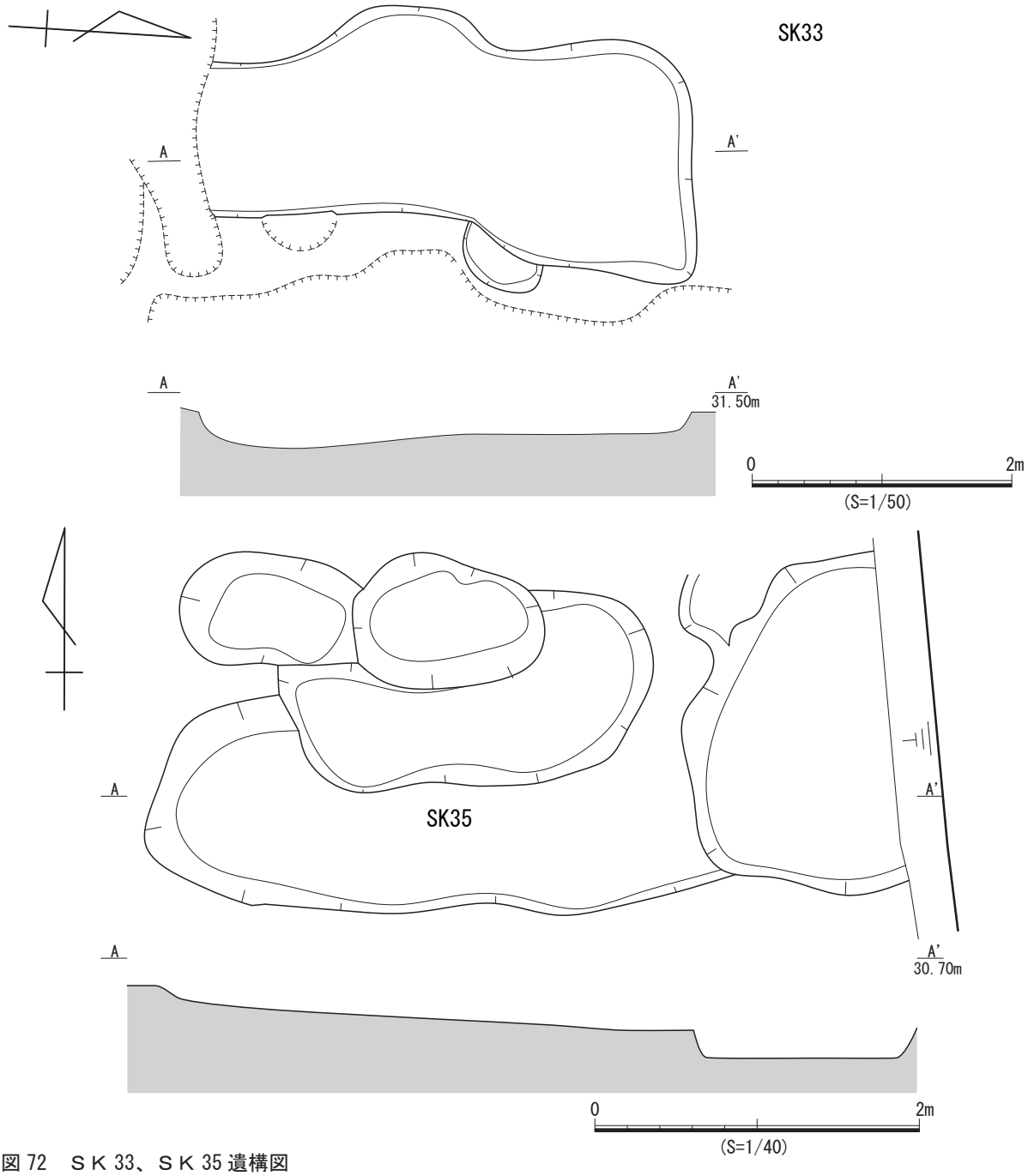


図72　ＳＫ33、ＳＫ35遺構図

ＳＫ 35(図 72)　調査区南東の 25･26 Q･R グリッドで検出した。東西 3.4 ｍ以上､南北 1.3 ｍの規模で、長楕円形を呈する大型の土坑である。検出面からの深さは 10 ㎝で浅い。後世の削平を受け、遺構の残存状況は悪い。埋土から、奈良時代の須恵器鉢や土師器甕が出土した。

ＳＫ 37(図 73)　調査区北側の５０グリッドで検出した土坑である。長さ約 0.5 ｍの長楕円形を呈する。検出面からの深さは 10 ～ 20 ㎝である。埋土の上面で、融着した状態の須恵器が出土した。奈良時代の遺構と考えられる。

ｄ．　土器埋設遺構

ＳＺ１（図 73）　調査区中央の 66・67 Ｗグリッドで確認した。古墳時代の竪穴建物ＳＨ 19 と重複する遺構である。検出段階でＳＨ 19 との切り合いが明確でなく、一連の遺構ととらえ掘削したため、掘方の形状は不明である。検出面からの深さは約 20 ㎝である。確認した土器は、体部の上半部を欠いた把手付の土師器鍋が正位の状態で据えられ、なかにひと回り小さい鍋を入れ子状に重ね置かれていた。土器棺墓の可能性も考えたが、土器内の埋土から人骨や焼骨等は確認されなかった。奈良時代の遺構と考えられる。

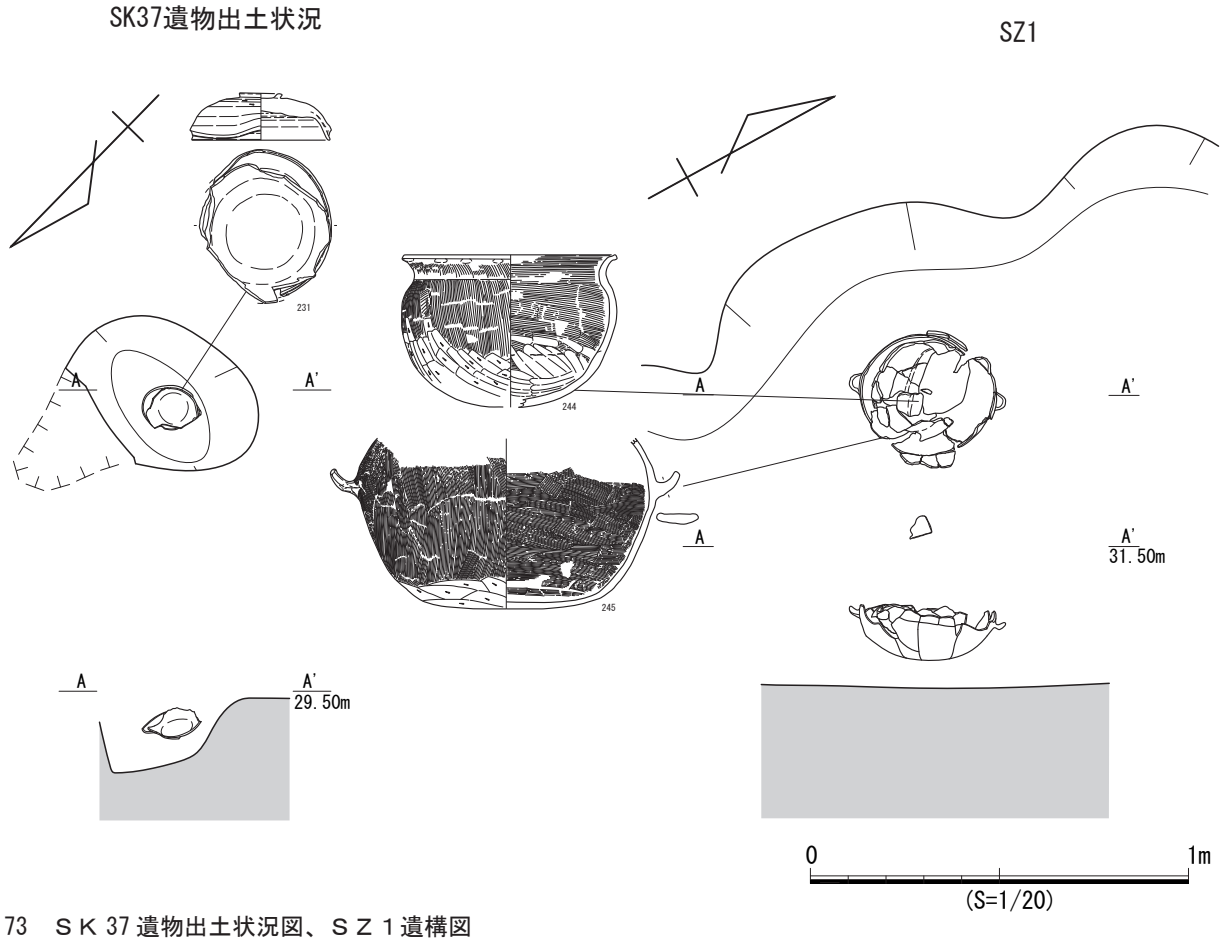


図 73　ＳＫ 37 遺物出土状況図、ＳＺ１遺構図

e. 溝

ＳＤ１（図 75） 調査区南西の 47・48 Ｉ・Ｊグリッドで検出した南北溝である。南北 18.5 ｍの長さで、東側にやや蛇行して、南方向に延びる。北側は溝幅が 0.9 ｍ～２ｍと一定しないが、南側は溝幅が狭くなっている。深さは 10 ～ 20 ㎝と浅い。埋土から、須恵器甕や土師器の小片など奈良時代の遺物が出土したが、遺物量は全体的に少ない。

ＳＤ２（図 75） 調査区南西の 51・52 Ｊ・Ｋグリッドで検出した南北溝である。南側は調査区外へと続いている。位置的にＳＤ１の延長線上にあり、方向的にＳＤ１と関連する溝であった可能性がある。深さは 10 ～ 20 ㎝で、断面は浅いレンズ状を呈する。埋土からの遺物は、土師器の小片にとどまるため、詳細な時期は不明だが、古代以降のものと考えられる。

ＳＤ３（図 74） 調査区南東の 44 Ｔ・Ｕグリッドで検出した東西溝である。東側は土坑に切られるが、調査区外へ続くと考えられる。深さは 20 ㎝で、断面の形状は逆台形状の掘り込みをもつ。埋土からの遺物は、土師器の小片にとどまるため、詳細な時期は不明である。

ｆ． 小 穴

ＳＰ１（図 74） 調査区南西の 51 Ｄグリッドで検出した。長さ約 0.4 ｍの長楕円形を呈する遺構である。検出面からの深さは約 30 ㎝である。埋土の上層で、奈良時代の須恵器杯蓋や碗が出土した。

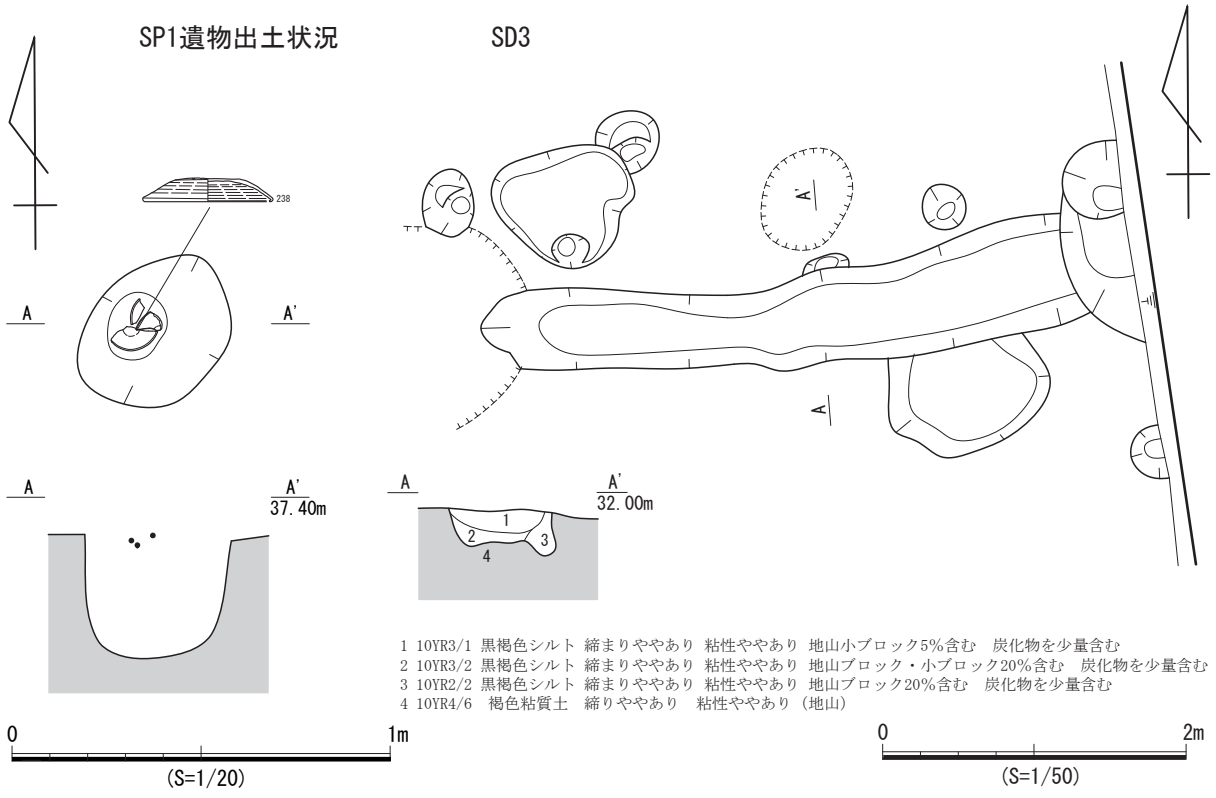


図 74 ＳＰ１遺物出土状況図、ＳＤ３遺構図

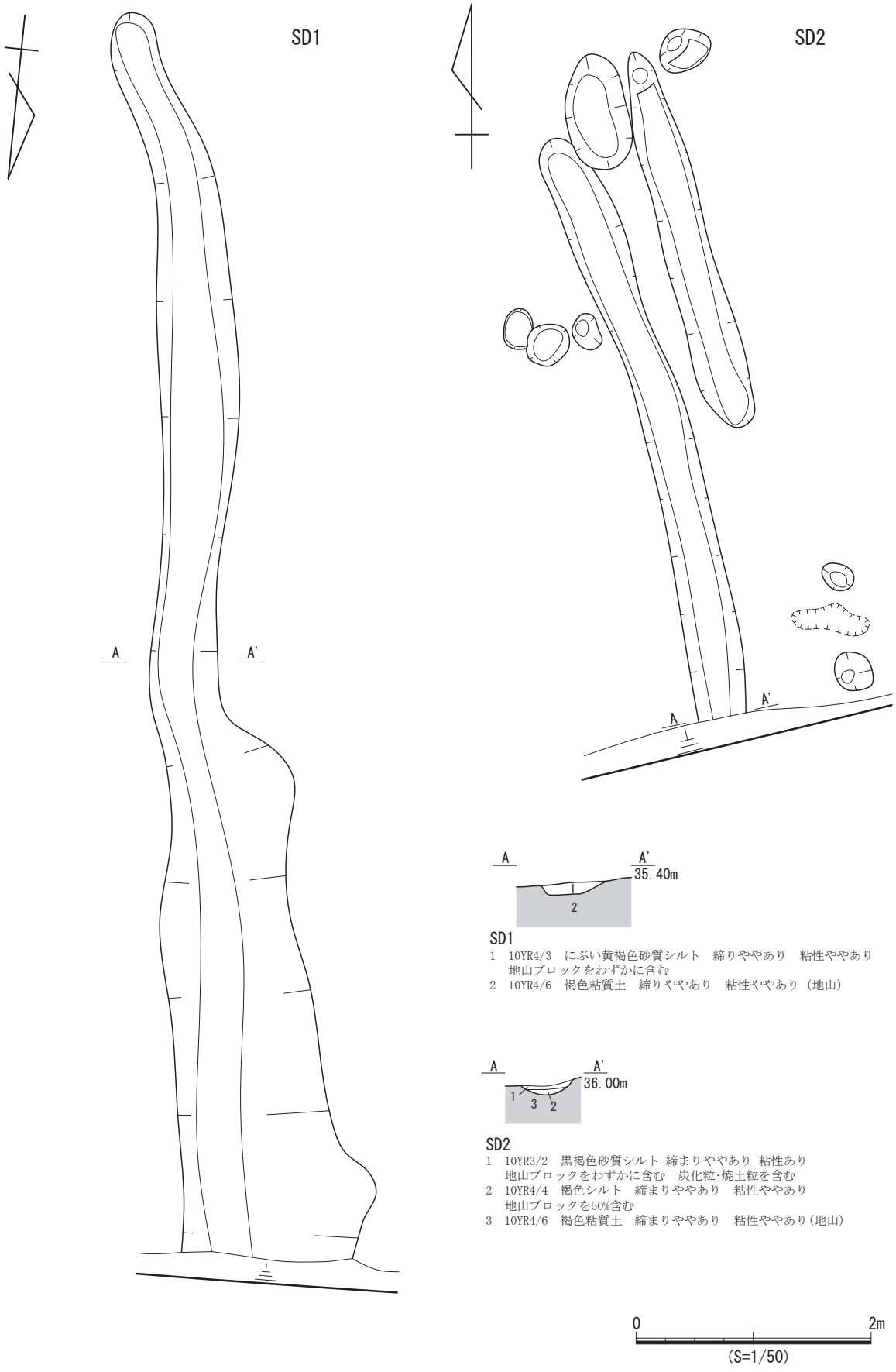


図 75　ＳＤ１、ＳＤ２遺構図

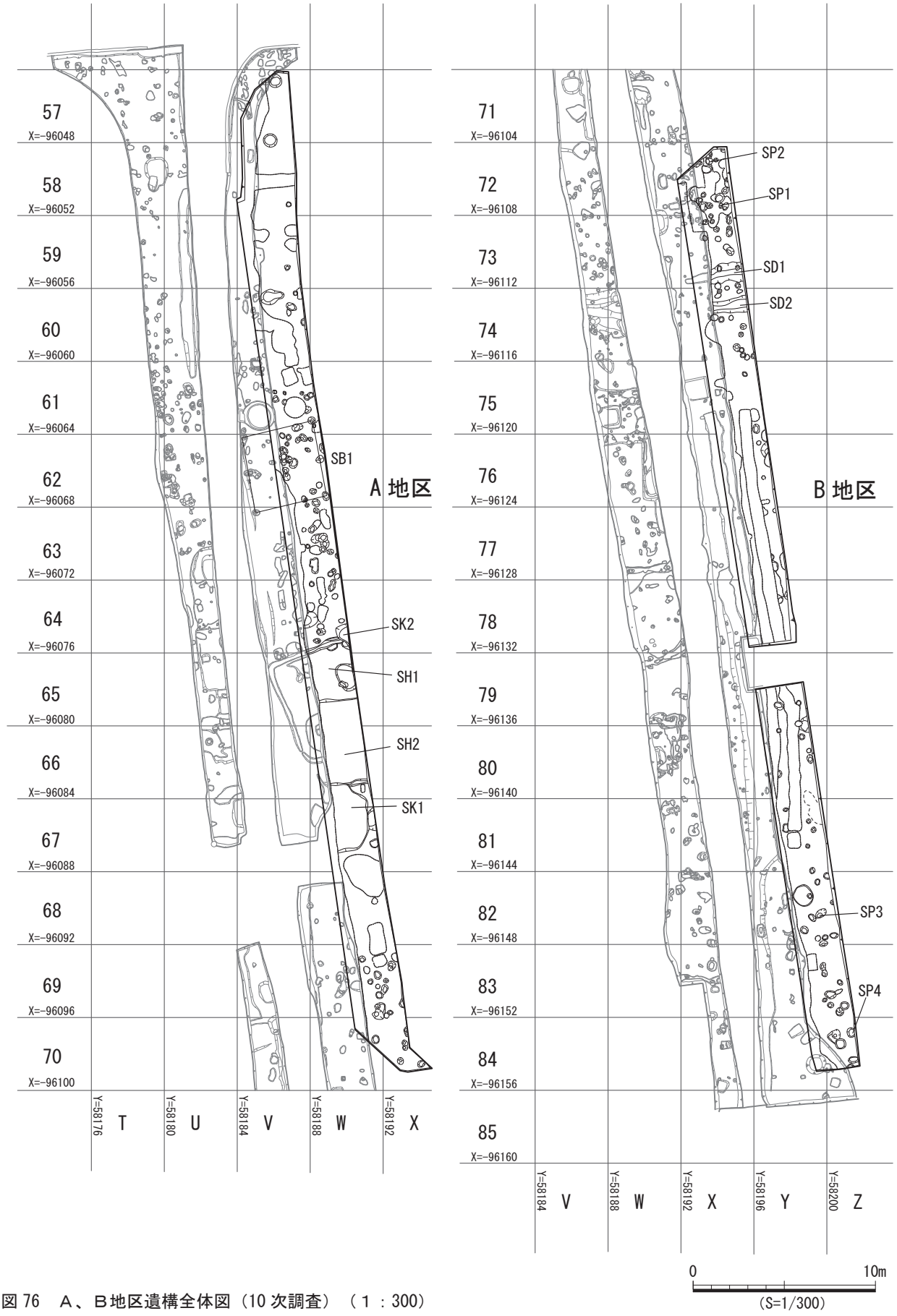


図 76　A、B地区遺構全体図（10 次調査）（１：300）

２．10 次調査の遺構

10 次調査のうち市道の拡幅部分を報告する。北側部分をＡ区、県道近くの南側部分をＢ区とし調査区を設定した。確認した遺構は、木の根の攪乱で上面を削平されていたため、遺構規模や形状が不明なものが多かった。Ａ区で竪穴建物や掘立柱建物、土坑を確認したほか、Ｂ区では、土坑や溝などを検出した。遺構ごとに詳述する。

a.　竪穴建物

ＳＨ１（図 77・78）　Ａ区中央の 64 ～ 66 Ｗグリッドで検出した。平成 4 年度に 3 次調査で確認しているＳＨ 16 の東半分となる。規模は南北 6 ｍ、東西 4.6 ｍで長方形を呈する。南側はＳＨ 2 に切られる。検出面からの深さは約 20 ㎝である。床面には貼床が施されている。壁周溝は南側を除き、ほぼ全周する。建物内の中央やや東寄りで焼土の広がりを確認した。焼土の下層で長楕円形を呈する土坑 1 を検出した。土坑上面で土師器鍋が出土した。埋土から、須恵器無台杯や土師器皿、甕など奈良時代の遺物が出土した。

ＳＨ２（図 77）　Ａ区中央の 65・66 Ｗグリッドで検出した。南北 4.5 ｍ、東西 2.2 ｍ以上の規模と推定され、東側は調査区外へと続くと考えられる。検出面からの深さは 10 ㎝程度で、後世の削平で遺構の残存状況は悪い。壁周溝は南辺の一部を確認した。建物のやや東寄りでは、焼土の広がりを検出した。埋土から、奈良時代の土師器甕が出土した。

b.　掘立柱建物

ＳＢ１（図 79）　Ａ区東側の 61 ～ 63 Ｖ・Ｗグリッドで検出した。南北２間、東西１間の南北棟の側柱建物である。棟方向はＮ 11° Ｗとなる。建物の西半分については、３次調査区で確認している。柱間は桁行が 2.1 ｍの等間、梁行が４ｍである。柱掘方は直径 40 ～ 50 ㎝の長楕円形を呈する。柱痕跡は確認できなかった。柱穴Ｐ１から、奈良時代の須恵器杯蓋が出土した。

c.　土 坑

ＳＫ１（図 80）　Ａ区中央の 66・67 Ｗグリッドで検出した。南北 3.7 ｍ、東西 1.8 ｍ以上の不整形な大型土坑である。検出面からの深さは 10 ㎝程度である。３次調査区側に続くと考えられるが、過年度の調査で遺構の続きは検出されていない。遺構の北東隅で焼土の広がりを確認した。埋土から、奈良時代の土師器甕が出土した。

ＳＫ２　Ａ区中央の 66・67 Ｗグリッドで検出した土坑である。竪穴建物ＳＨ１を切っている。大部分が調査区外で、詳細な規模は不明だが、南北 1.4 ｍ以上の規模と考えられる。埋土から、土師器甕や土師器皿など奈良時代の遺物が出土した。

ｄ．小 穴

ＳＰ１（図 80） Ｂ区北側の 72 Ｘグリッドで検出した。長さ約 0.5 ｍの円形を呈する。検出面からの深さは 30 ㎝である。埋土から、古墳時代後期の須恵器杯身が出土した。

ＳＰ２（図 80） Ｂ区北側の 72 Ｘグリッドで検出した。長さ約 0.2 ｍの円形を呈している。検出面からの深さは 20 ㎝である。埋土から、古墳時代の土師器台付甕が出土した。

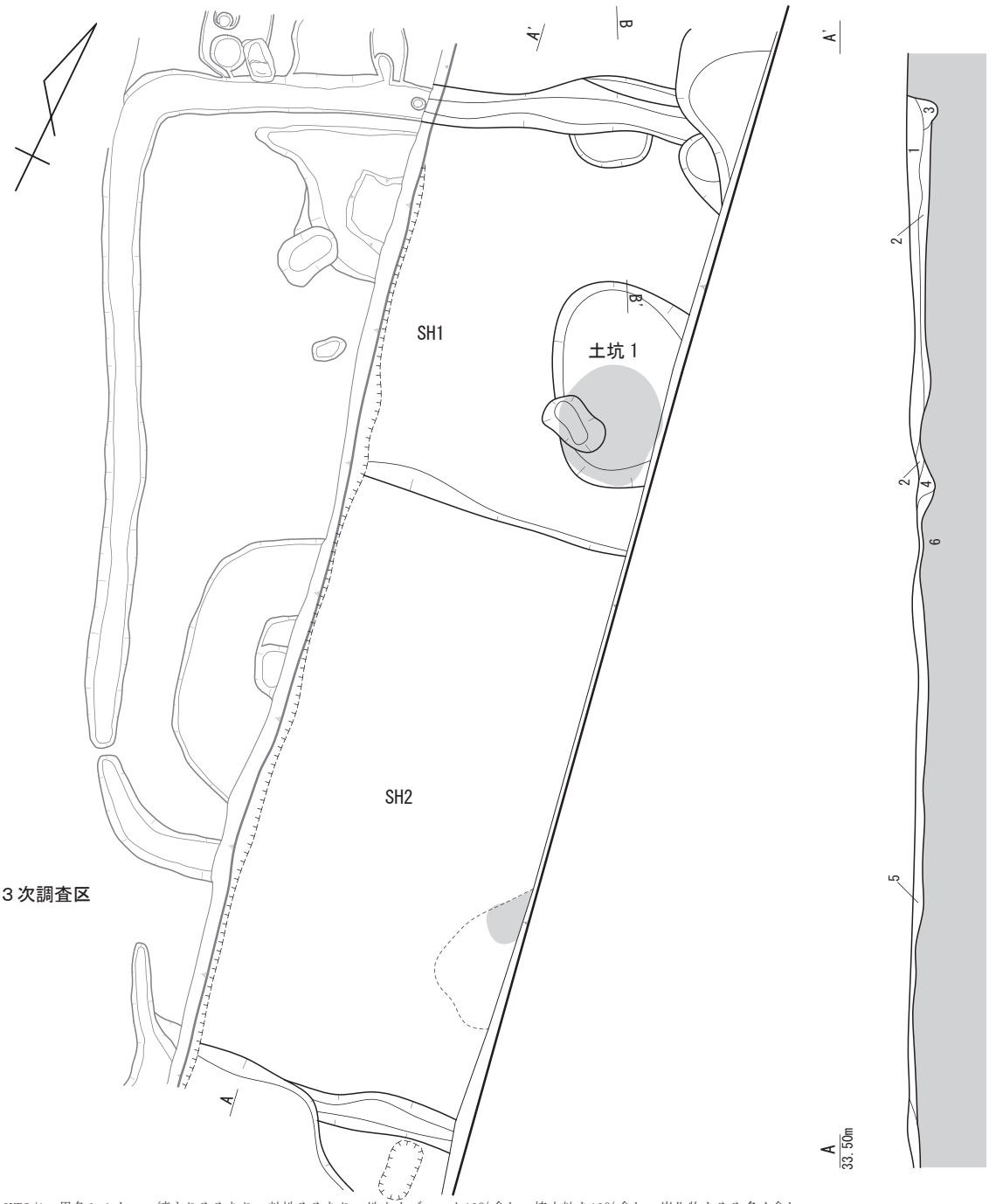
ＳＰ３ Ｂ区南側の 82 Ｙグリッドで検出した。東西 0.6 ｍの長楕円形を呈する。検出面からの深さは 40 ㎝である。埋土から、奈良時代の須恵器甕が出土した。

ＳＰ４ Ｂ区南側の 84 Ｚグリッドで検出した。長さ 0.25 ｍの円形を呈する。検出面からの深さは 30 ㎝である。埋土から、奈良時代の須恵器有台杯が出土した。

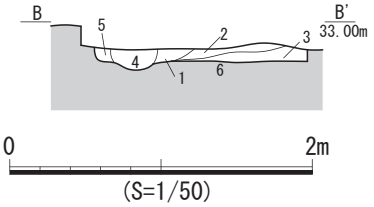
e. 溝

ＳＤ１（図 80） Ｂ区中央の 73 Ｘグリッドで検出した東西溝である。西側に３次調査で確認したＳＤ 117 があり、本来は一連の溝であったと考えられるが、削平で消失し、繋がりは確認していない。埋土から、明確な出土遺物はなかった。

ＳＤ２（図 80） Ｂ区中央の 74 Ｘグリッドで検出した東西溝である。ＳＤ１と並行する。延長上にＳＤ 117 があるが、３次調査では続きを確認していない。埋土から土師器の小片が出土した。

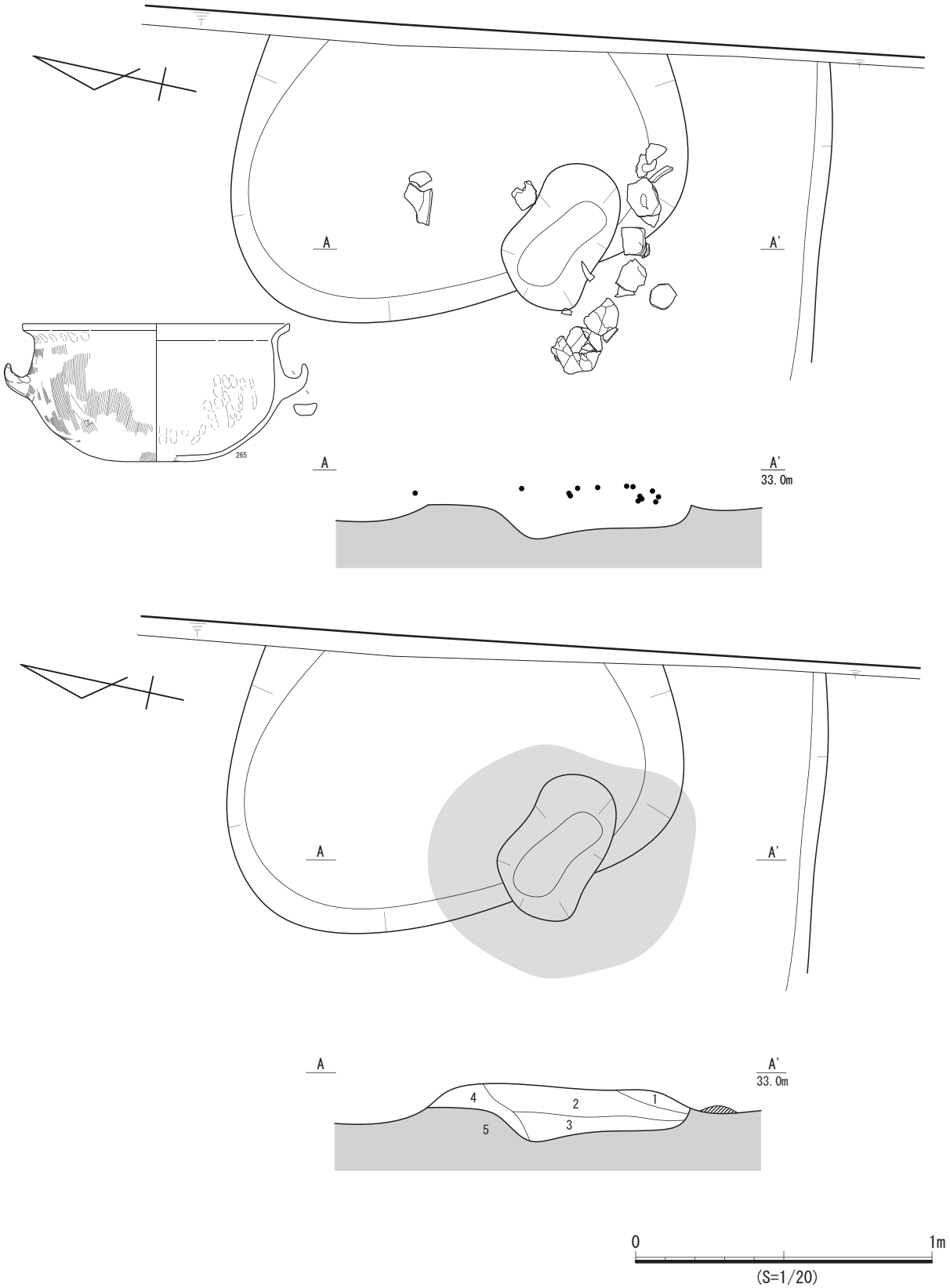


1　10YR2/1　黒色シルト　　締まりややあり　粘性ややあり　地山小ブロック10%含む　焼土粒を10%含む　炭化物をやや多く含む
径1～5㎝大の礫を10%含む（SH1埋土）
2　10YR5/4　にぶい黄褐色シルト　締まりややあり　粘性ややあり　地山ブロック20%含む　黒褐色(10YR3/1)シルト20%含む　焼土粒を5%含む
炭化物を少量含む　径1～10㎝大の礫を20%含む（SH1貼床）
3　7.5YR2/1　黒色シルト　締まりややあり　粘性ややあり　地山小ブロック5%含む 焼土粒を5%含む
炭化物を少量含む　径1～5㎝大の礫を10%含む（SH1壁溝）
4　10YR2/1　黒色シルト　　締まりややあり　粘性ややあり　地山30%含む。 焼土粒を2%含む　炭化物を少量含む。径1～5㎝大の礫を10%含む（SH1壁溝）
5　10YR3/2　黒褐色シルト 締まりややあり　粘性ややあり　地山ブロック・小ブロック10%含む　焼土粒を10%含む
炭化物をやや多く含む　径1～3㎝大の礫を10%含む（SH2埋土）
6　10YR4/6　褐色粘質土　締まりややあり　粘性ややあり（地山）



1　2.5YR5/4 にぶい赤褐色シルト 締まりややあり 粘性ややあり 地山小ブロック5%含む
黒褐色(10YR3/1)シルト10%含む　焼土粒を30%含む　炭化物をやや多く含む
2　10YR2/1　黒色シルト　締まりややあり 粘性ややあり 地山小ブロック10%含む
焼土粒を10%含む炭化物をやや多く含む　径1～5㎝大の礫を10%含む
3　10YR5/4　にぶい黄褐色シルト 締まりややあり 粘性ややあり 地山ブロック20%含む
黒褐色(10YR3/1)シルト20%含む　焼土粒を5%含む炭化物を少量含む　締まりややあり
粘性ややあり 径1～10㎝大の礫を20%含む（SH1貼床）
4　7.5YR2/1 黒色シルト　締まりややあり 粘性ややあり 地山小ブロック5%含む　焼土粒を5%含む
炭化物を少量含む　径1～5㎝大の礫を10%含む（SH1周溝）
5　10YR2/1 黒色シルト　締まりややあり粘性ややあり地山30%含む　焼土粒を2%含む　炭化物を少量含む
径1～5㎝大の礫を10%含む（SH1周溝）
6　10YR4/6　褐色粘質土　締まりややあり　粘性ややあり（地山）

図 77　ＳＨ１、２遺構図（10 次調査）



1　5YR6/6　橙色シルト　締りややあり　粘性ややあり　灰黄褐色(10YR5/2)シルトブロック状に20%含む　焼土粒を30%含む　炭化物を少量含む
2　10YR5/2　灰黄褐色シルト 締りややあり　粘性ややあり　地山小ブロック10%含む。焼土粒を20%含む。炭化物を少量含む
3　2.5YR5/4 にぶい赤褐色シルト　締りややあり　粘性ややあり　灰黄褐色(10YR5/2)シルト・地山をブロック状に10%含む　焼土粒を10%含む 炭化物を少量含む
4　10YR4/2　灰黄褐色シルト　締りややあり　粘性ややあり　地山小ブロック2%含む。焼土粒を5%含む。炭化物を少量含む
5　10YR4/6　褐色粘質土　締まりややあり　粘性ややあり（地山）

図 78　ＳＨ１　土坑１遺物出土状況図、遺構図（10 次調査）

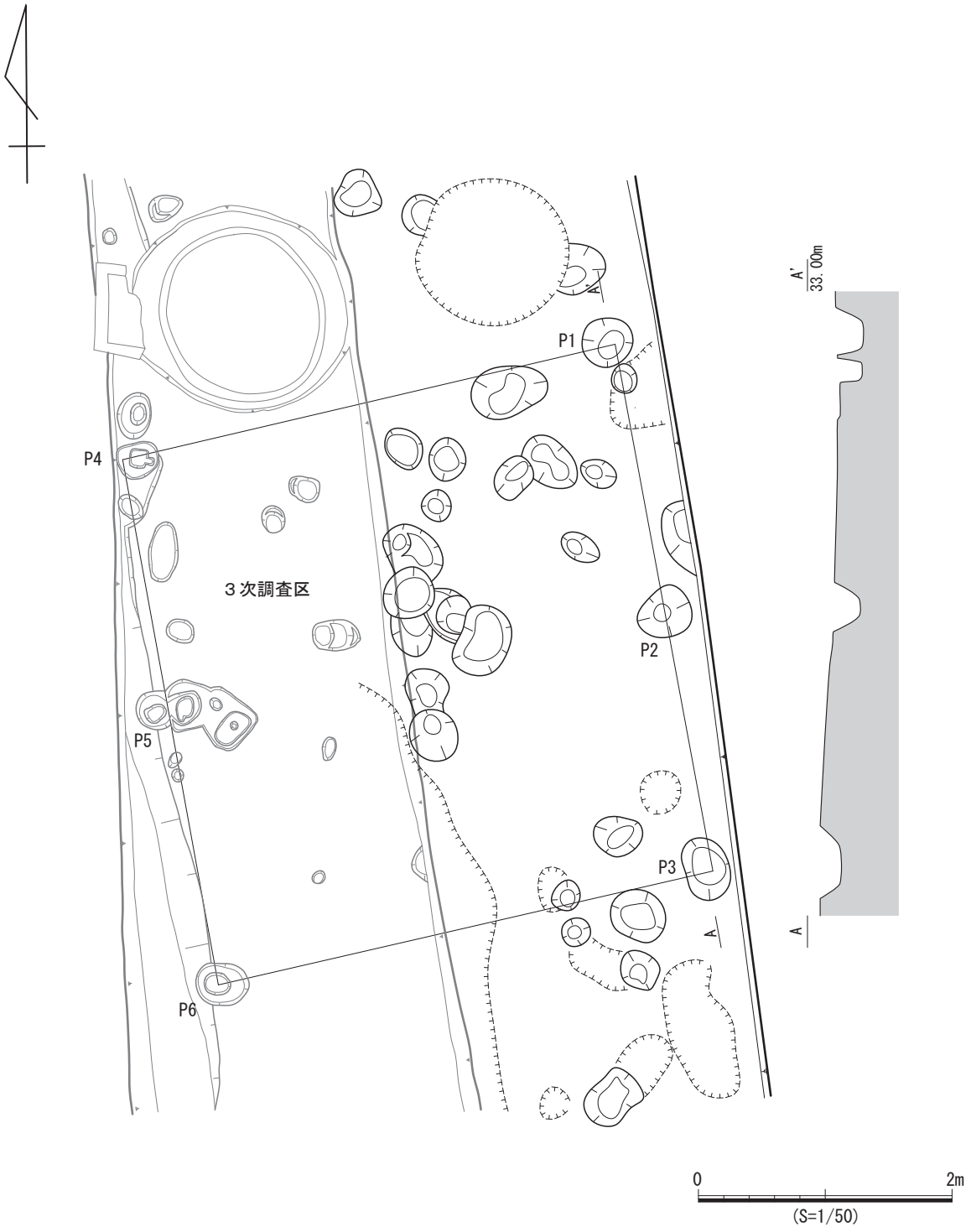
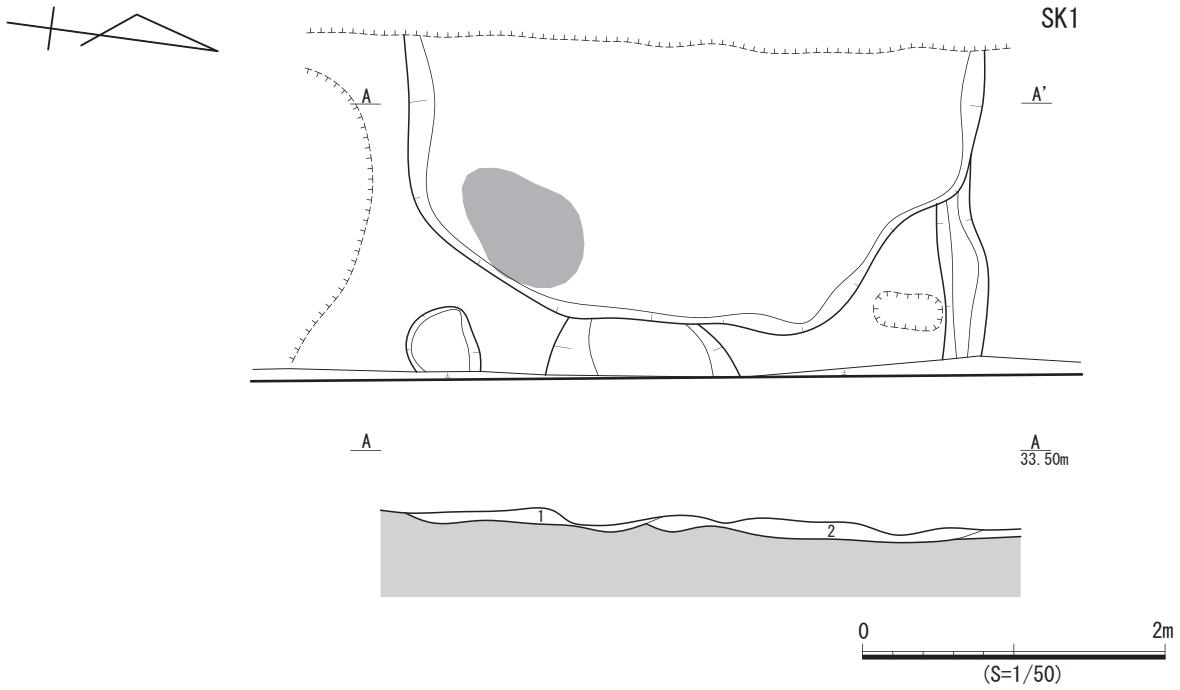
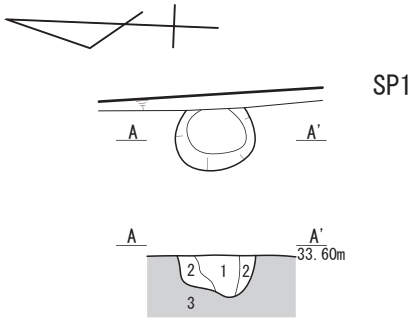


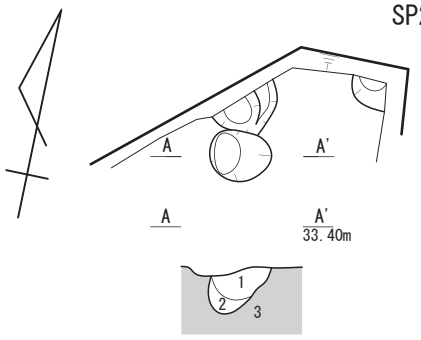
図 79　ＳＢ１遺構図（10 次調査）



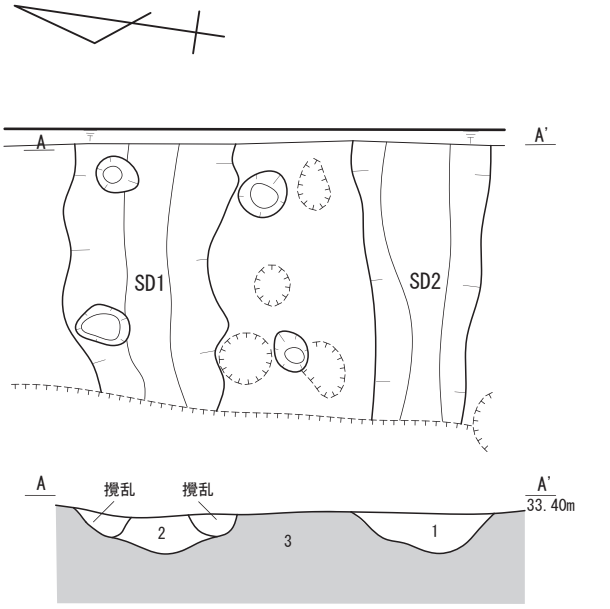
1　10YR3/1　黒褐色シルト　締まりややあり　粘性ややあり　地山小ブロック10%含む　焼土粒を2%含む 炭化物を少量含む　径1～3㎝大の礫を2%含む
2　10YR3/2　黒褐色シルト　締まりややあり　粘性ややあり　地山ブロック20%含む　焼土粒を20%含む　炭化物をやや多く含む 径1～10㎝大の礫を20%含む
3　10YR4/6　褐色粘質土　　締まりややあり　粘性ややあり（地山）



1　10YR3/1　黒褐色シルト　締まりややあり　粘性ややあり
　地山5%含む　炭化物を少量含む
2　10YR3/2　黒褐色シルト　締まりややあり　粘性ややあり
　地山ブロック20%含む　炭化物を少量含む
3　10YR4/6　褐色粘質土　　締まりややあり　粘性ややあり（地山）



1　10YR3/1　黒褐色シルト　締まりややあり
　粘性ややあり　地山5%含む
　焼土粒を2%含む　炭化物を少量含む
2　10YR3/2　黒褐色シルト　しまりややあり　粘性ややあり
　地山小ブロック2%含む　炭化物を少量含む
3　10YR4/6　褐色粘質土　　締まりややあり　粘性ややあり（地山）



1　10YR4/2　灰黄褐色シルト 締まりややあり 粘性ややあり
　地山10%含む　炭化物を少量含む（SD2）
2　10YR3/2　黒褐色シルト　締まりややあり 粘性ややあり
　地山ブロック20%含む 炭化物を少量含む（SD1）
3　10YR4/6　褐色粘質土　　締まりややあり　粘性ややあり（地山）

図 80　ＳＫ１、ＳＰ１、ＳＰ２、ＳＤ１・２遺構図（10 次調査）

第５章　出土した遺物

１．９次調査の出土遺物

竪穴建物を中心に、須恵器、土師器、土錘や製塩土器等の土製品、金属製品などが出土した。古墳時代中後期の遺物と奈良時代を中心とした古代の遺物が中心である。この他、縄文時代の石器や中世の遺物も若干出土しているが、遺構に伴うものはなかった。

（１）古墳時代の遺物

a.　竪穴建物

ＳＨ 15（1）有蓋高杯の脚部である。方形透かしが穿たれる。

ＳＨ 18（2 ～ 9）須恵器（2 ～ 4）、土師器（5 ～ 8）、石製品（9）がある。令和 3 年度の確認調査時に遺構埋土から出土した遺物も併せて掲載した。須恵器のうち、2 は天井部が丸みをもち、やや厚手である。在地産の可能性がある。3 は薄手につくられ、天井部外面に丁寧な回転ヘラ削り調整をおこなう。いずれも陶邑編年のＴＫ 47 型式に並行するものであろう。4 は瓶である。体部に列点文が施文され、肩部に沈線が巡らされる。土師器のうち、5 は鉢である。口縁部が内湾し、端部に面をもつ。6 は台付甕の脚台部である。端部に明瞭な折り返しが見られない。7・8 は長胴形の甕である。内外面ともハケ調整で、口縁端部を小さく摘まみ上げる。9 は碧玉製の管玉である。

ＳＨ 22（10 ～ 14）　須恵器（10 ～ 13）、土製品（14）がある。10 は杯身である。口縁部が直線的に立ち上がり、端部に面をもつ。猿投窯のＨ -11 号窯式のものと考えられる。11 は有蓋高杯の脚部で、３方に透かし穴を穿つ。在地産の可能性がある。12 と 13 は奈良時代の竪穴建物からの混入物と判断される。12 は平瓶で美濃須衛系のものと考えられる。13 は杯蓋で、猿投系のもので、外面に線刻が確認できる。14 は小片であるが、鞴の羽口片である。

ＳＨ 34（15・16）　15 は杯身である。口縁部が直線的に立ち上がり、体部は丸みをもつ。猿投窯のＨ -11 号窯式のものと考えられる。16 は鉢の底部片である。外面はヘラ削り調整される。

ｂ．土　坑、小　穴

ＳＫ 12（17）　須恵器杯蓋である。天井部が平らに成形され、丁寧にヘラ削り調整がなされる。猿投窯のＨ -11 号窯式のものと考えられる。

ＳＫ 21（18）須恵器杯身である。口縁部が内傾する。猿投窯のＨ -61 号窯式のものと考えられる。

ＳＫ 27（22）土師器の丸底甕である。底部外面に粗いハケ調整がなされる。

ＳＫ 30（19・20）いずれも土師器台付甕である。20 は宇田型の甕で口縁端部のナデは弱い。

ＳＫ 38（21）土師器台付甕で、宇田型の甕である。口縁内面を強くナデ、口縁端部に明瞭な面をもつ。体部外面に粗いハケ調整がなされる。

ＳＰ６（23）土師器高杯の脚部である。橙色を呈し、裾部は短く外反する。全体的に摩滅が著しい。

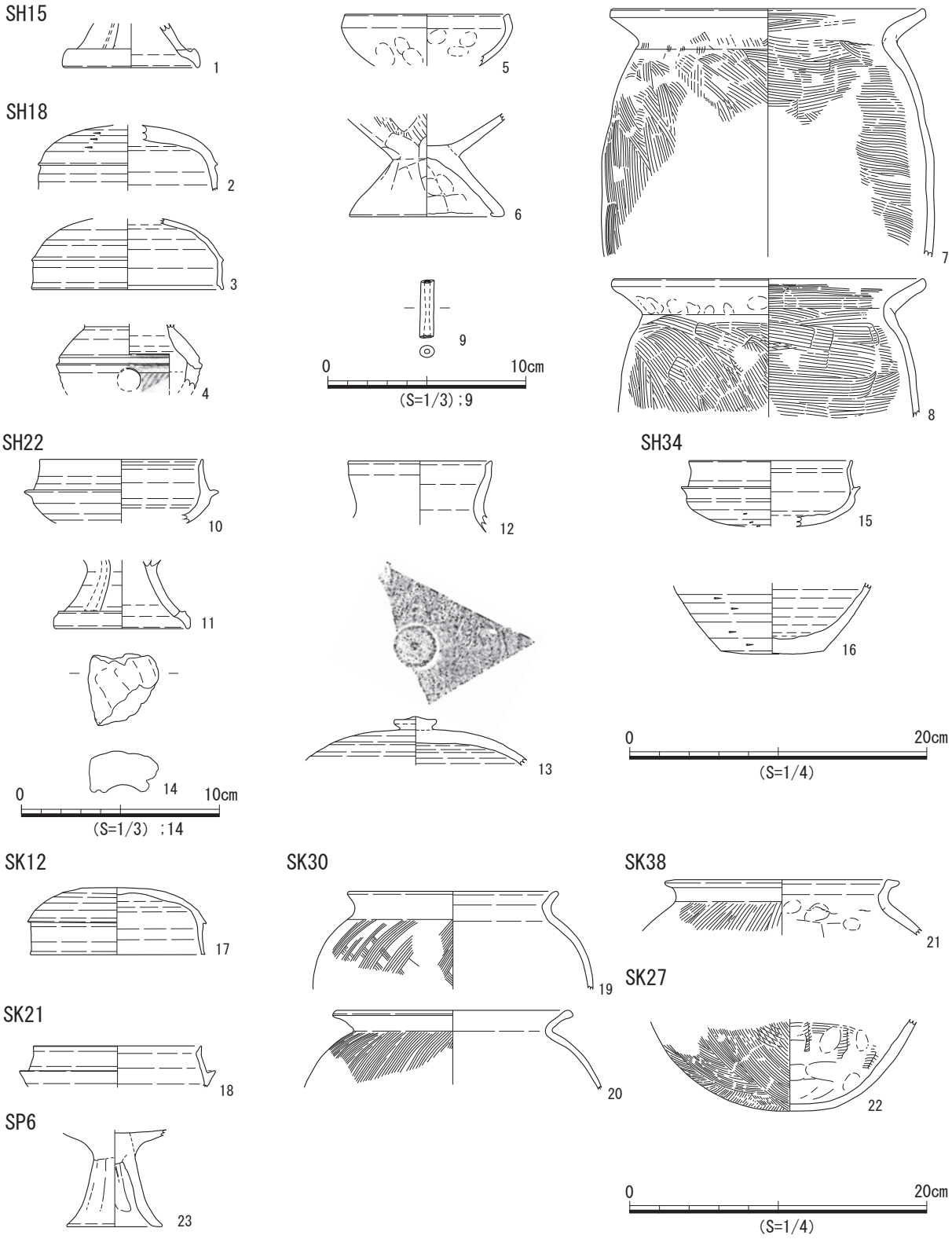


図 81　古墳時代の出土遺物

（２）古代の遺物

a. 竪穴建物

ＳＨ１（24） 須恵器の深鉢と考えられる。焼成不良で白っぽい色調を呈している。

ＳＨ２（25・26） 25 は須恵器の壺蓋である。重ね焼きのため、外面全体に焼きムラが見られる。天井部外面に「×」状の線刻がある。８世紀末頃のものか。26 は土師器甕である。

ＳＨ３（27 ～ 32） 須恵器（27 ～ 29）と土師器（30 ～ 32）を図示した。須恵器は、いずれも猿投系で 8 世紀後半頃と考えられる。27 と 28 は須恵器杯蓋である。27 は黄橙色を呈する生焼けの製品である。29 は碗で、底部に糸切痕が確認できる。土師器うち、30 は皿、31 と 32 は甕である。32 は長胴形となり、口縁部は水平に屈折し、端部に小さな面をもつ。

ＳＨ４（33） 須恵器の碗である。底部外面は回転ヘラ削り調整で、内面に有機物が付着する。青灰色を呈し、胎土も異なるため在地系と考えられる。8 世紀後半頃のものであろう。

ＳＨ５（34 ～ 49） 須恵器（34 ～ 45）、土師器（47 ～ 49）などを図示した。遺物量はコンテナ 1 箱分ほどあり、検出した竪穴建物のなかで比較的出土量が多い。

須恵器のうち、34 は杯蓋、35 と 36 は碗である。35 は軟質焼成で土師質を呈する。底部に糸切り痕を残す。美濃須衛系のものと考えられる。37 ～ 40 は無台杯である。37 は外面底部中央に強く回転ヘラ削りを行う。38・39 はやや薄手で箱形を呈する。いずれも猿投系で 8 世紀後半頃のものである。40 はやや厚手で在地産の可能性がある。41 ～ 43 は有台杯である。42・43 は薄手で、43 は底部外面に丁寧な回転ヘラ削りを行う。猿投系で８世紀末頃と考えられる。41 は灰白色を呈し、美濃須衛系と考えられる。45 は盤である。軟質焼成で底部内面と口縁部とで色調の違いが見られる。重ね焼きがなされたと考えられる。猿投系のもので８世紀後半頃のものであろう。44 は高杯の脚部である。

土師器のうち、47 は小型の甕である。外面体部をハケ調整し、その後ヘラ削り調整する。48 と 49 は長胴形の甕である。口縁端部を強くヨコナデする。49 は粗いハケ調整を行う。46 は知多式の製塩土器である。

ＳＨ６（50 ～ 65） 須恵器（50 ～ 59）、土師器（60 ～ 64）、鉄製品（65）を図示した。

須恵器のうち、50 ～ 52 は杯蓋である。50 は赤褐色の色調を呈する。51 は平頂蓋と考えられ、外面に丁寧なヘラ削り調整が行われる。猿投系で、８世紀後半頃のものであろう。53 は赤褐色を呈し、硬質に焼成される。底部外面に丁寧な回転ヘラ削りを施す。金属器模倣の碗と考えられる。猿投系のものである。54 と 55 は無台杯である。55 は灰白色を呈し、生焼けの製品である。口縁部の内面に煤が付着する。美濃須衛系のものである。56 は有台杯である。57 は肩部に強い稜をもつ台付長頸瓶で体部から底部にかけて丁寧に回転ヘラ削りを施す。美濃須衛系のものである。58 はいわゆる鉄鉢形の鉢である。59 は甕である。

土師器のうち、60 と 61 は杯である。60 は底部をヘラ削り調整とする。61 は内面に「×」状の線刻が確認できる。62 は皿である。赤橙色を呈し、胎土は比較的精良である。63 と 64 は甕で、64 は口縁部が

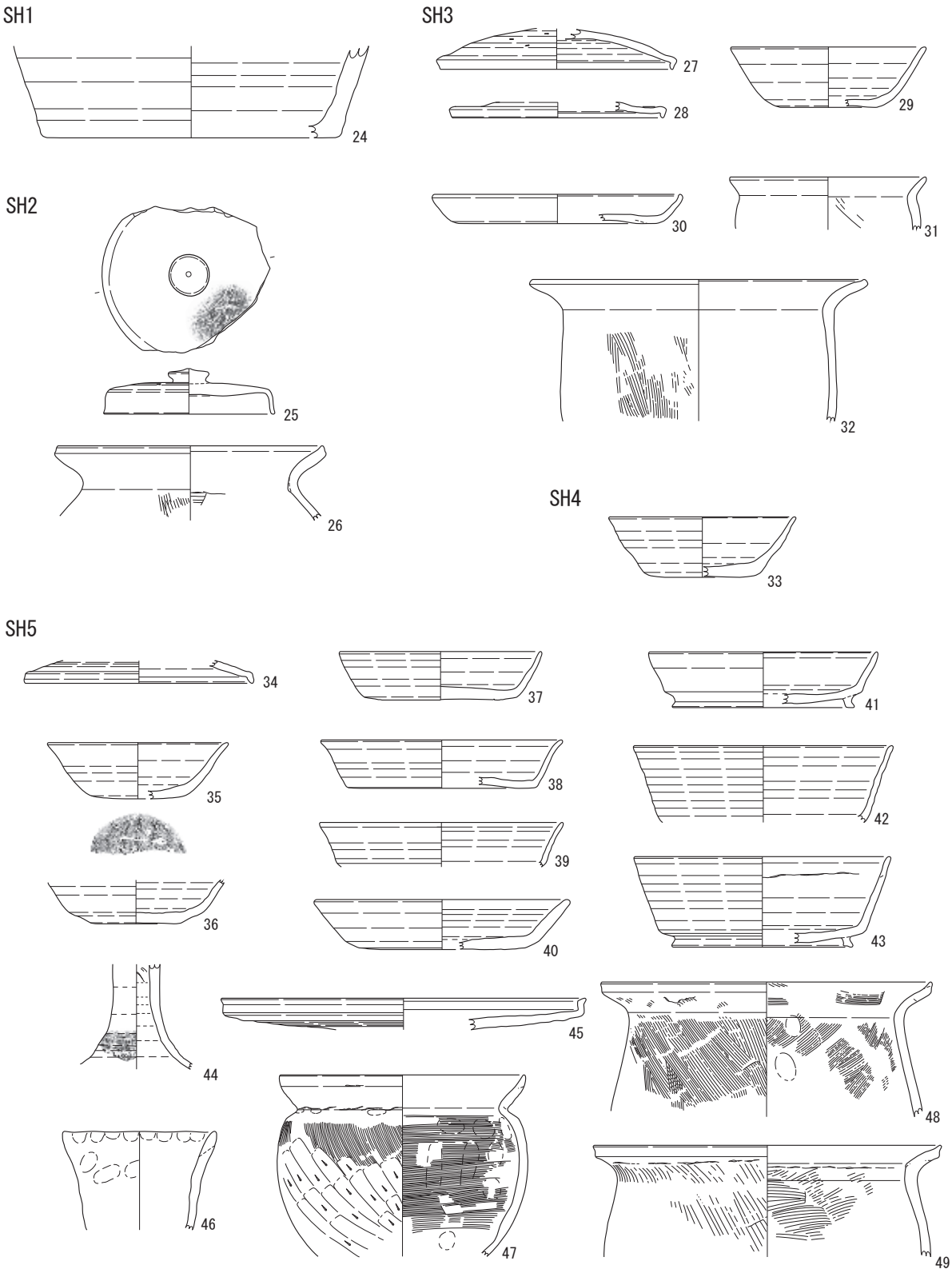


図 82　古代の出土遺物ＳＨ（１）

直線的に延び、端部に明瞭な面をもつ。

65 は鉄鏃である。全長が 8.4 ㎝で、腸抉をもつ長頸鏃である。鏃身部に有機物が付着する。

ＳＨ７（66 ～ 68） 66 は須恵器の杯蓋である。口縁端部を強く折り返す。猿投系で８世紀末頃のものである。67 は高盤の脚部と考えられる。外面に沈線が２条施される。68 は知多式の製塩土器である。

ＳＨ８（69） 土師器の長胴甕である。口縁部はほぼ水平に屈折し、端部を摘まみ上げる。胎土に細かい砂粒が多く混じっている。

ＳＨ９（70） 土師器の長胴甕の胴部片である。内外面は粗いハケ調整をおこなう。

ＳＨ 10（71・72） 71 は須恵器の有台杯である。底部に方形の低い高台が付く。美濃須衛系のものであろう。72 は土師器の長胴甕で口縁部は大きく開き、端部がやや肥厚する。

ＳＨ 11（73・74） 73 は須恵器の有台杯である。猿投系で８世紀後半頃のものか。74 は小型の土師器甕である。口縁部が短く内湾する。体部に強いヘラ削り調整をおこなう。

ＳＨ 12（75 ～ 81） 須恵器（75･76）と土師器（77 ～ 80）を図示した。75 は環状摘みをもつ杯蓋である。焼成前に亀裂が入ったらしく、補修し繋ぎ合わせた痕跡が見られる。在地系と考えられる。76 は甕である。２条一組の沈線を巡らし、沈線の間に波状文を施す。猿投系で８世紀後半頃のものか。

土師器のうち、78 と 79 は杯である。橙色を呈し、外面はヘラミガキ調整とする。77 は皿である。80 は甕で、口縁端部を上方に摘まみ上げる。内外面とも丁寧にハケ調整をおこなう。81 はチャート製の剥片である。混入した遺物であろう。

ＳＨ 13（82） 土師器の把手である。形状から甑もしくは鍋と思われる。

ＳＨ 14（83 ～ 95） 須恵器（83 ～ 88）、土師器（89 ～ 94）、鉄製品（95）を図示した。

83 と 84 は古墳時代の遺構から混入物と考えられる。83 は杯蓋で、天井部に沈線状の稜を巡らす。84 は高杯の脚部で脚端部に鋭い稜をもつ、いずれも猿投系で６世紀代のものであろう。

85 と 86 は須恵器の杯蓋である。軟質焼成で、胎土に長石粒が多く混じる。いずれも猿投系と考えられる。８世紀末頃のものであろう。88 は甕で、黄土が塗布される。底部は平底に近い形状をする。外面は平行叩き、内面は同心円の当て具痕を擦り消す。猿投系のものである。

土師器のうち、89 は平底の甕である。底部に線刻状の木葉文が見られる。濃尾系の甕と思われる。90 ～ 94 は丸底の甕である。90 と 91 は鍋である。口縁端部を小さく摘まみ上げる。92 と 93 は長胴形を呈する甕である。

95 は刀子である。断面は三角形を呈する。全体的に錆膨れが著しいが、茎部から切先まで残存する。

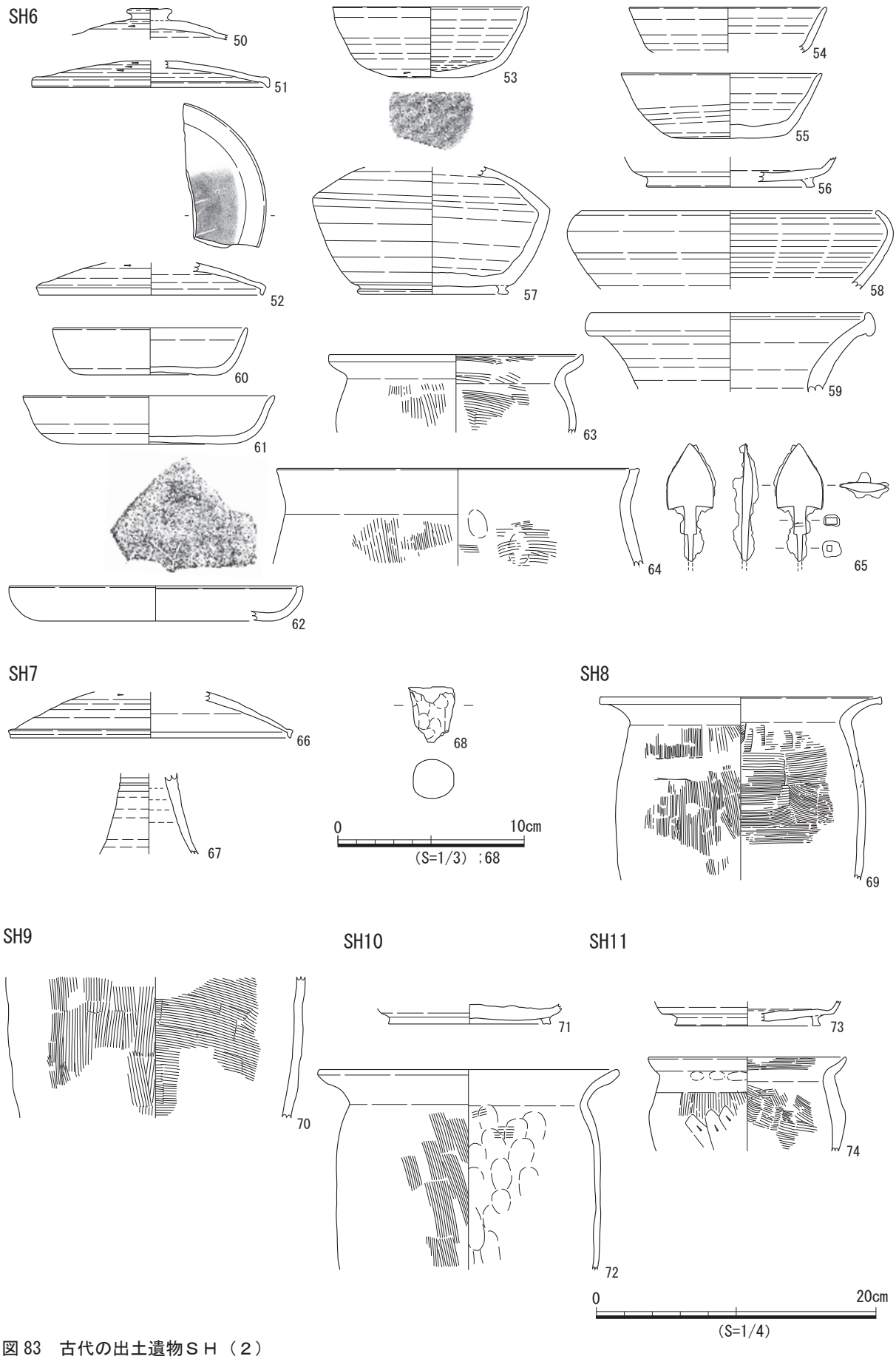


図 83　古代の出土遺物ＳＨ（２）

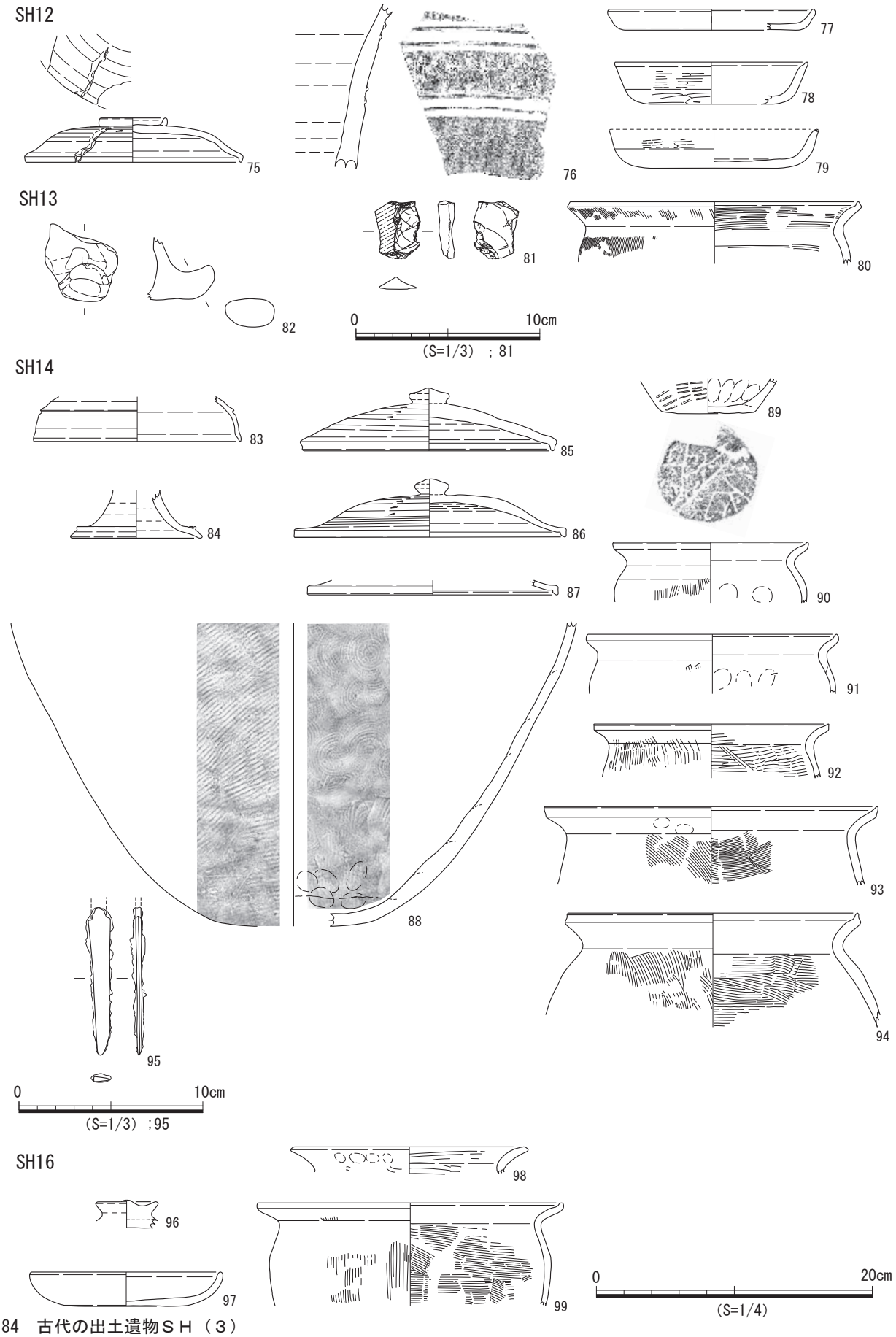


図 84　古代の出土遺物ＳＨ（３）

ＳＨ 16（96 ～ 99） 土師器を図化した。96 は土師器蓋で、摘みのみの小片である。97 は皿で、口縁部が強く内湾する。底部外面はヘラ削り調整される。98 は口縁部の小片だが、濃尾系の甕と考えられる。99 は鍋で、口縁端部を小さく摘まみ上げる。

ＳＨ 17（100 ～ 102） 須恵器（100）、土師器（101・102）を図示した。カマド周辺から出土した。100 はほぼ完形の須恵器杯蓋で、口縁端部を小さく折り曲げる。美濃須衛系で８世紀後半頃のものであろう。101 は小型の土師器甕で、口縁部が直立気味となる。外面はヘラ削り調整である。102 は鍋で、ほぼ完形である。口縁端部を小さく摘まみ上げ、体部の下半部はヘラ削り調整とする。

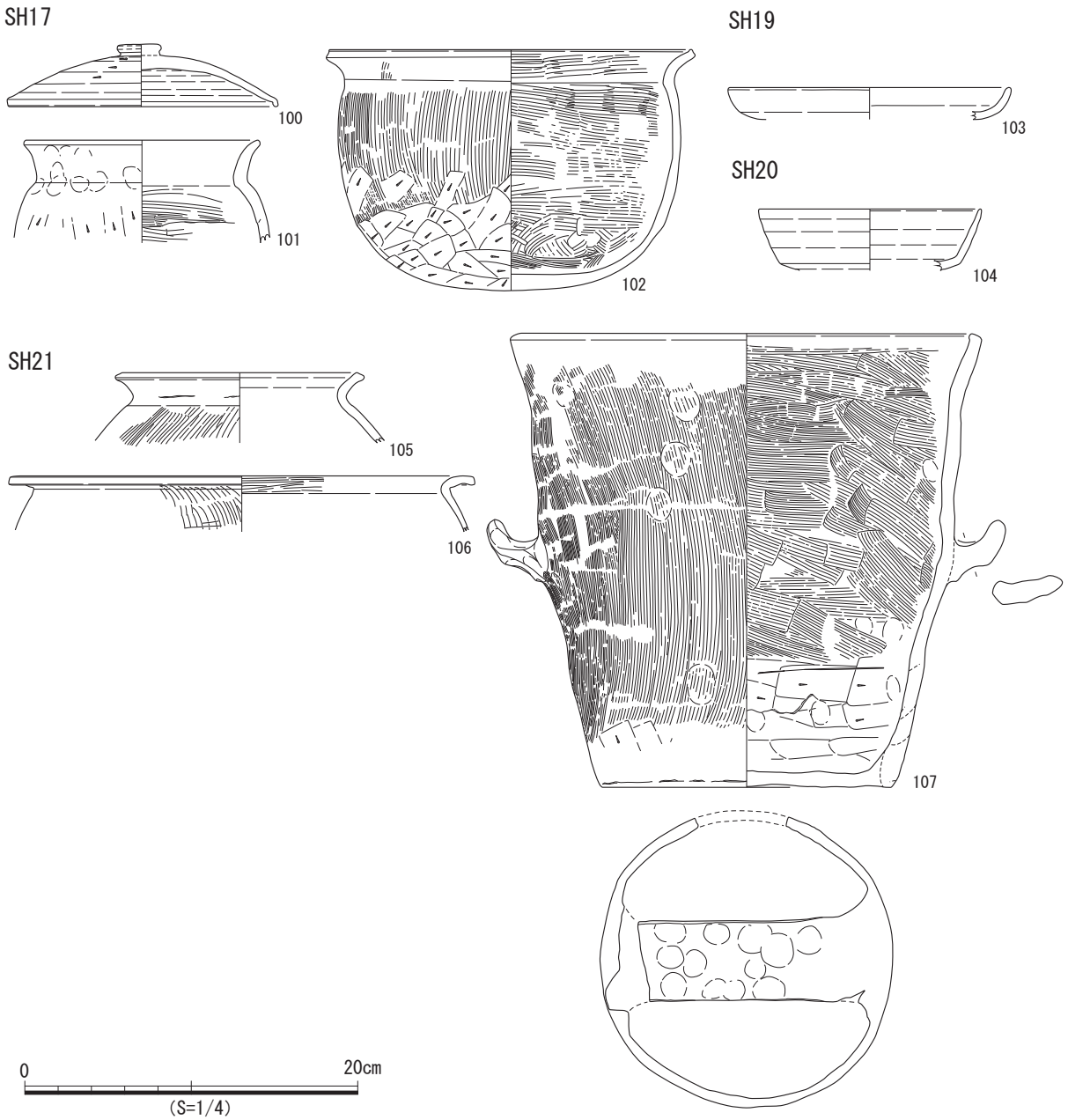


図 85　古代の出土遺物ＳＨ（４）

ＳＨ 19（103） 土師器皿を図示した。口縁部は強く内湾する。

ＳＨ 20（104） 須恵器の杯である。美濃須衛系で、８世紀後半頃のものと思われる。

ＳＨ 21（105 ～ 107） 土師器（105 ～ 107）を図示した。106 は濃尾系の甕で、外面に粗いハケ調整がなされ、口縁部は強く外反する。107 は甑である。口縁部を一部欠くが、ほぼ完形復元できた。外内面はハケ調整、底部周辺をヘラ削り調整とする。体部に黒斑が確認できる。105 は古墳時代の台付甕で、混入遺物と考えられる。

ＳＨ 23（108 ～ 115） 須恵器（108 ～ 110）、土師器（111 ～ 115）を図示した。須恵器は、108 が杯蓋である。猿投系で、８世紀前半頃のものであろう。109 は有台杯と考えられる。110 は高杯で、底部に透かし穴の痕跡が見られる。古墳時代のもので混入遺物か。土師器は、111 は杯で、外面はヘラ磨き調整とする。胎土が比較的精良である。112 ～ 115 は甕である。外面をヘラ削り調整するもの（112）とハケ調整するもの（113 ～ 115）がある。

ＳＨ 24（116 ～ 127） 須恵器（116 ～ 119）、土師器（120 ～ 126）と土製品（127）を図示した。

須恵器で、116 は杯蓋で、天井部に扁平な摘みが付く。内面に墨痕が薄く残り、若干摩耗している。転用硯の可能性がある。美濃須衛系で８世紀後半頃のものであろう。117 は有台杯である。118 は無台杯で、底部は丁寧にヘラ削り調整がなされる。美濃須衛系のものである。119 は甕で猿投系と考えられる。

土師器は、120 と 121 は皿で、やや厚手である。122 は杯で、口縁部がわずかに外反する。123 と 124 は甕である。123 は二次焼成により煤が付着する。126 は小型の甕で平底となる。体部下半部はヘラ削り調整である。125 は鍋である。口縁部端部を上方に摘み上げ、体部下半はヘラ削り調整となる。127 は土製品である。少片だが、土馬の脚部の可能性がある。

ＳＨ 25（128） 土師器甕を図示した。内外面ともハケ調整である。

ＳＨ 26（129 ～ 132） いずれも須恵器で猿投系のものである。129 ～ 131 は有台杯である。129 は、ほぼ完形品で底部は丁寧に回転ヘラ削り調整がなされる。８世紀後半のものであろう。132 は甕で、全体的に白っぽい色調を呈する。生焼けの製品である。外面に平行叩き痕が見られる。

ＳＨ 27（133 ～ 136） 須恵器（133 ～ 135）と土師器（136）を図示した。133 は有台杯である。粘土を貼り足し、底部を厚く成形する。美濃須衛系で、８世紀後半から末頃と思われる。134 は杯か皿の底部片と考えられる。不鮮明だが墨書が確認できる。135 は長頸瓶である。３段構成の成形であろうか。外面に自然釉が付着する。猿投系のものである。136 は土師器甕で、濃尾系と考えられる。

ＳＨ 28（137 ～ 147） 須恵器（137 ～ 141）、土師器（142 ～ 145）を図示した。須恵器のうち、137 は無台杯で、生焼けの製品である。猿投系で８世紀後半頃のものか。139 も生焼けで底部はヘラ切り未

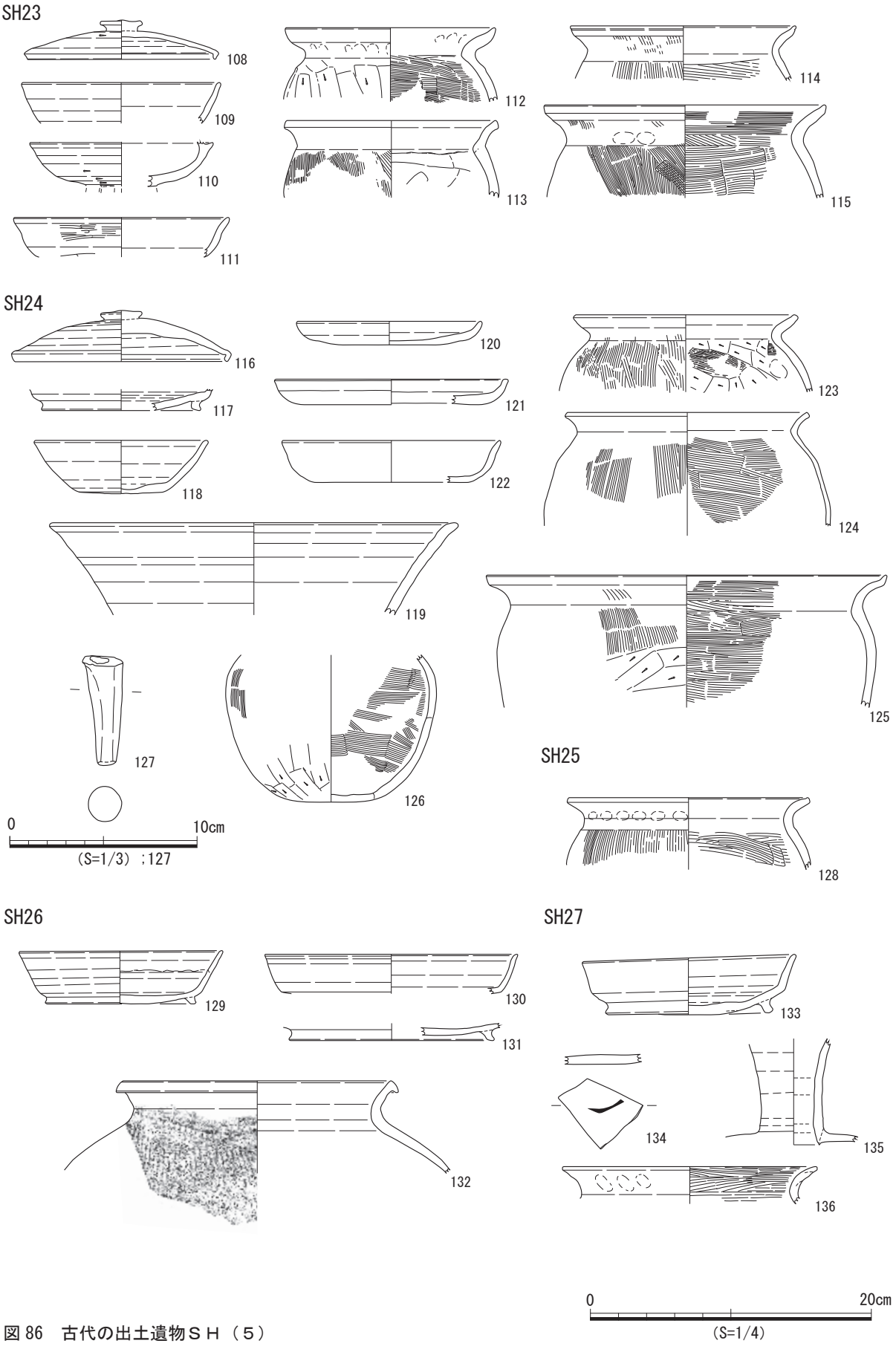


図 86　古代の出土遺物ＳＨ（５）

調整となる。美濃須衛系と思われる。138 は有台杯である。140 は提瓶の把手と考えられる。141 は短頸鉢である。頸部の下に沈線を巡らす。橙色を呈する生焼けの製品で、猿投系と考えられる。

土師器は、杯と甕がある。142 の杯は口縁部が外反し内面に段をもつ。外面はヘラ削り調整する。143 は小型甕で、口縁部端部に浅い沈線を巡らす。体部の下半部はヘラ削り調整である。145 ～ 147 は長胴甕でカマドから出土した。146 は口縁部が内湾し、胎土は精良である。体部下半はヘラ削り調整である。147 は口縁部が緩やかに外反し、胎土の砂粒が多い。底部はヘラ削り調整である。

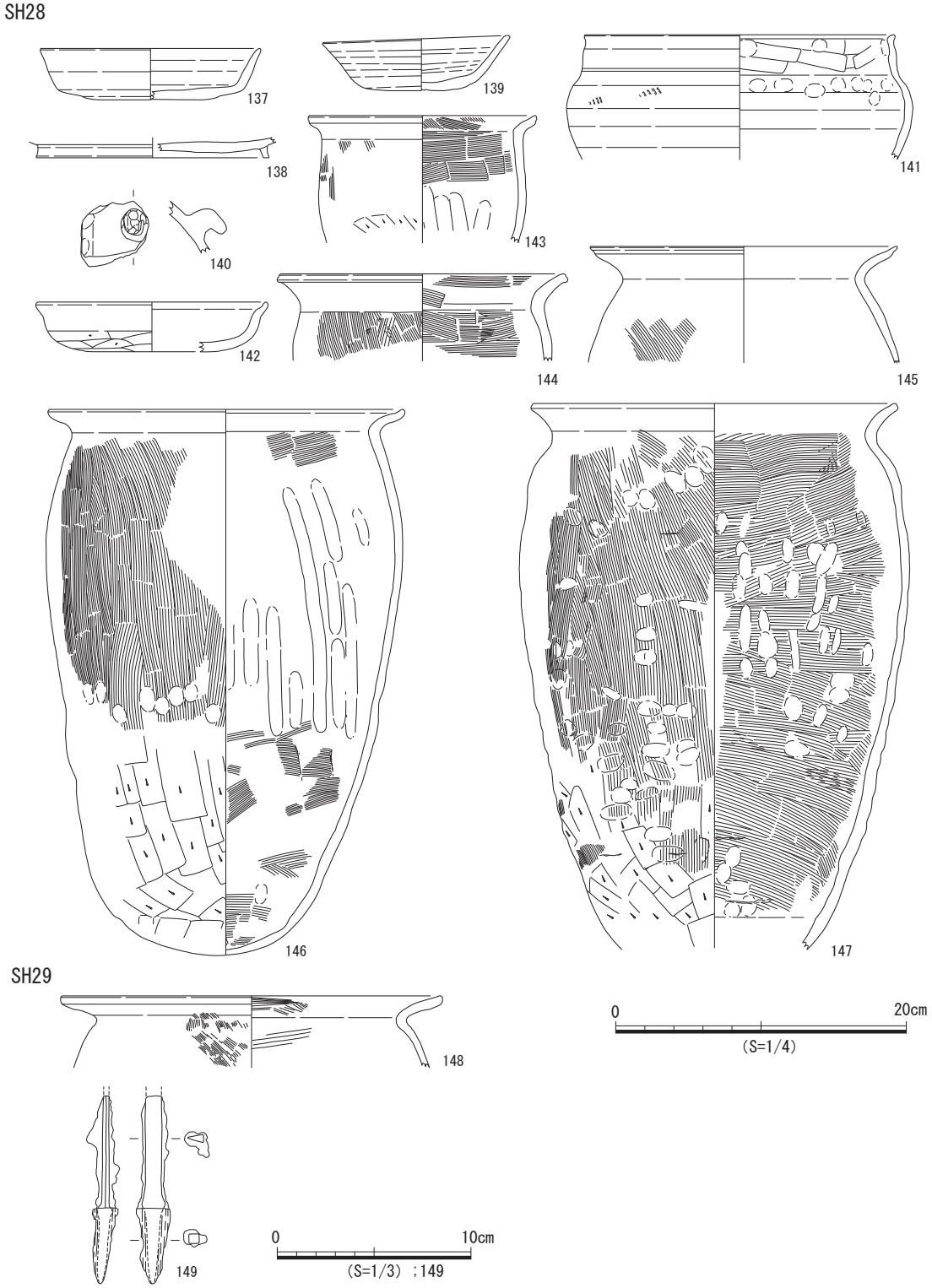


図 87　古代の出土遺物ＳＨ（６）

ＳＨ 29（148・149） 148 は土師器の長胴甕である。口縁部は水平に屈折する。149 は鉄製品で、鑿等の工具類の可能性がある。茎部に木質が付着する。

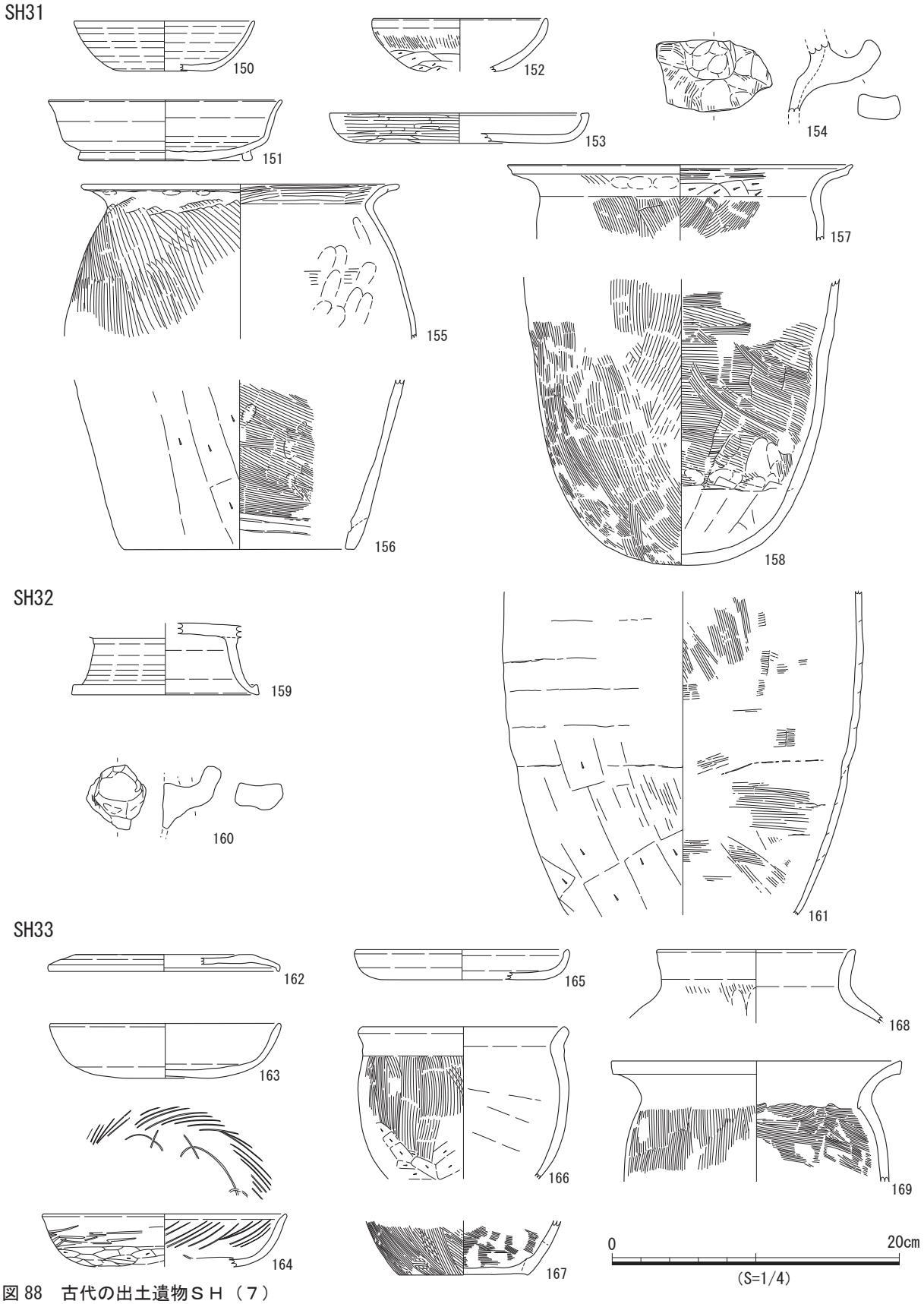


図 88　古代の出土遺物ＳＨ（７）

ＳＨ 31（150 ～ 158） 須恵器（150・151）、土師器（152 ～ 158）を図示した。須恵器のうち、150 は碗である。薄手で丁寧に回転ナデ調整される。猿投系で 8 世紀前半頃の可能性がある。151 は有台杯である。外面底部中央に回転糸切り痕をわずかに残す。猿投系と考えられる。

土師器は、152 が碗である。外面はハケ調整で下半部をヘラ削りとする。153 は皿である。橙色を呈し、外面は丁寧にヘラ磨き調整する。155 ～ 158 は長胴甕である。155 は器壁が薄く、荒いハケ調整がなされる。濃尾系の甕である。157 は口縁部を強くヨコナデし、端部を摘まみ上げる。158 は長胴甕の底部で、内面に輪積み痕が明瞭に残る。内外面ハケ調整である。156 は甑で、内面はハケ調整である。

ＳＨ 32（159 ～ 161） 須恵器（159）、土師器（160・161）を図示した。159 は盤で、軟質焼成である。猿投系で、8 世紀後半頃のものと考えられる。160 は鍋の把手である。161 は長胴甕の体部である。摩滅のため調整は不明瞭だが、外面下半部はヘラ削り調整となる。濃尾系甕の可能性がある。

ＳＨ 33（162 ～ 185） 須恵器（162）、土師器（163 ～ 169）、土製品（170 ～ 185）を図示した。162 は須恵器の杯蓋である。焼き歪みで、天井部が大きく凹む。在地産の可能性がある。

土師器は、163 と 164 が杯である。164 は暗文土師器で、内面に放射状と螺旋状の暗文が施される。外面はヘラ磨き、底部はヘラ削りで丁寧に調整される。165 は皿で、底部はヘラ削り調整である。166 ～ 169 は甕である。166 は小型の甕で、口縁部が短く外反する。167 は平底で内面に成形時の段がつく。168 は口縁部が直口する。169 は大きく外反し、端部に面をもつ。

170 ～ 185 は土錘で、カマド周辺から出土した。管状土錘である。長さは 4.7 ㎝～ 6 ㎝ほどで形状は、185 が細長い筒状であるが、大半が紡錘形を呈し、孔径の最大径が中央にあるものが多い。

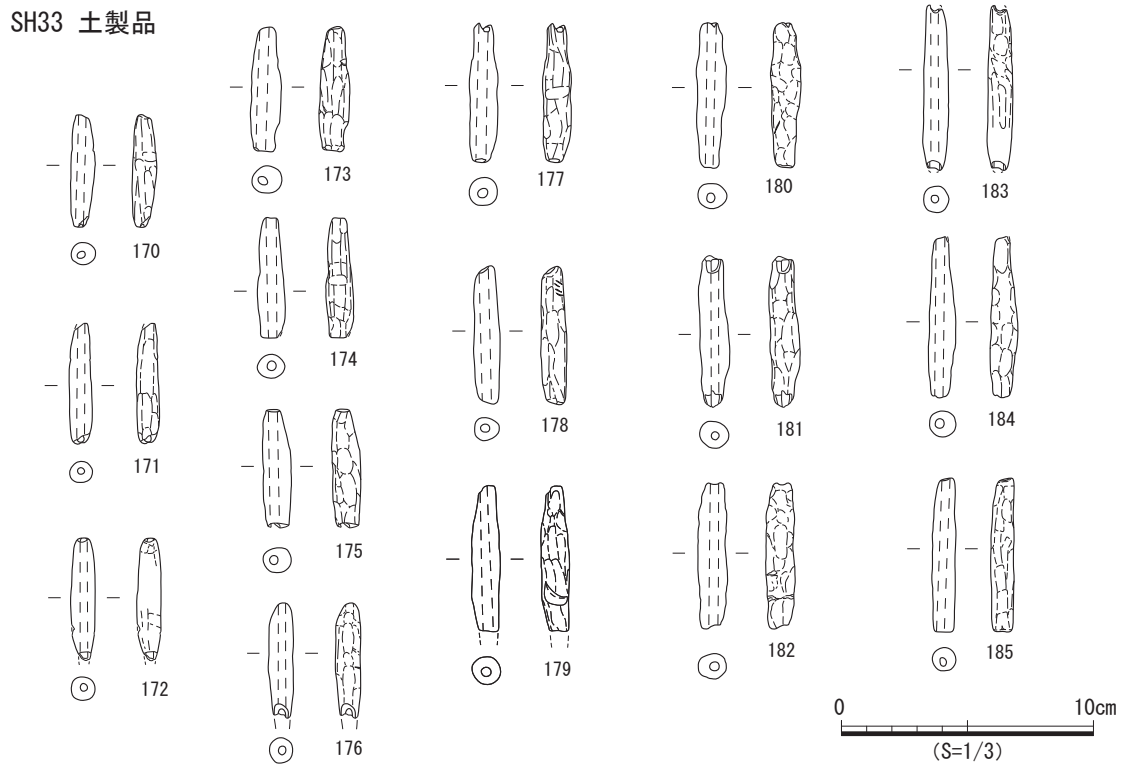


図 89　古代の出土遺物ＳＨ（８）

b. 土　坑

ＳＫ１（186） 須恵器の有台杯である。底部外面に回転ヘラ削り調整がなされる。猿投系で、8 世紀後半頃のものと考えられる。

ＳＫ２（187、188） 187 は須恵器の無台杯と考えられる。底部に糸切痕を残す。猿投系のものと考えられる。188 は深手の器形である。

ＳＫ３（189） 須恵器の壺である。口縁部が直口し、端部を丸く収める。

ＳＫ４（190） 須恵器の杯蓋である。天井部に疑宝珠状の小さい摘みが貼り付けられる。猿投系ので、８世紀末頃のものと思われる。

ＳＫ５（193） 須恵器の有台杯である。底部外面に墨が薄く付着している。猿投系で、８世紀後半頃のものであろう。

ＳＫ６（191､192） 191 は須恵器の有台杯である。底部に低い高台が貼り付けられる。192 は土師器鍋である。口縁部が大きく外反する。摩滅が著しいが、外面はハケ調整である。

ＳＫ７（194） 鉄製品である。先端が欠損するが、緩やかに湾曲する形状を呈する。鉋や鎌など工具類であると考えられる。

ＳＫ８（195） 須恵器の甕である。生焼け製品で、口縁部は直立気味に開く。外面に平行叩きをおこなう。

ＳＫ９（196） 土師器甕である。口縁部が若干肥厚し、明瞭な面をもつ。内外面はハケ調整となる。

ＳＫ 11（197） 小型の土師器甕である。平底に近い形状を呈する。内面に浅い窪み状の段が見られる。底部の成形時に生じたと考えられる。内外面はハケ調整で、底部はヘラ削り調整である。

ＳＫ 14（198） 土師器の杯である。橙色を呈する精製品である。摩滅で内面の暗文の有無は不明だが、体部外面の下半部を丁寧にヘラ削り調整する。

ＳＫ 15（199、200） 199 は土師器皿である。口縁端部を丸く収める。200 は小型の甕である。口縁端部を小さく摘まみ上げる。

ＳＫ 16（201） 土師器の有台杯である。橙色を呈し、口縁部を強くヨコナデする。底部に方形の低い高台が貼り付けられている。

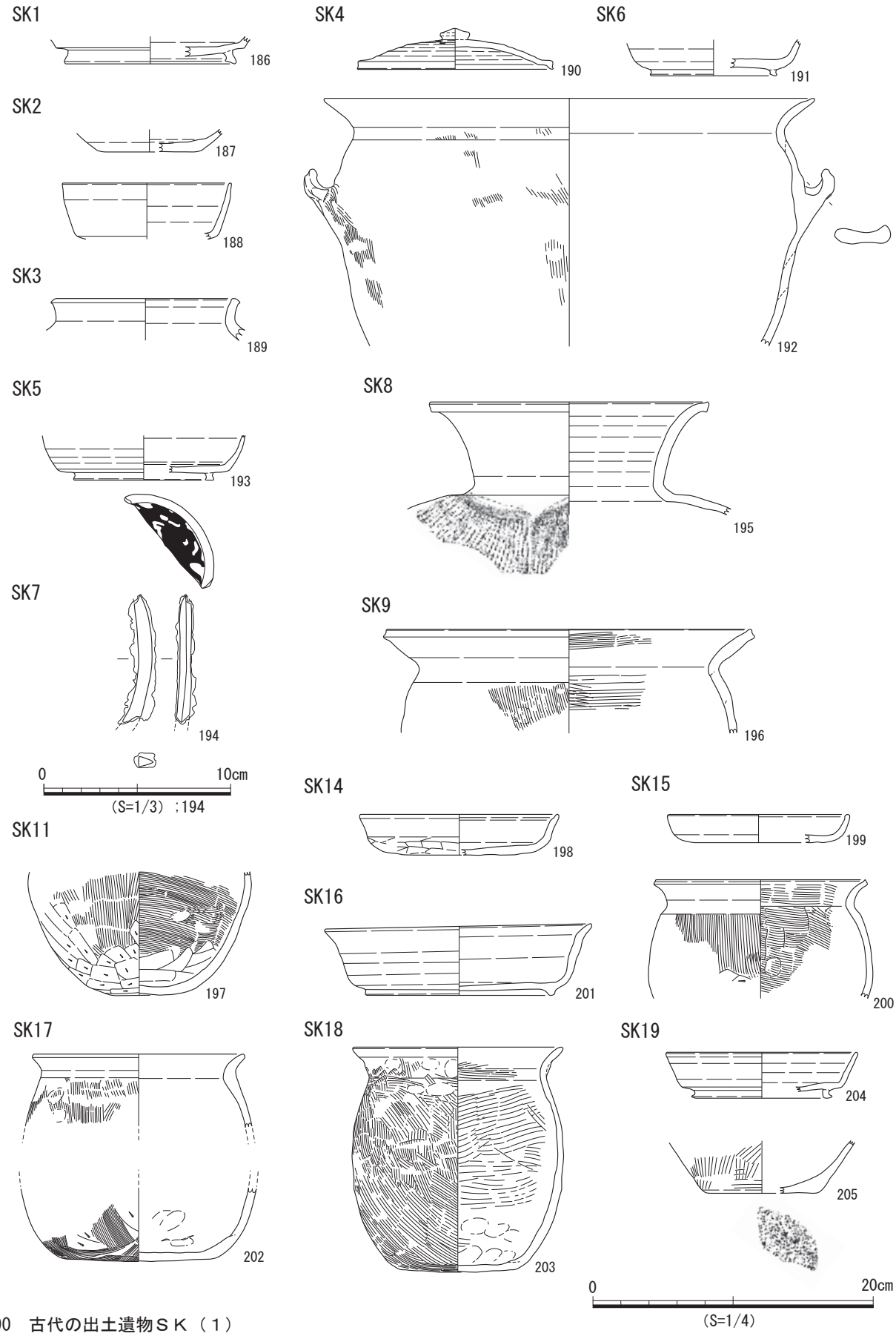


図 90　古代の出土遺物ＳＫ（１）

ＳＫ 17（202） 小型の土師器甕である。体部を欠くが、平底の器形に復元される。底部は円盤状に成形し、その上を輪積み成形したと考えられる。濃尾系の可能性がある。

ＳＫ 18（203） 小型の土師器甕である。平底の器形で口縁部は外側に大きく開く。底部は薄く成形され、体部内面に輪積痕が顕著に見られる。外面はハケ調整である。202 に比べ薄手に成形されている。濃尾系の甕と考えられる。

ＳＫ 19（204、205） 204 は須恵器の有台杯である。外周部近くに高台が貼り付けられる。猿投系で 8 世紀後半頃と考えられる。205 は平底の土師器甕である。底部外面に線刻による木葉痕が確認できる。濃尾系の甕と考えられる。

ＳＫ 20（206） 須恵器の甕を図示した。外面に平行叩き痕が見られ、内面はナデ調整である。

ＳＫ 22（207、208） 207 は無台杯である。生焼けの製品である。底部を厚く成形し、外面は回転ヘラ削り調整を行う。底部内面に線刻が確認できる。猿投系で 8 世紀後半頃のものと考えられる。208 は有台杯である。底部に直立する高台が貼り付ける。底部中央に糸切痕を残す。猿投系で 8 世紀後半頃のものと考えられる。

ＳＫ 23（209） 平瓶と考えられる。在地系の可能性がある。

ＳＫ 26（210） 土師器の把手片である。鍋の把手と考えられる。

ＳＫ 28（211、212） 211 は土師器の甕である。口縁端部を上方に小さく摘まみ上げている。全体に煤が付着する。212 は全体の形状から鍋の可能性がある。口縁部上方がやや内湾気味に立ち上がり、口縁端部を小さく摘まみ上げる。

ＳＫ 29（213 ～ 219） 須恵器（213 ～ 215）、土師器（216 ～ 218）、鉄製品（219）を図示した。

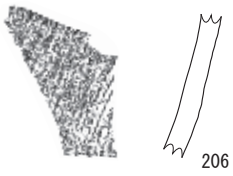
213 は須恵器の杯蓋である。猿投系で 8 世紀末頃のものと考えられる。214 は有台杯である。底部の端近くに突出する高台が貼り付けられる。215 は平瓶と考えられる。美濃須衛系の可能性がある。

土師器のうち、216 は皿である。217 は甕で平底を呈する。やや厚手の成形である。内外面はハケ調整である。218 は把手片であるが、甑の可能性がある。

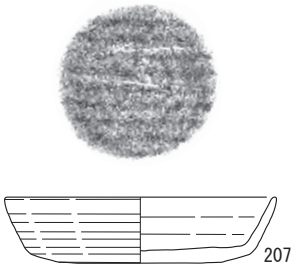
219 は錆膨れのため刃部が不明だが、形状から槍鉋の可能性がある。

ＳＫ 31（220 ～ 222） 221 は須恵器の有台杯である。猿投系で 8 世紀前半頃のものと考えられる。222 は平底の土師器甕である。外面はハケ調整、底部周辺はヘラ削り調整がなされる。濃尾系の可能性がある。220 は尾張系の山茶碗である。混入品と考えられる。低い高台が貼り付けられ、籾殻痕を残す。藤沢編年の 7 型式のものであろう。

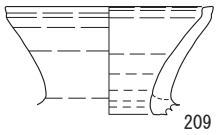
SK20

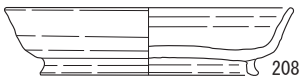


SK22

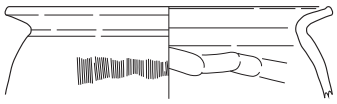


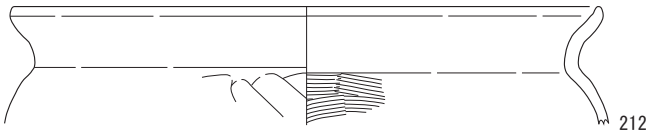
SK23



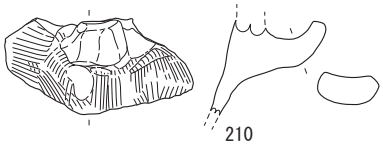


SK28





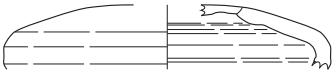
SK26



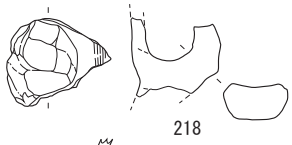
SK29

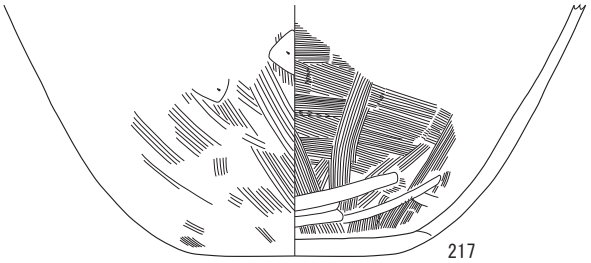


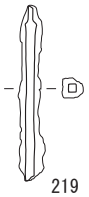




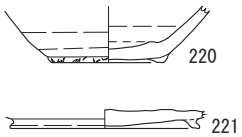


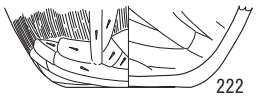




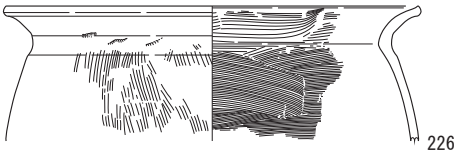


SK31

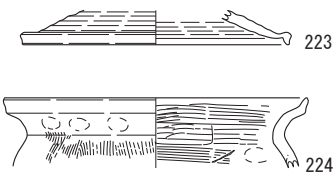




SK34



SK32



SK33



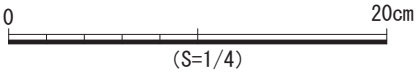


図 91　古代の出土遺物ＳＫ（２）

ＳＫ 32（223、224） 223 は須恵器の杯蓋である。口縁端部を強く折り返す。猿投系で８世紀末から９世紀前半のものと考えられる。224 は土師器の甕である。口縁端部を受口状に強く摘まみ上げる。

ＳＫ 33（225） 長頸瓶と考えられる。猿投系の可能性がある。

ＳＫ 34（226） 土師器の甕である。口縁端部を小さく摘まみ上げる。内外面はハケ調整である。

ＳＫ 35（227 ～ 229） 227 は須恵器の有台杯である。底部が突出し、底部の端近くに高台が貼り付けられる。猿投系で 8 世紀前半頃のものと考えられる。228 は須恵器の深鉢である。美濃須衛系の可能性がある。229 は土師器の甕である。

ＳＫ 36（230） 口縁部の小片であるが、土師器の鍋と考えられる。

ＳＫ 37（231） 須恵器２個体が融着している。上部は環状の摘みをもつ杯蓋である。下部に杯が重なっている。在地産のものと考えられる。８世紀後半頃のものであろう。

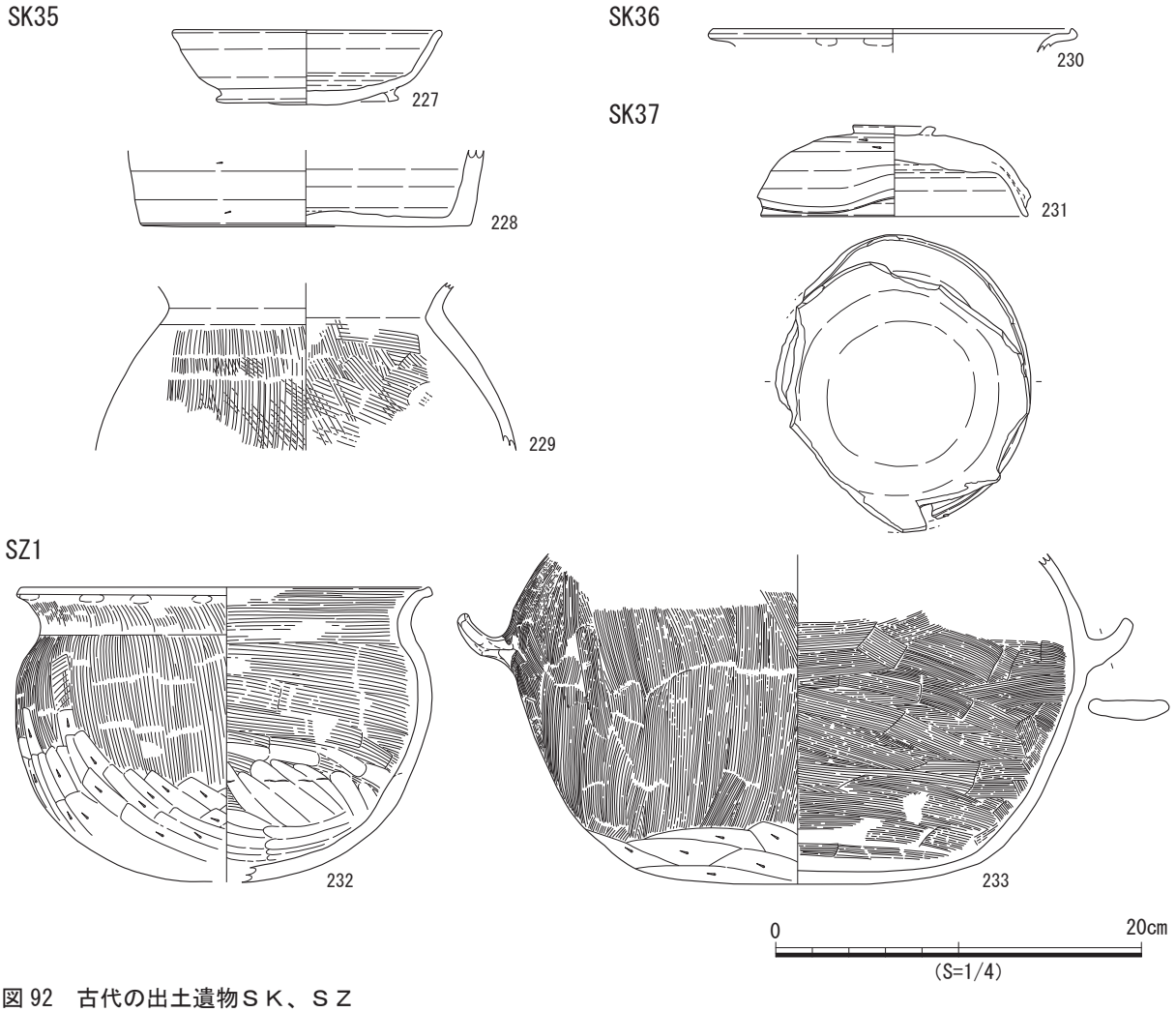


図 92　古代の出土遺物ＳＫ、ＳＺ

ｃ． 土器埋設遺構

ＳＺ１（232、233） 232 は土師器の鍋である。口縁端部に小さい面をもち、体部上半分はハケ調整、下半部はケズリ調整をおこなう。外面に煤が付着する。233 は把手付の鍋である。口縁部を欠いており、体部のみほぼ完存する。内外面ともハケ調整で、底部外面はケズリ調整である。

ｄ． 掘立柱建物、小穴

ＳＢ１（234 ～ 236） 234 は須恵器の無台杯、235 は有台杯である。236 は長頸瓶の脚部である。いずれも猿投系で 8 世紀後半頃のものである。

ＳＢ７（237、238） 237 は須恵器の短頸鉢である。口縁部が外反し、体部に沈線が施される。238 は須恵器の杯身である。口縁部は内傾し、底部は平らになる。外面は丁寧に回転ヘラ削り調整され、底部外面に線刻が確認できる。猿投系で 7 世紀代前半頃のものと考えられる。

ＳＰ１（239） 須恵器の杯と考えられる。猿投系のものである。

ＳＰ２（240、241） 240 は摘みをもたない杯蓋である。灰白色の色調を呈し、薄く成形される。猿投系で、9 世紀前半頃のものか。241 は碗である。猿投系で、8 世紀後半頃のものと考えられる。

ＳＰ３（242） 土師器甕である。口縁端部を強くヨコナデする。

ＳＰ４（243） 須恵器の無台杯である。猿投系で、8 世紀後半頃のものと考えられる。

ＳＰ５（244） 須恵器の杯蓋である。猿投系で、8 世紀末頃のものと考えられる。

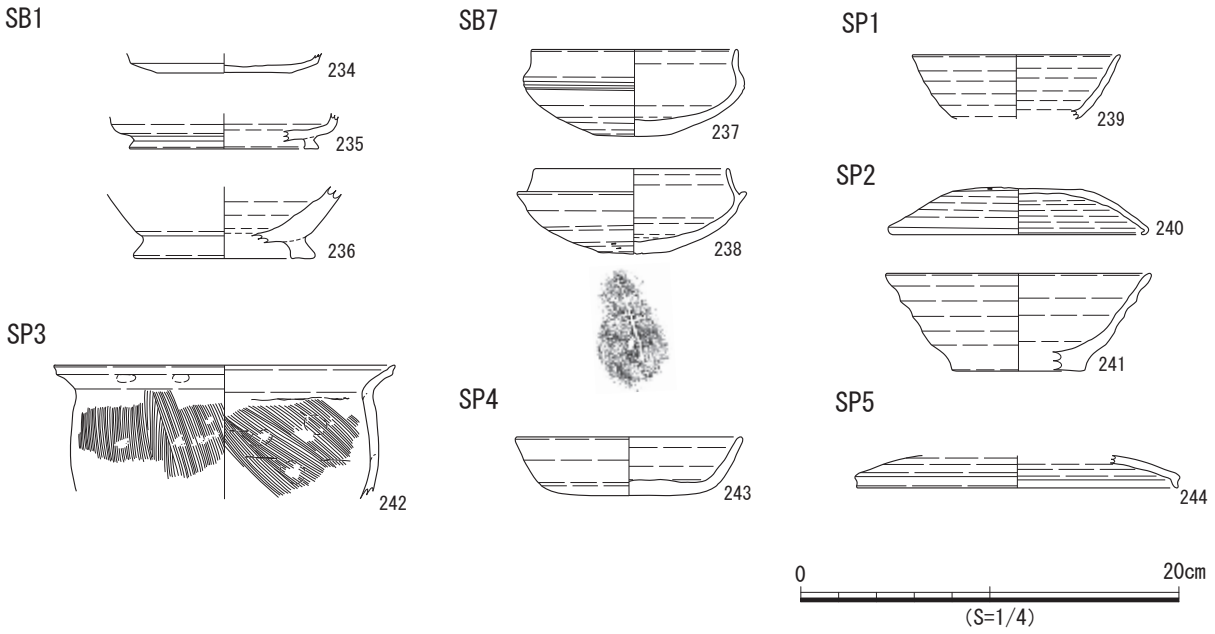


図 93　古代の出土遺物ＳＢ、ＳＰ

e. 溝

ＳＤ１（245） 須恵器の甕である。猿投系で9世紀前半頃のものと考えられる。

ＳＤ５（246） 砂岩製の有溝石錘と考えられる。砲弾形を呈し、中央に敲打による浅い窪みが見られる。縄文時代のものと考えられる。混入遺物と考えられる。

ｆ． 遺構外の遺物

表土や包含層など遺構に伴わない遺物を一括して報告する。

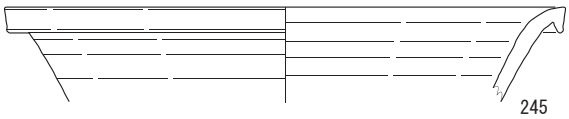
須恵器（247 ～ 255） 248は杯蓋である。天井部は平らで、扁平な摘みが貼り付けられる。247は無台杯で、底部が丸みをもつ。内面に線刻が見られる。249 ～ 251は有台杯である。口縁部が直線的に立ち上がるもの（249）と外反するもの（250）がある。252は盤で口縁部が強く外反する。255は長頸瓶である。外面にシッタの痕跡が見られる。猿投窯の製品で８世紀後半のものであろう。254は甕である。沈線を巡らし、その間に連続する爪形の刺突文を施す。

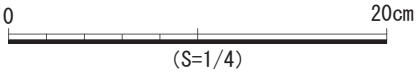
土師器（256 ～ 258） 256は小型の甕である。端部の摘み上げが見られない。257は口縁部が外傾し、体部は外面のみハケ調整である。頸部に焼成後の穿孔が見られる。258は長胴形になると考えられ、口縁端部は小さく摘み上げている。内外面は細かいハケメで調整される。

瓦（259） 試掘調査時に出土した。外縁部が重圏文となる、単弁10葉蓮華文の軒丸瓦である。灰白色を呈し硬質焼成される。天王平遺跡西側に近接する北小山廃寺で同系統の瓦が採集されている。

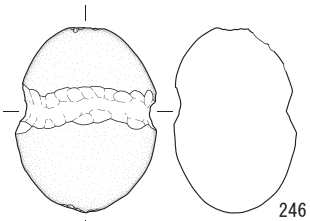
石製品（260） 打製石斧である。泥岩製と考えられる。基部は欠損しているが、撥形を呈する。縁片部を剥離整形して、形状を整えている。縄文時代のものである。

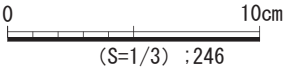
SD1



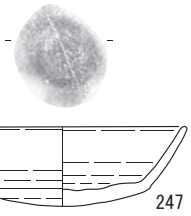


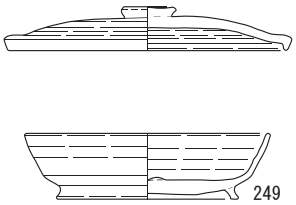
SD5

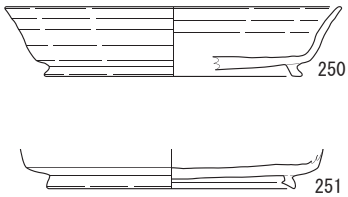


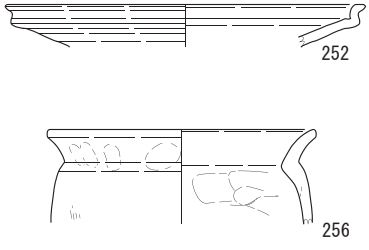


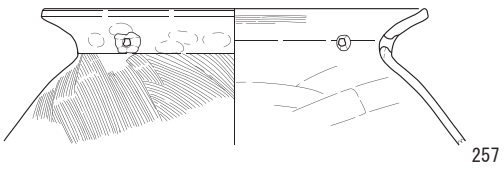
遺構外の遺物

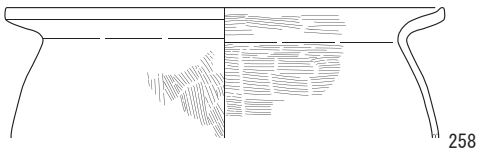


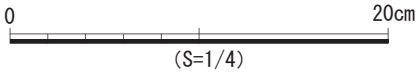


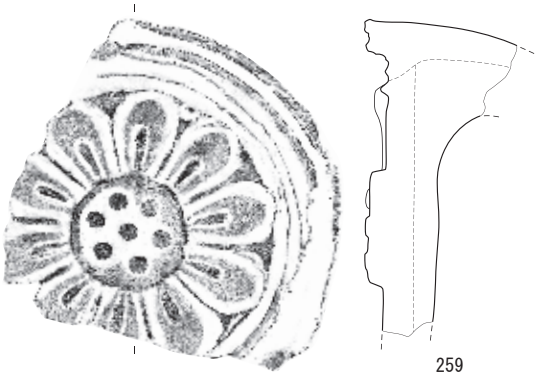


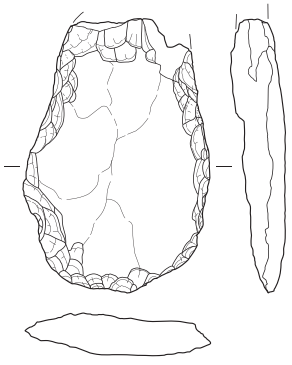












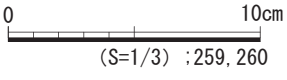


図 94　古代の出土遺物ＳＤ、遺構外の出土遺物

２．10 次調査の出土遺物

遺物量は全体的に少ないが、Ａ地区を中心に、古墳時代から奈良時代までの遺物が出土している。遺構ごとに報告する。

a.　竪穴建物

ＳＨ１(261 ～ 265)　須恵器 (261､262) と土師器(263 ～ 265)がある。262 は無台杯で､薄手に成形され、底部はヘラ削り調整される。猿投系のもので、8 世紀前半頃のものと考えられる。土師器のうち、263 は杯で、口縁外面はヘラ磨き調整とする。264 は甕である。265 は把手付きの鍋で、口縁部が外傾し端部に明瞭な面をもつ

b.　土　坑

ＳＫ１（266・267）　いずれも土師器甕である。266 は口縁のみであるが、胎土に砂粒が多く、内外面は粗いハケ調整となる。濃尾系甕と考えられる。

ＳＫ２（268・269）　268 は土師器皿である。橙色を呈する精製品である。内面に放射状と螺旋状の暗文が施される。底部は丁寧にヘラ削り調整される。269 は小型の甕である。平底気味の器形で、体部内面は粗いハケ調整をおこなう。

c.　小穴、掘立柱建物

ＳＰ１（270）　須恵器杯身である。口縁端部に段をもち、体部下半部は回転ヘラ削り調整とする。5 世紀末頃のものであろう。

ＳＰ２（271）　古墳時代の土師器台付甕である。宇田型の甕で、口縁部を強くヨコナデし端部に面がつくられる。体部は羽状のハケが施される。

ＳＰ３（272）須恵器の有台杯である。底部に低い台形状の高台が貼り付けられる。

ＳＰ４（273）須恵器の甕である。黄土の塗布が見られ、外面に平行叩き痕を明瞭に残す。猿投系で８世紀代のものであろう。

ＳＢ１（274）須恵器杯蓋である。小片だが、猿投系で 8 世紀前半頃のものと考えられる。

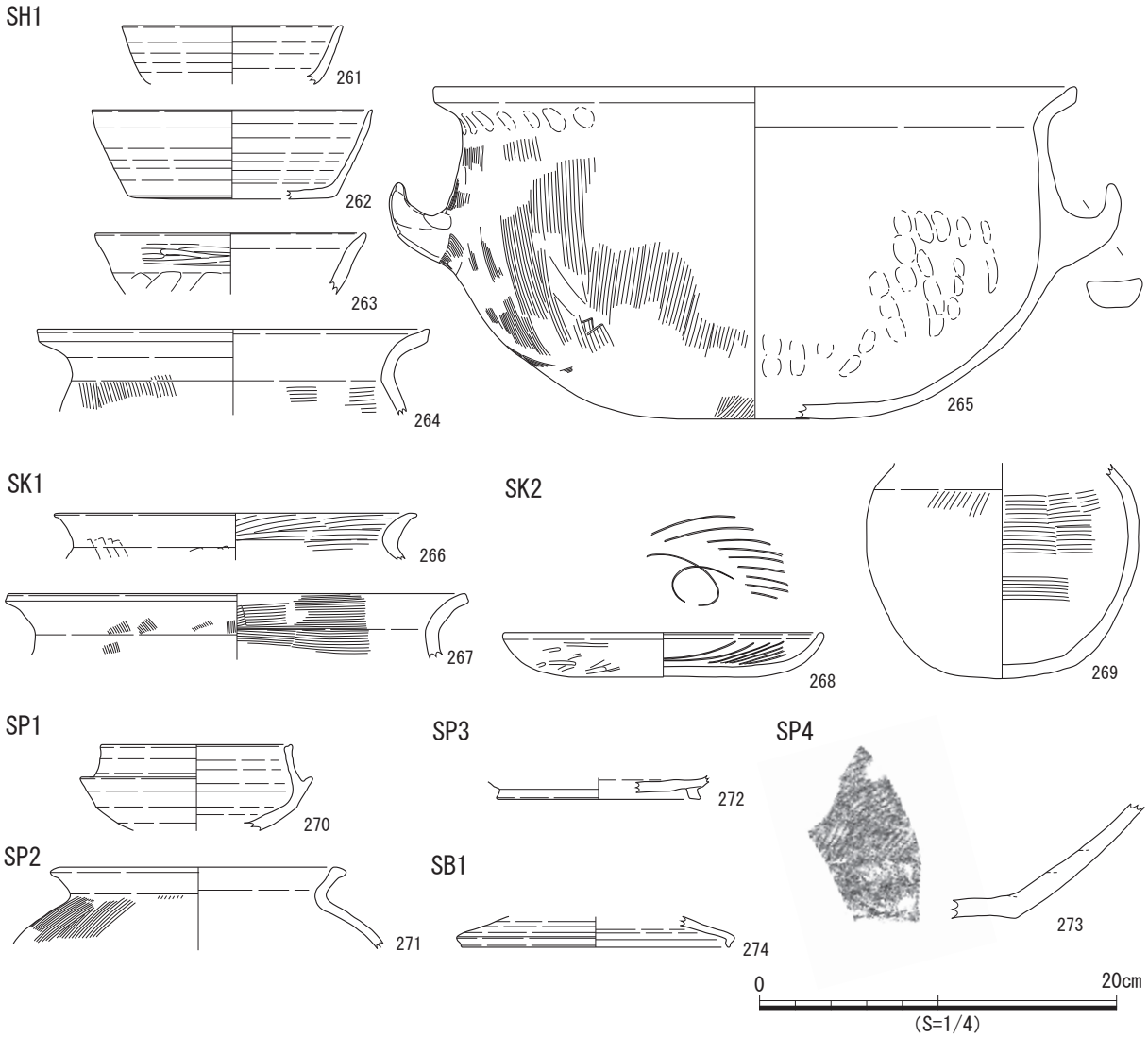


図 95　10 次調査の出土遺物

表２　土器観察表（１）

報告番号	出土遺構	グリッド	器種	法量	胎土	焼成	色調	成形・調整・施文・施釉等	備考
1	SH15	35Q 36R・Q	須恵器 高杯	底径（9.0） 器高　－	密	良好	内面：灰白（5Y7/1） 外面：灰（5Y6/1）	内外：回転ナデ	
2	SH18	32P・Q	須恵器 杯蓋	器高　－	密	良好	内外面：灰（N6/0）	内：回転ナデ、ナデ 外：回転ケズリ、回転ナデ	
3	SH18-P1	32P・Q	須恵器 杯蓋	口径（12.8） 器高（4.8）	密	良好	内：灰白（5Y7/1） 外：灰（5Y6/1）	内：回転ナデ 外：回転ナデ、回転ケズリ	
4	SH18	32P・Q	須恵器 甕	口径　－ 底径　－	密	良好	灰白（2.5Y7/1）	内：回転ナデ 外：回転ナデ、列点文	
5	SH18	32P・Q	土師器 碗	口径（11.0） 器高 3.5～	密	良好	橙（5YR6/6）	内外：ヨコナデ、ナデ、指オサエ	
6	SH18	31・32 O～Q	土師器 台付甕	底径 10.4 器高　－	密	良好	内：橙（5YR7/6） 外：灰黄褐（10YR4/2）	内：ヨコナデ、ナデ、指オサエ 外：ハケ、ヘラナデ	
7	SH18 土坑 1	31P・31Q	土師器 甕	口径（20.9） 器高　－	密	良好	浅黄橙（10YR8/4）	内：ハケ、ナデ 外：ナデ、ハケ	
8	SH18	32P・Q	土師器 甕	口径（21.0） 器高　－	やや密	良好	浅黄橙（10YR8/4）	内：ヨコハケ 外：ヨコナデ、ハケ、指オサエ	
10	SH22	29・30 P・Q	須恵器 杯身	口径（10.9） 器高 4.3～	密	良好	内：灰（5Y6/1） 外：灰（5Y5/1）	内：回転ナデ 外：回転ケズリ、回転ナデ、自然釉付着	
11	SH22	29・30 P・Q	須恵器 高杯	底径（9.0） 器高　－	密	良好	灰（N5/0）	内外：回転ナデ	
12	SH22	29・30 P・Q	須恵器 平瓶	口径（9.6） 器高　－	密	良好	内：灰白（2.5Y7/1） 外：黄灰（2.5Y6/1）	内外：回転ナデ	
13	SH22	29・30 P・Q	須恵器 杯蓋	口径　－ 器高　－	密	良好	黄灰（2.5Y5/1）	内：回転ナデ 外：回転ナデ、回転ケズリ	
15	SH34	7・8 O～Q	須恵器 杯身	口径（10.8） 器高（4.5）	密	良好	内：灰黄褐（10YR6/2） 外：黄灰（2.5Y6/1）	内：回転ナデ、輪積み痕 外：回転ナデ、回転ケズリ	
16	SH34	7・8 O～Q	須恵器 鉢	底径（7.0） 器高 4.8～	密	良好	内：褐灰（10YR6/1） 外：褐灰（5YR5/1）	内：回転ナデ 外：回転ケズリ	
17	SK12	45R	須恵器 杯蓋	口径 11.7 器高 4.5	密	良好	内：黄灰（2.5Y6/1） 外：灰白（2.5Y7/1）	内：回転ナデ 外：回転ナデ、回転ケズリ	
18	SK21	37T	須恵器 杯身	口径（11.2） 器高 2.8～	密	良好	灰（7.5Y6/1）	内：回転ナデ 外：回転ナデ、回転ケズリ	
19	SK30	27R	土師器 台付甕	口径（14.0） 器高　－	やや粗	良好	内：にぶい橙（7.5YR7/4） 外：橙（7.5YR7/6）	内：ヨコナデ 外：ナデ、ハケ	
20	SK30	27R	土師器 台付甕	口径（15.8） 器高　－	粗	良好	にぶい黄橙（10YR7/4）	内：摩滅で不明 外：ヨコナデ、ハケ	
21	SK38	7P	土師器 台付甕	口径（12.0） 器高　－	密	良好	浅黄橙（10YR8/4）	内：ヨコナデ、ヘラナデ、指オサエ 外：ヨコナデ、ハケ	
22	SK27	32P・Q	土師器 甕	口径　－ 器高　－	密	良好	内：にぶい黄橙（10YR7/3） 外：にぶい黄褐（10YR5/3）	内：ハケ後ナデ、指ナデ 外：ハケ、煤付着	
23	SP6	30L	土師器 高杯	底径（6.4） 器高（6.5）	密	良好	橙（5YR6/8）	内：ナデ、シボリ痕、指ナデ 外：ナデ、ヘラナデ	
24	SH1	51C・D	須恵器 深鉢	底径（19.0） 器高（6.1）	密	やや 不良	内：灰黄褐（10YR6/2） 外：灰白（8/2）	内：ナデ 外：ナデ、指オサエ	
25	SH2	49・50 G・H	須恵器 壺蓋	口径（11.2） 器高 3.0	密	良好	内面：灰白（25Y7/1） 外面：黄灰（25Y6/1）	内：回転ナデ 外：回転ナデ、回転ケズリ	
26	SH2	49・50 G・H	土師器 甕	口径（13.8） 器高（4.9）	密	良好	にぶい黄橙（10YR7/4）	内：ヨコナデ、ハケ 外：ヨコナデ、ハケ	
27	SH3	51・52 H・I	須恵器 杯蓋	口径（15.4） 器高（2.6）	密	良好	黄橙色（10YR8/6）	内：回転ナデ 外：回転ナデ、回転ケズリ	
28	SH3	51I	須恵器 杯蓋	口径（14.0） 器高（1.0）	密	良好	内：橙（7.5YR7/6） 外：にぶい褐（7.5YR6/3）	内：回転ナデ 外：回転ナデ、回転ケズリ	
29	SH3	51・52 H・I	須恵器 碗	口径（12.8） 器高（4.0）	密	良好	灰（5Y6/1）	内外：回転ナデ	
30	SH3	51・52 H・I	土師器 皿	口径（16.2） 器高 1.9	密	良好	黄橙（7.5YR7/8）	内：ナデ、ヨコナデ 外：ナデ、指オサエ、ヨコナデ	
31	SH3	51・52 H・I	土師器 甕	口径（13.0） 器高　－	密	良好	灰白（2.5Y8/2）	内：ナデ、ハケか 外：ナデ	
32	SH3	51・52 H・I	土師器 甕	口径（22.0） 器高　－	密	良好	橙（7.5YR7/6）	内：ヨコナデ、ナデか 外：ヨコナデ、ナデ、ハケ	
33	SH4	49Q・R	須恵器 碗	口径（12.4） 器高 4.0	密	良好	灰（N6/0）	内：回転ナデ、自然釉、付着物あり 外：回転ナデ、回転糸切痕	
34	SH5 P1	48・49 P・Q	須恵器 杯蓋	口径（15.0） 器高 1.5～	密	良好	暗灰黄（2.5Y5/2）	内外：回転ナデ	
35	SH5	48・49 P・Q	須恵器 碗	口径（11.9） 器高 3.7	密	良好	黄灰（2.5Y6/1）	内：回転ナデ、ナデ 外：回転ナデ、回転ケズリ？	
36	SH5 土坑 1	48・49 P・Q	須恵器 碗	底径（6.0） 器高 2.9～	密	良好	内：にぶい黄橙（10YR7/4） 外：浅黄橙（10YR8/4）	内：回転ナデ 外：回転ナデ、回転糸切痕	
37	SH5	48・49 P・Q	須恵器 無台杯	口径（13.4） 器高 3.2	密	良好	灰白（2.5Y7/1）	内：回転ナデ 外：回転ナデ、回転ケズリ	
38	SH5	48・49 P・Q	須恵器 無台杯	口径（15.8） 器高 3.2	密	良好	内：灰褐（7.5YR5/2） 外：黒褐（7.5YR3/1）	内：回転ナデ 外：回転ナデ、回転ケズリ	
39	SH5	48・49 P・Q	須恵器 無台杯	口径（16.0） 器高（2.9）	密	良好	内：橙色（2.5YR6/8） 外：褐灰（10YR5/1）	内外：回転ナデ	

表３　土器観察表（２）

報告番号	出土遺構	グリッド	器種	法量	胎土	焼成	色調	成形・調整・施文・施釉等	備考
40	SH5	48・49 P・Q	須恵器 無台杯	口径（16.5） 器高 3.3	密	良好	内：灰黄（2.5Y6/2） 外：黄褐（2.5Y5/3）	内：回転ナデ 外：回転ナデ、ナデ、回転ケズリ	
41	SH5 土坑１	48・49 P・Q	須恵器 有台杯	口径（15.0） 器高 3.7	密	良好	灰白（2.5Y7/1）	内：回転ナデ 外：回転ナデ、貼付高台	
42	SH5	48・49 P・Q	須恵器 有台杯	口径（17.0） 器高（5.1）	密	良好	灰（5Y5/1）	内外：回転ナデ	
43	SH5	48・49 P・Q	須恵器 有台杯	口径（17.0） 器高 6.0	密	良好	灰黄（2.5Y7/2）	内：ヨコナデ、回転ナデ、輪積み痕 外：回転ナデ、回転ケズリ、貼付高台	
44	SH5	48・49 P・Q	須恵器 高杯	底径　－ 器高　－	密	良好	内：灰（N5/0） 外：灰（N4/0）	内：回転ナデ 外：回転ナデ、列点文	
45	SH5	48・49 P・Q	須恵器 盤	口径（24.0） 器高　－	密	良好	内：黄橙（7.5YR7/8） 外：褐灰（10YR5/1）	内外：回転ナデ	
47	SH5	48・49 P・Q	土師器 甕	口径（16.0） 器高 12.0～	密	良好	内：灰黄褐（10YR6/2） 外：にぶい黄橙（10YR6/3）	内：ヨコナデ、ハケ、指オサエ 外：ヨコナデ、指オサエ、ハケ後ケズリ	
48	SH5 土坑１	48・49 P・Q	土師器 甕	口径（21.8） 器高　－	密	良好	内：にぶい黄橙（10YR7/4） 外：浅黄橙（10YR8/3）	内：ヨコナデ、ハケ 外：ナデ、ハケ	
49	SH5	48・49 P・Q	土師器 甕	口径（22.8） 器高　－	密	良好	内：にぶい黄橙（10YR6/3） 外：にぶい黄橙（10YR7/3）	内：ヨコナデ、ハケ 外：ハケ、輪積み痕、ヨコナデ	
50	SH6	49・50 Q・S	須恵器 杯蓋	口径　－ 器高 2.2～	密	やや不良	内：橙（5YR6/8） 外：明赤褐（5YR5/6）	内：回転ナデ 外：回転ナデ、回転ケズリ	
51	SH6	49・50 Q・S	須恵器 杯蓋	口径（16.9） 器高（1.9）	密	良好	内：にぶい黄橙（10YR6/4） 外：灰黄褐（10YR6/2）	内：回転ナデ 外：回転ナデ、回転ケズリ	
52	SH6	49・50 Q・S	須恵器 杯蓋	口径（16.0） 器高 2.3～	密	良好	内：にぶい黄褐（10YR5/3） 外：褐灰（10YR4/1）	内：回転ナデ 外：回転ナデ、回転ケズリ	
53	SH6	49・50 Q・S	須恵器 碗	口径（13.9） 器高 5.1	密	良好	橙（2.5YR6/8）	内：回転ナデ 外：回転ナデ、回転ケズリ	
54	SH6	49・50 Q・S	須恵器 無台杯	口径（14.0） 器高 3.3～	密	良好	にぶい橙（7.5YR6/4）	内外：回転ナデ	
55	SH6P5	49・50 Q・S	須恵器 無台杯	口径（14.4） 器高 4.7	密	良好	内：灰白（2.5Y8/2） 外：灰黄（2.5Y7/2）	内：回転ナデ、煤付着 外：回転ナデ、回転ケズリ、煤付着	
56	SH6	49・50 Q・S	須恵器 有台杯	口径　－ 器高（2.2）	密	良好	灰黄（2.5Y6/2）	内：回転ナデ 外：回転ナデ、貼付高台	
57	SH6P6	49・50 Q・S	須恵器 長頸瓶	底径 10.5 器高 9.1～	密	良好	内：灰白（5Y7/2） 外：灰白（5Y7/1）	内：回転ナデ 外：回転ケズリ、ヘラ切り、貼付高台	
58	SH6	49・50 Q・S	須恵器 鉄鉢	口径（21.2） 器高 5.7～	密	良好	内：灰白（5Y7/1） 外：灰オリーブ（5Y6/2）	内外：回転ナデ	
59	SH6	49・50 Q・S	須恵器 甕	口径（20.0） 器高　－	密	良好	内：灰白（2.5Y7/1） 外：黄灰（2.5Y6/1）	内外：回転ナデ、降灰	
60	SH6 土坑１	49Q・R	土師器 杯	口径（13.8） 器高 3.4	密	良好	内：明黄褐（10YR7/6） 外：橙（7.5YR7/6）	内外：ナデ、回転ナデ	
61	SH6	49・50 Q・S	土師器 杯	口径（17.9） 器高 3.5	やや粗	やや不良	内：橙（7.5YR6/6） 外：明褐（7.5YR5/6）	内：ヨコナデ 外：ヨコナデ、ヘラ削り	
62	SH6	49・50 Q・S	土師器 皿	口径（20.8） 器高 2.5	密	不良	明赤褐（5YR5/8）	内外：摩滅で不明	
63	SH6 土坑２	49・50 Q・S	土師器 甕	口径（18.0） 器高　－	密	良好	内：にぶい黄橙（10YR7/3） 外：にぶい黄橙（10YR7/4）	内：ヨコナデ、ハケ 外：ヨコナデ、ハケ	
64	SH6	49・50 Q・S	土師器 甕	口径（25.8） 器高　－	普通	不良	内：橙（5YR6/6） 外：橙（5YR7/6）	内：ナデ、ハケ、指オサエ 外：ナデ、ハケ	
66	SH7	48S	須恵器 杯蓋	口径（20.0） 器高 3.3～	密	良好	にぶい黄褐（10YR5/3）	内：回転ナデ 外：回転ナデ、回転ケズリ	
67	SH7	48S・T	須恵器 盤	口径　－ 器高　－	密	良好	内：褐灰（10YR5/1） 外：灰褐（7.5YR4/2）	内：回転ナデ 外：回転ナデ、沈線	
69	SH8 土坑１	49T	土師器 甕	口径（20.2） 器高　－	密	良好	浅黄橙（10YR8/4）	内：ハケ、ヨコナデ 外：ヨコナデ、ハケ	
70	SH9	50・51 V・W	土師器 甕	口径　－ 器高　－	密	良好	橙（7.5YR6/6）	内：ハケ 外：タテハケ	
71	SH10	48U	須恵器 有台杯	底径（11.6） 器高 1.4～	密	良好	灰黄（2.5Y7/2）	内外：回転ナデ 底部：回転ナデ、回転ヘラ切り、貼付高台	
72	SH10	48U	土師器 甕	口径（21.2） 器高　－	密	良好	内：橙（7.5YR7/6） 外：橙（5YR7/6）	内：ヨコナデ、ハケ後指オサエ、煤付着 外：ヨコナデ、ハケ、煤付着	
73	SH11	46T	須恵器 有台杯	底径（10.4） 器高 1.7～	密	良好	にぶい黄橙（10YR6/3）	内：回転ナデ 外：回転ナデ、貼付高台、回転ケズリ	
74	SH11	46・47 T・U	土師器 甕	口径（14.0） 器高　－	密	良好	にぶい黄橙（10YR6/4）	内：ハケ、ナデ 外：ヨコナデ、指オサエ、ハケ、ケズリ	
75	SH12	44・45 Q・R	須恵器 杯蓋	口径（15.5） 器高　3.2	密	良好	にぶい黄橙（10YR6/3）	内：回転ナデ、工具ナデ 外：回転ナデ、回転ケズリ	成形時の補修痕あり
76	SH12	44・45 Q・R	須恵器 甕	口径　－ 器高　－	密	良好	内：浅黄（2.5Y7/3） 外：黒褐（2.5Y3/1）	内：回転ナデ 外：回転ナデ、波状文、突帯	
77	SH12	44・45 Q・R	土師器 皿	口径（14.7） 器高 1.5	密	良好	内：橙（5YR6/6） 外：橙（5YR6/8）	内外：ナデ、ヨコナデ	
78	SH12	44・45 Q・R	土師器 杯	口径（14.0） 器高 3.1	密	良好	内：にぶい橙（7.5YR6/4） 外：明赤褐（5YR5/6）	内：ヨコナデ 外：ヨコナデ、ミガキ、ケズリ	
79	SH12	44・45 Q・R	土師器 杯	口径　－ 器高（2.8）	密	良好	明赤褐（5YR5/8）	内外：ナデ、ヨコナデ	

表４　土器観察表（３）

報告番号	出土遺構	グリッド	器種	法量	胎土	焼成	色調	成形・調整・施文・施釉等	備考
80	SH12	44・45 Q・R	土師器 甕	口径 (21.0) 器高　—	密	良好	内：橙 (5YR7/6) 外：橙 (5YR6/8)	内：ヨコナデ、ハケ 外：ハケ、ヨコナデ	
82	SH13	38T	土師器 甑か鍋	口径　— 器高　—	やや 粗	良好	外面：浅黄橙 (10YR8/4)	外：ナデ	
83	SH14	35・36 Q・R	須恵器 杯蓋	口径 (15.0) 器高 3.2 ～	密	良好	内：灰白 (10YR7/1) 外：褐灰 (10YR6/1)	内外：回転ナデ	
84	SH14	35・36 Q・R	須恵器 高杯	底径 (9.4) 器高　—	密	良好	内：褐灰 (10YR5/1) 外：褐灰 (10YR4/1)	内外：回転ナデ	
85	SH14	35・36 Q・R	須恵器 杯蓋	口径 18.0 器高 4.6	やや 密	やや 不良	内：にぶい黄 (2.5Y6/4) 外：にぶい黄 (2.5Y6/3)	内：回転ナデ 外：回転ナデ、回転ケズリ	
86	SH14	35・36 Q・R	須恵器 杯蓋	口径 (19.6) 器高 4.2	密	良好	内：にぶい黄橙 (10YR6/3) 外：にぶい黄橙 (10YR6/4)	内：回転ナデ 外：回転ナデ、回転ケズリ	
87	SH14	35・36 Q・R	須恵器 杯蓋	口径 (18.0) 器高 (1.0)	密	良好	内：灰黄 (2.5Y6/2) 外：黄灰 (2.5Y6/1)	内外：回転ナデ	
88	SH14 カマド横	35・36 Q・R	須恵器 甕	底径 (12.0) 器高　—	密	良好	内：にぶい黄橙 (10YR7/4) 外：浅黄橙 (10YR8/4)	内：タタキ、ナデ、輪積み痕 外：タタキ	
89	SH14	35・36 Q・R	土師器 甕	底径 6.8 器高　—	やや 粗	不良	内：黒褐 (10YR3/1) 外：にぶい黄橙 (10YR7/4)	内：指オサエ、ナデ 外：ハケ？、底部外面木葉痕	
90	SH14-P1	35・36 Q・R	土師器 鍋	口径 (14.0) 器高　—	密	良好	内：浅黄橙 (10YR8/4) 外：黄橙 (10YR8/6)	内：ヨコナデ、指オサエ 外：ヨコナデ、ハケ	
91	SH14	35・36 Q・R	土師器 鍋	口径 (18.0) 器高　—	密	良好	内：にぶい橙 (7.5YR7/4) 外：浅橙 (5YR8/4)	内：ヨコナデ、指オサエ 外：ヨコナデ、ハケ？	
92	SH14	35・36 Q・R	土師器 甕	口径 (17.0) 器高　—	密	良好	内：灰黄褐 (10YR4/2) 外：橙 (7.5YR7/6)	内：ハケ後ナデ、ハケ 外：ヨコナデ、ハケ	
93	SH14-P1	35・36 Q・R	土師器 甕	口径 (24.0) 器高　—	密	良好	内：灰黄褐 (10YR6/2) 外：灰黄褐 (10YR6/3)	内：ヨコナデ、ハケ 外：ヨコナデ、指オサエ、ハケ	
94	SH14	35・36 Q・R	土師器 甕	口径 (21.0) 器高　—	やや 密	良好	橙 (7.5YR7/6)	内：ヨコナデ、ハケ 外：ヨコナデ、ハケ、指オサエ	
96	SH16	34・35 R・S	土師器 蓋	口径　— 器高　—	密	良好	明黄褐 (10YR7/6)	内外：ナデ、貼付けナデ	
97	SH16	34・35 R・S	土師器 皿	口径 (13.6) 器高 2.5	密	良好	橙 (7.5YR6/6)	内：ナデ 外：ナデ、ケズリ	
98	SH16	34・35 R・S	土師器 甕	口径 (16.7) 器高　—	密	良好	内：黄灰 (2.5Y6/1) 外：灰黄 (2.5Y6/2)	内：ナデ、ハケ 外：ナデ、指オサエ、ハケ	
99	SH16	34・35 R・S	土師器 鍋	口径 (22.0) 器高　—	密	良好	内：橙 (7.5YR7/6) 外：橙 (5YR7/6)	内：ハケ、ヨコナデ 外：ヨコナデ、ハケ	
100	SH17	32R・ 33R・S	須恵器 杯蓋	口径 16.0 器高 3.7	密	良好	内：浅黄 (2.5Y7/3) 外：灰黄 (2.5Y7/2)	内：回転ナデ、ナデ 外：回転ナデ、回転ケズリ	
101	SH17	32R・ 33R・S	土師器 甕	口径 (14.0) 器高　—	密	良好	内：黄橙 (10YR8/6) 外：にぶい黄橙 (10YR6/6)	内：ヨコナデ、ハケ 外：ヨコナデ、指オサエ後ヨコナデ	
102	SH17	32R 33R・S	土師器 鍋	口径 21.8 器高 14.5	密	良好	内：黄橙 (10YR8/8) 外：黄橙 (10YR8/6)	内：ハケ後ヨコナデ、ハケ 外：ナデ、ハケ、ヘラケズリ	
103	SH19	31S	土師器 皿	口径 (16.8) 器高 (1.9)	密	良好	橙 (5YR6/6)	内：ヨコナデ 外：ヨコナデ、ナデ	
104	SH20	30 ～ 32R 32S	須恵器 有台杯？	口径 (13.2) 器高 3.7 ～	密	良好	灰白 (2.5Y7/1)	内外：回転ナデ	
105	SH21	30・31 P・Q	土師器 台付甕	口径 (14.0) 器高　—	密	良好	にぶい黄橙 (10YR7/4)	内：ヨコナデ、ナデ 外：ヨコナデ、ハケ、輪積み痕	
106	SH21 土坑 1	30・31 P・Q	土師器 甕	口径 (28.0) 器高　—	密	良好	灰黄褐 (10YR5/2)	内：ハケ、ヨコナデ 外：ヨコナデ、指オサエ、ハケ	
107	SH21	30・31 P・Q	土師器 甑	口径 27.0 器高 27.2	密	良好	にぶい橙 (7.5YR7/4)	内：ハケ、指オサエ、ケズリ 外：ハケ、ケズリ、貼付ナデ	
108	SH23	26 ～ 28 Q ～ R	須恵器 杯蓋	口径 (13.4) 器高 2.8	密	良好	内：黄灰 (2.5Y6/1) 外：黄灰 (2.5Y5/1)	内：回転ナデ 外：ナデ、ヨコナデ、回転ケズリ、回転ナデ	
109	SH23	26 ～ 28 Q ～ R	須恵器 有台杯？	口径 (14.0) 器高 2.9 ～	密	良好	内：黄灰 (2.5Y6/2) 外：黄灰 (2.5Y5/1)	内外：回転ナデ	
110	SH23	26 ～ 28 Q ～ R	須恵器 有蓋高杯	口径 (13.0) 器高 3.1 ～	密	良好	黄灰 (2.5Y6/1)	内：回転ナデ 外：回転ナデ、回転ケズリ	
111	SH23	26 ～ 28 Q ～ R	土師器 杯	口径 (15.2) 器高 2.8 ～	密	良好	橙 (5YR6/6)	内：ヨコナデ 外：ミガキ、ヨコナデ、ケズリ？	
112	SH23	26 ～ 28 Q ～ R	土師器 甕	口径 (15.0) 器高　—	密	良好	橙 (7.5YR6/6)	内：ヨコナデ、指オサエ後ハケ 外：ヨコナデ、ケズリ	
113	SH23	26 ～ 28 Q ～ R	土師器 甕	口径 (15.0) 器高　—	密	良好	橙 (7.5YR7/6)	内：ヨコナデ 外：ヨコナデ、ハケ	
114	SH23	26 ～ 28 Q ～ R	土師器 甕	口径 (16.0) 器高　—	密	良好	橙 (7.5YR6/6)	内：ナデ、ハケ、ハケ後ナデ 外：ナデ、ハケ	
115	SH23	26 ～ 28 Q ～ R	土師器 甕	口径 (20.0) 器高　—	密	良好	内：にぶい黄橙 (10YR7/3) 外：にぶい黄橙 (10YR7/4)	内：ヨコナデ、ハケ 外：ヨコナデ、指オサエ、ハケ	
116	SH24	28 Q・R	須恵器 杯蓋	口径 15.0 器高 3.7	密	良好	内：灰白 (5Y7/1) 外：灰白 (5Y7/2)	内：回転ナデ 外：回転ナデ、回転ケズリ	
117	SH24	28 Q・R	須恵器 有台杯	底径 (11.2) 器高 1.5 ～	密	良好	灰 (N6/0)	内：回転ナデ 外：回転ナデ、貼付高台、回転ケズリ	
118	SH24 焼土南東	28 Q・R	須恵器 無台杯	口径 (12.1) 器高 3.8	密	良好	内：灰白 (5Y7/1) 外：灰白 (N7/0)	内：回転ナデ、一方向ナデ 外：回転ナデ、回転ヘラ切り	

表５　土器観察表（４）

報告番号	出土遺構	グリッド	器種	法量	胎土	焼成	色調	成形・調整・施文・施釉等	備考
119	SH24	28 Q・R	須恵器 甕	口径 (28.5) 器高　－	密	良好	内：にぶい黄橙 (10YR7/3) 外：灰白 (2.5Y8/2)	内外：回転ナデ	
120	SH24	28 Q・R	土師器 皿	口径 (13.0) 器高 1.7	密	良好	橙 (5YR6/8)	内外：ナデ、ヨコナデ	
121	SH24	27 R	土師器 皿	口径 (16.4) 器高 1.8	密	良好	橙 (5YR6/6)	内：ヨコナデ 外：ヨコナデ、ケズリ	
122	SH24	27 R	土師器 杯	口径 (15.4) 器高 (3.0)	密	良好	橙 (7.5YR6/8)	内外摩滅で不明	
123	SH24 土坑６	28 Q・R	土師器 甕	口径 (15.4) 器高　－	普通	良好	内：にぶい橙 (YR7/3) 外：にぶい橙 (5YR6/4)	内：ヨコナデ、ケズリ、指オサエ、ハケ 外：ヨコナデ、ハケ	
124	SH24	27 R	土師器 甕	口径 (17.0) 器高　－	密	良好	明黄褐 (10YR7/6)	内：ヨコナデ、ハケ 外：ヨコナデ、ハケ	
125	SH24 土坑４	28 Q・R	土師器 鍋	口径 (28.4) 器高　－	密	良好	内：橙 (7.5YR6/6) 外：橙 (7.5YR7/6)	内：ヨコナデ、ハケ 外：ヨコナデ、ハケ、ケズリ	
126	SH24 土坑４	27 R	土師器 甕	底径　－ 器高 10.5 ～	密	良好	内：橙 (7.5YR6/6) 外：灰褐 (7.5YR4/2)	内：ヨコハケ、ナデ 外：ハケ、ケズリ	
128	SH25	23 O	土師器 甕	口径 (17.0) 器高　－	密	良好	にぶい橙 (7.5YR6/4)	内：ヨコナデ、ヨコハケ 外：ヨコナデ、指オサエ、ハケ	
129	SH26	250・25P	須恵器 有台杯	口径 14.3 器高 3.8	密	良好	内：にぶい黄橙 (10YR6/3) 外：灰黄褐 (10YR5/2)	内：回転ナデ 外：回転ナデ、回転ケズリ、貼付高台	
130	SH26	24・25 O・P	須恵器 有台杯	口径 (18.0) 器高 2.8 ～	密	良好	灰 (5Y6/1)	内外：回転ナデ	
131	SH26	24・25 O・P	須恵器 有台杯	底径 (14.4) 器高 1.2 ～	密	良好	内：黄灰 (2.5Y6/1) 外：黄灰 (2.5Y5/1)	内：回転ナデ 外：回転ナデ、貼付高台、回転ケズリ後ナデ	
132	SH26	24・25 O・P	須恵器 甕	口径 (19.0) 器高　－	密	不良	内外面：灰白 (7.5Y8/1)	内：回転ナデ、ナデ 外：回転ナデ、タタキ	
133	SH27	230	須恵器 有台杯	口径 15.0 器高 4.3	密	不良	内：浅黄 (2.5Y7/3) 外：灰黄 (2.5Y6/2)	内：回転ナデ 外：回転ナデ、貼付高台、ヘラケズリ	
134	SH27	23 ～ 250 23・24P	須恵器 杯か皿	口径　－ 器高　－	密	良好	灰白 (5Y7/2)	内外：ナデ	
135	SH27	23 ～ 250 23・24P	須恵器 長頸瓶	口径　－ 器高 (7.6)	密	良好	内：灰色 (N6/0) 外：灰褐 (7.5YR5/2)	内：回転ナデ、指オサエ 外：回転ナデ	
136	SH27	23 ～ 250 23・24P	土師器 甕	口径 (18.0) 器高　－	密	良好	にぶい黄橙 (10YR6/4)	内：ヨコハケ 外：ヨコナデ、指オサエ	
137	SH28	24R	須恵器 無台杯	口径 (15.0) 器高 3.5	密	良好	浅黄橙 (10YR8/4)	内：回転ナデ、回転ケズリ？ 外：回転ナデ	
138	SH28	24Q	須恵器 有台杯	底径 (16.0) 器高 1.4 ～	密	良好	灰黄 (2.5Y6/2)	内外：回転ナデ 底：回転ケズリ	
139	SH28 土坑１	25R	須恵器 無台杯	口径 (12.8) 器高 (3.8)	密	良好	明黄褐 (10YR7/6)	内外：回転ナデ 底：板ナデ	
140	SH28	24Q	須恵器 提瓶	口径　－ 器高　－	密	良好	内：黄灰 (2.5Y6/1) 外：黄灰 (2.5Y5/1)	内：回転ナデ 外：回転ナデ、ナデ、指オサエ後回転ケズリ	
141	SH28 土坑１	24R	須恵器 短頸鉢	口径 (21.2) 器高 8.6 ～	密	良好	橙 (7.5YR7/6)	内：ヘラナデ、回転ナデ、指オサエ 外：回転ナデ、一部タタキ	
142	SH28	24R	土師器 杯	口径 (15.8) 器高 (3.4)	密	良好	内：橙 (7.5YR6/6) 外：橙 (5YR6/6)	内：ヨコナデ、ナデ 外：ヨコナデ、ケズリ	
143	SH28 土坑１	25R	土師器 甕	口径 (15.6) 器高　－	密	良好	内：にぶい橙 (7.5YR7/3) 外：にぶい橙 (5YR6/4)	内：ハケ後ヨコナデ、ハケ、ナデ 外：ヨコナデ、ハケ、ケズリ	
144	SH28	24R	土師器 甕	口径 (19.6) 器高　－	密	良好	橙 (5YR6/6)	内：ハケ後ヨコナデ、ハケ 外：ヨコナデ、ハケ	
145	SH28 土坑５	24R	土師器 甕	口径 (21.2) 器高　－	密	やや 良好	浅黄橙 (10YR8/4)	内：摩滅で不明 外：ヨコナデ、ハケ	
146	SH28	24R	土師器 甕	口径 (24.4) 器高 37.7	密	良好	浅黄橙 (10YR8/3)	内：ハケ、ナデ、指ナデ 外：ハケ、ヘラケズリ、指オサエ	
147	SH28	24R	土師器 甕	口径 (24.8) 器高 (37.7)	密	良好	内：浅黄橙 (10YR8/3) 外：にぶい黄橙 (10YR7/3)	内：ヨコナデ、ハケ、指オサエ、ナデ 外：ヨコナデ、ハケ、指オサエ、ヘラケズリ	
148	SH29	20・21 P・Q	土師器 甕	口径 (26.2) 器高　－	密	良好	内：明黄褐 (10YR7/6) 外：橙 (7.5YR7/6)	内：ヨコナデ 外：ハケ、ヨコナデ	
150	SH31	9・10 O ～ Q	須恵器 碗	口径 (12.6) 器高 3.5	密	良好	灰オリーブ (5Y5/2)	内：回転ナデ 外：回転ナデ、回転ヘラ切り跡	
151	SH31	9・10 O ～ Q	須恵器 有台杯	口径 (16.0) 器高 4.2	密	良好	内：灰黄褐 (10YR5/2) 外：にぶい褐 (7.5YR5/3)	内：回転ナデ 外：回転ナデ、ケズリ、回転糸切、貼付高台	
152	SH31	9・10 O ～ Q	土師器 碗	口径 (12.0) 器高 (3.7)	やや 密	良好	内：浅黄橙 (10YR8/3) 外：浅黄橙 (10YR8/4)	内：ナデ 外：ナデ、ハケ、ケズリ	
153	SH31 土坑２	9・10 O ～ Q	土師器 皿	口径 (18.0) 器高 (2.1)	密	良好	内：明赤褐 (5YR5/6) 外：にぶい橙 (7.5YR6/4)	内：ナデ、ヨコナデ、煤付着 外：ミガキ、ケズリ	
154	SH31	9・10 O ～ Q	土師器 鍋？	口径　－ 器高　－	密	良好	橙 (5YR6/8)	内：指オサエ、ハケ後ナデ 外：指ナデ、指オサエ、ハケ後ナデ	
155	SH31	9・10 O ～ Q	土師器 甕	口径 (22.0) 器高　－	密	良好	内：明黄褐 (10YR6/6) 外：黄褐 (10YR5/6)	内：ハケ、ナデ、指オサエ 外：ナデ、指オサエ、ハケ、輪積み痕	
156	SH31	9・10 O ～ Q	土師器 甑	底径 (16.0) 器高　－	密	良好	橙 (5YR6/8)	内：ハケ、指オサエ、ヨコナデ 外：ケズリ、ナデ、指オサエ	
157	SH31	9・10 O ～ Q	土師器 甕	口径 (24.0) 器高　－	密	良好	内：浅黄 (2.5Y7/3) 外：にぶい黄橙 (10YR7/3)	内：ハケ、ケズリ、ハケ 外：ヨコナデ、指オサエ、ハケ	

表６　土器観察表（５）

報告番号	出土遺構	グリッド	器種	法量	胎土	焼成	色調	成形・調整・施文・施釉等	備考
158	SH31	9・10 O～Q	土師器 甕	口径　－ 器高　－	密	良好	内：橙（5YR6/6） 外：橙（7.5YR7/6）	内：ハケ、ヨコナデ、ナデ、指オサエ 外：ハケ	
159	SH32	9・10 O～Q	須恵器 盤	底径（13.0） 器高 5.0～	密	良好	灰黄褐（10YR5/2）	内：回転ナデ、回転ケズリ、貼付ナデ 外：回転ナデ	
160	SH32	9・10 O～Q	土師器 鍋	口径　－ 器高　－	密	良好	黄橙（10YR8/6）	内：ナデ、指オサエ 外：ナデ、指オサエ、ハケ	
161	SH32-P1	10P・10Q	土師器 甕	口径　－ 器高　－	密	良好	浅黄橙（10YR8/4）	内：ハケ、ナデ、ハケ、輪積み痕 外：ナデ、ケズリ、輪積み痕	
162	SH33	9・10 M・N	須恵器 杯蓋	口径（16.0） 器高（1.2）	密	良好	黄灰（2.5Y6/1）	内：回転ナデ 外：回転ナデ、回転ケズリ	
163	SH33	9・10 M・N	土師器 杯	口径（15.8） 器高 3.9	密	良好	黄橙（10YR8/6）	内外：ナデ、ヨコナデ	
164	SH33	9・10 M・N	土師器 杯	口径（17.0） 器高（3.7）	密	良好	明赤褐（5YR5/8）	内：ヨコナデ、放射状暗文、螺旋状暗文 外：ヨコナデ、ミガキ、ナデ	
165	SH33	9・10 M・N	土師器 皿	口径（14.8） 器高 2.1	密	良好	橙（5YR6/6）	内外：ヨコナデ、ナデ	
166	SH33	9M・N	土師器 甕	口径（14.0） 器高　－	密	良好	内：にぶい黄橙（10YR7/1） 外：にぶい橙（5YR6/4）	内：ヨコナデ、ナデ、煤付着 外：ヨコナデ、ハケ後ケズリ	
167	SH33	9・10 M・N	土師器 甕	底径（9.0） 器高　－	やや密	良好	内：にぶい黄橙（10YR7/4） 外：橙（7.5YR7/6）	内：ナデ、ハケ 外：ハケ、ヘラナデ、工具跡か	
168	SH33	9・10 M・N	土師器 甕	口径（13.6） 器高　－	密	良好	橙（5YR6/6）	内：ナデ 外：ヨコナデ、ナデ、指オサエ、ハケ	
169	SH33	9・10 M・N	土師器 甕	口径（15.0） 器高　－	密	良好	内：浅黄橙（10YR8/4） 外：にぶい橙（7.5YR7/4）	内：ヨコナデ、ハケ 外：ヨコナデ、ハケ	
186	SK1	46・47D	須恵器 有台杯	底径（12.0） 器高 2.0～	密	良好	褐灰（10YR5/1）	内：回転ナデ 外：回転ナデ、貼付高台	
187	SK2	47・48 C・D	須恵器 無台杯	底径（6.8） 器高 1.6～	密	不良	黄灰（2.5Y6/1）	内：回転ナデ 外：回転ナデ、回転糸切痕	
188	SK2	47C・D	須恵器 無台杯	口径（12.0） 器高 4.0～	密	良好	内：灰白（2.5Y7/1） 外：灰白（N7/0）	内外：回転ナデ	
189	SK3	48C・D	須恵器 壺	口径（12.9） 器高　－	密	良好	灰黄（2.5Y6/2）	内外：回転ナデ、自然釉	
190	SK4	46H	須恵器 杯蓋	口径（13.9） 器高 2.9	密	良好	にぶい黄橙（10YR6/3）	内：回転ナデ 外：回転ナデ、回転ケズリ、自然釉	
191	SK6	52・53 I・J	須恵器 有台杯	底径（9.0） 器高 2.6～	密	良好	灰白（N7/0）	内：回転ナデ 外：回転ナデ、貼付高台、回転ケズリ	
192	SK6	52・53 I・J	土師器 鍋	口径（35.0） 器高 17.7～	密	良好	黄橙（10YR8/6）	内：ナデ、指オサエ（大半摩滅） 外：ハケ、ナデ（全体摩滅）	
193	SK5	52・53J	須恵器 有台杯	底径（10.0） 器高 3.2～	密	良好	褐灰（10YR5/1）	内：回転ナデ 外：回転ナデ・ケズリ、貼付高台、底部墨痕	
195	SK8	46R	須恵器 甕	口径（20.0） 器高　－	密	良好	褐灰（10YR5/1）	内：回転ナデ、タタキか 外：回転ナデ、タタキ	
196	SK9	49S	土師器 甕	口径（26.0） 器高　－	密	良好	内：橙（7.5YR7/6） 外：にぶい橙（7.5YR6/4）	内：ナデ、ハケ 外：ナデ、ヨコナデ、指オサエ、ハケ	
197	SK11	45Q	土師器 甕	底径 7.0 器高　－	密	良好	内：橙（7.5YR6/6） 外：橙（5YR6/6）	内：ハケ、ヨコナデ 外：ハケ、ケズリ、スス付着	
198	SK14	43R	土師器 杯	口径（14.0） 器高 2.9	密	良好	明赤褐（5YR5/6）	内：ヨコナデ、ナデ 外：ヨコナデ、ナデ、ケズリか？	
199	SK15	43S	土師器 皿	口径（13.0） 器高 2.0	密	良好	橙（5YR6/6）	内：ナデ 外：ナデ、ケズリか？	
200	SK15	43S	土師器 甕	口径（15.0） 器高　－	密	良好	内：にぶい黄（10YR4/3） 外：明褐（7.5YR5/6）	内：ハケ、ナデ、ヨコナデ、指オサエ 外：ヨコナデ、ハケ、ケズリ	
201	SK16	400 410・N	土師器 有台杯	口径 18.9 器高 5.1	密	良好	明赤褐（5YR5/6）	内：ヨコナデ 外：ヨコナデ、貼付高台、ケズリ	
202	SK17	40R	土師器 甕	口径（15.0） 底径（10.0）	密	良好	内：にぶい黄橙（10YR7/4） 外：にぶい黄橙（10YR6/4）	内：ナデ、指オサエ 外：ヨコナデ、ハケ、ケズリ	
203	SK18	40S・T	土師器 甕	口径（15.0） 器高 16.0	密	良好	内：黄橙（10YR8/6） 外：浅黄橙（7.5YR8/6）	内：ヨコハケ、ヨコハケ後ナデ、指オサエ 外：ナデ、ハケ、指オサエ	
204	SK19	38S	須恵器 有台杯	口径（13.5） 器高 3.3	密	良好	内：灰白（5Y7/1） 外：灰（5Y6/1）	内：回転ナデ 外：回転ナデ、貼付高台	
205	SK19	38S	土師器 甕	底径（8.0） 器高 3.7～	密	良好	内：にぶい黄橙（10YR7/4） 外：灰黄褐（10YR5/2）	内：ナデ 外：ハケ、木葉痕	
206	SK20	38T	須恵器 甕	口径　－ 器高　－	密	良好	内：褐灰（7.5YR6/1） 外：灰黄褐（10YR6/2）	内：ヨコナデ 外：タタキ	
207	SK22	35S	須恵器 無台杯	口径（14.2） 器高 3.5	密	良好	にぶい黄橙（10YR7/4）	内：回転ナデ、底部に線刻 外：回転ナデ、回転ケズリ	
208	SK22	35S	須恵器 有台杯	口径 15.0 器高 3.6	密	良好	内：灰黄（2.5Y6/2） 外：黄灰（2.5Y6/1）	内：回転ナデ 外：回転ナデ、回転糸切後ケズリ、貼付高台	
209	SK23	35・36 P・Q	須恵器 平瓶	口径（11.0） 器高　－	密	良好	内：灰（5Y6/1） 外：灰（5Y4/1）	内外：回転ナデ	
210	SK26	34Q	土師器 鍋	口径　－ 器高　－	密	良好	内：浅黄橙（10YR8/4） 外：黄橙（10YR8/6）	内：ハケ後ナデ 外：ハケ、ナデ	
211	SK28	31S	土師器 甕	口径（16.9） 器高　－	やや粗	良好	内：灰褐（7.5YR4/2） 外：にぶい褐（7.5YR5/4）	内：ヨコナデ、ナデ 外：ヨコナデ、ハケ、煤付着	

表７　土器観察表（６）

報告番号	出土遺構	グリッド	器種	法量	胎土	焼成	色調	成形・調整・施文・施釉等	備考
212	SK28	31S	土師器 鍋？	口径 (31.0) 器高　－	密	良好	にぶい橙 (7.5YR6/4)	内：ヨコナデ、ハケ 外：ヨコナデ、ナデ	
213	SK29	28R	須恵器 杯蓋	口径 (18.2) 器高 1.5 ～	密	良好	にぶい黄橙 (10YR6/3)	内：回転ナデ 外：回転ナデ、回転ケズリ	
214	SK29	28R	須恵器 有台杯	底径 (8.6) 器高 3.0 ～	密	良好	内：灰白 (10YR7/1) 外：褐灰 (7.5YR5/1)	内：回転ナデ 外：回転ナデ、貼付高台、回転ナデ・ケズリ	
215	SK29	28・29R	須恵器 平瓶	口径　－ 器高　－	密	良好	内：褐灰 (10YR6/1) 外：灰白 (10YR8/1)	内：回転ナデ、指オサエ 外：回転ナデ後ナデ	
216	SK29	29R	土師器 皿	口径 (16.2) 器高 1.8	密	良好	内：橙 (7.5YR7/6) 外：橙 (5YR7/6)	内：ヨコナデ、ナデ、煤付着 外：ヨコナデ、ケズリ	
217	SK29	29R	土師器 甕	底径 (11.0) 器高　－	密	良好	内：にぶい橙 (5YR6/4) 外：橙 (5YR6/6)	内：ハケ後ナデ 外：ハケ後ケズリ	
218	SK29	29R	土師器 甑？	口径　－ 器高　－	密	良好	内：橙 (5YR7/6) 外：黄橙 (10YR8/6)	内：ナデ、ヨコハケ 外：ナデ、指オサエ	
220	SK31	26 ～ 28 O・P	山茶碗	底径 6.0 器高 3.0 ～	密	良好	灰白 (10YR7/1)	内：回転ナデ、一方向ナデ 外：回転ナデ、回転糸切、貼付高台、籾殻痕	
221	SK31	26 ～ 28 O・P	須恵器 有台杯	底径 (10.0) 器高 1.0 ～	密	良好	内：黄灰 (2.5Y6/1) 外：灰黄 (2.5Y6/2)	内：回転ナデ 外：回転ナデ、貼付高台	
222	SK31	26 ～ 28 O・P	土師器 甕	底径 (6.5) 器高　－	密	良好	内：灰黄褐 (10YR5/2) 外：にぶい黄橙 (10YR6/4)	内：ヘラナデ 外：ハケ、ケズリ、ナデ	
223	SK32	27O	須恵器 杯蓋	口径 (14.0) 器高 1.8 ～	密	良好	内：灰黄 (2.5Y6/2) 外：灰黄 (2.5Y7/2)	内：回転ナデ 外：回転ナデ、自然釉	
224	SK32	27O	土師器 甕	口径 (16.0) 器高　－	密	良好	橙 (7.5YR7/6)	内：ハケ、指オサエ、輪積み痕、ヨコナデ 外：ヨコナデ、指オサエ、ハケ	
225	SK33	26・27 N・O	須恵器 長頸瓶	口径 (8.6) 器高　－	密	良好	内：灰黄 (2.5Y6/2) 外：灰オリーブ (5Y6/2)	内外：回転ナデ、自然釉	
226	SK34	26・27O	土師器 甕	口径 (21.8) 器高 (7.1)	密	良好	内：にぶい褐 (7.5YR6/3) 外：にぶい橙 (7.5YR6/4)	内：ハケ後ヨコナデ 外：ヨコナデ、ハケ	
227	SK35	25・26 R・Q	須恵器 有台杯	口径 (14.6) 器高 (4.1)	密	良好	内：灰黄 (2.5Y6/2) 外：にぶい黄橙 (10YR6/3)	内：回転ナデ 外：回転ナデ、貼付高台、糸切後回転ケズリ	
228	SK35	25・26 Q・R	須恵器 深鉢	底径 (18.0) 器高 4.2 ～	密	良好	内：灰白 (2.5Y7/1) 外：灰黄 (2.5Y7/2)	内：回転ナデ 外：回転ナデ、ヨコナデ	
229	SK35	25・26 Q・R	土師器 甕	口径　－ 器高　－	密	良好	内：にぶい褐 (7.5YR6/3) 外：浅黄橙 (7.5YR8/6)	内：ハケ後ナデ、ハケ、指オサエ 外：ナデ、ハケ	
230	SK36	23R	土師器 鍋	口径 (19.6) 器高　－	密	良好	内：にぶい黄橙 (10YR7/4) 外：にぶい橙 (7.5YR7/4)	内：ナデ？ 外：ナデ？、指オサエ	
231	SK37	50	須恵器 杯蓋	口径 (14.4) 器高 5.0	密	良好	灰白 (2.5Y7/1)	内：回転ナデ、ナデ 外：回転ナデ・ケズリ、重焼き痕、自然釉	２個体が融着する
232	SZ1	31O・P 31Q・O	土師器 鍋	口径 22.4 器高 (16.2)	密	良好	内：橙 (7.5YR6/6) 外：にぶい黄橙 (10YR6/4)	内：ハケ、指ナデ、輪積み痕 外：ヨコナデ、ハケ、ケズリ、煤付着	
233	SZ1	31O・P 31Q・O	土師器 鍋	口径　－ 器高 (18.1)	密	良好	内：橙 (7.5YR7/6) 外：にぶい橙 (7.5YR7/4)	内面：ハケ、ナデ、指オサエ 外：ハケ、指オサエ、ケズリ、煤付着	
234	SB1	50F	須恵器 無台杯	底径 (7.0) 器高 1.0 ～	密	良好	褐灰 (10YR5/1)	内：回転ナデ 外：回転ナデ、回転ヘラ切り	
235	SB1	49F	須恵器 有台杯	底径 (10.0) 器高 1.9 ～	密	良好	褐灰 (10YR6/1)	内：回転ナデ 外：回転ナデ、回転ヘラ削り、貼付高台	
236	SB1	49E	須恵器 長頸瓶	底径 (9.4) 器高 3.8 ～	密	良好	内：灰白 (2.5Y7/1) 外：灰黄 (2.5Y7/2)	内：回転ナデ、自然釉付着 外：回転ナデ、貼付高台	
237	SB7 P1	4U	須恵器 短頸壺	口径 10.8 器高 4.6	密	良好	内：にぶい黄橙 (10YR7/4) 外：浅黄 (2.5Y7/4)	内：回転ナデ 外：回転ナデ、回転ケズリ、沈線	
238	SB7 P1	4U	須恵器 杯身	口径 (10.2) 器高 (4.5)	密	良好	内：灰黄 (2.5Y6/2) 外：黄灰 (2.5Y6/1)	内：回転ナデ 外：回転ナデ、回転ケズリ、底部に線刻	
239	SP1	46G	須恵器 杯	口径 (10.9) 器高 3.4 ～	密	良好	灰 (5Y5/1)	内外：回転ナデ	
240	SP2	51D	須恵器 杯蓋	口径 13.2 器高 2.5	密	良好	内：灰黄 (2.5Y7/2) 外：灰白 (2.5Y7/1)	内：回転ナデ 外：回転ケズリ、回転ナデ	
241	SP2	51D	須恵器 碗	口径 (14.0) 器高 5.2	密	良好	内：灰黄褐 (10YR6/1) 外：灰黄褐 (10YR5/2)	内：回転ナデ 外：回転ナデ、回転糸切痕	
242	SP3	47G	土師器 甕	口径 (18.0) 器高　－	密	良好	浅黄橙 (10YR8/3)	内：ヨコナデ、ハケ、指オサエ、輪積み痕 外：ヨコナデ、指オサエ、ハケ	
243	SP4	13P・Q	須恵器 無台杯	口径 (11.8) 器高 3.1	密	良好	灰オリーブ (5Y6/2)	内：回転ナデ 外：回転ナデ、回転ヘラ切り　内面使用痕	
244	SP5	11O	須恵器 杯蓋	口径 (17.0) 器高 1.7 ～	密	良好	内：灰白 (5Y7/1) 外：灰 (5Y6/1)	内外：回転ナデ	
245	SD1	47J	須恵器 甕	口径 (29.6) 器高　－	密	良好	内：灰黄褐 (10YR4/2) 外：灰褐 (5YR4/2)	内外：回転ナデ	
247	遺構外	排土	須恵器 無台杯	口径 (13.0) 器高 4.2	密	やや不良	内：浅黄 (2.5Y7/3) 外：灰白 (7.5Y7/1)	内：回転ナデ、底部内面に線刻 外：回転ナデ、回転糸切痕？	
248	遺構外	48Q	須恵器 杯蓋	口径 (14.6) 器高 2.3	密	良好	内：にぶい黄橙 (10YR6/4) 外：にぶい黄橙 (10YR6/3)	内：回転ナデ 外：回転ナデ、回転ケズリ	
249	遺構外	重機掘削	須恵器 有台杯	口径 (12.8) 器高 3.5	密	良好	褐灰 (10YR6/1)	内：回転ナデ 外：回転ナデ、回転ヘラ切り、貼付高台	

表８　土器観察表（７）

報告番号	出土遺構	グリッド	器種	法量	胎土	焼成	色調	成形・調整・施文・施釉等	備考
250	遺構外	26R	須恵器 有台杯	口径（17.6） 器高 3.7	密	良好	内：灰黄褐（10YR6/2） 外：灰黄（2.5Y6/2）	内：回転ナデ 外：回転ナデ、回転ヘラケズリ、貼付高台	
251	遺構外	49Q	須恵器 有台杯	底径 13.0 器高 2.1～	密	良好	褐灰（10YR6/1）	内：回転ナデ 外：回転ナデ、回転ケズリ、貼付高台	
252	遺構外	48T	須恵器 盤	口径（18.9） 器高　－	密	良好	内：灰白（2.5Y7/1） 外：灰白（N7/0）	内外：回転ナデ	
253	遺構外	43O	須恵器 壺	底径（13.2） 器高 3.3～	密	良好	内：灰白（5Y7/2） 外：灰白（5Y7/1）	内：回転ナデ、底部自然釉付着 外：回転ケズリ、ナデ、貼付高台、籾殻痕	
254	遺構外	28S	須恵器 甕	口径　－ 器高　－	密	良好	内：褐灰（5Y5/1） 外：褐灰（5YR4/1）	内：回転ナデ 外：回転ナデ、沈線、刺突文、自然釉付着	
255	遺構外	52H	須恵器 長頸瓶	底径（7.8） 器高 12.0～	密	良好	内：黄灰（2.5Y5/1） 外：褐灰（10YR4/1）	内：回転ナデ、自然釉・窯屑付着 外：回転ナデ・ケズリ、貼付高台	
256	遺構外	重機掘削	土師器 甕	口径（14.0） 器高　－	密	良好	内：にぶい橙（7.5YR7/4） 外：にぶい橙（7.5YR6/4）	内：ヨコナデ、ナデ、指ナデ、輪積み痕 外：ヨコナデ、指オサエ、ナデ、ハケ？	
257	遺構外	47N	土師器 甕	口径（20.0） 器高　－	密	良好	淡黄（2.5Y8/3）	内：ヨコナデ、ハケ、ヘラナデか？ 外：ヨコナデ、オサエ、ハケ、頸部に穿孔	
258	遺構外	6V	土師器 甕	口径（23.0） 器高　－	密	良好	黄橙（7.5YR8/6）	内：ヨコハケ 外：ヨコナデ、ハケ、煤付着	
261	SH1 （10次）	65W	須恵器 杯	口径（12.2） 器高（3.3）	密	良好	内：にぶい橙（5YR6/4） 外：にぶい赤褐（5YR5/4）	内外：回転ナデ	
262	SH1 （10次）	65W	須恵器 無台杯	口径（15.6） 器高 5.0	密	良好	内：にぶい黄褐（10YR5/3） 外：灰黄褐（10YR5/2）	内：回転ナデ 外：回転ナデ、回転ヘラケズリ	
263	SH1 （10次）	64W	土師器 杯	口径（15.0） 器高（3.4）	密	良好	橙（5YR6/6）	内：摩滅で不明 外：ヘラミガキ、ヘラケズリ	
264	SH1 （10次）	65W	土師器 甕	口径（22.0） 器高　－	密	良好	にぶい黄橙（10YR7/4）	内：ヨコナデ、ハケ後ナデ 外：ヨコナデ、ハケ	
265	SH1 （10次）	65W	土師器 鍋	口径（35.6） 器高（18.6）	密	良好	内：にぶい橙（7.5YR7/4） 外：浅黄橙（7.5YR8/4）	内：ヨコナデ、ナデ、指オサエ、煤付着 外：ヨコナデ、指オサエ、ハケ、煤付着	
266	SK1　（10次）	66・67W	土師器 甕	口径（20.2） 器高　－	やや粗	良好	灰白（10YR8/2）	内：ハケ 外：ヨコナデ、ハケ、体部に工具痕あり	
267	SK1　（10次）	67W	土師器 甕	口径（25.6） 器高　－	密	良好	にぶい黄橙（10YR7/4）	内：ハケ 外：ハケ、ヨコナデ	
268	SK2、3 （10次）	64W	土師器 皿	口径（17.8） 器高 2.5	密	良好	明赤褐（2.5YR5/6）	内：ヨコナデ、底部に螺旋状暗文 外：ヨコナデ、ヘラミガキ、ヘラケズリ	
269	SK2、3 （10次）	64W	土師器 甕	口径　－ 器高 12.1～	密	良好	内：灰白（10YR8/2） 外：灰白（2.5Y8/2）	内：ヨコハケ、ナデ 外：ハケ、ケズリ？	
270	SP1　（10次）	72X	須恵器 杯身	口径（10.6） 器高 4.8～	密	良好	内：灰（N6/0） 外：灰（N4/0）	内：回転ナデ 外：回転ナデ、回転ケズリ	
271	SP2　（10次）	72X	土師器 台付甕	口径（15.6） 器高　－	密	良好	内：にぶい黄橙（10YR7/3） 外：にぶい黄橙（10YR7/2）	内：ヨコナデ 外：ヨコナデ、ハケ	
272	SP3　（10次）	84Z	須恵器 有台杯	底径（11.2） 器高 1.2～	密	良好	オリーブ灰（2.5GY5/1）	内外：回転ナデ	
273	SP4　（10次）	82Y	須恵器 甕	口径　－ 器高 6.4～	密	良好	内：にぶい黄橙（10YR7/4） 外：灰赤（2.5YR4/2）	内：ナデ 外：タタキ、ケズリ	
274	SB1　（10次）	61V	須恵器 杯蓋	口径（15.0） 器高 1.7～	密	良好	灰黄褐（10YR5/2）	内外：回転ナデ	

表９　土製品、瓦観察表

報告番号	出土遺構	グリッド	器種	長さ	幅	厚さ	成形・調整	備考
14	SH22	29・30Q・R	鞴羽口	長さ (3.7)	幅　(3.6)	厚さ 1.7	内外面：ナデ	
46	SH5 土坑 1	48・49P・Q	製塩土器	口径 (10.0)	器高(16.5～)	—	ナデ、指オサエ	知多式
68	SH7	48S・48T	製塩土器	長さ (3.0)	幅　(2.5)	厚さ 2.1	外面：ナデ	知多式
127	SH25	28Q・28R	土馬か？	長さ (5.8)	幅　(2.2)	厚さ 1.9	外面：ナデか	
170	SH34 カマド脇	9M・9N	土　錘	長さ 4.5	幅　1.0	厚さ 0.9	外面：ナデ	
171	SH34 カマド脇	9M・9N	土　錘	長さ 4.8	幅　0.9	厚さ 0.85	外面：ナデ	
172	SH34 カマド脇	9M・9N	土　錘	長さ (4.9)	幅　1.0	厚さ 0.9	外面：ナデ	
173	SH34 カマド脇	9M・9N	土　錘	長さ 5.0	幅　1.2	厚さ 1.1	外面：ナデ、籾痕か	
174	SH34 カマド脇	9M・9N	土　錘	長さ 4.8	幅　1.1	厚さ 0.95	外面：ナデ	
175	SH34 カマド脇	9M・9N	土　錘	長さ 4.7	幅　1.1	厚さ 1.0	外面：ナデ、指オサエ	
176	SH34 カマド脇	9M・9N	土　錘	長さ (4.6)	幅　1.0	厚さ 1.0	外面：ナデ	
177	SH34 カマド脇	9M・9N	土　錘	長さ 5.6	幅　1.1	厚さ 1.1	外面：ナデ	
178	SH34 カマド脇	9M・9N	土　錘	長さ 5.5	幅　1.0	厚さ 0.9	外面：ナデ	
179	SH34 カマド脇	9M・9N・10M・10N	土　錘	長さ 5.8	幅　1.1	厚さ 1.1	外面：ナデ、指オサエ	
180	SH34 カマド脇	9M・9N	土　錘	長さ 5.8	幅　1.2	厚さ 1.0	外面：ナデ、指オサエ	
181	SH34 カマド脇	9M・9N・10M・10N	土　錘	長さ 6.0	幅　1.2	厚さ 1.1	外面：ナデ、指オサエ	
182	SH34 カマド脇	9M・9N	土　錘	長さ 5.8	幅　1.2	厚さ 1.0	外面：ナデ	
183	SH34 カマド脇	9M・9N	土　錘	長さ (6.6)	幅　1.0	厚さ 1.1	外面：ナデ	
184	SH34 カマド脇	9M・9N	土　錘	長さ 6.4	幅　1.1	厚さ 1.0	外面：ナデ、指オサエ	
185	SH34 カマド脇	9M・9N	土　錘	長さ 6.1	幅　0.9	厚さ 0.9	外面：ナデ	
259	遺構外	11K-a	軒丸瓦	瓦当径 (16.5)	中房径 4.6	瓦当厚 2.9	内面：ナデ 外面：ナデ、型押し、面取り	単弁 10 葉、蓮子数：1+6

表 10　石器、石製品観察表

報告番号	出土遺構	グリッド	器　種	長さ	幅	厚さ	石材	備　考
9	SH19	11L-a	管　玉	最大長：2.9	最大幅：0.75	最大厚：0.6	碧　玉	
81	SH12	45R	剥　片	最大長：3.15	最大幅：2.45	最大厚：0.9	チャート	
246	SD5	30O・31O	有溝石錘	最大長：7.45	最大幅：5.5	最大厚：4.85	砂　岩	
260	重機掘削	—	打製石斧	最大長：10.9～	最大幅：7.4	最大厚：1.9	泥　岩	

表 11　鉄製品観察表

報告番号	出土遺構	グリッド	器　種	長さ	幅	厚さ	備考
65	SH6	49・50　Q・R・S	鉄　鏃	長さ：8.4	幅：3.5	厚さ：1.8	
95	SH14	35・36R・Q	刀　子	長さ：8.0	幅：1.1	厚さ：0.5	
149	SH30	20P	工具類	最大長：	最大幅：1.1	最大厚：0.7	
194	SK7	47O	工具類	長さ：7.0	幅：1.2	厚さ：0.8	
219	SK29	28・29R	槍鉋か	長さ：9.3	幅：1.2	厚さ：1.1	

表 12　竪穴建物一覧表

調査次数	遺構番号	グリッド	規模			時期	カマド	貯蔵穴	周溝	備考
			東西（m）	南北（m）	深さ（cm）					
9次	SH1	51C・D	1.7～	3.1	25	奈良後半	—	—	—	
9次	SH2	49・50G・H	3.7	4.6	10	奈良後半	—	—	3辺（北，南，西）	
9次	SH3	51・52H・I	5.1	4.1	10	奈良後半	北東隅	—	—	
9次	SH4	47・48N・O	3.2	4.1	6	奈良後半	北東隅か	—	3辺（北，南，西）	
9次	SH5	48・49P・Q	4.4	5.3	20	奈良後半	—	—	4辺	土坑1に遺物集中
9次	SH6	49・50Q～S	5.2	3.9	25	奈良後半	北辺中央	—	4辺	
9次	SH7	48S・T	3.4	3.0	20	奈良後半	南東	—	—	壁柱穴あり
9次	SH8	48・49S・T	3.7	3.9	20	奈良	東辺	—	—	
9次	SH9	50・51V・W	3.5～	3.2	10	奈良	北東隅	南東か	—	
9次	SH10	48T・U	5.0	3.7	20	奈良後半	—	—	4辺	壁柱穴あり
9次	SH11	46・47T・U	1.5～	2.5	24	奈良後半	—	—	3辺（北，南，西）	竪穴外柱穴か
9次	SH12	44・45Q・R	4.5	5.6	20	奈良後半	北東	—	—	2棟重複（建替えか） 主柱穴、壁柱穴あり
9次	SH13	50V	2.9	1.6～	15	奈良	—	—	—	
9次	SH14	35・36P・Q	～3.7	3.2	20	奈良後半	南東隅	南東	—	
9次	SH15	50V	3.0	5.0	20	古墳後半	—	—	—	
9次	SH16	34・35R・S	4.1～	5.1	15	奈良	—	—	—	
9次	SH17	32・33R・S	3.2	3.3	10	奈良後半	南東隅	南東か	—	カマド内に須恵器杯蓋と 土師器鍋
9次	SH18	31～320～Q	6.0	4.4	20	古墳後半	—	—	—	
9次	SH19	30・31R・S	3.7～	3.9	12	奈良	—	—	—	
9次	SH20	31・32R・S	4.0～	5.1	24	奈良	—	—	—	
9次	SH21	30・31P・Q	～4.7	～4.3	10	奈良後半	—	—	—	主柱穴あり 北東隅で土師器甑出土
9次	SH22	29・30Q・R	4.6	3.5	24～34	古墳後半	東辺中央	—	3辺（北，南，西）	
9次	SH23	26～28Q・R	4.6～	5.7	20	奈良前半	—	—	—	
9次	SH24	29・30Q・R	5.4	6.1	30～40	奈良後半	南東？	—	4辺	貼床下土坑あり
9次	SH25	230・P	3.3	3.8	1	奈良	西辺中央	—	—	
9次	SH26	24・250・P	5.1	4.2	24	奈良前半？	北辺中央 北西隅	—	—	2棟重複（建替えか） 主柱穴あり
9次	SH27	240・P	4.3	4.6	20	奈良後半	—	—	—	
9次	SH28	29・30Q・R	5.1	5.1	25	奈良後半	東辺中央	南東隅	—	貼床下土坑あり
9次	SH29	20・21P・Q	3.1	3.1	15	奈良	東辺中央	—	—	
9次	SH30	16・17P・Q	2.9～	5.9	20	奈良？	—	—	—	
9次	SH31	9・100～Q	4.2	4.3	20～30	奈良前半	—	—	—	
9次	SH32	9・100～Q	1.2～	3.5	15	奈良後半	—	—	—	
9次	SH33	9・10M・N	3.5	3.2	40	奈良後半	北東隅	—	—	竪穴外柱穴、棚状施設あり カマド脇で土錘出土
9次	SH34	7・80～Q	5.2	2.7	20～30	古墳後半	東辺中央	—	—	カマドに支柱石あり
10次	SH1	64～66W	4.6	6.0	20	奈良前半	—	—	3辺（北，東，西）	
10次	SH2	65・66W	2.2～	4.5	10	奈良前半	—	—	1辺（南）	

第６章　総　括

１．竪穴建物について

今回の調査では、竪穴建物を 36 棟確認した。時期的には 8 世紀後半のものが中心である。９次調査区を中心に、建物の分布や建物構造について検討をおこなう。

（１）建物の分布状況と平面規模

竪穴建物のまとまりから大きくＡ～Ｄ群に分けられる。

Ａ群は、調査区南西の一群である。３棟で構成され、長辺が４～５ｍの長方形を呈するものが主体である。竪穴群の中央には、掘立柱建物が認められる。柱穴遺物を見る限り、竪穴建物の遺物と大きな時期差が見られないため、竪穴群に伴う倉庫のような施設であったと考えられる。

Ｂ群は、調査区南東にある一群で、９棟で構成される。ＳＨ 12 を中心に半円状に分布している。平面規模は、長辺が５ｍ以上、３～４ｍ、２ｍ以上に分かれる。長辺５ｍ以上の建物は出土遺物が比較的多い。ＳＨ６で須恵器鉄鉢や鉄鏃といった遺物が出土した。また、特徴的な建物構造をもつ建物が見られ、ＳＨ７、ＳＨ 10、ＳＨ 12 は壁柱穴をもつ。ＳＨ 11 では、竪穴外柱穴が確認される。

Ｃ群は、調査区中央部の一群である。16 棟の建物で構成され、重複する建物が多い。ＳＨ 23 とＳＨ 26 は８世紀前半の建物と考えられる。建物規模は、長辺が５ｍ以上、３～４ｍ、２～３ｍの３グループに分かれる。２～３ｍの小さい建物には、柱穴が見られず、カマド以外の施設がないものが多い。規模により、建物の構造や用途に違いがあったかもしれない。竪穴群の周辺では、掘立柱建物や大型土坑も複数検出している。土坑の出土遺物が少ないため、詳細な性格は不明である。

Ｄ群は、調査区北側の一群である。３棟で構成される。長辺４ｍ以上と３ｍ以上のものに分れる。ＳＨ 33 は竪穴外柱穴を伴い、屋内に棚状施設をもつなど特徴的な構造をもつ建物である。カマドの周辺から多量の土錘が集中して出土するなど、特殊な出土状況が見られ、居住以外の用途も考えられる。

９次調査区の竪穴群は大きく４群に分かれることが分かった。このうち、Ｃ群とＤ群は、８世紀前半の建物が含まれるため、ＡやＢ群よりやや先行して形成された可能性がある。９世紀以降については、遺構・遺物が確認できないことから、平安時代以降、建物群は急速に衰退していったと考えられる。

（２）建物の柱構造について

検出した竪穴建物は、明確な主柱穴が見られないものが多い。そのなかで、壁柱穴や竪穴外周に小穴が伴うものがあるなど、特徴的な構造の建物が確認できた。こうした建物の柱構造を整理する。

壁柱穴をもつ建物　壁面に柱穴や杭状の小穴を設ける構造である。①壁面を切り込み、柱穴を構築するものと、②壁面沿いに連続する小穴が確認できるものがある。

①の柱構造は、ＳＨ 10 やＳＨ 12 が該当し、直径 20 ㎝内外の柱穴を壁面から壁周溝にかけて垂直に掘り込まれている。各柱穴の間隔が不揃いであるが、板壁等の壁面を支える構造であったと考えられる。こうした柱構造は、県内では、弥生時代や古墳時代など古代以前の竪穴建物で散見することができ、特殊な構造の建物とは言い難いようである[(1)]。

②の柱構造は、ＳＨ７で確認した。竪穴の掘形内にあり、壁面に沿って多数の小穴が連続して確認されている。近隣では、四日市市の北山Ａ遺跡や中野山遺跡に類例が見られ[(2)]、壁周溝内に小穴が密集して掘りこまれている。いずれも主柱穴は伴っていない。こうした建物については、壁立建物の可能性が指摘されており、古代以前の建物とは、構造的な違いがあったと考えられる。

竪穴外柱穴をもつ建物　建物の外周に柱穴や杭状の小穴をもつ構造である。ＳＨ 11 とＳＨ 34 で確認した。竪穴外柱穴をもつ建物は関東地方で多く確認され、壁を立てるための柱穴と考えられるものや、垂木や垂木を固定する杭と推定できるものがあるなど多様な形態が見られる[(3)]。三重県内での類例が乏しく、詳細な検討ができないが、天王平遺跡で確認した建物は、径が小さく、間隔も疎らであることから、垂木や垂木を支持する支柱に近い構造と推定される。

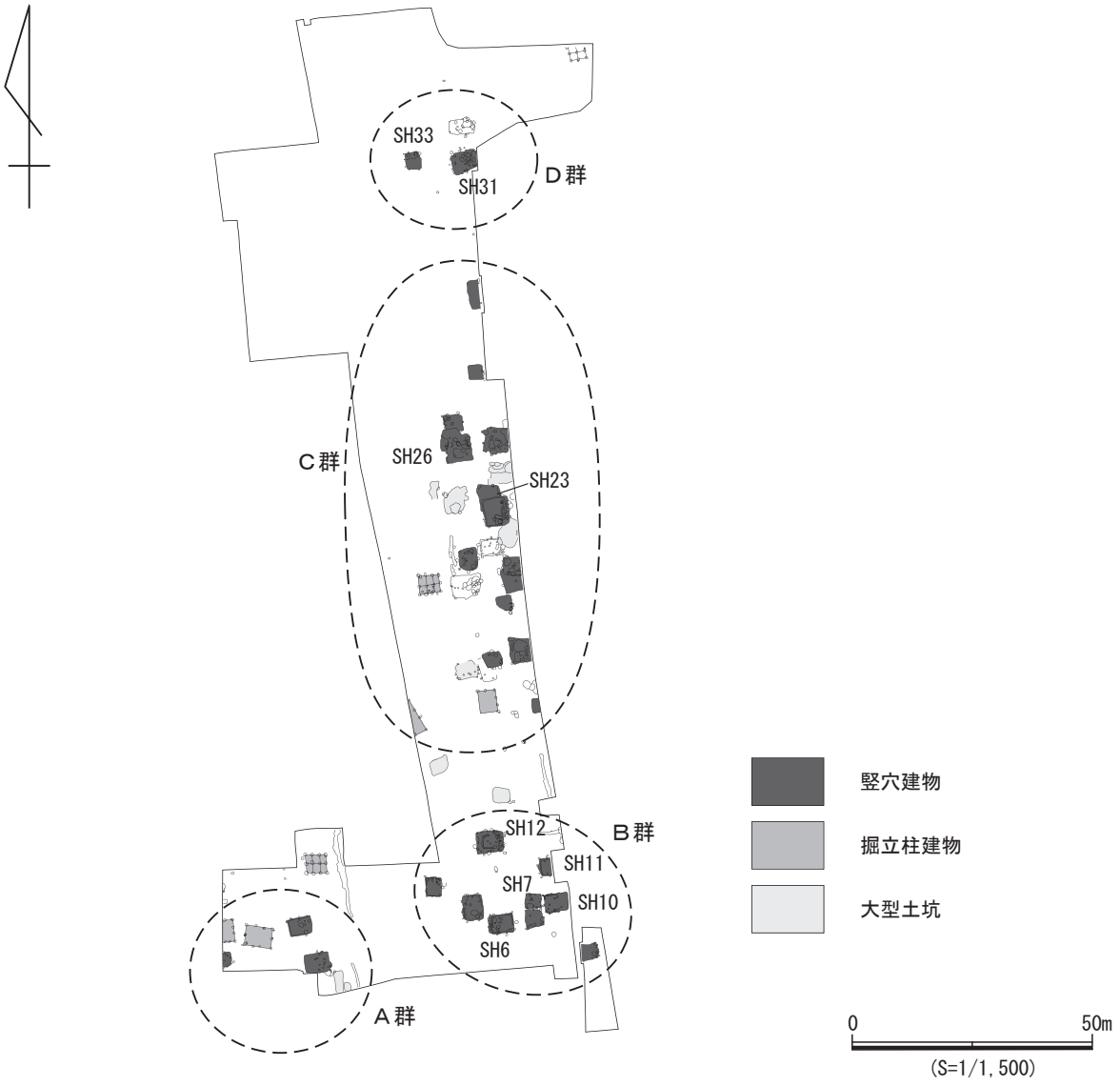


図 96　奈良時代の主要遺構配置図

天王平遺跡の竪穴建物については、長方形のプランが主体で、主柱穴を伴う建物が少ないことが指摘されている[(4)]。そのなかで、今回確認した壁柱穴や竪穴外柱穴の事例は、多様な建物構造があることを示している。建物周辺の柱穴は、建物に付属するか否かの見極めが難しいなど課題が多いが、検出段階で建物構造に留意した調査が必要である。

２．遺構の変遷

天王平遺跡では、遺跡南側については大規模な調査がなく、実態が不明であるが、遺跡中央部分を中心に発掘調査が断続的に実施されてきた。１・２次調査の成果により、竪穴建物群や掘立柱建物群が確認され、古代を中心とする集落が広がることが分かった。９次調査は、遺跡北側が調査対象となっており、遺跡の広い範囲を把握できるようになった。過年度の成果を含め、遺構変遷を概観する。

古墳時代

６次調査区で、土坑内から、Ｓ字甕や小形丸底壺など４世紀代の遺物が少量出土している。遺構が少ないため、古墳時代前期以前の状況は不明である。古墳時代中後期になると、竪穴建物が散見される。７次調査区で２棟、９次調査区で４棟の建物を検出している。いずれも５世紀から６世紀前半頃のものと考えられる。カマドを伴う建物も見られる。6 世紀後半以降については、遺構・遺物がほとんど見られない。

飛鳥時代

７世紀代も遺構の分布状況は希薄である。９次調査区の北端で７世紀前半頃の遺物が出土した掘立柱建物ＳＢ７が唯一確認できる。遺構には伴わないが、４次調査区で平瓦、９次調査区では単弁十葉蓮華文の軒丸瓦が出土している。同系の軒丸瓦は、天王平遺跡の東側に包摂される北小山廃寺で採集されている。遺構が少なく詳細な検討は難しいが、北小山廃寺との関連が注目される。

奈良時代

遺構が最も多く、当遺跡の中心時期となる。８世紀前半の段階は、３次調査区で１棟、６次調査区で４棟、９次調査区で５棟の竪穴建物が確認され、各所に散在的に分布する。８世紀後半以降に入り、遺構数は急増する。９次調査区で 28 棟、１・２次調査区では 51 棟の竪穴が確認され、遺跡の北側や中央で大きなまとまりが見られる。小規模な掘立柱建物も複数確認できる。遺跡中央で確認した竪穴建物は、出土遺物を見る限り、８世紀末以降の遺物が多く、時期的にやや新しいと考えられる。

平安時代

平安時代に入ると、遺跡北側の遺構はほとんどなく、遺跡中央へ居住域の中心が移っていくと考えられる。１・２次調査区では、５間×４間の大型建物や、大型の方形掘形をもつ規格性のある掘立柱建物群が見られる。竪穴建物との重複関係などから、平安時代前半から中頃のものが多いと推定される。３次調査区で３棟、４次調査区では１棟、平安時代の掘立柱建物が確認されている。９世紀代前半以降については、竪穴建物から、掘立柱建物が主体となる集落へ移行したと考えられる。平安時代後期以降は

遺構が希薄であるが、４次調査区で 10 世紀前半の遺物が出土した土坑墓が確認されている。

中世以降

１次調査区で中世の火葬墓が１基検出されている。遺物が少なく詳細な時期は不明である。中世前期から近世の遺物は遺跡内で少数出土するが、目立った遺構はほとんど見られない。平安時代末期以降、集落自体は急速に衰退していったと見られる。

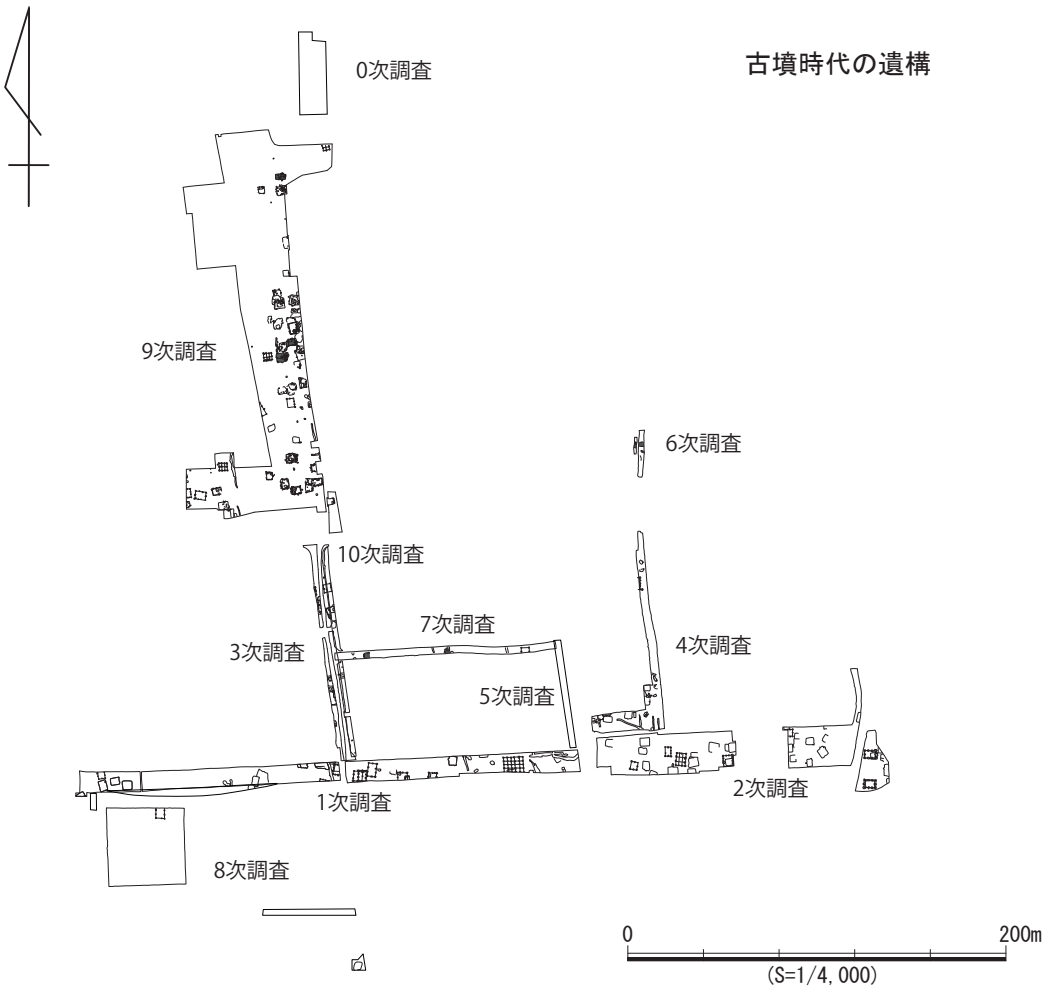


図 97　遺構変遷図（１）


奈良時代の遺構
0次調査
9次調査
6次調査
10次調査
7次調査
4次調査
3次調査
5次調査
1次調査
2次調査
8次調査
平安時代の遺構
0次調査
9次調査
6次調査
10次調査
7次調査
4次調査
3次調査
5次調査
1次調査
2次調査
8次調査
0
200m
(S=1/4,000)

図 98　遺構変遷図（２）

３．古代の土器

（１）濃尾系甕について

天王平遺跡では、8 世紀後半を中心とした土師器甕が出土した。主体となるのは、口縁端部を摘まみ上げる丸底の甕である。一方、口縁部が外反する平底の甕も一定量出土した。後者の甕は、濃尾系甕とされる一群で、8 世紀代に愛知県や岐阜県で広く分布することが確認されている[(5)]。県内では、北勢地域を中心に報告事例が増えつつある[(6)]。出土した濃尾系甕について、器形等の整理をおこなう。

まず、甕ａは、口径 20 ㎝以下の小型の甕を一括した。器形は球形（126）、胴長（203）、扁平のもの（202）がある。外面調整は、体部下半部をヘラ削りするものと全面ハケ調整するものがある。167 と 205 は、底部に木葉痕が確認できる。小片のため検討が必要だが、東濃系の甕の可能性がある[(7)]。

甕ｂは、口径 20 ㎝以上の長胴形を一括した。全体の形状が不明なものが多いが、器壁が薄く、外面は粗いハケ調整となる。161 は、ハケ調整が見られず、大部分をヘラ削り調整としている。出土した甕ｂは、愛知県西部で出土している濃尾系甕[(8)]に共通する要素が多いと考えられる。

県内の濃尾系甕は、まとまった出土例が少なく、詳細な検討がなされていない現状にあるが、今後の資料蓄積により、型式的な変遷や他地域の甕との関係が明らかにされることを期待したい。

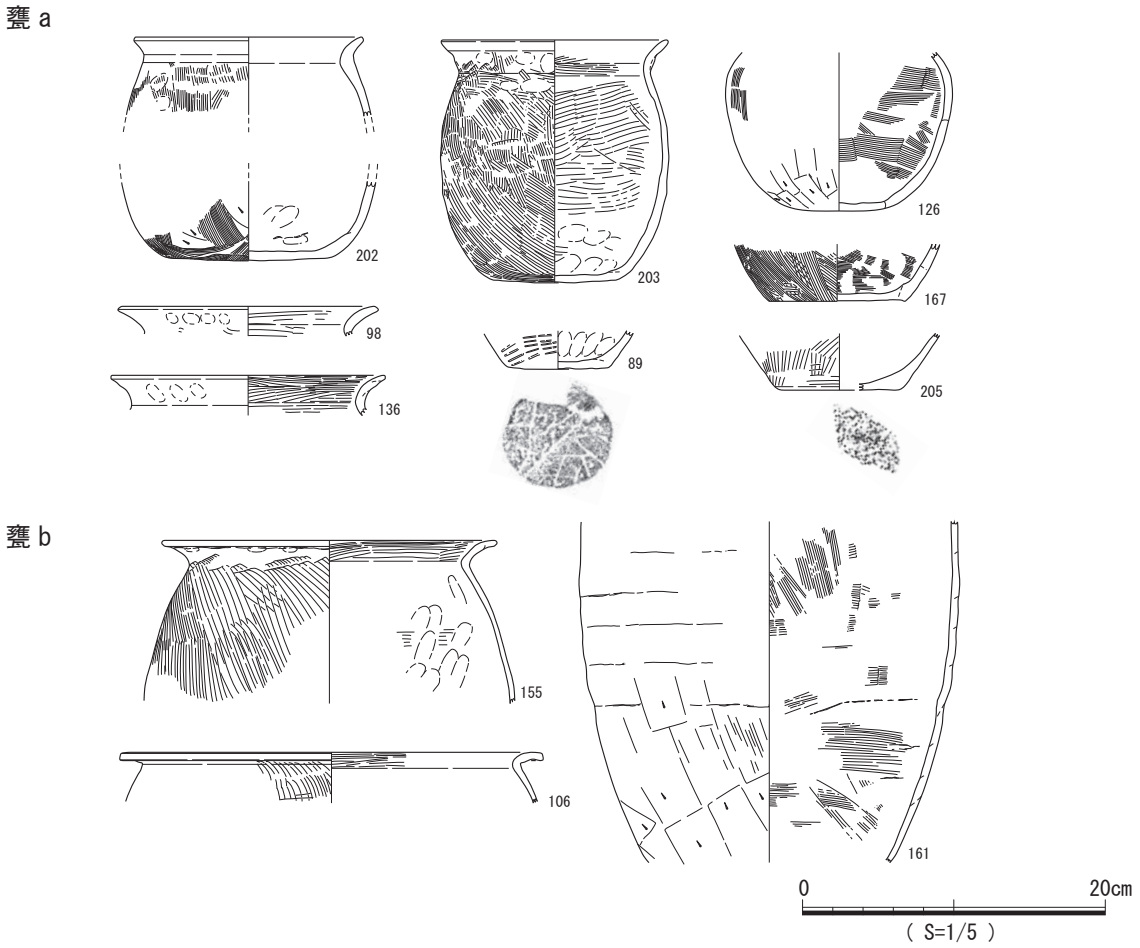


図 99　天王平遺跡出土の濃尾系甕

（２）暗文土師器について

出土した土師器は、数量的検討を行っていないが、杯や皿を中心とする供膳具の割合が比較的高い。そのなかで、暗文土師器も少量出土した。天王平遺跡から出土した暗文土師器は、３次調査で、８世紀前半の螺旋状暗文をもつ高杯が報告されている(9)。今回出土した土器は、赤橙色を呈し、底部に暗文を丁寧に施文するもので、畿内系土師器とされる一群と類似すると考えられるる(10)。

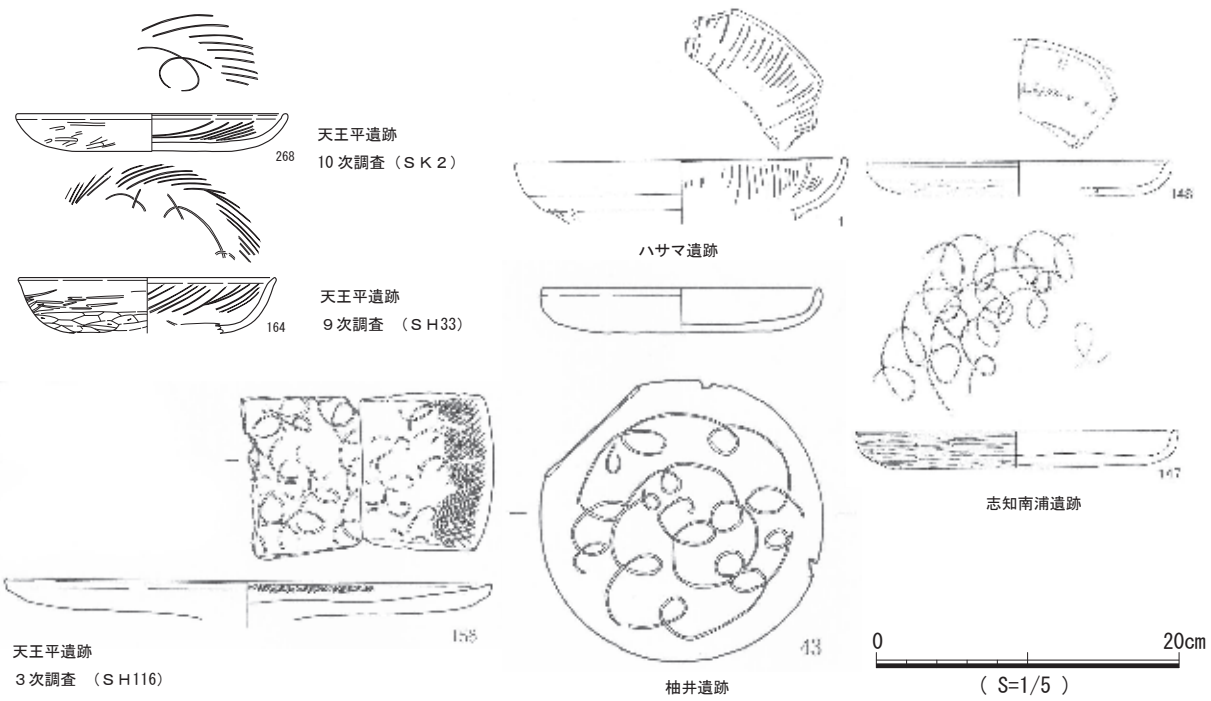
図 99 に桑名市内で出土した暗文土師器を図示した。天王平遺跡（３次調査）で高杯が出土しているが、杯と皿が大半である。詳細な時期は不明だが、体部の放射状暗文が一段のみで、暗文が全体的にまばらとなっている特徴から、８世紀以降のものが多いと思われる(11)。出土量が突出して多い遺跡は見られないが、天王平遺跡や柚井遺跡のように、古代東海道など官道のルートに隣接する要地から出土していることは大きな意味をもつ。周辺の遺跡を含めた分布状況の更なる解明が必要となる。

４．調査のまとめ

以上のように、天王平遺跡では調査が断続的に実施されたことで、奈良時代を中心とした古代集落の様相が明らかとなった。遺構や遺物の検討を踏まえ、判明したことをまとめとしたい。

まず、集落の時期についてである。遺跡の変遷で検討したように、当遺跡は、奈良時代から平安時代が中心となり、８世紀後半の段階に広い範囲で竪穴建物群が確認できる。古墳時代や平安時代後半以降の状況と対照的な様相を示している。遺構の検出状況を見る限り、建物同士の重複が少なく、長期にわたる居住が認められない。８世紀後半に入り急激に集落域が拡大したと考えられる。なお、建物のなかに壁立建物の可能性があるものや、棚状施設をもつ建物も含まれる。こうした構造の建物が集落内に存在することに注目したい。

次に、出土した古代の濃尾系甕の状況である。県内の濃尾系甕については、北勢地域を中心に広く分



＊天王平遺跡（９・10 次調査）以外の遺物は、各発掘調査報告書等から転載した。

図 100　市内出土の暗文土師器

布していることが分かっている。県内でまとまって出土した遺跡は少なく、他の遺跡と明らかに様相が異なっている。濃尾系甕の分布については、岐阜県の東濃地域や愛知県の西部を中心に８世紀後半に広く出土すること判明しており、流通にあたって揖斐川や木曽川などの河川が重要な役割を果たした可能性が指摘されている（12)。当遺跡については揖斐川下流に位置し、尾張西部とも近接する場所にあたることから、こうした地理的要因も大きく影響していると考えられる。

最後に、近隣遺跡との関連を考えたい。８世紀後半頃、多度山麓に多度神宮寺が創建され、近隣諸国から人々が集められ、伽藍等の施設が整備されたと伝えられる。寺領は伊勢や尾張に及んでおり、美濃との強いつながりがあったことが指摘されている（13)。当遺跡の東側にある柚井遺跡は、遺構の状況が判然としないが、奈良時代から平安時代が中心時期と考えられ、港があった可能性や多度大社との関わりが指摘されている（14)。天王平遺跡は、周辺遺跡の動向と合致する部分があり、濃尾系甕や美濃系須恵器が一定量の出土が見られることは、遺跡の性格を考える上で注目する必要がある。多度周辺の地域開発にあたり、開発に関与した集団の存在が推察できないだろうか。周辺遺跡との関わりを詳しく検討するには、材料が乏しく、今後、多度周辺の古代遺跡の調査、検討がさらに求められる。

註

(1) 三重県教育委員会 1998『勝田遺跡発掘調査報告』など

(2) 三重県埋蔵文化財センター 2022『中野山遺跡（第４・５・８～13次）発掘調査報告』

三重県埋蔵文化財センター 2017『北山Ａ遺跡第２・３・５・６次発掘調査報告』

(3) 箱崎和久 2007「古代竪穴建物の上部構造」月刊考古学ジャーナル№.559

(4) 多度町教育委員会編 2002「天王平遺跡」『多度町史』資料編１　考古・古代・中世

(5) 城ヶ谷和広 1996「総論　東海地方の古代煮炊具の様相と諸問題」『鍋と甕のそのデザイン』第４回東海フォーラム

(6) 多度町教育委員会 2003『天王平遺跡発掘調査報告―第４・５・６次―』

(7) 永井宏幸 1996「尾張平野を中心とした古代煮炊具の変遷」『鍋と甕のそのデザイン』第４回東海フォーラム

(8) 愛知県埋蔵文化財センター 1997「濃尾系甕について」埋蔵文化財愛知№.50

(9) 多度町教育委員会 1993『天王平遺跡発掘調査報告Ⅲ』

(10) 三重県内の畿内系土師器は、胎土分析が実施され、南勢地域や中勢地域など県内で生産された可能性が指摘されている。

財団法人愛知県教育サービスセンター、愛知県埋蔵文化財センター 2002『八王子遺跡』

(11) 暗文土師器の時期については、下記の編年を参考とした。

森　暢郎 2016「暗文土師器の編年と規範」纒向学研究センター研究紀要　『纒向学研究　第４号』

(12) 前掲（5)

(13) 石神教親 2005「多度神宮寺の造営」Miehistory vol.16

(14) 多度町教育委員会編 2002「柚井遺跡」『多度町史』資料編１　考古・古代・中世

図版引用報告書

・天王平遺跡（3次調査)；　多度町教育委員会 1993『天王平遺跡発掘調査報告Ⅲ』

・柚井遺跡遺跡（3次調査)；多度町教育委員会編 2002「柚井遺跡」『多度町史』資料編１　考古・古代・中世

・ハサマ遺跡；　桑名市教育委員会 2003『ハサマ遺跡発掘調査報告書』

・志知南浦遺跡；　三重県埋蔵文化財センター 2008『志知南浦遺跡発掘調査報告』

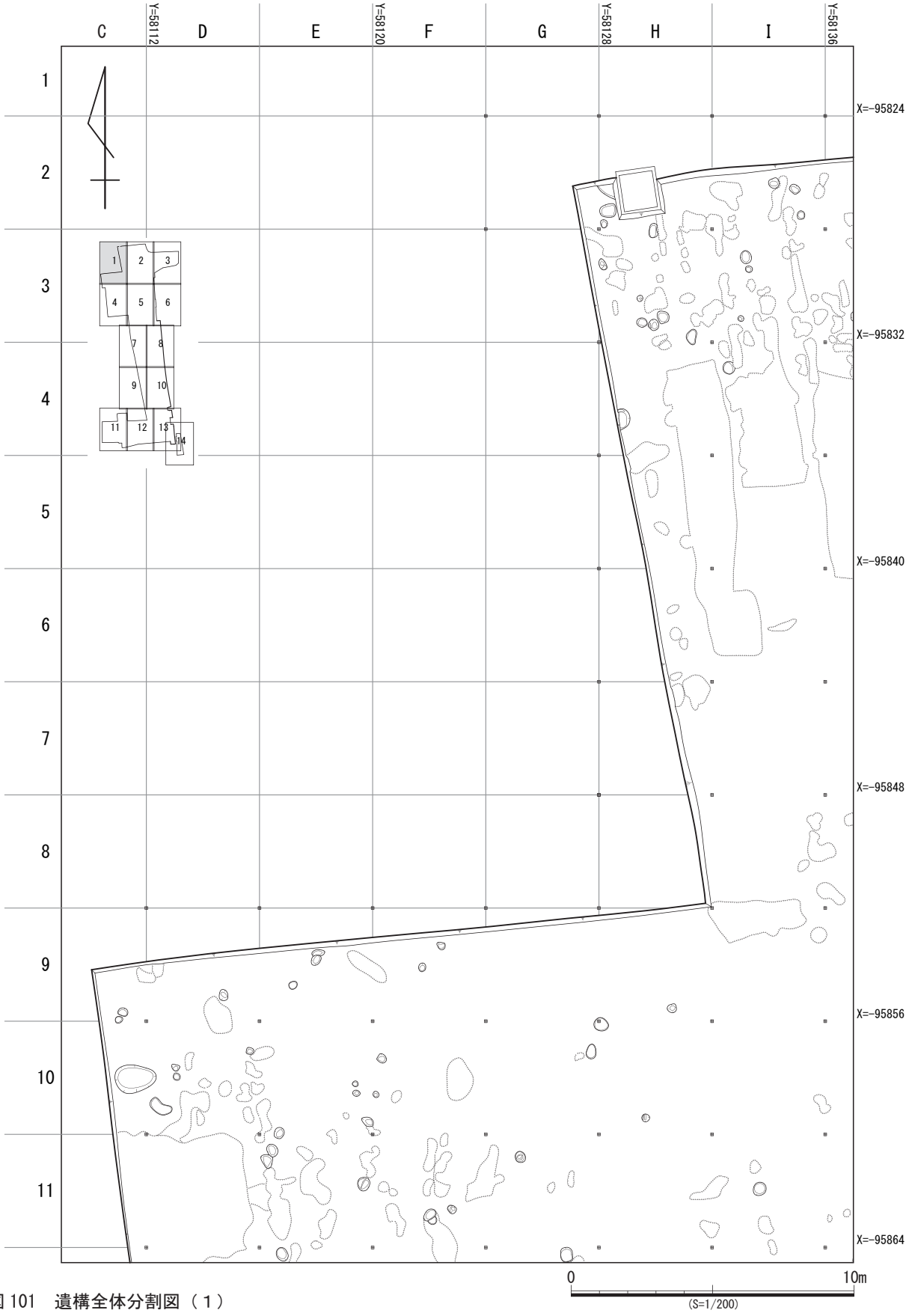


図 101　遺構全体分割図（１）

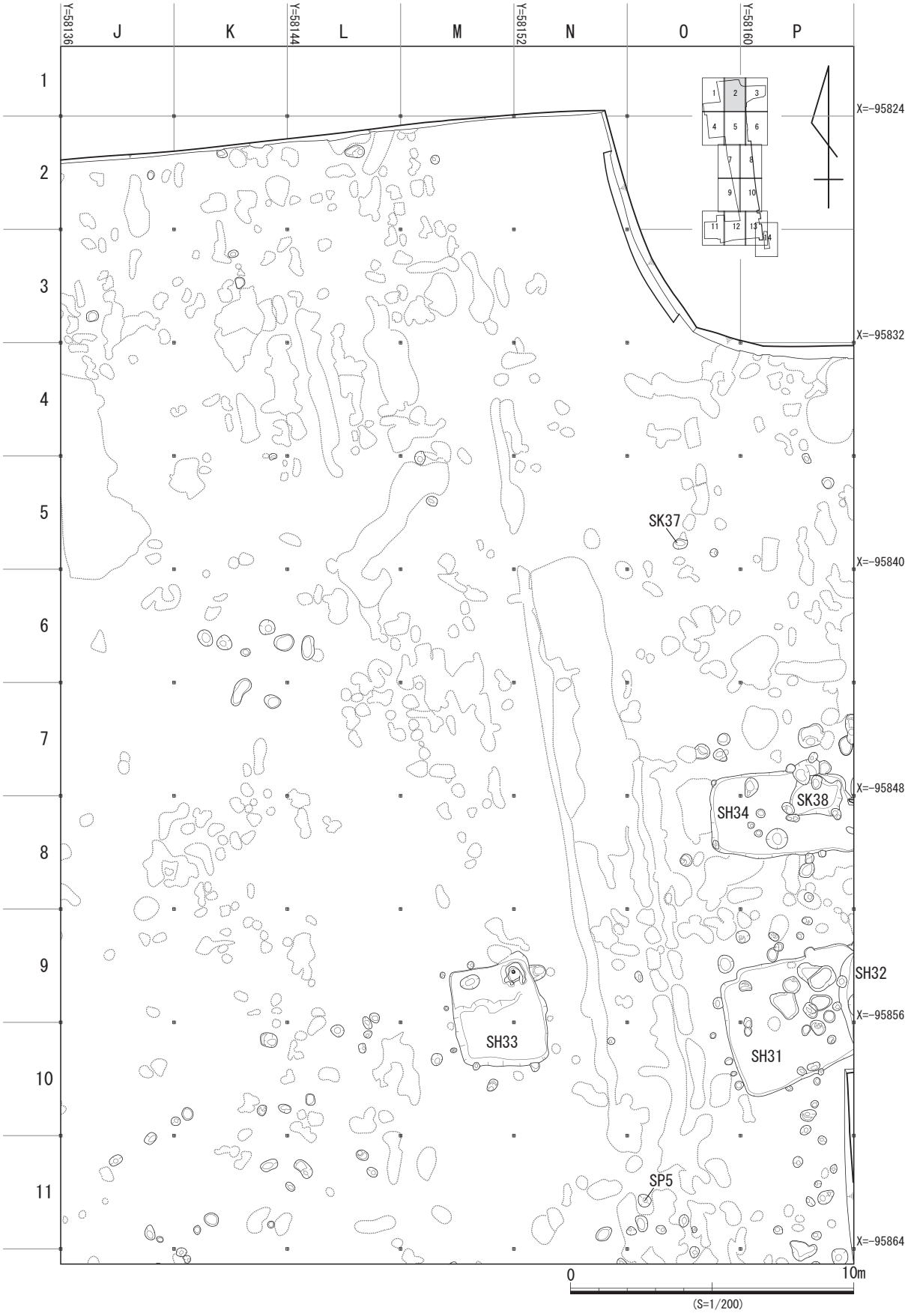


図 102　遺構全体分割図（２）

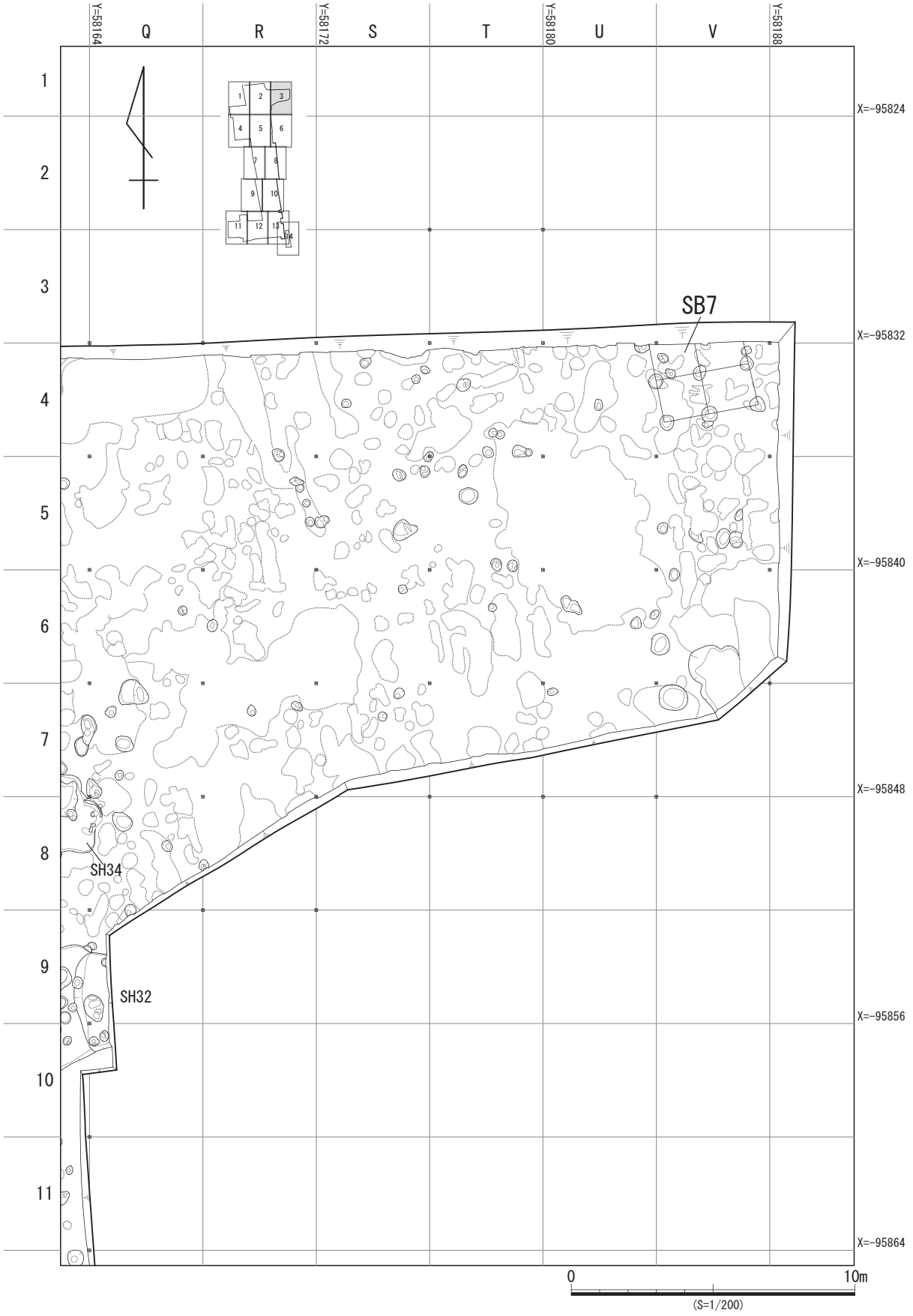


図 103　遺構全体分割図（３）

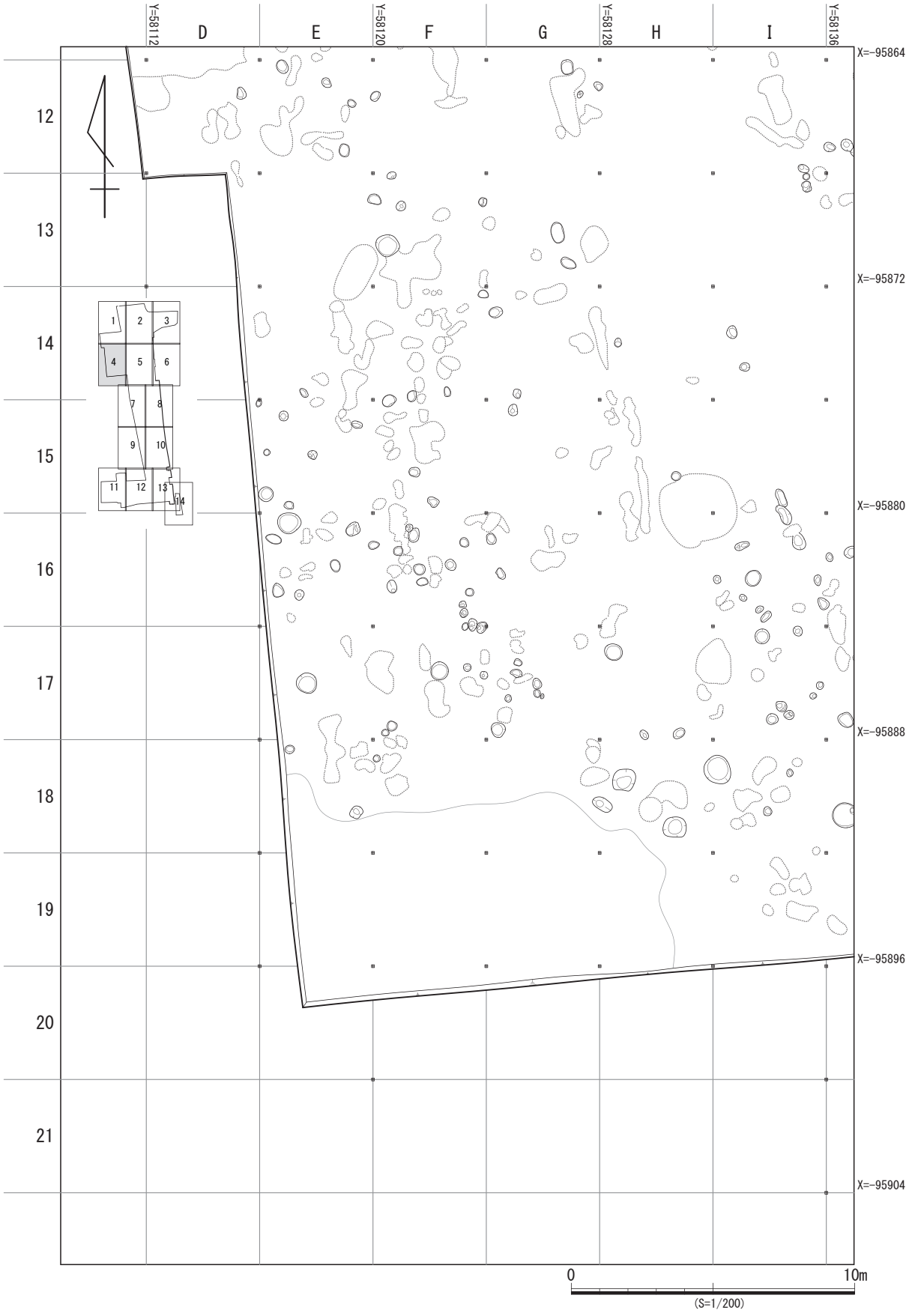


図 104　遺構全体分割図（４）

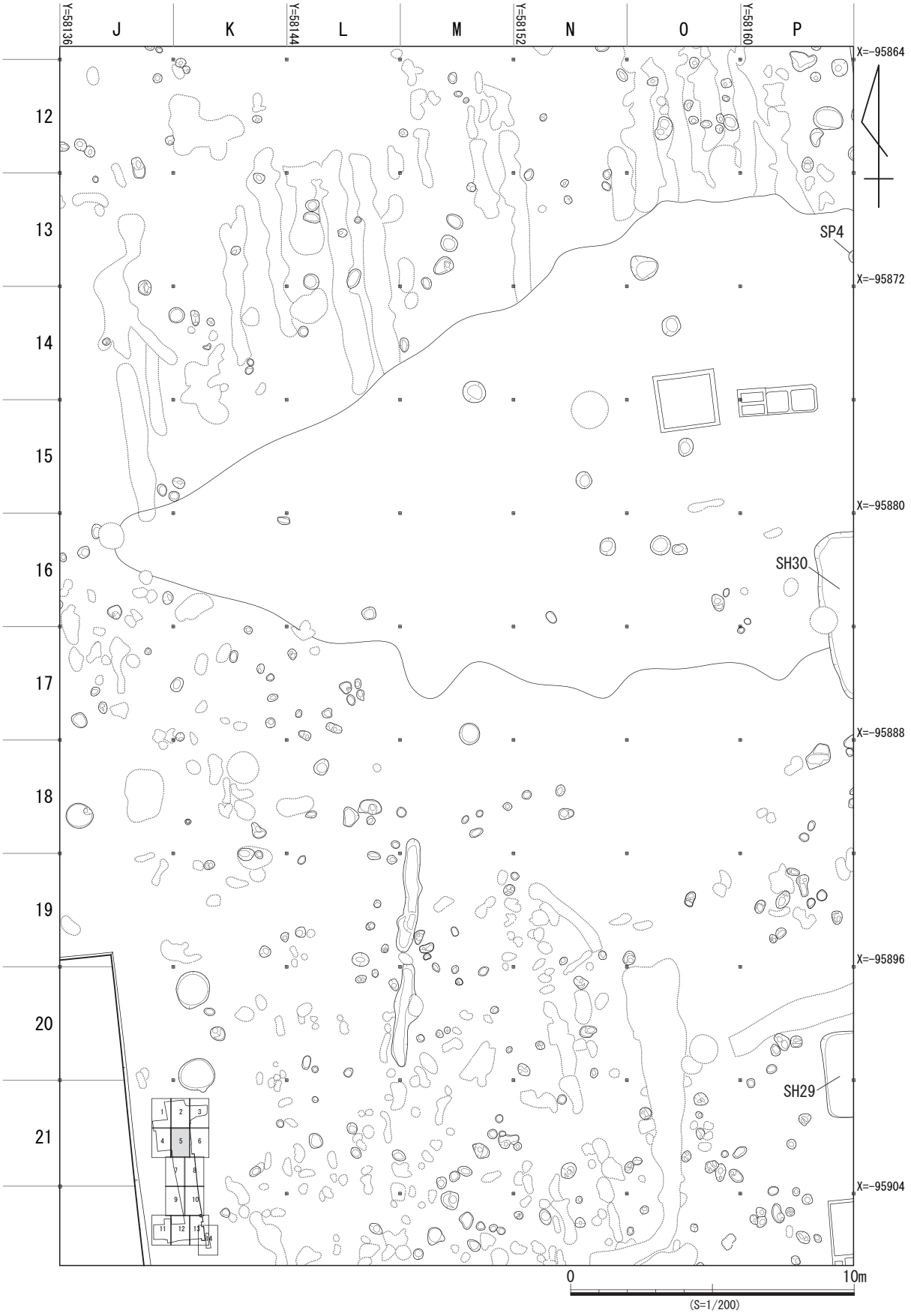


図 105　遺構全体分割図（５）

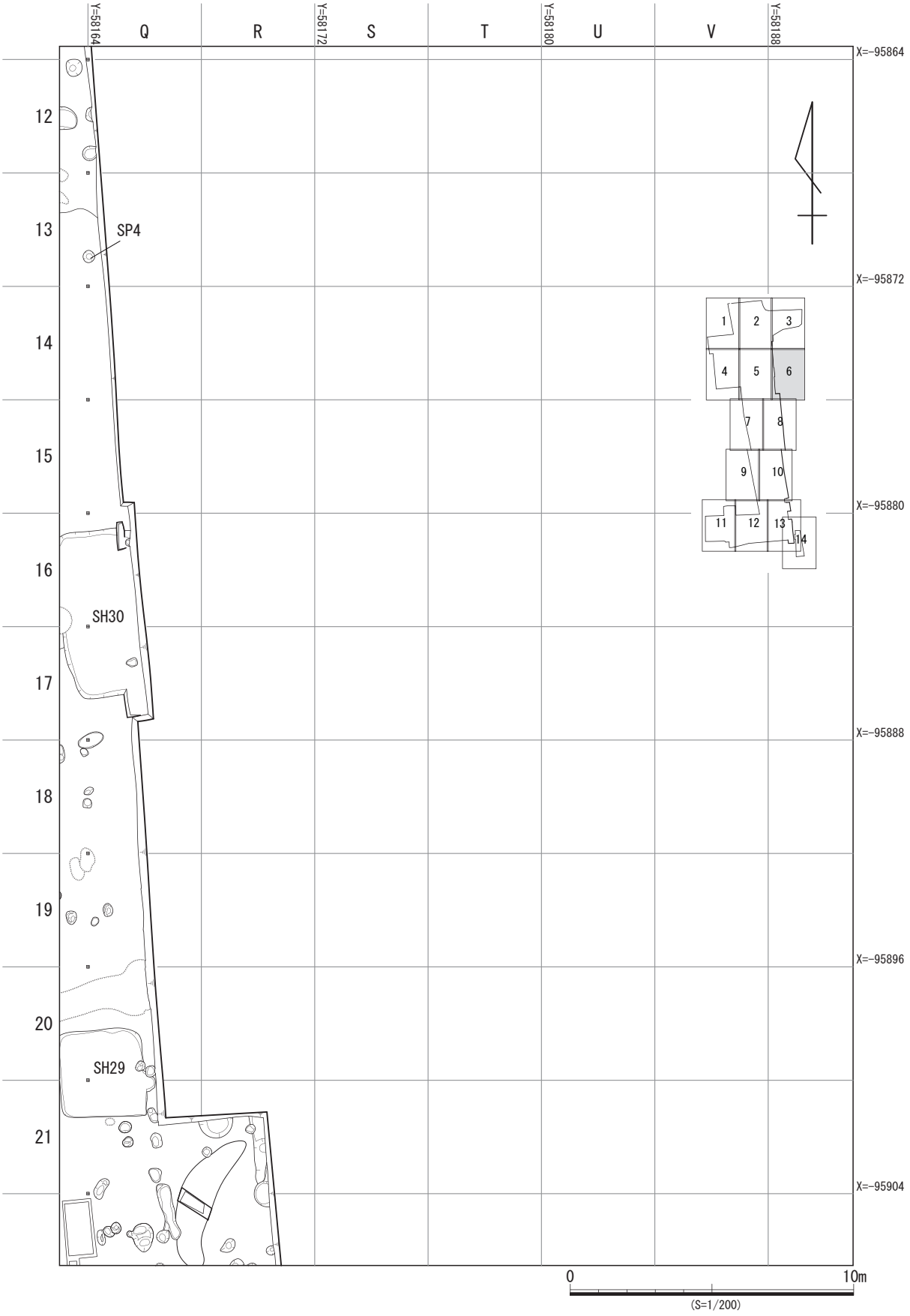


図 106　遺構全体分割図（６）

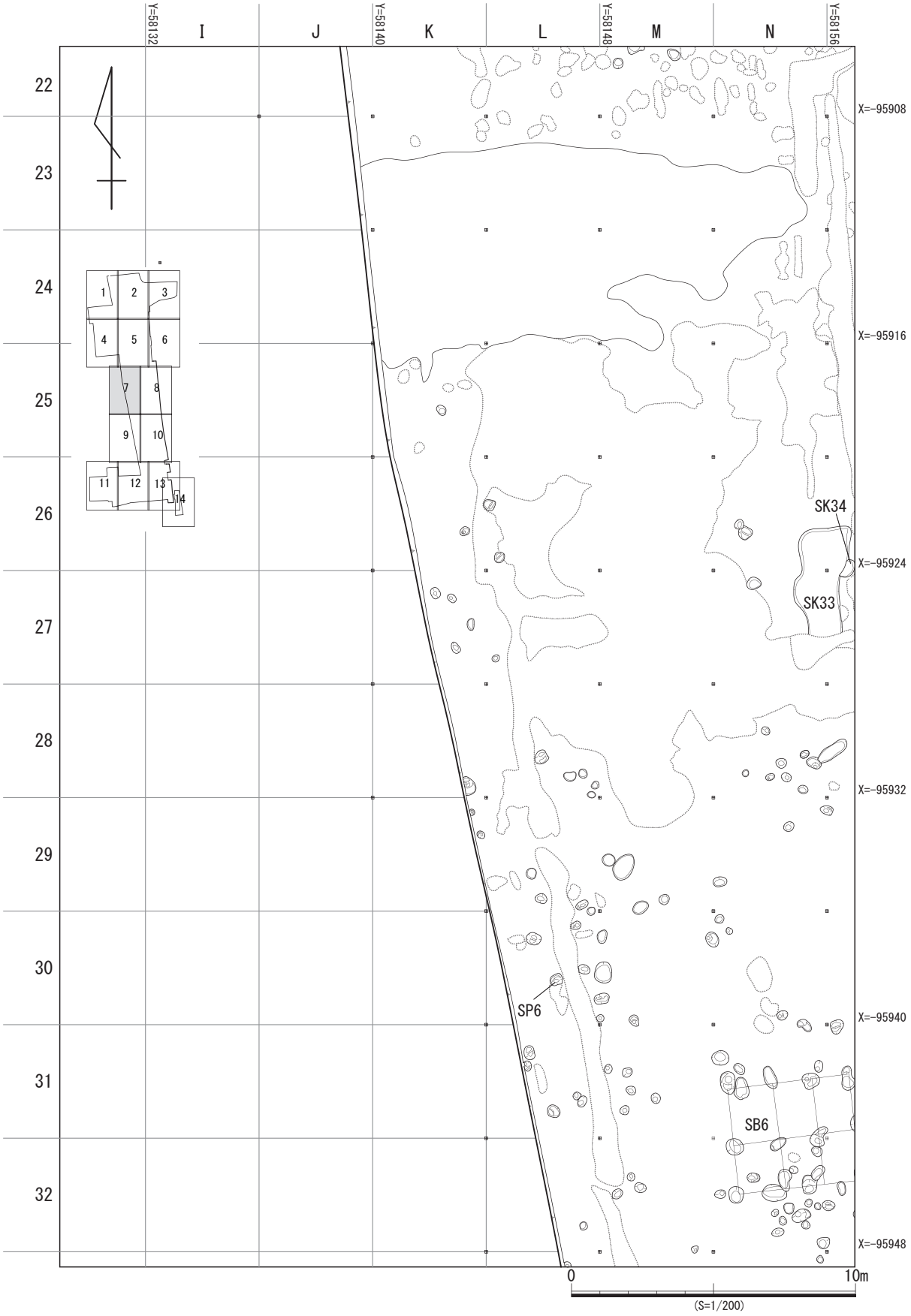


図 107　遺構全体分割図（７）

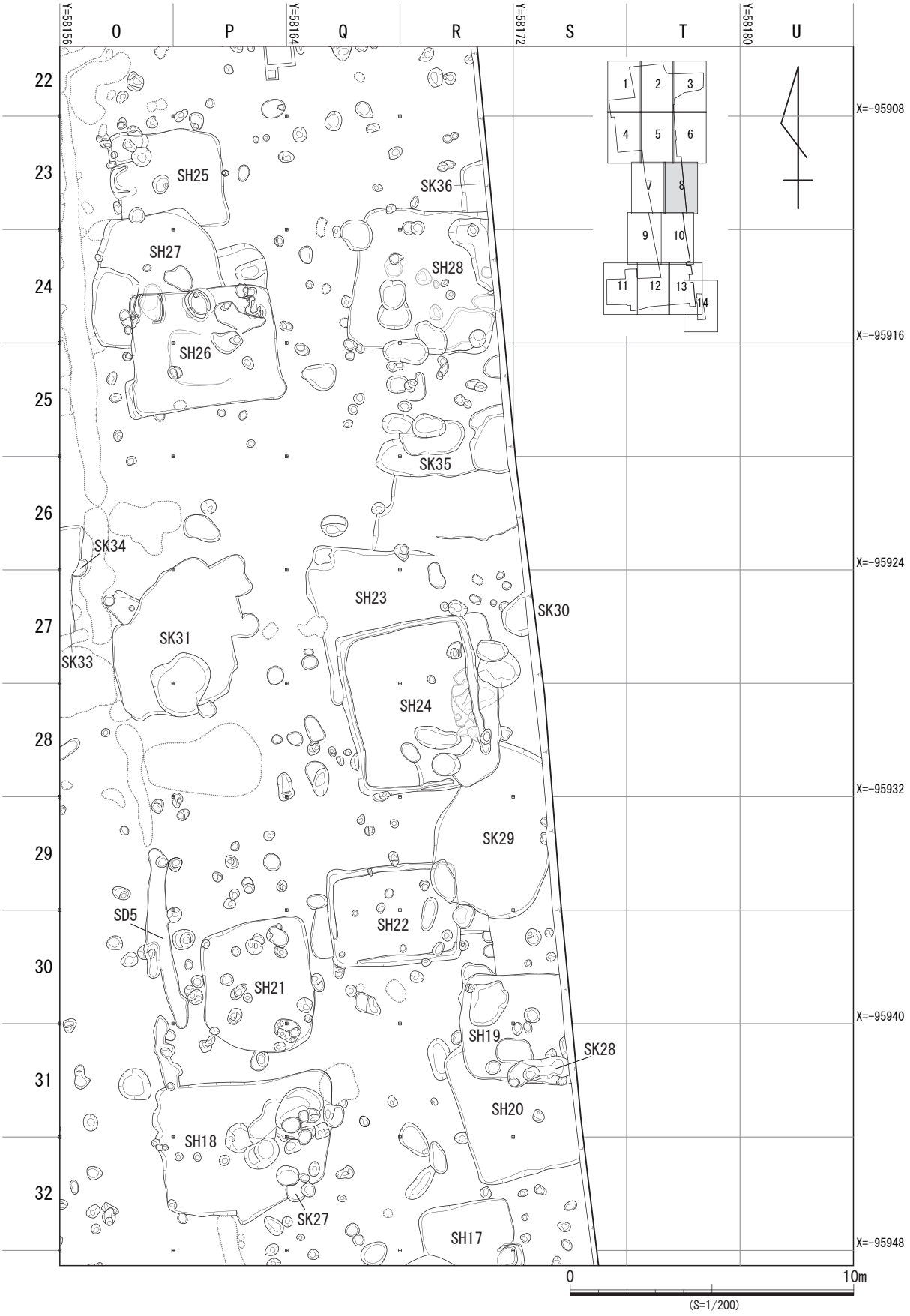


図 108　遺構全体分割図（８）

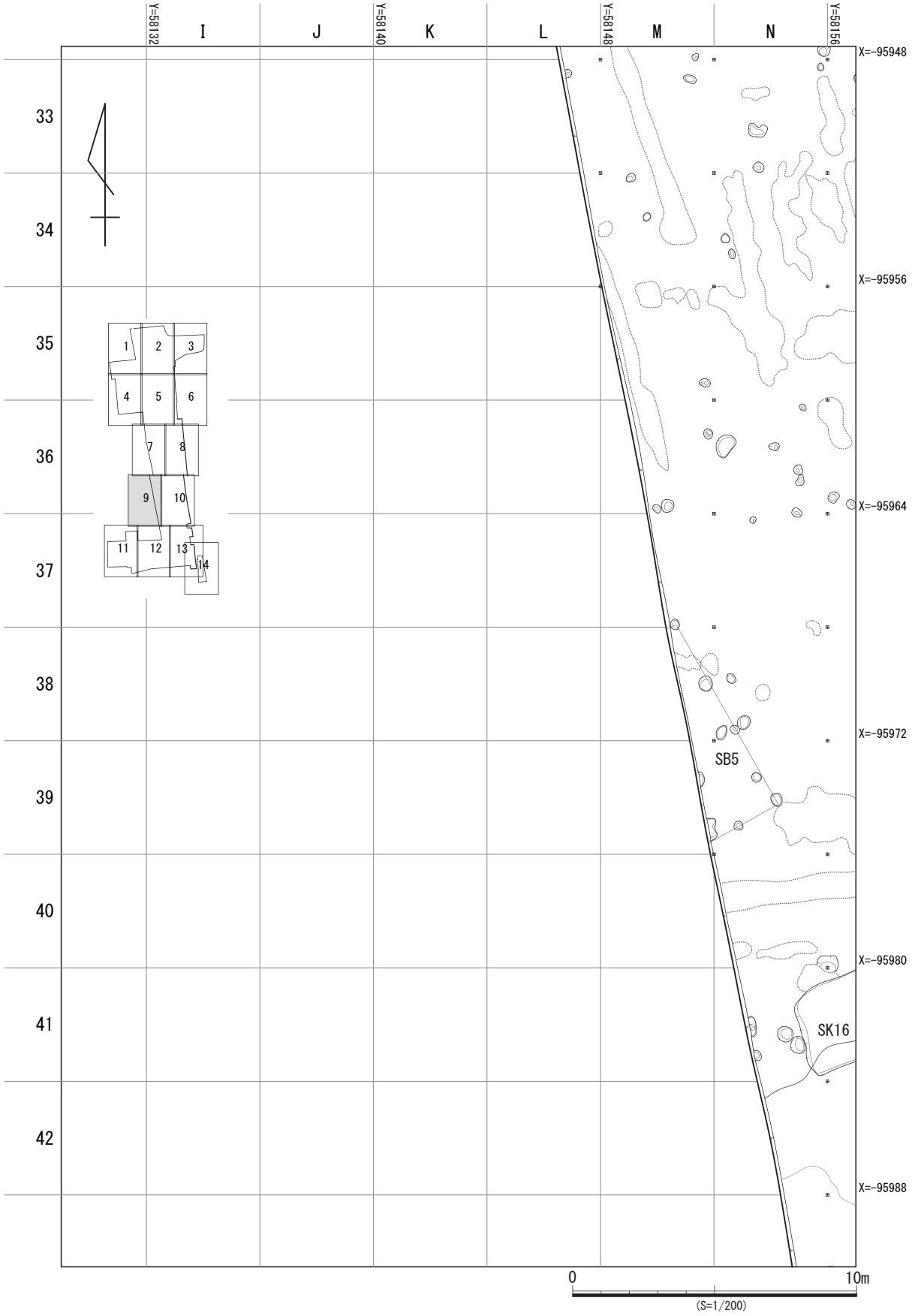


図 109　遺構全体分割図（９）

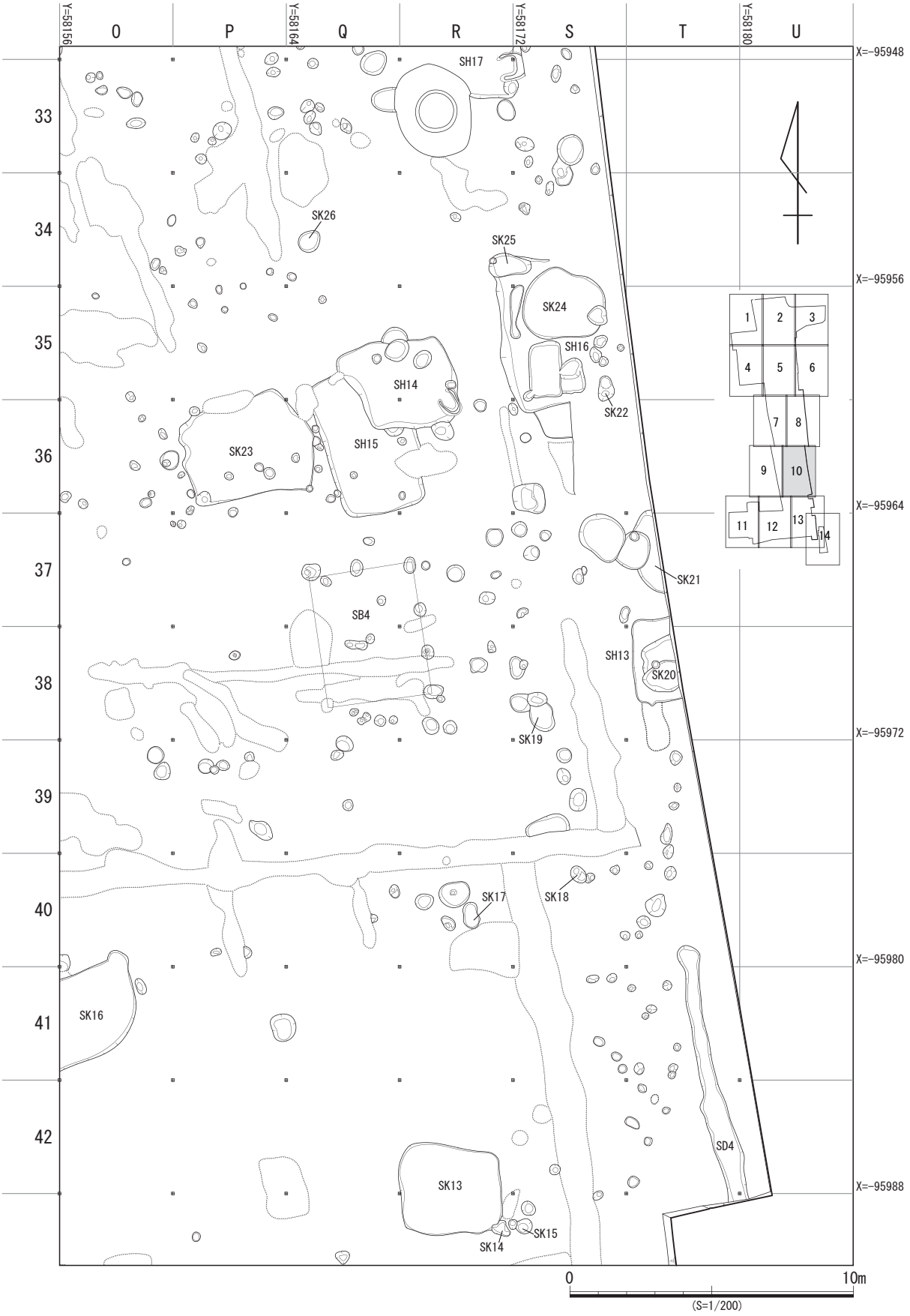


図 110　遺構全体分割図（10）

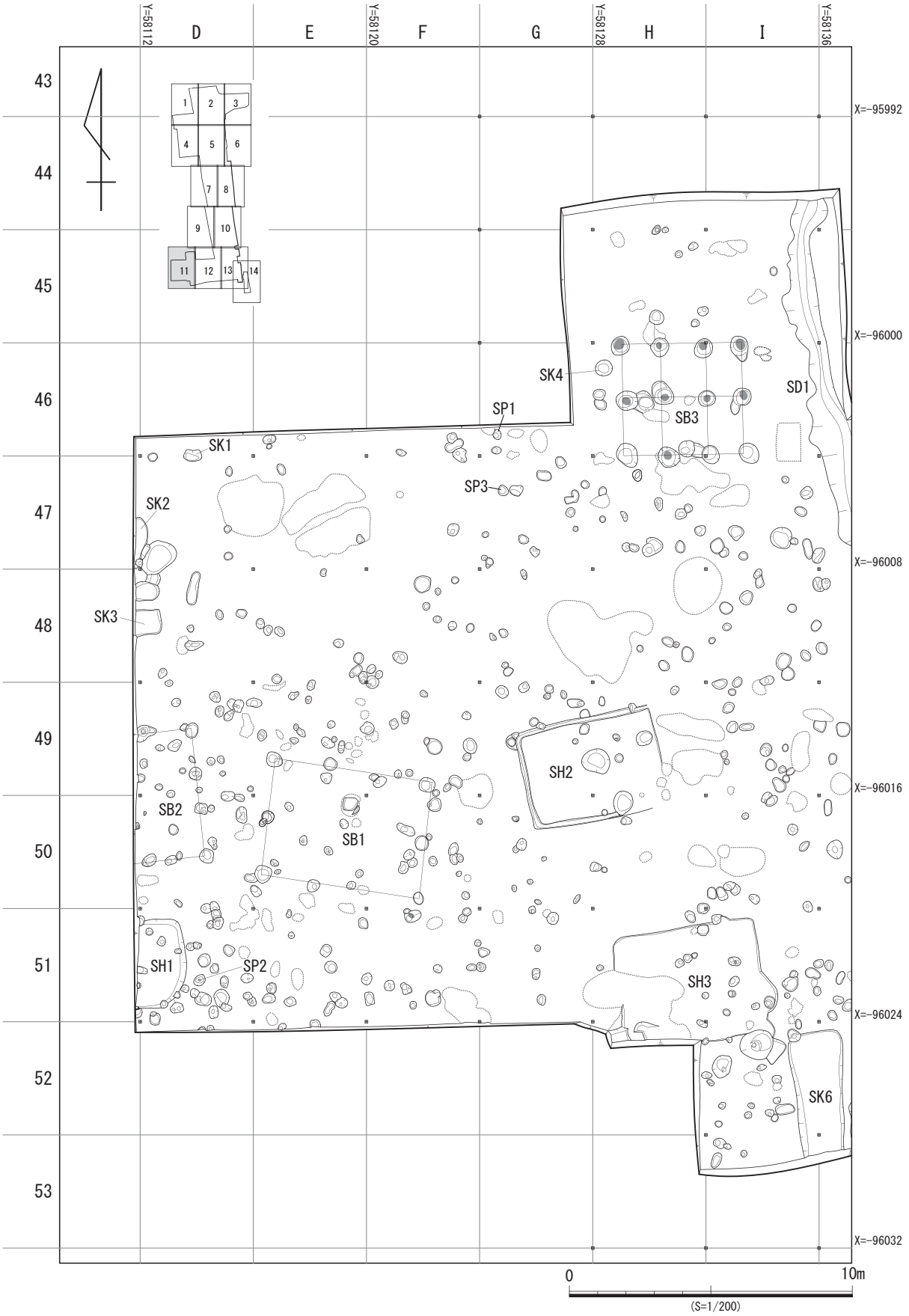


図 111　遺構全体分割図（11）

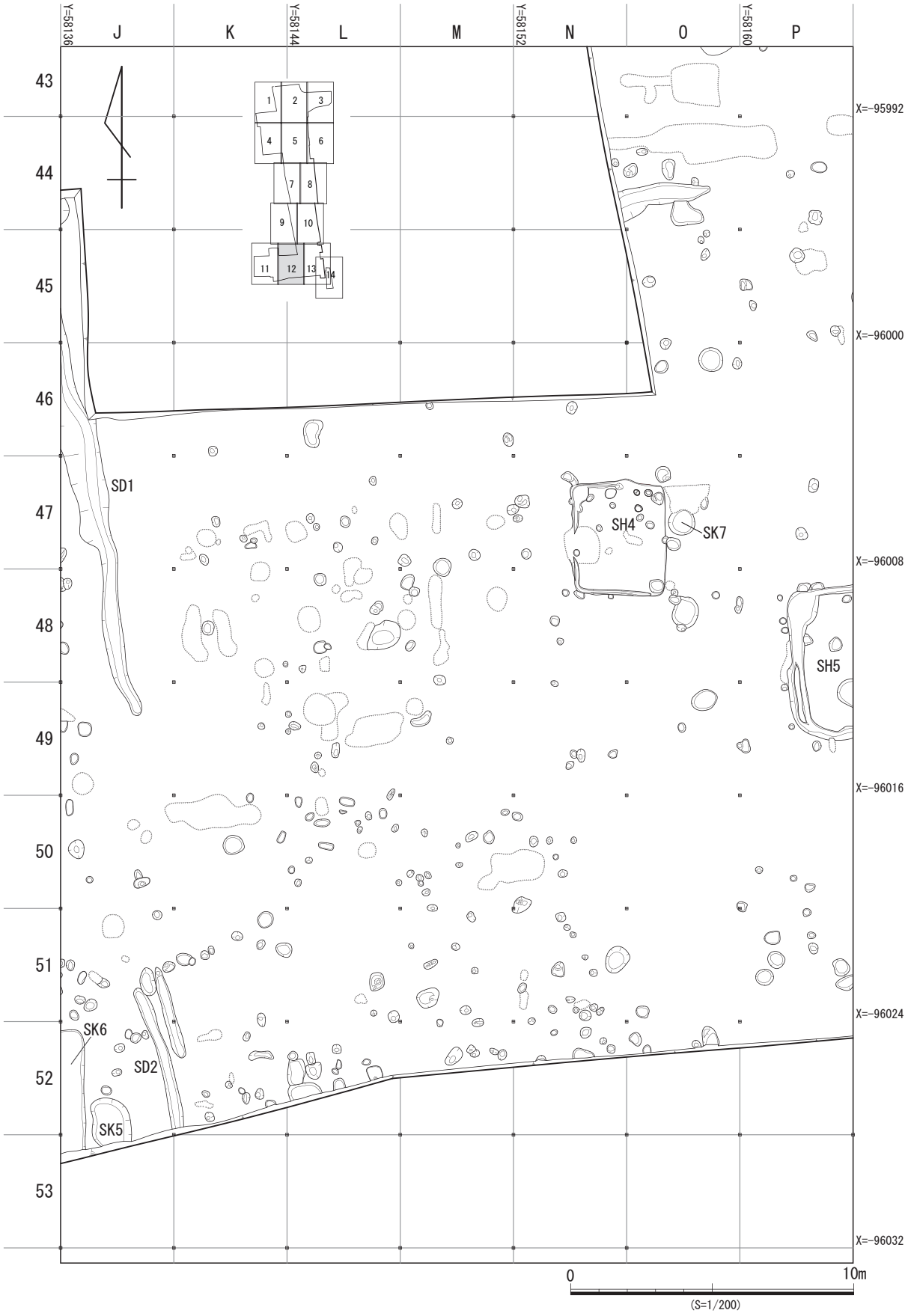


図 112　遺構全体分割図（12）

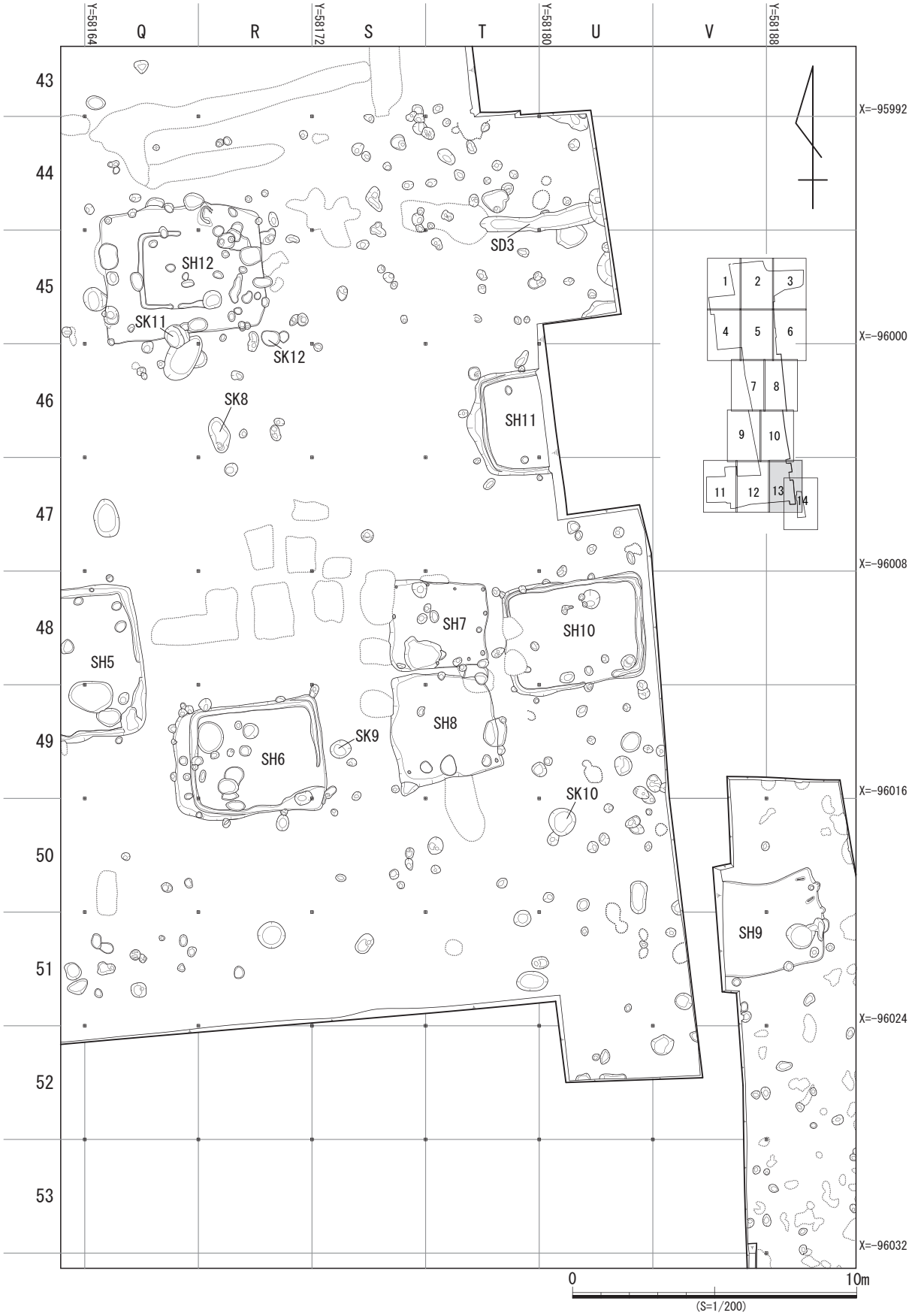


図 113　遺構全体分割図（13）

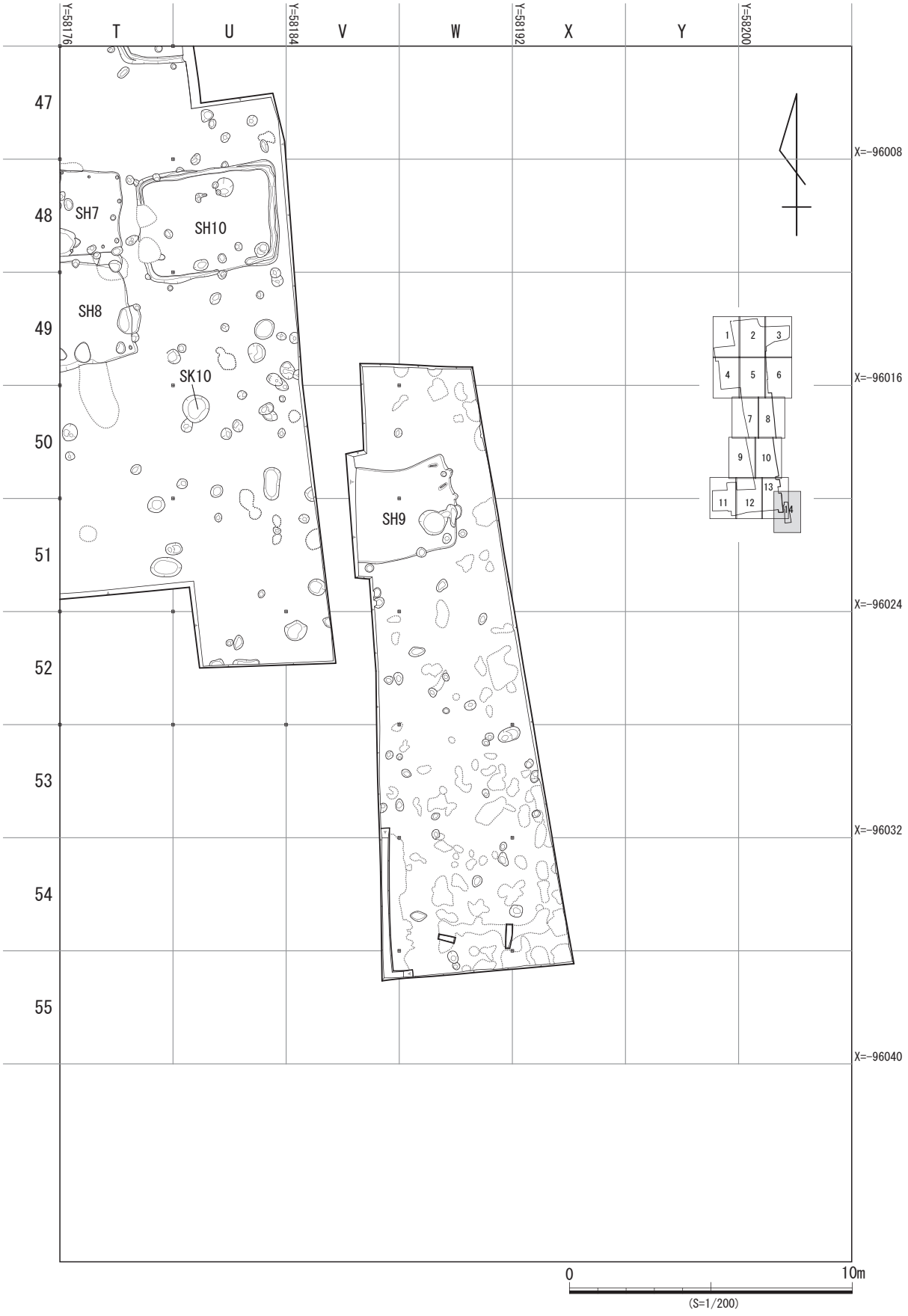


図 114　遺構全体分割図（14）



調査前状況（南西から）



調査前状況（南から）

写真図版２



発掘調査区遠景（南東から）



発掘調査区全景（南から）

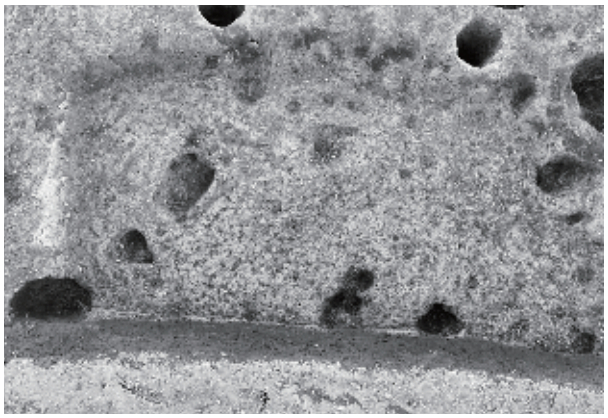


発掘調査区遠景（東から）



発掘調査区全景（北から）

写真図版４



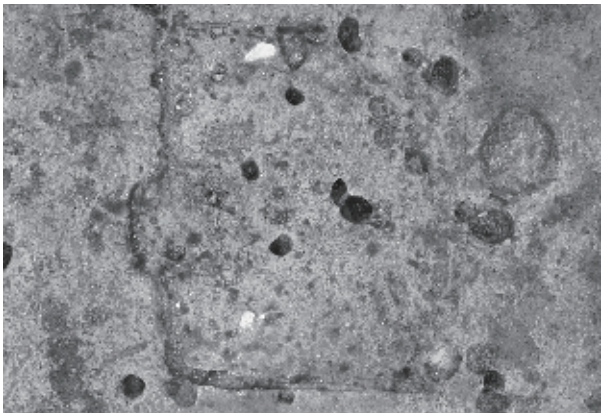
ＳＨ１（西から）



ＳＨ２（西から）



ＳＨ２ 遺物出土状況（東から）



ＳＨ４（南から）



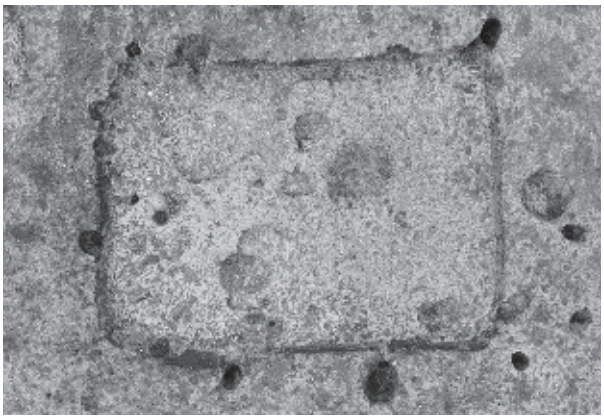
ＳＨ５（北から）



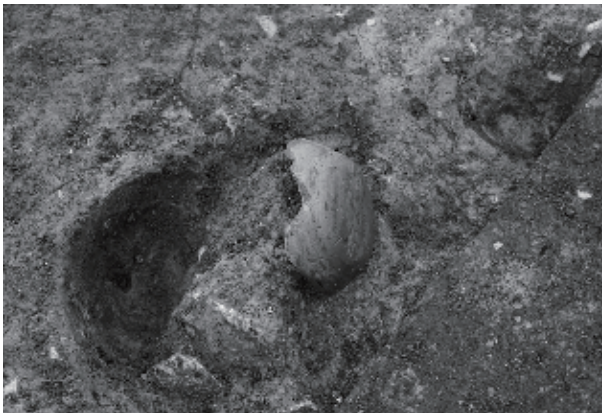
ＳＨ５ 遺物出土状況（南から）



ＳＨ５　出土遺物拡大（南から）



ＳＨ６（南から）



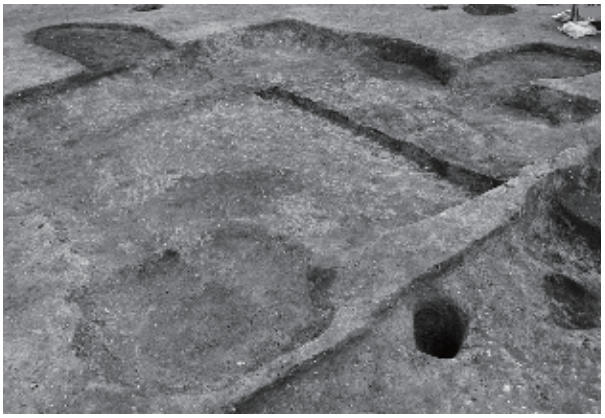
ＳＨ６　Ｐ５遺物出土状況（北から）



ＳＨ６　Ｐ６遺物出土状況（西から）



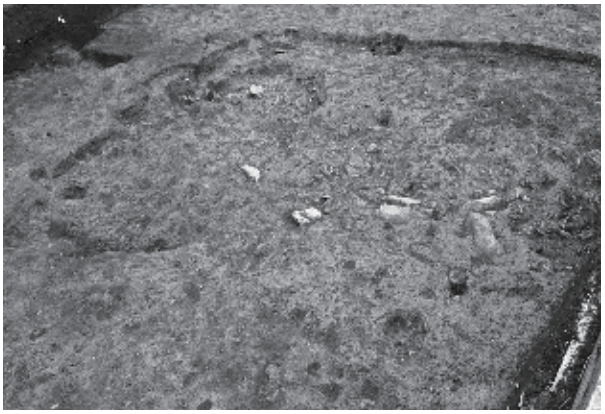
ＳＨ７（東から）



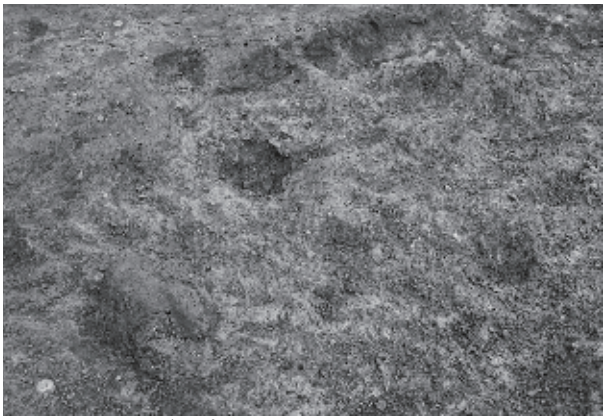
ＳＨ８（東から）



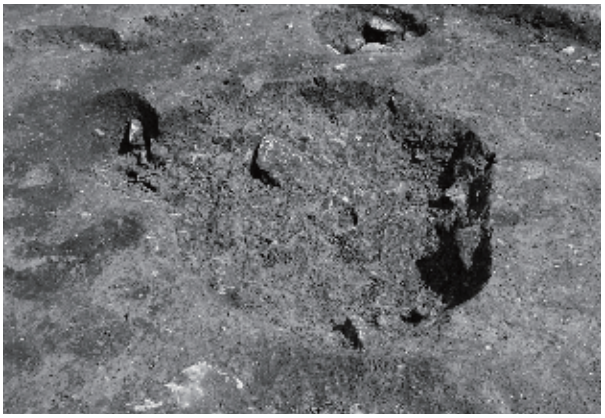
ＳＨ８　土坑１遺物出土状況（東から）



ＳＨ９（北から）



ＳＨ９　カマド（東から）



ＳＨ９　土坑１（南から）

写真図版６



ＳＨ10（南から）



ＳＨ11（東から）



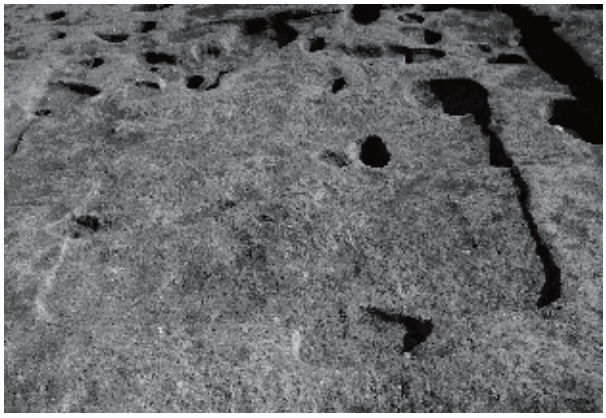
ＳＨ12a（西から）



ＳＨ12a カマド（南から）



ＳＨ12a 土器出土状況（北から）



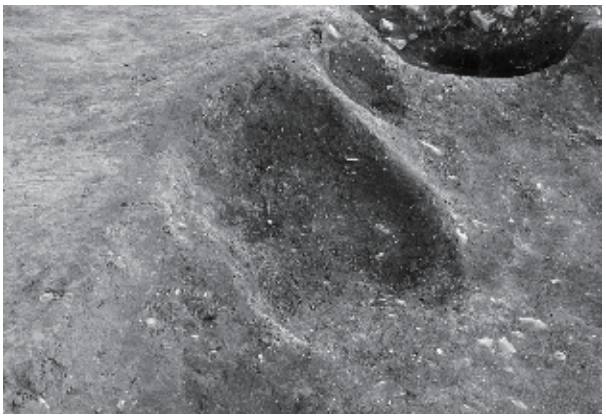
ＳＨ12b（西から）



ＳＨ13（西から）



ＳＨ14（西から）



ＳＨ14 カマド（北から）



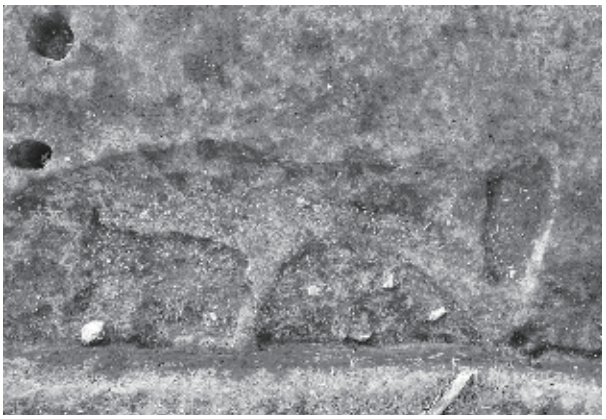
ＳＨ14 遺物出土状況（北から）



ＳＨ14 遺物出土状況（東から）



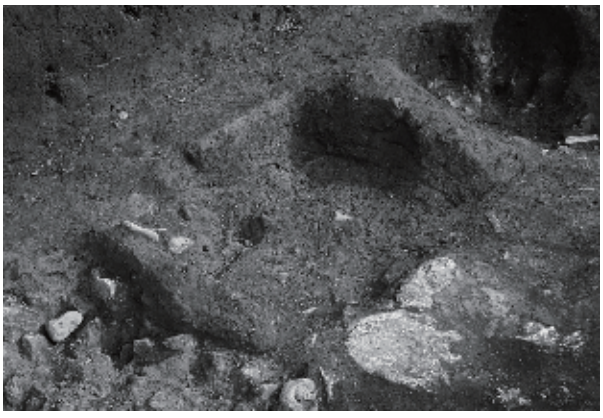
ＳＨ15（南から）



ＳＨ16（東から）



ＳＨ17（西から）



ＳＨ17 カマド（北西から）



ＳＨ17 遺物出土状況（西から）

写真図版８



ＳＨ18（南東から）



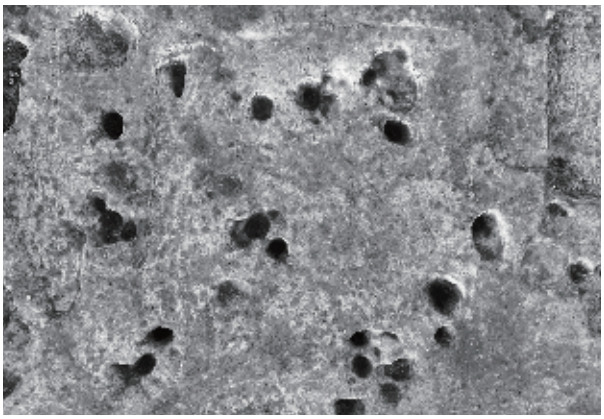
ＳＨ18 土坑１（西から）



ＳＨ19（西から）



ＳＨ20（西から）



ＳＨ21（南から）



ＳＨ21（南から）



ＳＨ22（西から）



ＳＨ23（東から）



ＳＨ24（西から）



ＳＨ24 土器出土状況（西から）



ＳＨ25（東から）



ＳＨ26（東から）



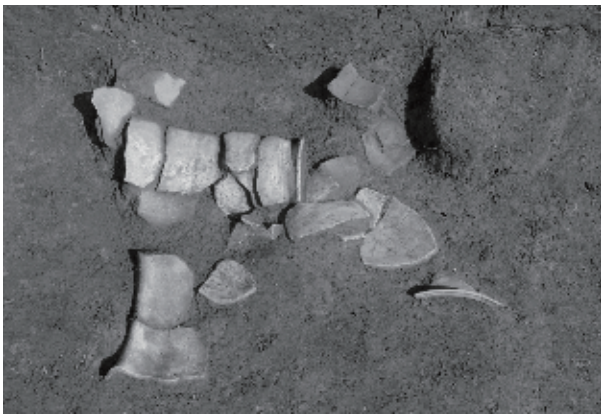
ＳＨ26 カマド１（南から）



ＳＨ27（東から）

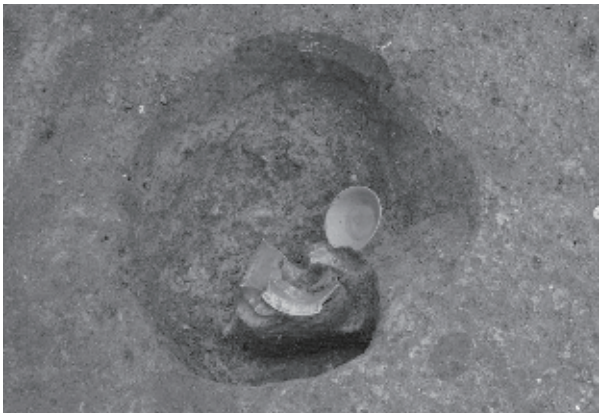


ＳＨ28（北から）



ＳＨ28 カマド遺物出土状況（西から）

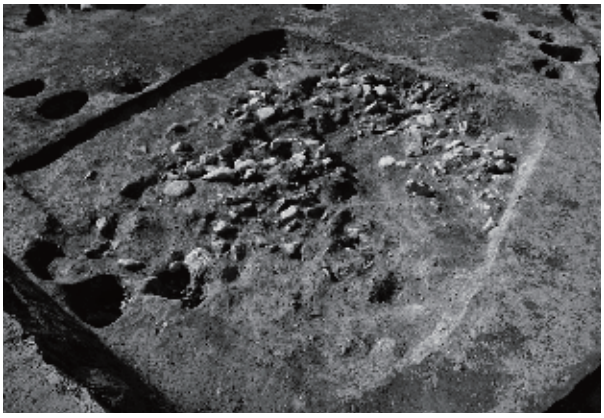
写真図版 10



ＳＨ28 土坑１遺物出土状況（北から）



ＳＨ28 土坑４土層断面（西から）



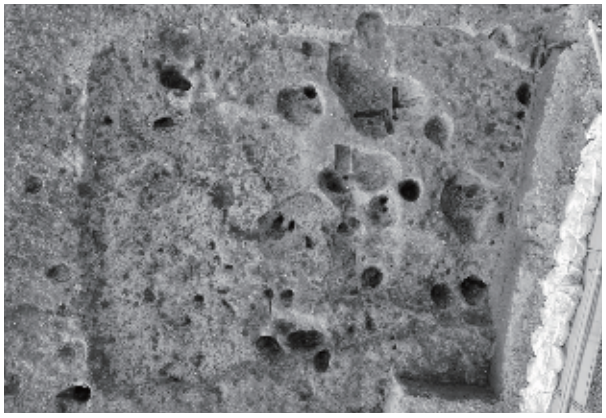
ＳＨ29（北から）



ＳＨ29 遺物出土状況（西から）



ＳＨ30（西から）



ＳＨ31、32（南から）



ＳＨ33（南から）



ＳＨ33 カマド（南東から）



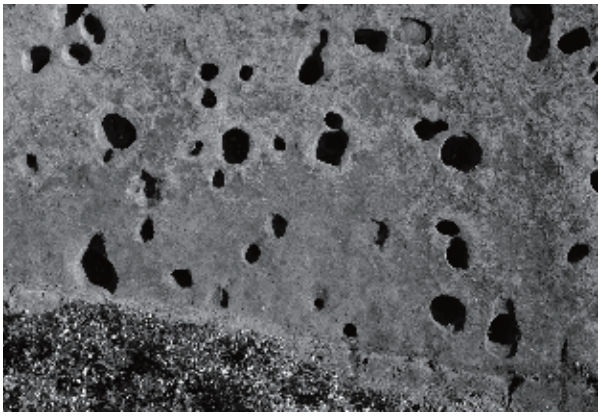
ＳＨ33 土錘出土状況（東から）



ＳＨ34（北西から）



ＳＨ34 カマド（西から）



ＳＢ２（西から）



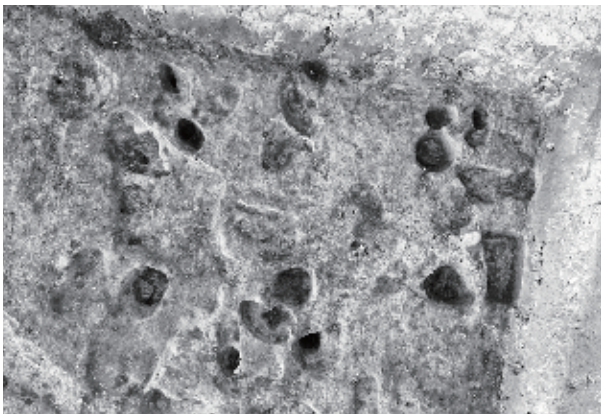
ＳＢ３（西から）



ＳＢ４（北東から）



ＳＢ６（西から）

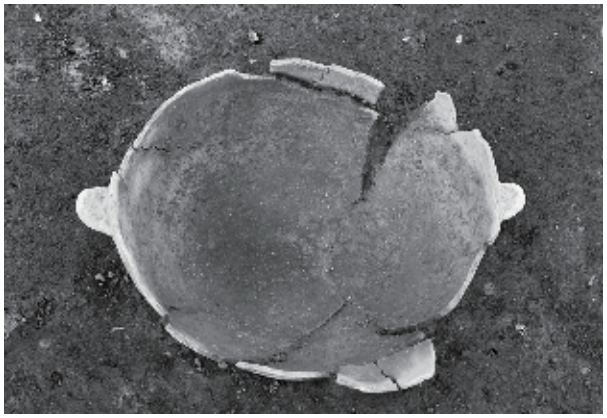


ＳＢ７（南から）

写真図版 12



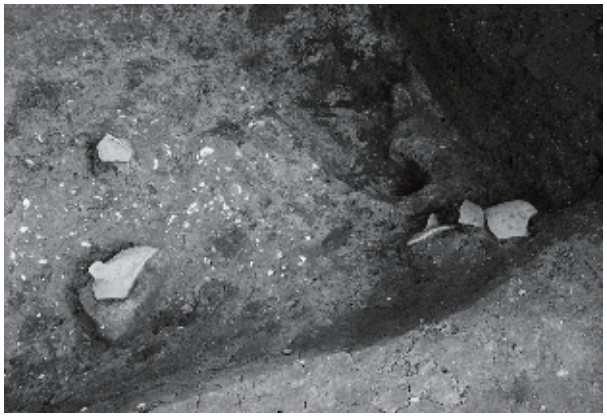
ＳＺ１（東から）



ＳＺ１（東から）



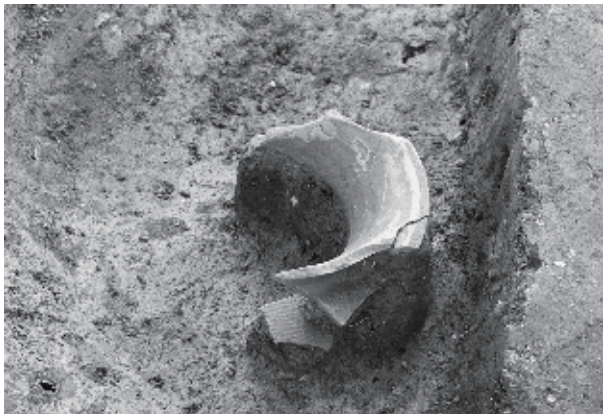
ＳＫ５（東から）



ＳＫ５土器出土状況（西から）



ＳＫ６土器出土状況（西から）



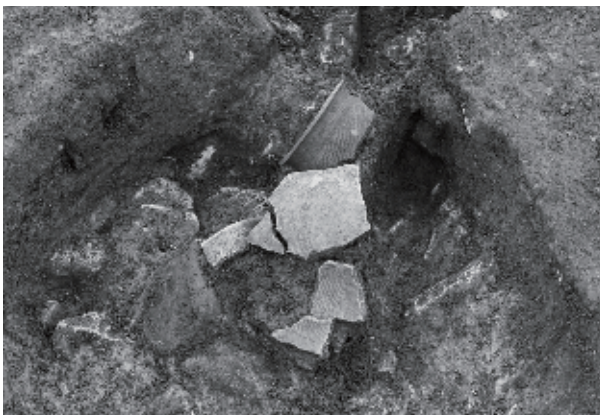
ＳＫ８土器出土状況（北から）



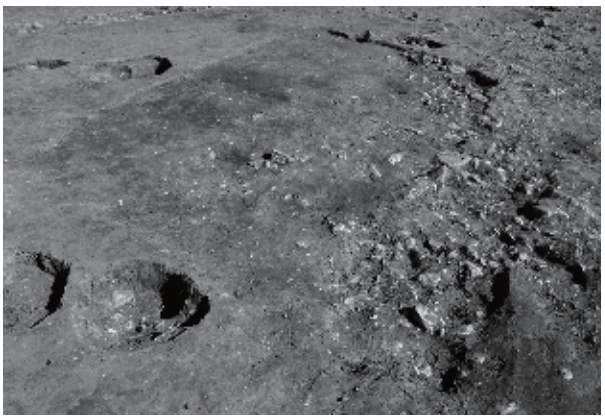
ＳＫ12 土器出土状況（西から）



ＳＫ13（西から）



ＳＫ15 土器出土状況（東から）



ＳＫ16（西から）



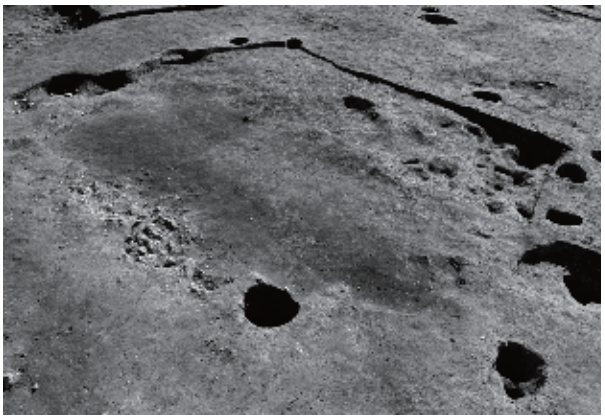
ＳＫ16 土器出土状況（西から）



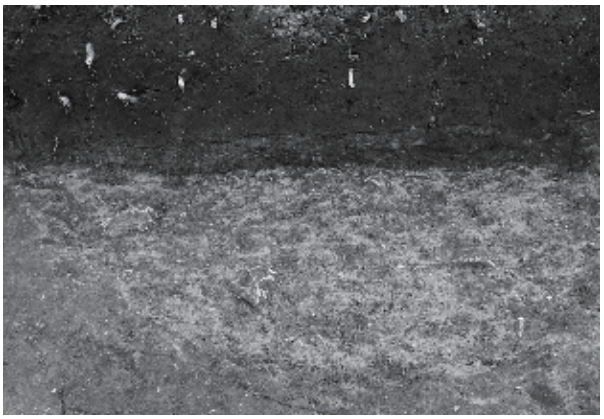
ＳＫ18 土器出土状況（西から）



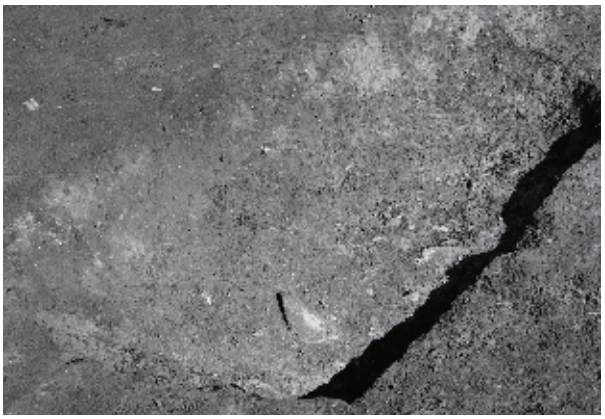
ＳＫ22 土器出土状況（西から）



ＳＫ23（西から）



ＳＫ24（西から）



ＳＫ25（南から）

写真図版 14



ＳＫ28（西から）



ＳＫ31（西から）



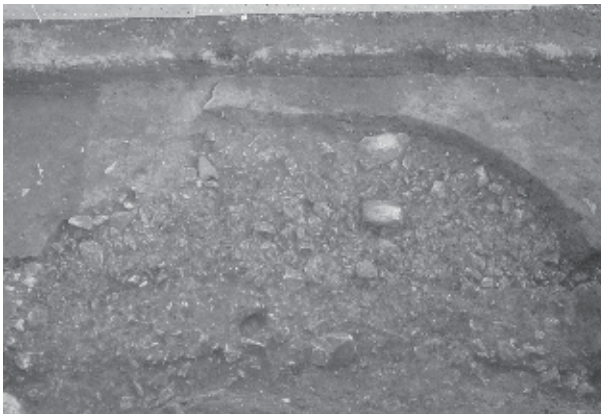
ＳＫ37 土器出土状況（西から）



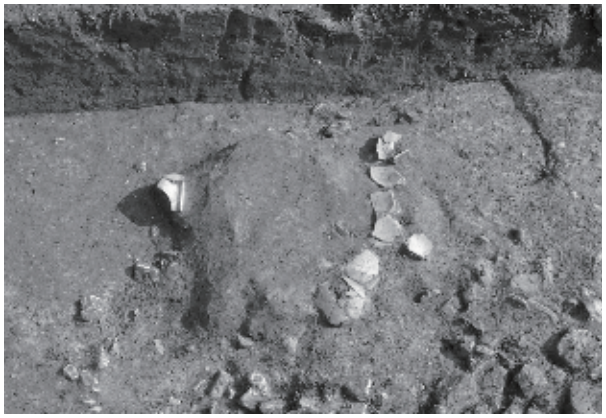
ＳＰ１土器出土状況（北から）



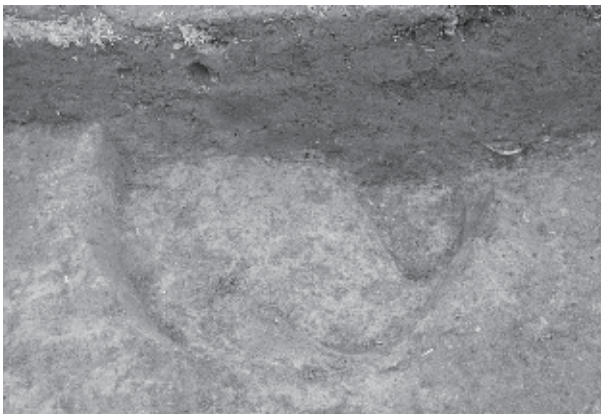
竪穴建物群の完掘状況（南から）



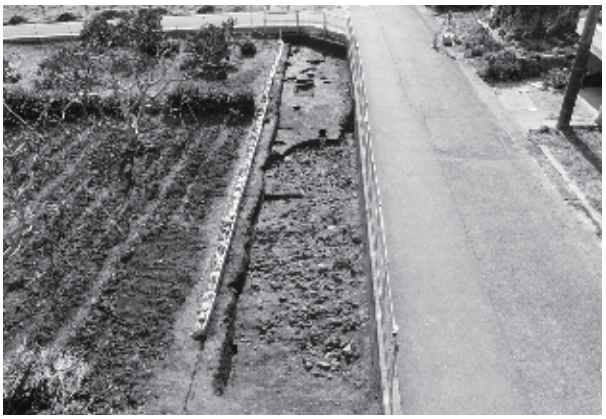
10 次・ＳＫ１（西から）



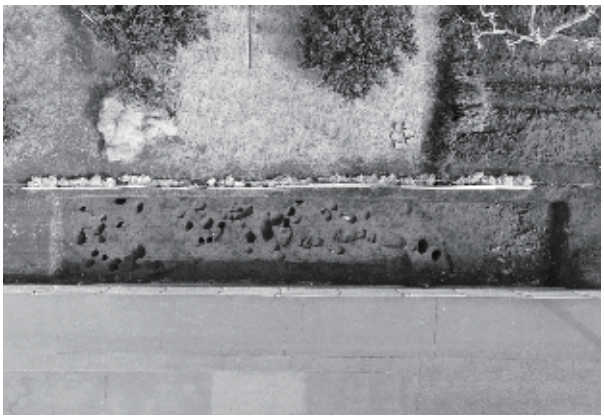
10 次・ＳＨ１土器出土状況（西から）



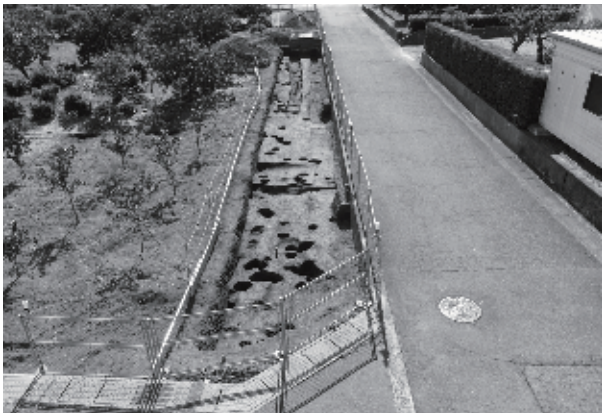
10 次・ＳＫ２（西から）



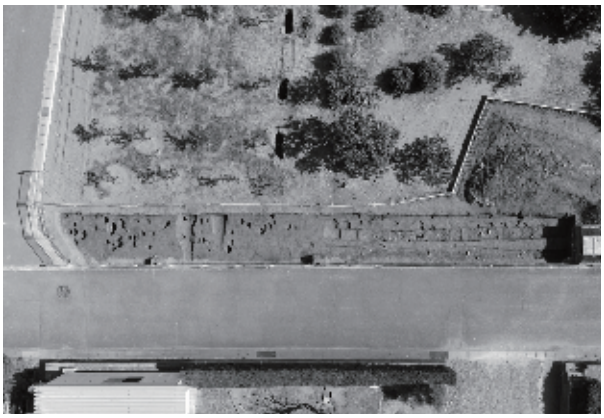
10 次・Ａ地区南全景（南から）



10 次・Ａ地区北全景（西から）



10 次・Ｂ地区北全景（北から）



10 次・Ｂ地区北全景（西から）



10 次・Ｂ地区南全景（北から）

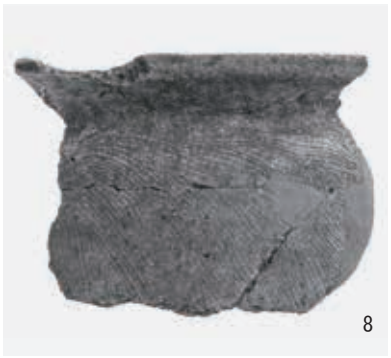
写真図版 16

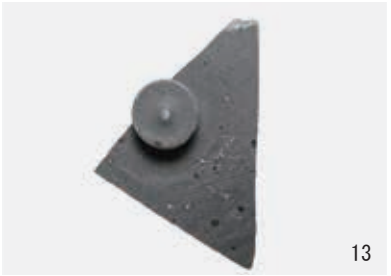

3


4


6


7


8


13


15


17

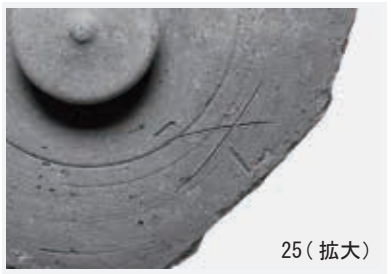

16


21


22


23


25


25（拡大）


24


38


41


37


43


44


47


55


56


58


59

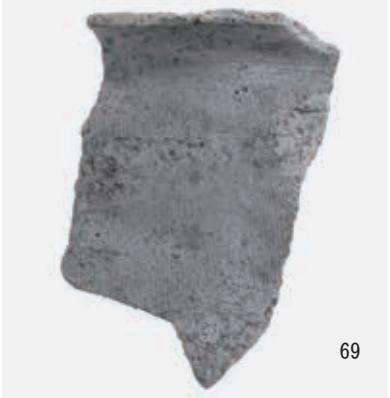

60


57


61


63


79


69


75


76

写真図版 18


80


85


86


89


100


88


101


112


102


107


113


118

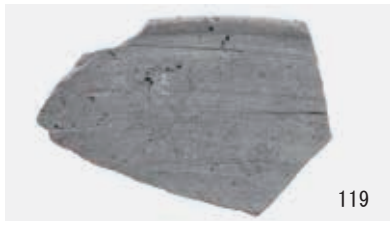

123


115


120


126


116


119


129


133

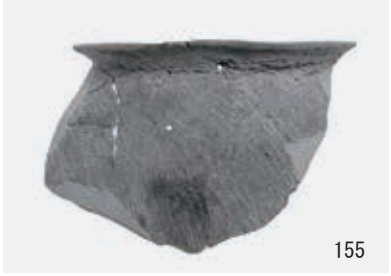

134


146


137


135


147


155


158


159


162


163


139


141


151


153


154


164


166

写真図版 20


167


169


197


200


205


207


190


192


201


202


208


210


216


193


195


198


204


203


217


226


222


227


228


232


233


231


240


251

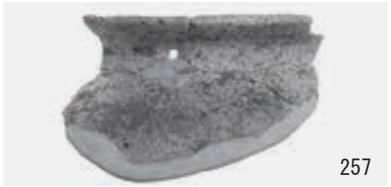

237


241

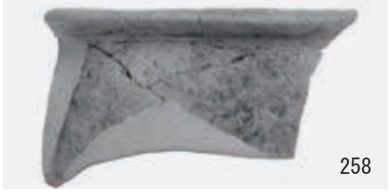

255


238


249


257


268


258


265

写真図版 22


65


194


9


81


95

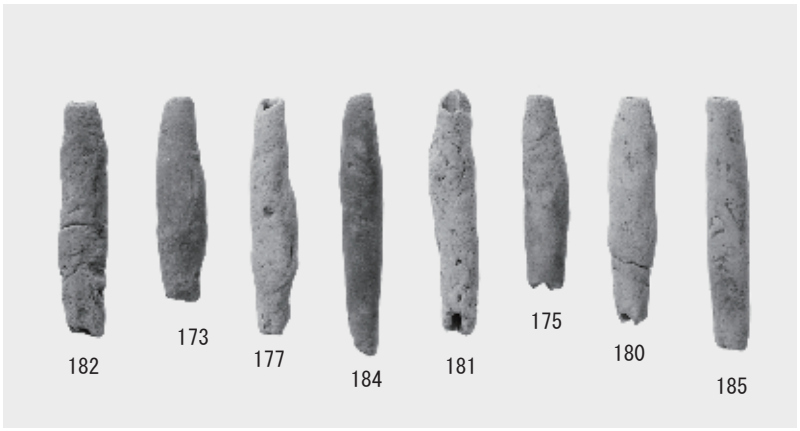

149


14


68


259


127


182
173
177
184
181
175
180
185


246


260

報　告　書　抄　録

ふ　り　が　な	てんのうびらいせきはっくつちょうさほうこくしょ
書　　名	天王平遺跡発掘調査報告書
巻　　次	－第９・10 次調査－
シ リ ー ズ 名	
シリーズ番号	
編　集　者　名	濵辺　一機
編　集　機　関	桑名市教育委員会
所　　在　　地	〒 511 － 8601　三重県桑名市中央町２丁目 37 番地
発 行 年 月 日	2026（令和８）年３月 31 日

ふ　り　が　な	ふりがな	コード		次数	北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
所 収 遺 跡 名	所在地	市町村	遺跡番号						
てんのうびらいせき	みえけん くわなし たどちょう おやま	209	b 57	9 次	35°	136°	20220808		
					08′	38′	～	7955	学校建設
					01″	16″	20230307		
				10 次			20230405		
					35°	136°	～	103	道路工事
					07′	38′	20230419		
					57″	18″	20230905		
							～	870	道路工事
							20240220		

所 収 遺 跡 名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
天 王 平 遺 跡	集落跡	古墳時代 古　　代		須恵器、陶器	古墳時代と古代が主体となる。竪穴建物は 36 棟確認した。古代の須恵器や土師器が出土し、濃尾系甕や暗文土師器などの遺物も出土した。
			竪穴建物	土師器	
			掘立柱建物	製塩土器	
			土坑、溝	土製品	
			土器埋設遺構	鉄製品	
				石器、石製品	

天王平遺跡発掘調査報告書

－第９・10 次調査－

編集・発行　　桑名市教育委員会
〒 511-8601　三重県桑名市中央町 2 丁目 37 番地

印　　刷　　株式会社山榮堂

発 行 日　　2026（令和８）年３月 31 日